

大正九年十二月中

市長就任前後新聞記事



大正九年十二月中

市長就任前後の記事

東京市日比谷公園市政會館内(五階)
後藤新平伯傳記編纂會

電話(57)二二〇〇
四〇九六



大正九年十一月廿日

後藤男の

市政革新計畫

衆智を集めて根本的解決を期す

東京市の近狀に就ては各方面に多
大の刺激を興へ識者をして深慮に
堪へざらしむるものがあるが都市研
究會長たる後藤男は他に東京市の
爲めに進んで奮闘しようとする者
なく何等其前途に光明を窺見する
もの出来ないのである。此際利
純を眼中に置かず此際奮つて東京
市の爲めに奮起し何等か適當なる
方法の下に都市研究會長として又
一市民として東京市の爲めに出來
るだけの奮闘をなしたいと云ふこ
とを決心し同研究會部と密々協
議をして財力が通田侯爵、内田嘉吉
侯爵、鐵道博士及び其他の同會幹
員諸氏は之が爲めに三日一夜の
會合をなし遂に一箇の決議をなす
に至つた。其は政府側より東京市
相、小島剛次、貴族院側より仲
小路廉、岡田良平、江木千之氏
等衆議院側より横田千之助、濱
口雄幸、下岡忠治、江木實、關
彦氏等新聞社側より徳富猪一郎
石河幹明、對馬院之助、安藤正純
松山忠三郎氏、其の他朝野の有識
者七十餘名を工業俱樂部に招待し
會長後藤男より抱懷を披露し出席
諸名士と意見の交換をなすと決
定したのである。而して其招待期日

は未だ確定の運びに至らないが五
日中に之を確定して夫々招摺狀を
發するとする手續であるが成る
可く十五日前に決定したい希望で
あつて其招摺狀には被招待者の姓
名を列擧し之の人名を招待するの
であるが相共に東京市の爲めに最
善の途を講じたいと云ふ意味を鄭
重に認めるさうである。而して右の
企てが済むと更に東京全市の全有

權者に往復摺狀を發し市政の改造
に關する意見を徵する豫定になつ
てゐる一體後藤男は東京市の現狀
に就て如何に憂慮して居るか云
ふに今日の様な狀態では誰が市長
になつた處で何も出來るものでな
い。市民自身が先づ自覺して優良な
る議員を市會に送り更に優良なる
市會が優良なる市長を選出するに
件ふに、後藤男の公選なる後援を
以てし苟も東京市に依りて生活
する者が總て一身は體となつて市
政の改造より完成に力加するの
なくては何事もなし得るものでな
い。況んや之を大にしては帝國の首
都たる我が東京市が今日の様な
醜態を繰り返して居つては延いて其
惡風地方に影響し地方自治の健全
なる前途を憂ふに遂に國家の基

礎を危殆にらしむる虞がある。則ち
此秋に於て有識者は宜しく市政改
造に關する大體の具體的意見を取
り總め其具體的意見を實行し得る
人物を市長候補者となし之に自由
手紙を揮はしむ可きで何等市民自
身も具體的意見を吐かず又候補者
に對する人の意見も聞かず唯當然
誰が宜からう彼が宜からうなど、
諷刺して居る場合ではない。今日は
最早這般不真面目なことをして居
る可きでなく宜しく開放的に白晝
公々然として衆智衆議に依つて一
切の解決をなす可きである。云ふ
にある但し今日の運動は後藤男自
身が市長候補者たらんとするの。前
途ではなく全く別箇の純粹なる市
政改造運動であるさうであるが男
の活動は之より頗る注目し得る
ものがあるであらうと云ふことだ

卓上電話

市會一環では後藤男に
長として、後藤男は多
分、相手が、後藤男は多
分、自分の身代りとして例
の安全第一主義の前線信大内田
嘉吉君を推すたらうと云ふ話だ。
併し内田君では餘りに貧弱で、阿
部浩君との對決戰東無、後藤男
も最う少しびんとした人物を推す
必要があらう。前線信の或る人の
話に曰く「彼等では仲小路の人
が強いが、實際は後任市長として
手紙を揮ふには、仲小路よりも
より田が最適當だ。田が衆議院
會を辭めて東京市長になるか何う
かは問題だが、適任なる事は争ふ
可からずだ。但し助役が根本剛吉
と來ては或は一帯の困りものかも
知れぬ。云々」江木千之助曰く「市
長候補者として仲小路君が最も適
任か、或は私に友人として今日の
如く罷取せる市會を有する東京市
市長候補者として選ばれる事は仲
小路君の爲に不名誉であると思ふ。
市會を解散するか或は市會の成立
を待たず、立派なる市會の成立を
見たる時、初めて市長選任者
として仲小路君を選出さるゝなら
ば私は大賛成である。然るに今回
は機動的の手續を必要とするとい
ふ意味から仲小路君が適任者であ
ると云ふのであるから仲小路君
も到底罷取する事は無らう。云々」

東京市大疑獄

検事正の自動車

首相官邸に飛ぶ

絶対秘密裡に千變萬化を極むる検事局の活動

何事も

秘密多々の、検事局では、その召喚方法も益々巧みになつて、櫻田門、或は日比谷公園あたりに自動車に乗乗して、裏門からこつそりと入らせたり、各方面の地下室入口から誘ひ入れたり、實に千變萬化を極め一見緩慢さうだが、實は依然として活動

凝議したと噂されてゐる、同十一時には下谷根岸の根

参考人

ものらしいと、更に正午、東京市議を著へた一見東京市議員が彷彿させる四十五六歳の一紳士が、書記室隣りの検事室に倉庫として入つて行つた、瓦斯開閉に際して火が付けば、多数市議員の

大木法相の決断

市民の憤慨を思ひて

何處までも行ふと豪語す

今日の検事方針に付、大木司法大臣は「自分の所感を詩にして、新聞に寄せた所、之を見て讀者から斯様遺方では手緩いと云つて、赤字で直して送り返して來た、それに見ても市民の憤慨の如何に激しいかと察せられるなかせうぢ

仲小路なら

満更でもあるまい

色氣たつぶりな後藤、阿部に

彼の三人を比較して見ればと

憲政會幹部の市長評定

問題の 東京市長選挙は来る七日開會さるゝ市會の日曜に上つてゐる事は朝刊にも既記した、市會の公印會を初め、市友會、大成會の各派は昨今、殆ど自己等の嫌疑事件に對する責任を忘れたかの如くに狂奔してゐる、云ふまでもなく自己に都合の 好い市長候補を擁ぎ上げんとするが爲めてある

市民の要求する

市長と市會議員

(我々が求めた一般投票)

市長

○二百二十二票 關直彦 二百
十票 後藤新平 二百六票 淵
實 二票 仲小路 百九十五票
八票 渡邊榮一 百九十五票
安部磯雄 百九十五票 濱口雄幸
○百八十二票 永田秀次郎 百七十五票
十票 永田秀次郎 百七十五票
藤山雷太 百七十二票 柳澤
惠 百七十票 加藤正義 百六
十二票 澤柳政太郎 百六十票
永野謙太郎 百四十八票 内山
嘉吉 百卅一票 一木喜徳郎 百
五十票 岡喜七郎 百十五票 若
槻大次郎 百十票 平田東助
木安五郎 百票 田川大吉郎 百
九十九票 徳川孝久 八十七票
下岡恵治 八十一票 島田三
七十九票 山本權兵衛 七十三
票 大木達吉 六十九票 尾崎
行雄 六十二票 田健治郎 五
十六票 久保田政局 五十二票
○四十五票 嘉納治五郎 四十票
長島隆三 三十七票 太田英
隆 三十三票 中村明 二十九票
高田早苗 二十票 小林三郎
○十九票 江本千之 十七票
伊利彦 十五票 松壽泰近 同
吉田厚民 十二票 小橋一太
(十票以下略)

○百九十二票 田川大吉郎 百八
十票 以下略

市會議員

十九票 永井柳太郎 百八十票
近藤達見 百七十九票 青木徹二
○百七十二票 渡邊鐵藏 百七十
票 三宅雄二 百六十一票 中野正剛
藤新平 百六十一票 中野正剛
百六十票 安部磯雄 百五十九票
和田豊治 百五十五票 高木益太
郎 百五十票 渡邊榮一 同
越前重郎 百四十八票 町田辰次
郎 百四十三票 高野岩三郎 百
四十票 堀利彦 百三十七票 佐
木安五郎 百三十三票 林田龜
太郎 百三十票 吉野作造 百二
十六票 添田壽一 百十票 徳富
猪一郎 同 越山秀夫 同 服部金
太郎 百一票 鏡山幸吉 同
古島一雄 同 北澤新次郎 同
同 黒須能太郎 九十三票 作間
耕寛 九十票 横山勝太郎 同
江原素六 八十七票 有馬頼寧
同 安藤正純 八十四票 有馬武
郎 八十票 石河幸明 七十六票
徳橋重雄 七十二票 太田英隆
○七十票 三木武吉 六十票
頭山前 同 高橋清吉 六十票
鷺見行正 五十票 佐藤義亮
同 神戶寅次郎 五十票 大山郁
夫 四十票 内ヶ崎作三郎 三十
一票 中島信虎 廿七票 河合榮
治郎 同 大馬茂馬 二十票 森
戸辰男 十七票 大塚榮吉 十五
票 石本恵吉 十四票 太田信次
郎 同 福茂登三郎 同 平塚雄
島 同 田淵吉 十票 福澤桃
介 同 津村重舍 同 金杉英五
郎 (十票以下略)

助役の後任には

丸山氏をその呼聲

各派共異議がないらしい
市長候補には仲小路廉氏

問題の市長候補選挙に就いては、
市會各派とも額りに人選に努めて
居るが、矢張り人選の多いのは仲
小路氏を

筆頭に

阿部浩氏、後藤

新平男等である、而して市友、公
和、大成、新正の各派では、各
名政氏は會で助役たりし経験もあ
何さかして眼鼻を附けやうと、寄
り市長代理を勤めたともある上に
は協賛中であるが、果して誰が選
ばれるか、今の所では全く五里霧
中の有様である、而して若し市長
候補の誰か急に繼ぎないといふら
しい

衆望後藤男に落る

藤男の起否果して如何

市長選挙問題に對する東京市會派の意圖は、要々報道せる如く、監督官廳をして永く市長の職務を掌せしむるは自治體の面目を好ましくらずとし七日の市會に於て過二無一

市長候補者

を選舉するに一致し居れるものゝ如く、即ち市友會は四日夜の總會に於て市長、市會議長及市參事、市員は七日の市會當日必選を期すべしと決議し、公和會亦同夜の市會に於て略市友會同様の申合せをなし、兩派共六日の總會に諮り、全會員の意志を確むる言にし、其他の大成、新正及無所属は市友會の少壯組と相糾合して兩派に當ることとなるべく是亦急速に市長候補選出の目的を以て五日夜淺草山の宿なる大成會の新井與四郎氏宅に會合、結果決定

大體の方針

を決定したるやに傳へらる。嗣つて市長候補者に物色せられつゝある、臨觸れを見るに公和會並びに市友會の一部は、果つて阿部浩氏を推さんとし、他の市友會の大部分及大成會は後藤男に傾き、新正會は仲小路廉氏に熱中し居り、尙ほ一方には久保田政周氏の人氣亦此處彼處に於て侮るべからざるものありと雖も、後藤阿部仲小路三氏の相伯仲せる勢力に若くべくもあらず、而も阿部氏が市參事會總辭職の當時市長代理を市會の中に物色せず、殊更に大海原府内務部長をして市長職務を掌の任に當らしめたるは、雖て氏が市長の椅子を占めんとすの野心の前提なりとして、病く市會

全般の反感

を買ひたるの例證あり、又仲小路氏が頃日來頻りに市長候補の兩辭を言明しつゝある表面の理由は其の遠大なる抱負を國勢に映せんとするに急にして自治體に干與するを欲せずといふあるも、一面に於て氏が過信次官當時より今日に至る後藤男との關係は個人的情誼の上より暗に後藤男の出馬を擁護せんとすの本意とも推せられざるにあらず此の形勢を觀取せる各派の仲小路氏推薦熱は斯くの如くにして、刻々後藤男の身邊に移動しつゝあるは最も見易き道理にして、此上は後藤男の起否如何を測するのみにて、大勢は既に決せりといふべく、而も市會當日に於ける

各派の分野

を豫想するに、定員七十五名中出席可能者と看做し得べき六十六名の過半數の得票、阿部氏を擁立せんとする公和會の全員廿一名（缺比し當然市友の大部分及大成無所属のものたるべく加ふるに仲小路氏を推薦せんとせる新正會の一派が中途氏の起否を肯ぜざるを見れば、直に其矢は後藤男に向つて放たるべきは想像に難からず、茲にせよ東京市長として當然後藤男の當選は確實なるものと云へり

計票永井柳太郎二百二十六票近藤達兒
川大吉郎二百二十六票本節二〇九十二
票渡邊鐵藏一百八十票松山秀夫
一百七十四票三七條二〇七十一
票松藤新平七十三票相川豐幸
一百六十五票中野正剛一百四十票
安部磯雄〇八林田龜太郎一百五十
八票町屋辰次郎一百五十五票藤澤
榮一〇七票有馬賴重〇四十三票高
四十七票有馬賴重〇四十三票高
野岩三郎一百四十票佐々木安五
〇廿九票德田嘉一〇百一十一票
吉野作造〇同古島一雄〇百一十票
部金太〇同古島一雄〇同德一家
達〇〇龍澤新次郎〇同藤田榮吉
同黑須龍太郎〇百票存田和民
安藤正統〇九十七票作樂耕郎
十一票橫山孝太郎〇九十票江原孝
六〇八十五票有馬茂武郎〇八十票
明〇八十四票有馬茂武郎〇八十票
三木武吉〇八十票橫根重遠〇七十
九票太田英隆〇六十二票頭山滿
河高橋祐吉〇六十票堀見白由五
河七票佐藤義亮〇五十六票神戶寅
次郎〇五十票大田郁夫〇四十二票
內々作三郎〇四十票河野辰男
計一票中島信虎〇廿八票河村榮
郎〇十七票人塚榮吉〇同石本惠吉
〇十五票田淵芳吉〇十四票 田信
次郎〇同岡茂吉三郎〇同不塚富信
〇十一票金杉英五郎〇十票藤澤洋
介〇〇津村中重 十票以下略

後任市長の

選挙は愈よ本日

公和會の阿部府知事

説も樂觀を許さず

大成、新正、市友三派は形勢混沌

京市後任選挙は、愈々別項の如く、今夕の市會に於て運命を決せられる。昨夜の公和會總會の模様を察するに十八名の結束は固いもので、白紙投票を行ふべく表面は決定し其の場にて適當の人があつたら臨時應援の處置を執つて

驟然と

起つといふので其の内容は何ふに難からず同會に於ては中西元、藤田、岡田、平氏等の説も出たが阿部府知事最有力らしく大成會の安住、松山、新井、松崎、岩松五氏と市友會の中村、二氏一派四五名が加はつて

世票近

く得る事は疑ひなく之に對する大成、新正、市友の三派の大多數の陣容が今十一時過ぎにならぬと整はぬといふ心細さ、但し昨夜の市友會總會では實業家の某有力者(早川千吉郎氏)を推す事に決定したらしいがそれも今日の

正午過

きでないを判明せぬといふ状態期待せられてゐた

統一

されてゐないので本日出席の議員六十六名中卅名が阿部氏に決定してゐる。これは阿部派は餘程の奮闘を要するが、阿部氏に必ずしも樂觀を許さない。これは市友會の大部(廿二名)が反阿部派で某實業家を

突如と

して動き込む。これは反阿部派は最適當補選に困つてゐる際であるから市友會に加はつて阿部派に對抗すれば結局反阿部派の勝利となるからである。一時優勢を傳へられた柳澤保喜伯

市友會

の大部が好まず市長選委員に祭り擧げてしまつた以上市長にも出られなくなつた。更に角倉の閉く迄は何れも策略上から秘密主義を固守して出る者は鬼か蛇か豫測し難い

續々と市議連

検事局へ召喚

金山検事の取調を受く

遂に瓦斯問題に飛火か
東京市の土木建築事件は遂に瓦斯問題の裏面、建築界に検事局の火の手が移つたらしく、金山反市會議員が續々參考人として召喚されてゐる。昨六日は五日出席した市議小久江美代吉氏が再び正午

金山検事

の質問に答ふる處あり同時に本宮辰次郎、長町康夫、田村彰一の三市議が検事はより種々該問題に關して何れも統一前線に立つて對策を講ずる

兩市議も

參考人として喚問される。昨六日は五日出席した市議小久江美代吉氏が再び正午

鐘や太鼓の市長

探しおぐねて纏まらず

今日までは一切秘密

つた一人の東京市長を持餘し
鐘や太鼓を叩きつゝ所謂八百八
両を尋ねあぐねた末ぞつこん惚
れ抜いた仲小路さんからは美事
に臍藏を喰ひ

◇色氣を 見せた後藤さん
心が電話口に取次を出して態よ
く匂つける始末、この處色男散
々の爲體也、去程に市會の勢力
公和會では別項の如く蟻蝨町今
河に總會を開き原出氏から前文
相岡田良平、竹下氏から満鐵副
總裁中西清一氏杯候補者として
弄き出したが

◇問題に ならず許り一
顧し去られ詰吊白紙主義で市會
に臨み適任候補のあつた場合離
役の差引なく投票する事に一決
し中央亭に開かれた市友會總會
では

◇柳澤伯 桐島、呼谷の三
氏を市長候補銓衡委員に推薦し
念の爲めを前提として各自氣の
向いた候補者三名宛を記載し之
を封筒に密閉した儘七日迄秘密

さする事の申合せをして散つて
仕舞ひ、大成新成兩會を中心と
する僑樂園の懇親會は三十七通
を郵送して過半数を制し茲に

◇新黨組 織を企てたるに
拘はらず集まる者漸く廿八名を
れが何れも一人一黨主義といふ
顔振れなので精神的團結位の事
にして置かうとなり市長問題は
銓衡委員を選んだだけで是また
お開きとなり、後任市長は遂に
首がなくなつた譯であるが仄聞
する處に依れば公和會は全く自
重し市友大威の兩會は二つに別
れ新正會又一致が出来ず各自に

◇腹藝を やつてゐる次第、
佛蘭西首にかけた人形箱、鬼
が出るか佛が出るか夫さへ皆目
判らぬけれど後藤新平男が一日
毎に勢力を加へ柳澤伯の呼聲相
常に高きは事實である

市長選舉形勢は尙混沌

緊急市會は愈明日に切迫した

阿部知事を擔ぐ一派の勢力

後任市長を選ぶべき緊急東京市會
は愈明日と切迫したが其の昨日
たる六日の形勢は、愈混沌を極め
て來た、今夜日本橋西藥園に開會
される大成會、新正會に、市友會
脱退組を加へた新合同團體の果し
て豫定の如く成立し得るか否かが
懸る問題である、然し目下のとこ
ろ市長候補者として呼聲の最も高
きは

阿部府知事仲小路

廉後藤新平男柳澤

保、柳澤、澤柳政太郎博士金子堅太
郎氏、久保田政岡廣市市長等であ
るが、公和會が幹事會で阿部氏を
推すに際して今夜の總會で異議な
く幹部説に服従する形勢であるが
公和會の某有力者は「阿部氏を推
ぐ事は一般的輿論が承知しまい」と
と旨く述べては居るが同會總員は

廿四名中收斂中の高橋、酒井、根
岸の三名を除く廿一名が阿部氏を
推す事になれば非常な有利な形勢
で、大成會の安住、長町一派、市
友會の山口中村(輝)の一派が之れ
にも援けるらしく之れに對して公

大成新正市友の大

部分は極力阿部氏

の立候補を切迫すべく活動してゐ
るが、仲小路氏が市長推挙を謝絶
したので表面一頓挫を來し、觀が
あるが、それは謝絶する事の明か
な仲小路氏を擁いだのは一策略で
第二第三候補を絶對秘密にして暗
中兼權をやつて居る、柳澤伯は市
友會の一部のみで大勢に影響なく
金子子に對しては大多數が前市長
に懲りて金ピカは御免の聲が高く
且つ子の立腹として阿部府知事と
の對抗を好まぬのでこれも不可能
らしく

柳澤氏は作間一派
の少數久保田氏も

僅山一派の少數と共に問題となら
ず、僑樂園の各懇親會で新團體が
出來廿七名の結果が成れば阿部氏
の市長問題も一大打撃を受けて取
れる事になるので頗る注目されて
居る

なんびど
何人を推すべきか

次の東京市長

見よ市民が希望する人物

安部磯雄氏
案配せる市政を革新するの任に堪
得る人物は、周囲の情實を破
し、市民の立場に立ち断乎として
自己の信念を貫徹し得るの士なら
ざるべからず、此點に於て氏は最
適任なり（麻布阿部生）

岡田良平氏

氏は前、部大臣として行政に手腕
あるは勿論、熱誠人格共に申すな
く、市政革新に絶好の人物なり、
願くは氏の奮起を望む（小石生）

高田早苗氏

退瀟せる市政革新人、崇高な上
に、一大決断力を有する點に於て
氏、推薦す（牛込區 藤田忠）

窪田四郎氏

私、市長に御役人は嫌ひです、殊
に其古手を引出し出すは拙考ひ
ます、同君の性格は平民市長と

て、風潮なる市政も、さるに、新通
信します、誠、予ならでは同君
りかに適任者無しと思ひます
（赤坂 田代徳）

推選二十通以上

- △仲小路廉氏……………一九五
- △後藤新平男……………一九六
- △内田嘉吉氏……………一九四
- △勝田主計氏……………七二七
- △小橋一太氏……………六三
- △阪谷芳郎男……………五八
- △北川信從氏……………五五
- △尾崎行雄氏……………四一
- △佐々木安五郎氏……………二九
- △鈴木隆晴氏……………二三
- △植原悦二郎氏……………二二

理想の市長は誰

公平なる一般投票を募集す

規 定
▲用紙ハガキ▲市長候補者一名の氏名のみ明
記のこと▲宛名は報知新聞社市長投票係宛の
こと▲締切期日來十五日

五日正午迄の得點

- 三〇四票 仲小路廉……………二二票 勝田 主計……………六〇票
 - 二二〇票 尾崎行雄……………七四票 岡 實……………四三票
 - 二二〇票 永田秀次郎……………七〇票 後藤 新平……………三七票
 - 一四六票 永井御太郎……………六八票 濱口 雄幸……………二五票
 - 一四一票 島田 三郎……………六三票 佐々木安五郎……………二五票
- 注意 不真面目なる投票及同一人にして多數投票の形跡
る者は採らず

大正九年十月八日

市長に當選せる

後藤男抱負を語る

市政の荒廢は公民の罪也
文王出でずんば市を如何

有力なる市長候補者として突如として現れ、其の名を呼ばれたる後藤新平男、立派な政治家の記者に語る「亂麻の如く荒らされた現在の東京市をどうして之は誰々の罪であるか、又、もし得るやこ質問して見るに確かな、天下斯の如くんば何れの時に」

▲誰の罪 でもない、皆二十ヶ年も紳士税を東京市に拂つて居た俺の罪である、又同時に吾輩も同様に市公民全體の罪である、信する、然るに現在の市公民諸君は何を考へて居る、自分は實業家だから市政の改善は自分にも宜敷いふさばかり逃げて居る、又市政に――

▲大革新 を施さねばならぬ、いふ人も俺は國政に身を委ぬる者だから他に適人を見出し、一週間も歌舞伎座を借り切りに

▲文王生 れざるべからず、吾輩は確信する、吾輩は東京市の大腐敗を爲すには此の

▲他人事 ミ思ふ位が關の山であらう、斯くして始めて六万の市公民の意向を確認し得る

▲只一票 を以て一議員を選出する者並に各一級公民は勿論、全市公民に向つて現在の東京市を如何にせば可なるやを文書で以て質問する外途なしに信じてのである、此の質問を受けた市公民諸君にして眞に棄て掛け難きを認むるならば此の際猛然奮起して事に當るを辭すまい、因縁により或は金銭の授受によりてのみ公權を行使するものなり、了解する者は何等の返答もなく市の大腐敗も

▲東京市 を救ふは日本帝國を救ふの所以たる事を思ふて大に奮起すべき場合であるから、吾輩は何事を措いても此の任に當る覺悟と決心を以て着々事を進めて居る

のである、之により一階下より賤はりたる公權、帝國議會によつて授けたる自己の權利を放棄する者許りだ云ふ事であれば止むを得ず、公權なきも熱心なる市政擁護者の手によりて

▲大革新 を遂げざるべからずと信する、誰人の手にあらざれば腐敗は望まれぬと言ふを止めよ、人の選り嫌ひをなすな政黨政派の如何なき素より論の外である、最早躊躇逡巡するの時でない、只猛進努力して市公民たるの本分を盡さば夫でよろしい、帝國の前途も今の東京市と同様絶對絶命に陥る時が近づいた、故に現在の

教育の病理

井筒 後藤新平氏談

教育神聖の論は何國にも唱へられて居る所であるが教育は常に神聖なるかと云ふに利害とも相伴ふものである我國學者達が盛んに教育の獨立を絶叫しつゝあるは我教育が十字街頭に立てるを證明するものである明治の初年歐米の文明が潮の如く入り來つたので佛法學派は佛蘭西法に依らんことを主張し英法學派は英吉利法に依らんことを主張して互に論駁したれども法律の如きは各該其國情風俗を異にするを以て其國に適合したる法律を制定するの必要がある英法たると佛法たるとを問はず苟しくも我國に適合するものは参考とすべきである教育病理那邊にありやと云ふに教育の發達は恰かも植物を培養するやうなものである植物培養に適當の光線と溫氣とを必要とする

るが如く教育者たるものは相當の識見と經驗とを有するの必要がある例へば教育者が獨身者にして家庭の事情に通せず議論が極端に走る事がある是等も病理の一と見る事が出来る又教育を以て政治の武器となすものがある國にありては政權を亂用し家にあつては親權を亂用するものあれども之は吾人の採らざる所である又歴史の教授及び解釋等に就ても大に改善する必要がある我國の歴史教育は建國以來三千年他國の辱を受けたる事なく完全なる發達進歩を爲したるが如く教育し爲に國自慢の弊に陥れ對外關係に於ては事々に他國を惡くして敵愾心を惹起せしむる等種々の弊害がある又家庭教育の改善を計るの必要がある國家の單位は家庭にして家庭教育の宜しきを得るや否やは直ちに國家の隆頽消長に關係するも

のである近來不良少年跳梁跋扈して世を騷し社會に害毒を流しつゝあるが幼年時代の教育は學校教育よりも家庭教育の方が遙かに効力が大である故に親父教育の改善兩親學校の設立の急務を叫ぶ者がある要するに家庭教育の社會に及ぼす影響は偉大なるに我國の家庭教育は放任主義にして殆んど客である家庭教育の改善を期すると同時に社會教育の改善も肝要である社會教育機關の不完備なる爲に不良少年は不良青年不良老年となるに至るのである又社會人の官營利害に對する偏見不平等的待遇は勢ひ薄遇者をして反社會的の傾向を惹起しむるの虞あれば社會に於ては兎も角少なくとも其スタートポイントに於ては平等の取扱ひをなすべきである要するに教育病理の根源となるものが今一つある即ち各國の教育方針が皆自

國本位である自國を以て世界第一の如く書き立てて以て他國を惡様に謂ひ從つて國民をして反抗心敵愾心を増加せしめ互に相反するに至る國際聯盟の有終の美を爲さしめんと欲すれば各國とも充分の研究をして教育方針を改め國際聯盟の目的と相伴はしむるの必要がある

意想外の安産

新平新市長

こんなに早く定つたのは

市會議員の魂膽から

市民攻撃の矢を轉ずる爲に

◇阿部派は狼狽して病床協議

東京市長の椅子には昨夜の市會で別項の如く後藤新平男を急選派系する事に一致(六十三票)で決定した。田尻子氏(先月廿八日)後九日、永井野村助役去り府の大原内務部長の職務(一)と、なつてから一週日蓋し其の迅速さは東京市開議以來の稀見である。斯く一萬千里に運んだ所以は市會職以來輿論が市會議員の引責を強要するに

大狼狽

を來し府知事

至つたので市長を選舉して市民攻撃の矢を轉ずる爲に、阿部派は狼狽して病床協議である。昨日の市會開議前の各派の交渉は凄惨な程緊張し、荒廢して、公和會は從來の行き懸り上から阿部派を今度こそはその意氣込みで秘術を盡して奮闘したもの、表面堂々として市長候補を聲明する事能はず焦慮したに反して

市友會

では午前十一

時、市友會の三、四委員が阿部派を破るには後藤男を擁するとし、第二候補に久保田政周氏(橋本市長)第三に加藤正義氏(定

選舉とれた

後藤男と語る

要するに市民の覺醒だ

十一日に都市研究會の

相談會と云ふ小手調べ

後藤男を市長に選舉する市會各派の協議中、當の男爵は永田町首相官邸に於ける外交調査官に顔を出して夜の八時頃散會する迄折から降り頻る雪の中を自動車で大手町なる大日本私立衛生會内の都市研究會事務室に入る。安樂椅子に腰掛けた後藤男の男爵は首相官邸の晩餐に一杯きこし召した

晩餐に

一杯きこし召し

たのか双頬ほんのりとして熱意をゆるやかに懐し乍ら「ナニ、市會の各派が彼を市長に……ハ、そんな事ア問題ぢやないよ」さ大きく笑つて鼻眼鏡をギリリ、駢駢の襟巻を左右に分けて一寸前へ乗り出すやうにして「市會議員は一人も交渉に來ないよ、尤も市長問題で訪ねて來たものは五六人あるが、皆んな市長になるなぞ忠告した、處でた

現在の

市會事會や市會

の人々、まつた市長が良くないさ云つた所で何になる、畢竟市民が自治體に冷淡であり己の興へられ

助役は

永田氏か

今一人は田川氏ならん

後藤男の市長就任の晩は女房役である助役には何人が選任されるか問題になつてゐる。確かな筋から聞く處によると一人は後藤男が内務大臣時代部下であつた前警保局長永田秀次郎氏が選ばれるべく、今一人は田尻子が辭職當時護衛子と後藤男との會見に仲介の勞を執つたといふ元助役田川大吉郎氏が入るべく既に御膳立も出來てゐる。いふが今一人は目下物色中である

市長に當選せる

後藤男抱負を語る

市政の荒廢は公民の罪也

文王出でずんば市を如何

有力なる市長候補者として突如として現れし文王、更に有力な新聞は市長の適任者を投票で募集し居るが有餘の公民を集合せしむるには、其の最良の策は市長の局に起つた、徒に暗闘を演ずるの體ある以外に、之は諸々の罪であるとか、又、田尻子爵が無能市長であつたとか、めだとか、政體を背棄して居ると言ふのは聊かも其の根柢に觸れてゐない

▲誰の罪でもない、吾輩は同様に市民全體の罪である、又同時に、十年も前、新主權を東京市に拂つて居た俺の罪である、然るに現在の市、あるに信する、公民諸君は何ぞ考へて居る、自分分は實業家だから市政の改善は、何分にも官廳、ふこばかり逃げ、居る、又市政に

▲大革新を施さねならぬ、いふ人々、俺は國政に身を委ねる者だから他に適人を見出し

▲文王生れざるべからず、吾輩は信する、吾輩は東京市の大膽敢も、りて解する者は何等の返答もなし

▲他人事、思ふ位か關の、万の市民の意向を確認し得る、斯うして始めて六

▲大革新を施さねならぬ、いふ人々、俺は國政に身を委ねる者だから他に適人を見出し

▲文王生れざるべからず、吾輩は信する、吾輩は東京市の大膽敢も、りて解する者は何等の返答もなし

▲他人事、思ふ位か關の、万の市民の意向を確認し得る、斯うして始めて六

▲大革新を施さねならぬ、いふ人々、俺は國政に身を委ねる者だから他に適人を見出し

▲文王生れざるべからず、吾輩は信する、吾輩は東京市の大膽敢も、りて解する者は何等の返答もなし

▲他人事、思ふ位か關の、万の市民の意向を確認し得る、斯うして始めて六

▲大革新を施さねならぬ、いふ人々、俺は國政に身を委ねる者だから他に適人を見出し

▲文王生れざるべからず、吾輩は信する、吾輩は東京市の大膽敢も、りて解する者は何等の返答もなし

▲他人事、思ふ位か關の、万の市民の意向を確認し得る、斯うして始めて六

▲大革新を施さねならぬ、いふ人々、俺は國政に身を委ねる者だから他に適人を見出し

▲文王生れざるべからず、吾輩は信する、吾輩は東京市の大膽敢も、りて解する者は何等の返答もなし

▲他人事、思ふ位か關の、万の市民の意向を確認し得る、斯うして始めて六

市民が恠う冷淡では

大人物でも仕事は出来ぬ

市長に成るなと忠告する者は澤山あるが、成れど勧めに來た者は獨りもない。

市長候補に呼聲高い後藤男語る

東京市會は愈々後藤新平男を市長候補に昇せしめるらしい形勢だが七日早朝當の御本會の新平男を麻布櫻田町に訪へば不相變に來客で忙がしい中で「東京市會が此の後藤を推すは別として先づ問題に「はならぬ」と云ふ法はない、勿論東京市は日本第一の都會だから他市よりも市長には大人物をと云ふのは分つて居るが私の考へは今日の市長には後藤より、寧ろ偽小人が適當だと思つて居る、所で此の後藤を市長に推し上げるとか云ふが之まで私に市長になるなと

當選させ

た市民は陰謀な有様ぢやないか、そして市會が腐敗して居ると騒ぐが大體なら其の騒ぐ前に先づ自ら顧みる可きではないか之れぢやせん、大人物が市長になつたつて仕

忠告に來

た者は澤山居たが市長になれど勧めに來た者は未だ一人もないワツハツハ、尤も今後若しやつて來れば私は喜んで會見するが然し市長に

満場一致後藤男

七日夜の市會で推薦

議長は桐島像一氏

市長選挙を主眼とする東京市會は七日午後八時四十分開會せり是れより先き市會の市友會新正會大成會公和會の四團體は本會開會前市廳樓上に總會を開會す反阿部派の市友會に在りては市長候補として

後藤新平男を推すことに決定し一方非後藤派の公和會に在りては阿部氏を擁立し輪議を決するこゝなり次いで交渉會に入りたるが其間六日補決にて當選せし山本茂三郎無所屬の秋山朗兩氏新正會に入り大成會の半部新正會の全部亦市友會の同一歩調を執るこゝなり已に後藤派の勢力阿部派の勢力を凌駕するに至れり然も公和會に在りては自説を枉げずして阿部氏を推挙し居りたるが八時に至り後藤男會見せし柳澤保恵伯走來り吉報を齎せしかば流石の公和會も遂に大勢如何もするこゝ能はず涙を呑んで

阿部氏を撤回し萬場一致を以て後藤男を推すことに決し八時四十分議場に入る傍聴席は大雲にも拘らず八分の入りなり年長者島田藤吉氏假議長席に着き開會を宣し補決當選者松崎英太郎山本茂三郎兩氏を議場に紹介し劈頭大海原市長職務管掌登壇

市長助役缺員となりたる結果不肖嗣らず市長の職務を管掌することとなり然も斯くの如き事柄は一時的の變體なるを以て速に本日市長の選挙を行はれたし

述べて着席代つて平岡定太郎氏より道路局長就任の挨拶ありて柳澤保恵伯の動議に依り八時四十分休憩

議長候補問題に關し桐島、鳩山兩派の間に交渉ありしが不調に終り十時三十分再會、諸般報告の後日程に入り作問新選氏より議長選挙延期の緊急動議出でしが成立するに至らずして議長選挙に入る開票の結果左の如し投票總數六十五票にして

當選三十四票 桐島像一 次點三十票 鳩山 一郎 代つて桐島像一氏議長席に着き

市長選挙を行ふ 投票總數六十六票にして内無効

六三票 後藤新平 即ち第一市長候補者として後藤新平男當選次で第二市長候補第三市長候補順次選挙の結果左の如し

四七票 岩松兼經(第一候補) 四七票 桐島一郎(第二候補) 日程第三助役三名選挙の件は坪谷善四郎氏の發議に依り延期となり名譽職

市参事會員 十二名の補缺選挙(其日程は延期)に入る開票の結果左の如く當選して二時散會せり

六票新井與四郎、笠原文太郎津村重吉、小坂梅吉、五票角野庄太郎、大崎清吉、若林成昭、德岡梅吉、大庭重治、垣見八郎右衛門、中村鐵一、中村謙一

増税輕減建議 自動車税と營業稅附加稅

東京市會議員藤藤知二氏等は七日開會の市會に左記府知事宛増稅輕減建議書を提出せり

東京府大正十年度市部歳入出算中歳入に於ける各種課稅は何れも本年度に比し急劇なる増額を見るに至れり殊に府稅營業稅は約三割乃至五割國稅營業稅附加稅は約三割の増額となれり本市亦幾多の急増を要すべき事業ありと雖經費多額の折損之等事業の安源に關しては自然市稅の増課に需めざるべからず斯くの如き急劇なる増課は納稅者に多大の苦痛を與ふるものなり又自動車に對する雜種賦課率は一躍五割乃至八割餘の増課となり居れり元來自動車稅の如きは性質上之を路面改良費に充用するを至當とす然るに全然路面改良費を負担せざる貴府に於て課稅すべき餘地更になく從つて近々實行の運びに至れる本市路面改良事業の遂行を妨ぐるもの蓋し渺しとせず仍此際府稅營業稅及び國稅營業稅附加稅並に自動車稅は勿論一般課稅を輕減せられんことを切望す右市會第四十六條に依り意見書提出候也

提出者(河井氏外三十三名) 府知事宛

都市計畫増員 内務省は來年度豫算に都市計劃事業費九万圓増額計上を爲せるが右は本省に技師技手及屬各一名地方に建築監督官二名及建築監督官補二十名を増員するものにして此の地方監督官は來年四月一日より都市計劃法及市街地建築物取締法施行する可き福岡新瀨市に配置するものなり

とる九日

満場一致で市長に推した

後藤男遂に受諾か

第一候補に男を生む迄の経緯
市友會この間に立つた白井氏
男は今朝鐵砲擔いで獵へ

全會一致を以て市長に當選した後藤男は、今早朝から獵に行き、獵して空を清く、獵に行つて一日考へての固い決心をした上、愛蔵に決するであらう男は市友會の

推薦者

の間に立つた者
は白井氏である。其經過は去る五日に市友會の近藤氏が白井氏を訪ふて「後藤男ならば市會が納まる、是非男に出て貰ふ様貴下から男に話をつけて貰ひ度い」と持ち込んだ。で白井氏は「自分は後藤には市長よりもつと他の重大な仕事を仕て貰ひ度いから反對だが死に角違つて見やう」とて

六朝

朝 應男を訪問し先づ、市長受諾に反對の意を述べ、男は今日の本紙朝刊に記者との談話にも在る如く、市長になるならんか問題ではない、要は市民の自覺に在る、自分は其自覺を促した民の直接行動も亦、市政革新には

已むを得ないではないか」と

緊張し

切つた態度を以て意見を述べた男の意では斯くして推した種を自分で刈り取らねばならぬ確目になる。男を考へる、論議的聲結には考へ及ぼして居ない、只一市民としての熱誠を披露した白井氏と男との會見は白井氏の反對と、男の誠意とのみで結論無しに別れた、其午後又近藤氏と白井氏が逢つた、七日にも逢つた、而して

白井氏

は近藤氏の態度に對し「前以て承諾を得る譯には行かない、たゞ男に行くなら東京市は閣下の市長就任を絶対必要なりと信ずるが故に、市會は選舉するぞ、さういふ事を通告するが可い、男は既に市會に對して種々諄いて居る責任上、諄いた種を刈らぬ譯に行くまい」と云つた、之は白井氏が語つた、男推薦の経緯である

遣らぬ譯にも

行くまいと白井氏語る

白井氏は白く「昨夜十二時頃近藤君が又來て、市會で謝罪一致推薦したから是非許すが行く前に後から就任する譯にして貰ひ度い云つて來た

其處で

今朝早く男は行つて見たら既に獵に出掛け、後たつた、交遊交際、柳澤伯近藤氏谷崎の兩君は、向の返事を待つて改めて行く筈だが夫れは今夜にならう斯うなれば論理に推されて自分の描いた種を刈り取らぬ譯には行かない、市長になるたらう其

結果が

男の爲めに申すべきが祝すべきかは判らない、が愈々就任したら、永田秀次郎とかいふ様な所を助役にして、自分は經緯を以て與へ、情實は一切切り入れぬ事にして、而して市政の緒を開いた所であるが適當と思ふ、今今朝原首相に逢つたら、原君は「昨夜外調で一緒に飯を食つたが、何にも云つて居なかつた、ハハ、そんなら愈々やる氣りたな、さ

推測して

居た、やらぬ譯には行くまい、やるさすれば、其後の彼の行動、世の觀望は集まらう」

正式に

桐嶋新議長等が市會を代表参邸昨夜の市會で謝罪一致市長に當選した後藤男の麻布田町の邸へ今朝桐嶋市會議長、柳澤伯、谷崎四郎の三氏が市會を

代表し

正式に面會を求めて訪れたが、折柄男は獵に出て不在の爲め一まつ引上けた。もし午後交渉の結果男が應諾すれば直に東京府の手を経て内務省に申達し御褒可を仰いで愈正式に市長の榮表を見るのであるが、かく短日月の間に後任市長の決したのは東京初まつて以來の出来事で、これだけは市會議員のお手箱と噂されて居る

藤男の出盧を

今朝正式に懇請

桐島新任議長が代表して

市會記録破りの大出来

満都雪に浮められた七日夜、市省に當選の結果を報告し市長認長選挙の東京市會は果せる哉本紙の豫想通り最適任者と認めて後藤男爵が二百萬市民の衆望を一身に背負つて

當選した斯くて我が帝

都は茲に漸く蘇らんとし男の就任を待つて居る斯くて市會を代表し今朝桐島新任議長は自働車を男の邸に飛ばし正式に男の出盧を懇請した承諾の上は直に府知事の手を経て内務

迅雷的の如く早急の間

市會記録破りの大出来で歴史に於て記録破りの大出来であつた

亂麻の市政も

面目一新せん

後藤男の市長當選に

松田勅參賞の抜く

東京市長の後登として第一候補者に推薦された後藤男に就いて内務省の松田勅參は曰く「監督官廳として異議のあらう筈はない男は其天資の性格から時に脱線する處はあるが其處が却て好いのである

脱線しない位の人には

進歩がない此意味から後藤男には脱線的な性質はあるがそれが又長所である其他地位に於いて識見において澤山の候補者の中で最適任であつた而我が自治制度の知識は内務大臣として試験済みである上に外國の新知識もある世評では男が市長に就任するとは其前途を翫るやうなものだと云ふが之は間違つて居る東京市の

自治を統制出来ない手

腕の人に總理大臣が勤まるものでない故に男は東京市を小國家として手腕を揮ひ首相としての信任を濃厚くすれば好い實際國務を處するも市政を調理するも同様である殊に東京市は第一

轂の下として大事業の多くが造つて居る曰く都市計畫曰く上下水道敷設、河事業、港灣事業と並べ立てると

大事業

は甚だ多い元來男は其豪宕闊達な性格として小事に拘泥しないで大局の着眼に鋭い而も人に接して好感を與へる強いチャームングを持つて居るから事務の才に優れた女房役を得れば泥濁の東京市政は男の快刀亂麻への手腕と相待つて面目を新たにするとが出来やう

今朝統撫に市
長受任か否か

男は世人の知る如く自惚れの獨
い天才家だ、天才が聞く瞬間に
自惚れが加味する、奇麗な織物の
裡に愚癡な愚案がある、是れが
自惚れだ天才をアラスした男
の本領だ、東京市長も我輩で無
ければならぬと云つて市會が全
會一致して推した以上、一つ受
けて牛刀を試みるも亦可なりと
自惚れる、其自惚れる間に麻生
の市長が「初め好し末路賢む可
し」に終ることを考へる一方に
は、此天才は更に大なる而して
近き將來に試むべき天地が期待
されてゐることも考へるだらう。
乃で男の心事は心事として
男の親友たり政治上に切つても
切ぬ關係のある連中は何と考へ
るかといふに、ソツとして
置きたいといふのらしい、即ち
男が今春米國から歸朝した時、
麻生で麻口令を男に應じた日井
哲夫君一味の徒は「マー何事も
せずに」と差控へさせたいたら
う、先日經市長談の噂に上つた
際も頻に此手合が止めてゐたさ
いふ嘲しもあつたが併し大分此
手合も草臥れてゐるから遣らせ
るも可なりとするかも知れぬ。
處が之とは別に市長でも何で
もやらせるサ、存在を忘れられ
て何うなるものか、後藤が市長
になれば、また何か旨い事も出
来るぢやないかと云ふ中にもあ
る所謂嗚咽狗姿の盛だ、君輩は

男の世話にもなつてゐる、男の爲めに前途幸あれと希望一人だが若し男から市長の諾否如何を相續されるさしたら餘程考へものだ、兎に角今朝早く男に會ひ見しようと思つて電話をかけたが盛が執事は曰く「男爵は今朝雲に雲れを好機として近郷へ餘黨に出掛けました、今夜は遅くもお退りになります」との返辭。へ……男は鐵砲を肩にして近郊の雲氣色を賞しながら心機を練るつもりだなと思つた、天才を何う働かせるのか、何處まで自徳るか、結局今夜中に決心するだらうと思ふ。

モ一ツは今朝永田秀次郎氏の
話に斯うなれば男も已むを得ま
いと云うて居た。

天稟てんりんの外交的靈腕ぐわいかうてきれいわん

市を小國家と見て經綸を發揮せよ

松田内務省勅参の談

實際彼嬢男は理想的の良市長だ、その人格、態度、地位、三拍子ともに氣配はつた人で市長の候補者として話題に上つた中では最も適任者と想つてゐた、男は嘗て内務大臣として

理想的市長であり又男としても此輩瀧澤せる市を刷新し三百萬市民のために安堵を與ふべく喜んで承諾する事であらう助役としては男の腹心で事務的能力のある人であれは十分で永田繁次郎氏、内田

自治制に對し深き
造詣がある許りで

なく諸外國の自治に關しても熱心
に研究して居る其の外交的手腕に

吉氏（いづ）何れも適任（てきん）である

東京市を小國家と

見て縦横に其經綸

を發揮し、道略、築港、都市計畫、下水道の完成等、國家的大問題を處理するに於ては、益男をして大なるしむる所以である、如何なる方面より見るも男は我が東京市の理

政治的野心を諦めたか

後藤男が市長さんに

仕事の腕は確かだが、市會を解散して根本的に市を廓清する勇氣と誠意ありや否や

昨夜の市會は突如として後藤男を市長に推し、田尻市長辭職後、市會の議決は一致の候補者の中から後藤男を市長として選ばれた。後藤男は衆議院議員として、市會の期待に添ひ得るかどうか。

後藤男が市會の推薦を承諾するや否やは、同男自ら言明せない。今日、未だ決すべきでないが、市會の市長選挙委員等が、力同男を推して阿部善民を擁立せんとした。公和派の一派を、遂に彼等をして後藤男

推挙に異議を唱へしめなかつた理由としては、後藤男が市會の推薦ならばと云ふ意志を私に該黨委員に漏したからだと傳へらる。従つて後藤男は、恐らく市會の推薦を承諾するものと思はれる。

果してさうとすれば、男が暗中非難を播にし虎視眈々たりし後藤男の組織の困難をどうするの、深くあきらめたか。或はまた單に腰掛けとする積りか。その邊につき男の腹近者某氏は、語る。後藤男が市會の推薦を承諾するや否やは何んとも云へないが、恐らくは承諾するであらう。然し承諾するとしても同男の腕に承託するとして、同男の腕に伸び得る餘地あるが故に、市長としては長く留まるまいと思はれる。しかし市長としても決して後藤男の市長に比して遜色を見せないのみならず、豪傑以來の同男は土木電気事業などに興味を有し抱負を有し、殊に其の調査組織に

卓抜の手腕を有するが故に、現今の東京市の如く道路改良電車改良等の大事業を有する聯合に於ては、蓋し同男の如きは、得易

からざる市長であるといひ得る。然しながら阿部派を擁いだ公和の勢力が、時日の経過と共に回復して來て同男の手腕を阻害するや、になれば如何に同男に卓絶の手腕を振ひ得ないの、然るであらう。若しさうなれば同男は、同男が市長たりし、或は又解散を解散し得るや否や、或は又解散せずしてよく市會を廓清し操縦し得る自信ありや否や、市民の等しく聞かんとする事柄であらう。

手腕が

後藤男邸には

朝來訪客頻々

然し男爵は令息同伴

市長問題を餘所にして

日頃好める銃獵にと

玄關番子沈着いたもの

昨朝の後藤男が麻布區櫻田町の雪が盛んに訪客に接して「御主人は清められた新築の邸宅は、日本今朝の六時といふ頃から令息へ市會の朝飯を浴びて清々しく、殊に（義氏）御同伴で近在に狩獵に行か本朝の香芳しく心地好き、朝來自れました。一、二點で持切つてゐた、御車駕をそれらへ、驅りて來れる奥の方では電話の鈴の音が絶え、訪客を接する有様、門の外はなく鳴る、聞けば掃雪リエ子刀自轡の雪解の泥濘が、録り返してゐるが、意圖の氣味なので、見舞の電話それを數名の夫人が汗を流して、修か頼むたのだと玄關子は云つてしてゐた。邸内は年の若い女關子ゐた。

条件附でも何んでも無い

立派にお断した

飽迄拒絶かなご聞くのは野暮さぞ

意味有氣な捨言葉を残して

昨夜工業俱樂部で 後藤男語る

桐島氏の委員達が後藤男を呼
び去つた一時間の後問題の後藤
男は男が主裁する大手町私立衛
生會館で開かれた都市研究會事務
室に二三の

幹部連と火鉢を囲ん

で打ち寛いでゐるが六時十分を
指した時計に驚きして二四七號
の自動車で直ぐ附近の工業俱樂部
部の正面玄関に乗りつけたと思
ふ間も無くエレベーターに飛び
込んで三階大食堂の獨立の形に
大股で登れる其處には

新助役の噂も高い内

務省の池田社會局長の神經質な
姿を始め先刻後藤男を断した市
の桐島像一氏や柳澤谷藏、柳
澤正治郎、藤原俊雄、堀田、川崎
氏等の都市研究會の理事達が散
々首を長くして男を待ち併ひて

るが、歐を述べた

小鳥の群

は俄にぞよめき渡る間も無くホ
ークが納まると十一日の都市研
究會の招待會に關しての型文の
協約が進められる折桐島氏の
役として助役の呼聲高い内田嘉
吉氏が乗り付けて来て先づ「の字
の巨口を開いたのを切掛けに

局面一轉

本日の秘密會議の目的である市
長問題の本舞臺に入つて俄に一
同の顔は集まる桐島氏が藥劑師
に湯氣を立て、男の懸念を順に
促す詞宜しくあつて引き下る
と後は更に内田、池田兩氏が入
り代つて

油を注い

で試したが
「君達今日は都市研究會だよ」

かい」とツハノして自動車の中へ潜り込んで了つた

議長を賭して

男の出馬を懇請する

交渉の不結果を齎して

桐島議長昂奮して語る

案圖の後を受けて市長の白羽の
大矢を存心はされた後藤男男
の首は圓らるも市氏像則を重切
つてパツと横に打振られた夫
は男の立場として現在一應無理
からぬ態度で昨八日事實形勢は

考慮中

午後四時問題の中心麻布の後藤
邸に参進に走込んだ二臺の自動
車があつた桐島新議長の眞赤な
花頭を先頭に柳澤伯母谷の委
連がマツト姿を現はし急遽大
玄関を奥に消えたが半時経つて
も門を罷り出ぬ漸乎

雪模様

帳が垂幕むる五時半初めの元氣
に似す悄然として四ツの姿を影
の様に敷きに並べたが市會の新

問はず語

不結果を洩らす「君は断しても
此の混沌の東京市の大整理を行
ふ者は後藤男を指して現在他に
誰を求め得るか！吾輩は議長の
職を遂げて男の出馬を懇請する
よ二度でも三度でも承諾をする
までの根柢だと言ひ立て、中
上の人となつた

市長としての

後藤男

尾崎行雄氏談

東京市會は満場一致で後藤男を市長第一候補者に推選し後藤男は之に應諾すべしとの事であるが誠

良市長を得たもので東京市の爲め慶賀に堪へない今日迄色々な人が市長候補に擧げられたが其中の最適者は男と仲小路君であつた勿論男が市長に就任したからと云うて現在の市政が刷新されやうとは思へない市政の刷新は東京市評りの事てなく最近暴露された土木不正事件の如きは過日も云うたやうに全國に於ける腐敗の縮圖に外ならないのである故に市政の刷新は國民道義の刷新が根本的に變らねば駄目であつて國民道義の刷新が今日の務では何人が市長になつたにしろ刷新されるものではない東京市政の刷新は市民の道義的觀念とそして爲さるべからざる仕事に非常な修練して居るものと二つである如何に後藤男も前者は何うする事も出来ないが後者を片付けるには持つて來いに入である即ち男は臺灣民政長官としても南滿鐵道總裁としても各省大臣としても皆相當の仕事をして成績を擧げて居る腕の人としての男は既に試験済の人であつて此の男が市長の任に就けば恐らく修練して居る仕事も漸次遂行せらるゝであらう

東京市

は全國の首府でありながら京都、大阪其他の都市に比して道義の點が少くない例を擧げれば道路の如き電車路の如き之れである東京のやうな都府路では下駄でも靴でも敷無しで各個人に就て云ふも惡路の爲に年に十圓や二十圓は不經濟であらうし又自動車の所有者でも一年には千圓や二千圓運ぶかも知れぬ道路既成に於て電車路の改善も下水も悉く大改正をせねばならぬそこで是れを爲すには金が懸る其の金は如何うして市民が負擔せねばならぬ尤も一時負擔しても結局は却つて利益になる市民は茲に思を致して徒に遠慮などを叫ばずに眞面目に東京市の前途の爲に自覺せねばならぬ如何に良市長を迎へても市民が自覺せねば成績は擧がるものでない

藤男或は就任

市友會の柳澤、桐島、坪谷の三幹事員は八日午後三時半後藤男を其邸に訪問し、市會が満場一致で推選せる事なれば、市長に就任せられたしと交渉したるが、同男は市會全員の推選は感謝するも、余の市長たる事は許されたと固辭せるより、三幹事委員は更に交を罷を懇請して取りたり、而も幹事委員等の言に依り、未だ全然交渉の餘地なきにもあらざれば、結局同男の就任を見るにあらざるか尙は後藤男と最も親近なる某氏は左の如く語れり

後藤男に對し過日來或る有力者は事實也、而して同男は市長に選舉せられたる場合、之を辭すべき旨を語れる事無し、同男は市政に興味を有し、當に是れが研究を爲しつゝあれば、今日の如き難局に立ちて、市政を刷新せんは男に取つて最も妙なるべし、左れば一應は之を辭せんも、結局就任する事とならべく、助役としては松岡均平博士、永田秀次郎、池田現社、會局長等の就任を見るに至るべし

藤男拒絶せば

一結局岩松氏か

後藤男 市長就任を肯ぜざるに於ては、市會に一問難を惹起するに至るべし、即ち阿部氏を擧げる公和會は、藤男の就任如何を氣遣ひ、市友會の幹事委員に對して公式に、宮崎氏を交渉委員として藤男の諾否如何を質したるに、市友會は責任を以て藤男の就

任を要ひ、坪谷氏の如き若し不承諾の場合には切腹すべしと迄聲明したる關係上、藤男の拒絶を見んか、市友會の幹事委員は責任を負つて決するなり、遂に滿場一致同男を推選するに至るべく、延いて他の同幹事委員も亦辭職の餘儀無きに至るべく、一方市長選舉を命じたる上級官廳との關係如何と云ふに基き市選選舉を行ひたる結果、候補者の履歷書を添附して府知事に上申すべく、府知事に於ては各候補者に就き、就任の意志の有無を確めたる上、之を内務大臣に副申し、同大臣は之に依りて市選就任の認可を仰ぐ事となるべきが、第一候補者にして就任を承諾せざる時は、第二候補者即ち岩松氏に市長たるに至るべし

市友會の責任

一後藤男就任せずば一藤男の市長就任如何は尙未定なるが、若し不就任の場合に於ける市會の責任如何と云ふに、市會有力者は左の如く語れり

▲辰澤延太郎氏(公利會)後藤男を選出するに方り、我公利會は宮崎氏をして市友會の幹事委員に對し、男の就任如何に就き交渉したるに、男の責任に對しては責任を負ふべき旨誓ひたるを以て、同男に投票したるなり、然るに同男が就任せずと決せば、市友會の罪は決して許すべきにあらず、併し余等は此際萬事を放棄して、後藤男が市政に就きせん事を望んで止まず

後藤男

市長就任を肯

▲川久保源治氏(市友會)後藤男を

と柳澤、桐島、坪谷の三幹事委員より推薦ありたる時、我等は男の就任如何を質したるに、不承諾の場合責任を負うて切腹すべしと答へられたるを信じ、遂に滿場一致同男を推選するに決するなり、然るに萬一男が就任せずとなれば、幹事委員宜しく責を負うて切腹すべき也

▲若林成昭氏(新正會)柳澤、桐島、坪谷三氏に對し余は豫め余の就任を誓ひたれば、更に柳澤伯に對し後藤男に頭を下ぐる勇氣ありやと問ひしに、伯は笑つて答へざりき、之を要するに男にして就任せざるに於ては、是れ市友會の大責任と言はざる可からず、併し余は結局男の就任を信じて疑はざるもの也

後藤男推薦拒絕

市會代表者に回答す

後藤男を會長とする都市研究會の理事會は八日午後五時より日本工業俱樂部に於て開會、後藤會長を始め、藤田、藤原、橋本、前田、佐野、重藤、渡邊、池田、各理事出席したるが折村市長顧問にて後藤會長第一候補者に推され別記の如く各市會議員の正式訪問を受けたる等の事情ありし爲め特に緊張し先づ會議に先立ち晩餐會を開き席上後藤會長は起つて

今回不肖東京市會の決議に依り市長の第一候補者に推されたるやに於て本日鳴鶴近藤澤谷の諸君懸念の極に來訪せられ熱心に其承諾を求められしも不肖種々の事情に依り遂に之に應ずる能はず遺憾ながら此旨達意したるに該諸君諸君に尙ほ意を盡して此際不肖の職起を遂げしたるが不肖は能く當初の意思を離す勇氣なく今に再交渉の餘地すら無之と斷言し置けり

さて市長交渉經過に就き大要報告する所あり、之に對し「二理事より一奮起し能はざる事情如何」の質問ありしに後藤會長は其理由に就ては先刻市會の代表者に對して申し聞きたれば今茲に之を繰返すは對に違ひなきを以て諒せられん

さて夫より宴を撤いて會議に移り来る十一日同所に舉行すべき市政刷新の招標會に關する下相談を爲し同九時散會したり

拒絕理由

後藤男と産業調査會

八日市會代表者の來訪に對し後藤男が市長推薦を謝絶したるは別項の如くなるが其際男が拒絕理由として該代表者に述べたる所は左の如し

市會が議決一致を以て余を推薦せられたるに付き余は其好意を光榮を感ず然も余は先に局長の必要に鑑み政府に對し産業調査會の設立を建議したるに於て於て余の意見を了解し進んで之を豫算に計上すべきや否やを考慮甲ありたれば余としては市會を閑却するに非ざるも何分余の建議が前述の狀態にある次第なるを以て此際諸君の推薦に應じ難し政府が果して該調査會設置を豫算に計上せざるに於ては市長に就任して可ならずやとの意見もある可く又豫算に計上する事となりても市長に就任して可ならずやとの意見もあるべきが兎に角余 此點は前述の行状にもあり折角ながら推薦に應じ難し

而して該男は別項の如く當夜都市

研究會に出席し此旨を報告したるが其席上には鳴鶴市會議長も出席し居りたるを以て男の進退に就て充分に意見を交換するに至らず結局同會は後藤男の進退を別問題とし市政刷新に付き十一日有志者を招きて協議する事となりたりと云ふ右の如く後藤男は推薦を拒絕したれど男の脱意者側にては市會側は男の此拒絕を以て全然駁の切れたるものと斷念する事なく今九日更に陣容を改めて男の受諾を懇請し来るならんと觀測し居れり

後藤男は適任

熱心に昇上可し

七月の東京市會は六十三歳と云ふ殆んど全會一致の大多數を以て後藤男を市長の第一候補者に推薦した、後藤男が快諾して其椅子に着くが否か男の心事は付度する處に行かぬが仲小路氏が生程市會議員中の有志者の内交渉を斷つた同一筆法で無碍に謝絶するが何うか同じる事が斯く迄に進んで見れば男も何ぞか考慮もして見なければならぬと云ふ立場に臨んだものではあるまいか

所謂奇想天外より落つる底の男の事此處何う云ふ態度を採るか暫く見物である、が我輩をして思ふ所を直言せしむれば何うか一つ男に奮發をして貰ひたいと思ふのである、聞く所に依る男は應諾者の一人に要するに問題は數の多少ではない實の如何にある、市民

直に市會議員に市政に對する熱意があるなら市政の事は交差するに足らぬと意中存する所の一端を吐露すると共に来る十一日には男の主宰する都市研究會の相談會を開き知名の士首名を招待し自治刷新の關する諸意見を交換をなし閣後には市會と市政に對して考究して見たい云々と告げた相だ

此考案し来るさ萬更望みのない様な話でもないので大に意を強ふして居る次第であるが何うか此際は無理でも一つ男に一服を脱いで貰はたいものと思ふ、何しろさうぬたに東京市政は却々御難ものである上に最近の情勢が彼の如くであるから今に到底尋常一様の人では甘く遣つて行く事は難かしいではないか、彼の太火事を消止めるには厥が應でも早稲田伯の様な飛放れた人物でなくては何うもならぬと云ふので遂に引つ張り出して来て漸く其緒始末を付けた

夫れ此れ此れは聊か舞臺も違つて居る場面も違つて比較にはならぬ様だが何しろ東京市に云へば全國都市の模範たる可き首腦地で從つて其市政の興廢如何は獨り東京市大のみの問題でない全國都市の政治を判斷す可きパルメータであると共に何一歩進めて云へば帝國全體の政治如何を窺ふにも足るべき標的であるから此際是非一國の總理大臣ともなり得可き人物が欲しいのである

男は市民の熱誠如何云々云つ

た相だが我輩の確信する所に依る市民の熱誠は却々何うして大したもの此點は恐らく男の想像外であらう若し男が應き入れなかつたら有志者は男邸に押寄せて膝詰談判をやる夫れでも若し聞入れなかつたら保安條令の施行ではないが東京には住ませて置かぬと男が込んで居る相だ、熱心さ云へば隨分熱心なものではないか、男も一つ大きく首肯して見せるさうだ

夫れに此れからの東京市長は總理大臣級の大人物を要するとは云へ只名許りでも困る經歷一點張りでも困る換言すれば時代の過ぎた人では困る陳腐の政治乃至自治制に就いても夫れ相當の理解のある人でないさ何んとして遣つては行けぬのだ、此點は男は自分のない資格の所有者だ、幸ひ大物を掘出したものだからうんと熱心に昇上けて大に遣つて貰ふがよからう

(某消息通談)

後藤新平男意中の市助役は何人か

永田秀次郎氏の高級助役説有力
長島、田川兩氏説も稍有有望なり

選定たりし東京市長選挙問題は、後藤の如く一轉直下し、七日の市會にて殆ど全會一致を以て後藤新平男を選舉したるが、既に秘密の間に、後藤男の承諾ありし事とて、後藤男の市長就任を見るべきは最早疑ひなき所にして、斯くて問題は後任助役三名の選舉なるが、目下の東京市會に於いては、二、田川大吉郎三氏の呼聲高く、或は永田氏高級助役たるべきか、永田氏にして助役たるに於ては、長島氏に於ては、長島氏は助役たるを肯ぜざるやも知れず、長島氏にして助役たるを肯ぜざる模様なれば、一名は市友會中の市會議員より助役を舉ぐべく、或は坪谷義四郎氏の助役就任を見るやも知れずと云ふ

後藤男考慮中

八日午前不在と稱し交渉委員の訪問を回避す

七日の東京市會に於て全會一致市に關し各人各様の動向集しつゝ、第一候補に當選したる後藤男にあり男自身に於いても東京市會の職に就く男に對する交渉委員たる柳井其の他より電話を以て正式に意見を申し込みたるも、後藤男に於いては「主人は今早朝より持病に赴き不在なり」と答へたるを以て男と交渉委員との會見の幕に入る能はず、從つて男の市長就任諾否の間際、今の處未定なりと云ふの外無き形勢なり而も後藤男は八日午前不在なりと云へるも、實は在宅して、而して交渉委員との會見を回避したりと解して毫も差支無き事實ありと雖も、目下男に對しては諾否の問題に對する可きやに解せられつゝ有り

實は在宅

して、而して交渉委員との會見を回避したりと解して毫も差支無き事實ありと雖も、目下男に對しては諾否の問題に對する可きやに解せられつゝ有り

市長就任

を承諾する

○東京市長に推された

後藤男拒絶

委員は更に九日懇請の筈

男への交渉が不可能ならば

市議員は總辭職の外無し

東京市長に推された後藤男は、其の承諾を求むべく、桐島新議長、柳澤伯、坪谷善四郎の三議員は八日午前九時麻布新橋町の後藤邸を訪ひ、不在の爲め午後三時再訪し、百方懇請したが、男は「折角の

御芳志は喜ばしいが私

は目下東京市長に就任する場合に、断じて拒絶する、其の事情は明言は出来ぬ」と断固しく逃げを打った、三氏も空しく引取り、主として後藤男を推した市友會員全員も某所に會合して後藤策を協議した、是れに就ては後藤男の周圍に居る所説

第三黨 たる長島隆二、

白井哲夫、秋山定輔氏等が、原内閣の後継内閣について策を廻らして居るから、男は東京市長に收まれまいとの噂もある、右に對し桐島新議長は「男が全く拒絶された」と見るはまだ早計である、市

直接の交渉をしたので

あるから、一回では承諾される筈は無い、故に九日も極力承諾を求むる積りである、最後に於ても拒絶される様な場合は吾々は必ず引退する」と語つた、即ち男が全く拒絶となれば市友會は無條件で後藤男を推選した各派の總辭職するは明かて再び市會は

紛糾する模様である、

又一方市長第二第三候補としての岩松策、柳澤伯、坪谷の三氏が必ず後藤男を市長を受諾せしむるとの言葉に信賴して議場一致で候補に推したのである、然るに今俄に同男が断つたとすれば實に困つた問題である、昨

困つた

問題である、昨

し若くとしては三氏に諸腹を切らせ度く無い意味に於て飽く迄男の出馬を促し度いと思ふ、不可能に終るとすれば總て市會の運命が決する、尙廣山勝太郎氏は市會黨に對する責を引いて九日市會議員を辭職と決した

後藤男がかう云つた

我輩は絶對に

承諾しないと斷言するよと

今後如何なる事があつてもどうかと金を押すとそこ迄聞くは酷いくと

八日夜後藤男は丸の内工友俱樂部の都市研究理事會に會長として出席した、そこでも桐島市會議長が市長就任の懇請に行つたが、やはり承諾はしなかつた、其の歸りがけに後藤男は記者に對して云ふ「我輩は絶對に市長を承諾しない、最初

市民と

約束した譯でもなし勝手に決めて置いて人の都合も知らずに、サアお前を市長に推したから快く承諾せよ、と言はれては我輩も困るよ、我輩は茲に市長を承諾しない事を斷言するよ、我輩には未だする事は澤山ある」と断つた

豪傑笑

をしながら鼻眼をいぢつてゐた、「それでは今後いかなる事があつても市長就任を承諾なさいませんか」と金を押すと「イヤ君、そこまで訊くのは酷い」とと斷固しく断つた

微動さ

せながら話頭一行つたよ、何處に行つたと言ふのは、後藤男は猪籠場を人に聴かすのは禁物だよと自動車中に消え去つた

見込の

ありさうな

此夜内田嘉吉博士も「實は僕も市のお方から男爵にお勧めするやうに頼まれてゐるから、今朝（八日）も某所で男にお勧めしたが、男はかなり強硬です、なに僕の助役？それは友人であり又先輩である男爵が僕の勸誘で市長を承知し、其時だが、まだ市長も定まらないはねと微笑した、どうやら男を説服する自信が弱くやうでもあつた

後藤男の入市

後藤男は東京市會の満場一致を以て市長に選出せられたり。是れ後藤男にとりては聊か迷惑なるやも知る可らざるも東京市及市民にとりては頗る慶賀すべき事たらざるばあらず。或は男の周囲の人々中には男の市長就任によりて仲小路氏の所謂國政に盡すの機会を失するなきやを憂ひて之を諫止せんとする者なきにあらざるべし。又政友系の人々の中には男の市長就任は即ち男を祭込む所以也是れ野に放てる虎を檻するものなりと偽して私かに微笑を漏らす者もなきにあらざるべし。されど東京市長の椅子は餘人ならば卒に知らず精力絶倫機軸廣なる後藤男にとりては左程の重荷に非ざるべし。選相若くは内相として鐵道院總裁を兼ね而も納副總理の役を演じて終々たる餘裕を示せる過去の事實に見ば蓋し思ひ半に過ぐるものあらん。一度市長たるも機會到來せば其椅子を去つて直に國政に當る敢て不可なりとせざらん。實を云へば朝に在つて一國の印綬を帯ぶる者が野に在つては即ち帝都の市尹となり帝都の市尹たる者が乃ち入つては一國の宰相たる事例が我國に於て聞かるゝ

に至らば、國家の爲にも將た自治體の爲にも慶賀すべく歓迎すべき傾向たらずとせず。適莫後藤男にして東京市長の任に就く以上は吾人は男が一意専心市及市民の爲に盡せん事を望むものなり。尾崎氏は市長として必ずしも適任ならず東角の非難ありたりと雖も尾崎氏の市長就任によりて東京市の地位の高まりたる事は掩ふ可らざる事實なり。『東京市長』なる劇が歐洲にて上場せらるゝに至れるも氏の就任以後の之にして、其後の歴代市長が總て大臣級の人物たるに至れるも亦氏の先例に負ふ所夥しとせず。而して今後後藤男の就任によりて東京市長が更に一層重きを加ふるの先例を聞く亦快ならずとせんや。尾崎氏の就任によりて漸く近代都市たらんとするに至れる東京市は、是より愈々近代都市として完成し、大東京として今後の發展を遂げざる可らず。殊に積弊百出殆ど收拾すべからざる状態に立至れる今日の東京市としては、たとひ短日月なりとも後藤男の如き人の巨腕に待つこと痛且つ切なるものあり。殊に男は都市に關して特殊の理解を有し趣味を識し、其職に在ると在らざるに關らず常に都市の發達を顧念し自治の完

成に奮興しつゝあるの人なり、東京市會が満場一致を以て男を後任市長に選舉せる既に所以なきに非ず。その結果より見れば東京市會は市尹選舉に於て能く其選を敢らざりしと雖も、吾人は市會が之に依つて毫末も過去の責任より解除され清算されたるにあらざるを遺憾とす。現市會議員たるもの深く此の點を牢記すべき也。

大正十一年十一月十一日

藤男諾否

本日澁澤子歸京 就任を逕通せん

後藤男東京市長就任を拒絶するやまとして同男推薦に努めたる市會議員、市會執行委員、市會代表者は更に澁澤子を介して後藤男の就任を懇請する事となり十一月八日澁澤子は夫より歸京し後藤男と會見し其職起を逕通する格なるが之に關し大府府

内務部長

は桐島議長

の申込に依り市長第一候補者後藤男及第二第三候補者澁澤子と内務省へ申達するを見合せ居るも十一月八日後藤男澁澤子の會見にして後藤男が就任を逕通する格なるが之に關し大府府

男の股

を助役とし

て男の股を代行せしめ國勢に對して相當の餘裕を興ふるの件條に於ては強ち其就任に非ざるが如し、要するに十一月八日澁澤

新正對策協議

後藤男を見切り 新候補推薦申合

東京市會の新正會にては市長問題善後策協議の爲め十一月八日午後六時より四谷區伊勢橋に於て總會開會、七日の市會に於ける市長候補者候補に關し専ら市友公和大成會各派と交渉の任に當りし若林成昭氏より後藤男推薦に就ては市友會との交渉の結果當選後は就任承諾すべしと信すべき十分の理由あり之に應じて拒絶する事あらんか第二候補に久保田政周氏を最後迄推したるも第二第三候補は形式に過ぎずとて市友公和會兩派より大成新正會兩派より一名公和會より一名市長者を推すべしと主張して譲らざるや遂に之に同意したる次第にて後藤男拒絶の場合若林成昭氏等の市長就任に就ては市會一人の之を承認する者無し元來新正會は他派に後藤男を推薦する者ありしに對し後藤男は清濁併容の宏量を示する大人物にて不真面目分子層を急務とする東京市に男を連ふるは不適任たる意味にて最後迄極力反對したる事柄ありしも市會の大勢に順應して遂に後藤男の推薦に同意する迄なり

子と會見の結果愈々男の就任絶望に終りは形式的第二第三候補者の受諾否とに拘らず内務省は更に市長選挙の命を發すべく然も之が爲め市會は二三餘額議員の引直辭職に止まらず職の外無かるべしと觀望せらる

ありたる後八日桐島議長等と後藤男との會見内容は未だ報告に接せざるも後藤男の四回市長就任を極力阻止し居れば同男の就任は絶望と見る外無かるべしと後藤市長に關し種々意見の交換を爲す所ありしも後藤男拒絶の後には當然更に内務省より市長選挙命令来るべく之が選挙市會當日各派と交渉を爲す迄個人として將た團體としても絶対に其候補者を發表せざる事に申合せ同十時過散會したり因に新正會は當夜後藤男就任拒絶後の後任市長は大體久保田政周氏を推す意圖なるが如し

後藤男語る

市政と國策 輕重如何

東京市長の地位は極めて重要なり、現在の東京市の状態は如何之か此種放任し置かんか、結局如何なる成行を呈するか無心に指をさるものあり若し市長の任に就て爲さんと欲せば其爲すべき事は頗る多し、更に市會が全會一致を以て選舉せる以上は我輩も其好意を諒して直に承諾した事誠なれども今や我輩は産業國家調査機關といふ大問題を前にして若し其れがよい實現されんには此事に關係するは寧ろ我輩の天職とも云ふ可きなり願首相も疾く之を諒とし居れり萬一、其實現せざれば政府も國民も未だ此機關設置の理由を適切に了解し得らざる結果なるを以て我輩は十分之を諒解せしむ可し

全國を遍歴

して一大宣

傳を試みざるべからず東京市民の好意を無にするは遺憾且つ氣の毒の至りなれども調査機關の成立がこれにしても市長就任を難する次第なり市會の交渉委員よりは調査事業は調査事業として單に市政の大體を定め輪廓を造り呉れさへすれば半年でも可なりといふ懇請もあれば然れども我輩が一旦決心して荷も市政の衝に當つた以上は單

調査機關

に至つては然ら

ず、これは原首相との間に默契ある結なれば勢ひ調査の妨に重きを置くの已むを得ざる次第なり我輩の市長當選に就て政友、憲政各黨が此れを諒解し居る由に聞けども我輩も吾輩の心事を知らざる輩の申分なり今日の市政は則ち牛刀を用ふべき時なり我輩の市長を以て牛刀を割るに許するものあらば是は餘りに市政を輕視したるものと云はざるべからず各政黨の人々が我輩の市長當選を以て拍手したりせはそれは例に依り我輩に政治的大野心ありと邪推しての事ならん我輩には左の野心無し若し市長たらんが固より成敗利鈍を眼中に置くものにあらず、市會より再選交渉ありとすれば如何にするか云ふに以上の我輩の談に依つて知るを得べし

藤男眞意

伸小路廉氏談

後藤男が市會の推薦に對し如何なる理由を以て應酬しつゝあるかは余の全然闕知せざる處なるが市長問題に就ては余も亦一體の内交は受け好意に感ずしつゝ之を辭退せり而して不無關與の間に於て△後藤男に對する交誼が同一行徑に陥らんとするは何ぞや蓋し吾人は自治體を愛好せざるにあらず市民と共に憂ひを懐つに否ならずが抑も自治體の腐敗は單り東京市のみにらず全國の自治體悉く然り腐敗墮落の病源は東京市に於て其の一端が表皮を破つて暴露したるに過ぎず而も夫が明治神宮の參道を動機として暴露したるは一般自治體の腐敗に就て自治市民に無言の警鐘たる感なくんばあらず而して自治體の爲の貢獻は必ずしも一市の市長たるを要せず然らざるに於て廣く一般自治體の上に便宜多からんを傳へ抑も自治體の腐敗墮落を止むに對しめたるは何ぞや自治體の弛緩は無益之れあり夫れと共に外間より自治を犯し自治を破壞し來るもの存せざりしか自治の民として自ら治むる所以の△根本精神に二大覺醒を要するは勿論此の自治を犯し自治

を破壊し來る者に對しては之を防禦するの大覺醒なかるべからず而して此の大覺醒を必要とするは單り東京市のみにあらず全國の自治體皆然り然り然り返して言ふ東京市長の問題に就ては余と後藤男との間に何等の交渉なし而も後藤男が自治體の爲に貢獻する必ずしも市長たるの一途のみにあらず其の然らざるに於て一層の貢獻を期待し得べし而も男の交渉諸君は余の關する處にあらざるなり

子男會見

大原縣警署は九日相島氏より後藤男との交渉は密地あれば今暫く内務大臣への申達は見合はせられたとの電話に接したるが十一日藤澤子氏は後藤男と面會其の就任を懸念する由なれば十一日中に何等かの要領ある報告無き時には十二日には後藤男に向ひ其の意圖を確むる應會を要する由なり

後任候補申合

新正會總會市會の新正會は十日午後六時より四谷伊勢虎に於て六日同區三級選舉に當選同會に入會したる山本茂三郎氏の當選祝を兼ねて臨時總會を開き市長問題に就ては十二日藤澤子が後藤男に面會其出處を促すべきも後藤男の承諾は絶望と觀測し第一候補たる後藤男にして市

長たる事を辭任したる場合には第二或は第三候補市長たらしむ事を正當とするも而も岩松氏の如く自分には餘録の廻りたる際には市長たるを辭せずと公言し居るとしても市民は承知せざるべく又之は氏の辭言なるべく岩松、棚田兩氏は結局辭任すべきを以て市會は此旨を内務大臣に申達し内務大臣は更に市長候補三名の推薦命令を發し市會は再び市長選舉を行ふ事となるべきを以て新正會は今後市長候補に就ては個人として又會として市會の交渉會以外と云ふ事の申合せを爲し十時散會と云ふ事の一人は後藤男推薦せるが尙同會の一人は後藤男推薦せる各派交誼未だに就て語るに我新正會は柳澤伯を絕對に推さざるを信じたればなり而し阿部知事に對しては絕對に反對を表明し新正會として最初より熱心にあつた保田政周氏を推す事に決したる所市會より後藤男を推す事に決したれば新正大成副會より一名公和會より一名の候補者を出して後藤男に賛成して呉れよとの交渉あり新正會としては後藤男は半分承認し呉れるものと考へ男を第一候補に推す事に賛成したるも新正會に推して市長候補たるものは無しと拒絶して結局あるやうな岩松氏棚田氏と云ふが如き第二第三候補を推薦したる次第にして市會としては實に不真面目千萬の語なるが市會三名の推薦命令のありたる時が自決を遂ぐる時なるべし云々

後藤男の市會蔑視

各自治團體協的翼賛の途を啓かん

市會の餘額委員選は自己の手に負へざれば先輩を勞しても後藤男に受諾を懇請すべしとなし尙ほ交渉の餘地あるかの如くに外面を装ひ居れるも此は單に大話に至る迄の△自己粉飾に過ぎず一方後藤男は自己推薦を全然問題外に置き都市研究會長として市長問題に關し別個の解決方法を執らんとし市會の行動とは全く相反する方向に努力を進め居れり既報の如く後藤男は十一日に都市研究會を開くべく準備を進め居れるが當日協黨事項の第一項には東京市長問題を掲げありて△男の作製せる議案に依れば東京市長の選舉を市會のみに一任せず帝國大學、商會、議所、實業組合聯合會及び銀行俱樂部、工業俱樂部等の自治的團體の總協に依り市長候補を推選し之れを市會に移譲して推薦手續を履ましめ以て市長をして市會のみの翼賛に止めず各自自治體をして協同的翼賛の途を開き市自治體の機能を充分に發揮せしむべしと言ふにありて反面より之を見れば市會の能力的缺點を他の自治體をして補完せしむるにあり研究會理事會に於ては餘りに市會を無視したる方法ならずやとて成案として決定するに至らざりしが其の後に經驗されたる

報知評壇

辭職か解散か

後藤男にして最後まで謝絶せば、男を推薦するに特別の責任ある二三氏は、無論辭職すべし。然れども其は市會の内部に潜む事情に過ぎずして、正式觀に於ては男を推薦せる市會全體は、皆同様の責任あり、三氏に次て一同の辭職とならざるべからず。市會にして此態度に出でなば、事は其れにて一段落ならんも、苟も遲疑決せざる風あらば、其處に監督官廳干渉の機會生ずべし、解散是れなり。要するに東京市は正に一大腐敗の時機に達したるものにして、市會を改造するは建設の第一歩なり。監督官廳は無用の粉飾を重ねしむる、連に自治機關を安定せしむる業務あり。若し黨派觀念を以て徒に時機を遷延せば、監督官廳も亦糾弾せざるべからず。

後藤男に就はる

後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市長推薦進達

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

後藤男に直交渉か

澁澤子の力果して

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

後藤男を動かすか

市の會の玩弄

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

市に於いて、後藤男の東京市長就任問題は、今日一日の瀬戸際

一足の鞋は穿けぬ

産業國策樹立は我輩の任務

市長は行れる人が澤山ある

後藤男爵の縦談

後藤新平男は十日午前十時性訪の客を引見して語る「例の市長問題で我輩の所志を明かに来たのか、市會の全會一致で選出された以上我輩も好意を受け持つて見たいのであるけれども今や我輩は産業國策調査機關といふ大問題を前にして居る若之が

愈々實現

ふこになれば我輩を指いて他にやるものはないのであるが君も君でなければ到底行り切れるものはないのだから宜しく頼むと隣で我輩に言つて居る。若し之が出来ないならば政府も國民も未だ大調査機關設置の理由を適切に了解して居ない結果を見る外はないのだから我輩は之を十分に理解させる爲めに

全國行脚

をして一大宣傳を試みる積りであるから、東京市民の好意を無にするこゝは如何にも氣の毒であるが調査機關の成否致ししても我輩は之

を引受くることが出来ないのか甚だ遺憾とするのである。市會の交渉委員諸君からは市長としては單に市政の大體を定め、輪廓を造つて貰へば宜いから半年でも一年でも是非造つて呉れといふ様な言葉もあつたが我輩が

一旦決心

市長となつた以上單に市政の輪廓を造るだけのことで満足する譯には行かない、四年間の任明を果す決心で飽迄徹底的に造らうといふのが我輩の本意である。結局二足の草鞋は履けないといふのが現在我輩の考へである。市政の方は我輩が造らなくとも地に造れる人は澤山あるではないか、我輩の市長たることは牛刀を以て

鶏を割く

に同じといふ人があるが今日の市政は兎に角牛刀を用うべきの時、刺身庖丁や菜切庖丁で到底行けるものではない、牛刀云々は市政を侮

辱した低能者流の言ふことである、我輩に未來の總理大臣たるの野心があるものと思つてゐる人もあらうが我輩には開んな野心は毫頭ない、全會一致で選出されて呉れたものに對し

受任拒絶

は如何にも市民の好意を無にし、交渉委員の面目を潰すことになるので氣の毒に堪へない何れ又交渉委員からは手を換へ品を換へ再三再四の交渉があるだらうが、之に對して我輩が如何にするかは之までの話で察して貰ふ外はない

後藤男爵と答へる

今日澁澤子に説かれたら頼んだ市友會は樂觀す

市長就任

澁澤子爵が市友會の依頼に應じ十日大體より東京後藤男爵に對し、市會の全會一致で選出された以上我輩も好意を受け持つて見たいのであるけれども今や我輩は産業國策調査機關といふ大問題を前にして居る若之が

新正會の申合

市長再選の場合

男年來の

主張に係る

東京市會の新正會總會は十日午後六時より四谷米町の伊勢屋に開き、伊藤定七氏の外十名を部出席市長問題其他につき協議したるが、意と男自身としても現在の境地に付き大に考慮を要するものあるとに依るべきが某方面にては後藤男は此の際市長就任に繼し或る種の條件を附せんとする下心あるに非ざるかと囁きしつゝあり日

交渉委員に泣付かれて

澁澤子爵起つ

今日大磯から歸京して

後藤男に就任を懇通する

その結果市會の態度が定る

後藤男の東京市長就任問題は、同島、澁澤、坪谷の三益會に依つて八日交渉の結果よく調停された爲、内田嘉吉氏を

通じて 更に交渉したが

之が交渉に動きさうな模様がないので、坪谷委員は九日に赴き、今月上旬以來大磯の別荘に轉じつゝある東京市長と澁澤子爵を説き市會の現状は男の出席を待つてなければ到底收拾する事の出来ぬ事と三交渉委員の苦しい立場を訴へ子爵の態度を決定する事になるであらう

會見し 極力市長就任を

勧説を 懇請した結果、同夜中央亭に開かれた市友會に出席したのであるが其結果澁澤子爵は久し振りに今十一日午後一時十一分東京驛着車して歸京し午後三時頃迄に後藤男に

後藤男は堅い決心で

受諾は所詮駄目

交渉委員が澁澤子に泣付く情に動されて御老體の上京

後藤男に就く事になったが、坪谷委員は男の右腕と稱する、内田嘉吉氏を煩はし、男の出陣を説かしたため、決意した男は如何なる動機もなかり、意の止むなく最後の手段として、本月初から大磯に避暑中の市會與澁澤子爵を九月坪谷氏が訪問してあらう

産業調査

未だ確定を見ず

後藤男の東京市長就任問題、澁澤子爵の政治的保護色まで言はれる「産業調査會」を提案らして置かれぬと云ふ事があるやうだ、ソコ此の「産業調査會」なるものが急に世上の注目を惹いて此處でも彼處でも暴沙汰、政府筋、特に農商務省等へは産業調査會は彼れは一體モノになるかどうかと拘模の如な政商連が五月蠅く騒ぎに來るので大磯より十日の閑談には産業調査會案を審議する由たといふ説も立つたものだが、當日の開議はセネ派連の澁澤男爵會談委員の歓迎午餐會があるもので十一時過ぎ開會の正午前十分散會といふ體で、無産調査會案の審議は開議に上るべく餘りに練道の「サ」と冒頭して某消息通の言ふ事が振つてゐる▲「アノ案は屋上屋を架する如なものサ彼の仕事は現に各省で手別けてチヤンと實行しつゝあるぢやないか案其ものは決して悪いとは言はん、然しアノ案を取らざるなら現内閣は後藤の權で相撲を取る如なものぢやないか特に五ヶ年繼續二億萬圓宛の一千五百萬圓といふ支出は其れこそ今日の都合全く出来ぬ相談▲後藤君にして案に共に自腹を切つて梅ヶ枝の手水鉢でも買ひで來るならはたがネ現内閣と雖も決してカブリは振るまいよ」

後藤男は堅い決心で

受諾は所詮駄目

交渉委員が澁澤子に泣付く情に動されて御老體の上京

後藤男に就く事になったが、坪谷委員は男の右腕と稱する、内田嘉吉氏を煩はし、男の出陣を説かしたため、決意した男は如何なる動機もなかり、意の止むなく最後の手段として、本月初から大磯に避暑中の市會與澁澤子爵を九月坪谷氏が訪問してあらう

後藤男の眞意

交渉の餘地尙充分に有り

強制的推薦には應ぜざるも形式を變更して交渉せば或は起たん

後藤男の東京市長不承諾に依り、市長問題は

▽又もや混沌 たるに至る

れるが、後藤男は必ずしも總督に市長たるを承諾せざるに非ず、現に後藤男周囲の某々氏等は、頻りに後藤男を市に引入れんと策し、且、濃厚なる柳澤保樹伯か、説き、之を市會各派代表者に計りたるは、自ら男との默契あるものゝ如くなるにも拘らず、後藤男が拒絶したるは、是れ

▽或條件の下 ならでは

承諾せざるを意味するものにして、男の提示すべき條件を容るゝに於ては、男は懇請黙止し難しとの理由を以て承諾するに至るべしとの説あり、若し後藤男にして總督に拒絶するに於ては、市會は再び市長第一候補者を選舉せざる可からざるが、此時には公和會は再び阿部氏を擁ぎ出だすべきが、這は今日の市會形勢より見れば勝算絶無く

▽市會の大勢 久保田

政周氏を推挙するに至るべし、併しなから、市會が殆ど一致を以て市長第一候補者を選舉し、其候補者の不承諾を見たるは市會施行以來始めての出来事にして、市會の失態此上も無く、市會は其責を負ふて辭職をせざるべからず、現に市會議員の中には之を高唱力説する者あり、又市會に對する

▽輿論の攻撃 益激甚

なるを以て、遂に或は市會議員の總辭職を見るやも知る可からず

新正會總會

昨までは市友會の懇請により、一日後藤男は會見する筈なるが今日の處にては就任承諾困難なるが如し一方大海原市長職務辭職は九日桐市會議長より東京府知事に進達方を見合す様要求し來りたるを以て暫時猶ほ居れども長びくに於ては後藤男の派交渉會迄絕對に他言せざることを決議せるが一方には今回市長選舉は不眞面目なる結果斯くの如き失態を招きたるを以て總辭職すべしとの意見もあれは後藤男の諾否如何に依り又々市會に波瀾を生ずるに至るべき情勢あり

市長はやりた

併し産業國策問題は予の生命

十日朝後藤男の縦談

ナニ石塔に前東京市長後藤新平と書かれる丈では語らないと東京市長の地位は其んな侮辱したものではないのだ、現在の東京市の状態は何うだ之を此儘に放任して置くと結局如何なる事になるか解らない、遺らうと思へば市長として遣ふことは幾らもある、全會一致を以て選挙された以上我輩も其好意を享け遣つて見たいのであるけれども、我輩は産業國策

調査機關

さいふ大開題か前にして居る、若し之が愈々實現さるゝといふことになれば我輩を措いて他に之を遣ふものはないのである、原君も君で

なければ到底外に之を遣り切れるものはないのだから宜敷頼むと遣て我輩に言つて居る、若し之が出来ないならば政府も國民も未だ大調査機關設置の理由を適切に了解して居ない結果を見る外はないのだから、我輩は之を十分に理解させる爲めに全國行脚をして一大宣傳を試みる積りであるから、東京市長の好意が無にすることは如何にも氣の毒であるが調査機關の成否孰れにしても我輩は之を引受くることは出来ない、市會の交渉委員

一旦決心して荷く

も市長となつた以上單に市政の輪廓を遣るだけのことで満足する譯には行かない、四年間の任期を果す決心で徹底徹底的に遣つといふのが我輩の本意であるから半年でも一年でもといふ様な姑息な考へでは市長には向ふり成る氣はないのだ、結局二足の草鞋は履けないといふのが現我輩の考へである、市政重きが調査機關重きかといふ様なことは問題でない、市政の方は我輩が遣らなくとも他に遣れる人は澤山あるではないか、而も調査機關に至りては原君も言ふ通り我輩を措いて他に遣れるものはないのであるから、我輩は調査機關の方に重きを措いて居る丈のことである、我輩が市長に選挙されて以來我輩の市長たることは牛刀を以て

鶏を割く

に同じとか

或は政友會や憲政會が手を拍つて喜んで居る、市長になるとは見合せたら宜からうといふ様な理由で市長たらざることを思召して呉れる者もあるが之は我輩の心事を十分に知らないからのことで、我輩が牛刀たるや否やは我輩の知らない所であるが今日の市政は兎に解牛刀を用ふべきの時で刺身庖丁や菜切庖丁では到底行けるものではない、牛刀云々の批評は餘りに市政を侮辱した低能劣流の言ふことである政友會や憲政會が手を拍つて喜んで居るといふ様なことは何を意味するか知らないが例の通り我輩に未來の

總理大臣

たるの野心があるものと思つてのことであらうが他の付度は何うでも我輩には開んない野心は遠くないそれから又市會の全會一致も怪しい我輩が受任を拒絶するだらうと言ふ前提の下に世間體を遣るための全會一致に過ぎないといふ様な話を持つて来る者もあるけれども、我輩の知る範圍では之も外観の臆測で市會は誠意我輩を全會一致で選挙して呉れたものと信じて居る夫れに受任拒絶といふことは如何にも市民の好

再三再四

の交渉があるだらうが之に對して我輩が如何にするかは之までの話で察して貰ふ外はない改めて交渉の餘地がありやなしやといふ様な其んな低級な問答に時間を費すことは我輩は御免を蒙りたい、實を言へば市長は遣り度い、固より外間の毀譽褒貶成敗利鈍は全然度外に附して行つて見たいのであるが調査機關問題は我輩の生命であるから之が目鼻が附く迄は市長を遣るは出来ない

意を無にし交渉委員の面目を潰すことになるので衷心氣の毒に堪へない何れ又交渉委員からは手を換へ品を換へ

後藤男が市の 有権者に質問書

諸君は眞に余が市長たる
ことを希望せらるゝや否や

市會の推薦は飽くまで斥けて
花々しく大芝居

市會が全會一致を以て市長に推薦した。後藤男はキツパリと斷つた。「假令如何なる人が自分を説かうが斷じて市長にはならぬ」と云ふことである。今日は濫澤子爵が市會の依頼に依つて

▲出慮を促す 可く男を訪ふ由であるが男は此に應ぜんとする意志は毛頭ない。「何が故に男は斯くの如く斷乎として拒絶するか其理由如何」と記者は男の眞意を問ふ可く男の意見を叩いた男曰く「余は決して市長たることを否むものではない唯現在の市會議員に依つて推薦されて

▲市長になる ことを欲しない現市會は今や市民の疑惑の中心になつて居る全市民に依つて疑はるゝ市會に推薦された市長は同じく全市民に疑惑の目を以て迎へられる余は其を欲せぬのである市

民に依つて選舉された市會であるから平日ならば市會の意志は即ち

▲市民の意志 と思ひ可きであるが今日の市會は既に市民の意志を些しも代表してゐない寧ろ狼狽の中心となつて市民より較もすれば敵視せられ居る故に

余は市長たることを断せんとする前に市民の意志を問ふの必要がある「市民は果して余が市長たることを欲するや否や余の市長たることを希望するや否や」を尋ねて見たい市の全有権者に對して十數萬枚の質問書を配布しようと思ふのは其爲である而して有権者の大多數が余の市長たる事を希望する時に於て余は始めて東京市長たるを断せんと思ふ者である十二日余は全有権者に對して十數萬の質問書を發してその眞意を聞くことにした」

私は一市民として

出馬を懇請する

坪谷氏に泣き付かれて

上京する濫澤子語る

目下大磯の明石別邸に難養中の濫澤は十一日午前十一時四十五分東京驛著の列車で歸京し後藤男に面會した上出馬を懇請する答が「子は語る「私は一市民として又一市民として是非後藤

▲男の出馬を 勧めるでなく懇請しなければならぬ市長も政黨派から取らうと思へば何人も適任者もあらうが政黨的色彩のあるものでは不可なり此點から言つても後藤男は最も適任者である後藤男は選つた市會から選舉されるのを肩くないと思つて居られるらしいが腐敗した物も稀にかけて振落したのだから残つた者は

▲立派なもの が出來るではないか九日の夜八時頃坪谷様が見られて後藤男を選舉したのは何んの相引もなく全會一致で選舉したのだが却々承諾して呉れぬと云つて驚して居た」

何でも彼でも此際藤男に

出て貰はねば大變

と澁澤子覺悟の程を語る

私が頼んで駄目なら原さんに頼む

後藤男は古人の「利器試盤錯」である

澁澤榮一子は今正午大磯から上京して二時から工業俱樂部に開かれる後藤男の都市研究會の相談會に出席し男に極力市長就任を懇請する筈である

引導を

「此際男は出て貰はねば大變な事になる、で若し私が口説いてもどうしても不可ない場合には原さん(首相)に頼むより途がない、私が原さんの所へ口説き方を頼みに行つて此老翁が頭を下ける、原さん(後藤男)の政治的関係は私は知らぬが原さんの方が私よりも効目がある、あらう、後藤男は古人の所謂「利器試盤錯」で鋭い人物だ、其及物を今の組織たる市政の上に試みたらきつと好い結果が出る

是非特別市制を

布かねばならぬ

後藤男としても此市政に

日鼻を附ける事は有意義である

此際男は出て貰はねば大變な事になる、で若し私が口説いてもどうしても不可ない場合には原さん(首相)に頼むより途がない、私が原さんの所へ口説き方を頼みに行つて此老翁が頭を下ける、原さん(後藤男)の政治的関係は私は知らぬが原さんの方が私よりも効目がある、あらう、後藤男は古人の所謂「利器試盤錯」で鋭い人物だ、其及物を今の組織たる市政の上に試みたらきつと好い結果が出る

此興望

大に切れ味を見せるのが感る、此興望を附ける事は有意義である

競争を

言いかねで、確實な實業家は選んで居たものだ、こんな事では市政もよくならぬし、又今の市制では良市地を連へるに氣の毒だから、是非特別市制を布かねばならぬと思ふ、男が出て、其適當な手段で、此等に迄目を附ける事は

有意義

な事だと思ふ、

市参典

としてよりも老練が東京市の現狀、願望を聞いて「九月に坪谷さんが来てくれたが頼まれなくとも及ぶ文から男に頼んで見る、私、市吏員である、一定員として極力頼み込むと共に、友人として忠告する、前して市會の選政選を望むならば、私は議員諸君に

後藤男は鴨獵の

獵場で先づ

市長就任を斷つた

場所 新宿の濱野茂氏邸

勸説者は内田藤原阿半の三氏

東京市會が議決一致で後藤男を市長に選舉した翌八日、後藤男の面々が後藤男邸を訪れると、男は既に連日出掛けた後であつた事は既報の通りである、所が此の日は

歸郷し た後藤男は、獵に必要な銃も携へてゐ無かつたに拘はらず、自動車には五十羽程の鴨が積まれてあつた、是に不意を起した記者は自動車の轢かれを避つて見ると、果然男は訪客を避ける爲め、濱野の濱野茂邸へ轉じて居た事が分つた、此の日の午前十時頃、獵場に

餘念の 無の後藤男を濱野邸に訪れた内田藤原、藤原三氏、濱野茂氏の三氏は、後藤男を所で男に面會し、藤原氏から極力就任を懇請した、後藤男は三ヶ月でも好いから是非就任して頂きたいと述べた、内田氏は自分分は個人としては其の不賛成だが

頼まれ た以上、男の就任を希望する、ナニ後の手は幾らもあるから、と、是れに對しての後藤男の答へが振つて

弄ふ事 となり、且つ

くも膝下の細腰可憐なる事であるから、自分は斷じて引き受ける事に行かぬ、然し折角市會が選舉して自分を市長候補に推した厚意に對し市會の權を立てる意味に於いて就任し得ざる理由を言明する例の産業調査會を持ち出したのである、然し後藤男に非ざる

三人が 男を動かさうと

するに當りて「仕事は自身しなくても好い、唯市長の椅子に座つて居てさへ貰へば、市會議員が什麼に喰ひくさも、男の一喝で縮み上つて了ふ」云つたのが、餘程情を害したもので、是に對して「そんな事は時代遅れた」と喝破した後藤男の言葉が、その間の消息を留めて居るものと見られる。

第二候補の岩松氏

敢て就任を辭退せずとて

意氣込み居るこの説あり

後藤男が市長就任を拒絶した成行き如何によつては、問題が愈に就いては、當然第二候補の岩松、愈々確固して来るのである、所が是れが岩松氏が辭退せぬ限り、主務省へを主務省へ一應申送する事となるが、當の岩松氏は「假令一時にもせよ自分が市長に就任し

適當な 助役を任命して市政事務を處理して見せる」を意し自治體の決議を尊重し、且つ是を以て居る相、而も市會大威を適任と認めれば、直に御裁可を會では、事茲に至つた以上、岩松仰ぐ事となり、岩松氏の市長就任心を守り立て、市長たらしめやが、事實となつて現はれぬものでうさの計案もあるといふ、今後の

大臣が東京市長として不適任なりと認め、別に適當の市長候補三名を選舉す可しと命ずれば格別、若し自治體の決議を尊重し、且つ是を以て居る相、而も市會大威を適任と認めれば、直に御裁可を會では、事茲に至つた以上、岩松仰ぐ事となり、岩松氏の市長就任心を守り立て、市長たらしめやが、事實となつて現はれぬものでうさの計案もあるといふ、今後の

大正九年十一月十三日

辭退理由

後藤男爵談

後藤男爵の東京市長就任の態度を謝絶したる後藤男爵は語つて曰く予が東京市長を辭退したるに就ては市政に對し冷淡の如くに感ぜらるゝ向きもある様だが現に都市研究會長として市政の改進黨に精力を盡して居る該事業が出来れば、
△何人が其衝に 當るも市政の運用には差支ない市長辭退の理由は、主として原首相の獲得を経て居る産業調査機關の設立に専念從事するが爲めである後藤は他に野心あつて産業調査會に連けを打つて居るのだと云ふ者もある様だが是は已を以て人を推する者の言ふ事だ歐洲戰後世界舉つて科學的文化を政治上に應用する事に熱心して居るが日本には木下是等の理論を理解して居る者がたいては此理解なき事業を勵にするのは自分の職責と信じて居る
△産調の設置に 説いては歐米より歸朝後原首相とも意見の交換を行ひ大體に於て瞭解を得た後藤を信じて居つたのであるが改進黨には經濟の點に於て未だの確たる見解が元來我國に於ては年々産業に投資せらるゝ總額額は十五億以上に達する然る産業の根本政策確立せざる結果として巨額の浪費を示して居る是れが爲め國家の蒙む損失は多大なものである是を救済するには産業調査機關を設け産業政策を確立するの外はないと政府にして不提案に決したる場合は國民に向つて大々的宣傳を試み民間に於て該機關設置の目的を達するの外なく斯る場合を豫想する時に於て混濁たる東京市政の衝に當るが如きは其何をも得る能はざる結果を見るに至るだらう
△覺醒の大急務 後藤男爵は只今も産業調査機關と市長とを兩方遣れと言はれ又現在の市會を改造しても差支ないと言はれたが産業調査機關の情態が前述の如き困難の境界にある以上三足の草鞋は履けない又市會中より四人や五人の犯罪者を出したからとて市會を解散し或は總辭職を餘儀なくせしめて市會の改造を計るが如きは後日の弊害を醸生する者である假へば帝國議會の議員に二三の犯罪者を出したからとて議會を解散し或は全體の總辭職を餘儀なくせしむる事も出来まい市政の改善は市民の覺醒に待つ外はない此覺醒を促す爲め十一日工業俱樂部に**△市政研究會**を 開し、
本日本午後より工業俱樂部に各市長を招請し市民に文書發送の手續及講演會開會の準備に付き打合せをなし十三日には新聞通信

大成會の總會

強て後藤男を煩はさずこの決議

市會の大成會は市長問題に就て十三日午後五時より淺草俱樂部に於て總會を開き全出席原案文太郎氏より市長交渉の願末に就て報告ありたる後藤男を協議したるが結局市會に於て満場一致して後藤男を市長に於て交渉委員を舉げて其承諾を求め更に十一日以降に至りては市會以外の團體によつて別に交渉手段に努めたるも尚後藤男が斷然たる態度に出てるは自治體を無視するものなり
とて左の決議を爲し十三日桐島市議長の手許に通過する事に決したるが要するに大成會には市長第二候補たる岩松兼彌氏あるを以て後藤男辭すれば岩松氏を市長に推し以し一時を彌縫せんとするもの如きも一般市民の輿論を失ひたる現市會議員にして且つ僅かに十人を擁するに過ぎざる大成會が此の如き決議をなすとも市議總議の外事政務の途なき今日大勢には何等影響なかるべし
△決議
一、桐島市會議長は市會の決議を尊重し速かに市長選挙の結果を申すべし
二、後藤男は帝都市政の現狀に鑑み市民の輿論を容れ身を擲して市に就職せらるゝは固より歡迎する處なりと雖も本會は此の上市の面目を傷くる手段を講じて迄て男の出産を欲せず

宮城政友總會

宣言決議可決

政友會宮城支部總會は十二日午後十時から仙臺市仙臺座で開會せられ座長に澤代謙士を推薦した後藤男に對し次で各地から寄せて來る可決し次で各地から寄せて來る祝詞祝電の披露を爲し本部特派員鶴澤總幹事の演説あつて後藤男陛下の萬歲三唱次に政友會の方を三唱して正午開會午後一時からは同座で政友會演説會を開き鶴澤總幹事、後藤男、本部特派員の熱烈なる演説あつて午後五時散會したが聴衆は二千餘名に及んで盛會であつた午後六時から對橋樓で大懇親會を催した(仙臺)
△政界漫語
◆後藤も東京市長に推薦された産業調査會案を原に色眼を使はれたり此の處人氣激山と言ふ有様だが調査會案の裏面には面白い經緯のあるのを知つてるかネ……何知らない？さうか、では話さう
◆後藤も洋行中外國の事情を研究すると共に日本の政界を遠くから振り返つたんだ、政黨に無識足場があるてなしと言つて官僚を打つて一丸とした勢力を握つてゐると言ふてなし、假令何かとのハズミで餉鉢が廻つて來たとしても受けやうがあるまい、其處でそれ調査會を作つて官僚は勿論學者や黨人の不平等を糾合して見給へ、後藤案のやうな大規模に出来れば隨かに一大勢力だ
◆政友會に取つては體のいゝ送り狼だ、原だつてそれ位の事は自ら承知してゐるがさて無下に拒絶して見給へ解散後の動搖時代ではあり官儀逆の密謀もチヨイ、洩れる時どんな大事になるか知れたものでない、そこで一も二もなく賛成して置いて法政局に命じ事々しく案を立てさせ實行は防衛の道標を附けてと送つてゐたのだ
◆所が最近後藤からは連續の催促、催促された所でもとゞ、實行の誠意もなし又金もある譯はないのだからトモ物にはなるまい、モノにならぬ時の後藤の態度は見物だ、見物だが原としては準備を整へて掛るから結局後藤としては田作の齒きしりだ、原の準備が切り切つてる準備準備サ(某老政客談)

▲宣言

現内閣創立以來二年有餘、戰後經營の對策を確立して、著々其功を著し、内外各般の施設其宜しきを待たるは天下萬衆の等しく認むる所なり。歐洲の政情尚平靜に就くなく、市況の形勢未だ安定に至らず、此致に方り使らに奇聲懸浮の言動を事とし、以て民心を惑亂せんとするものあるは思はざるも、亦甚しと云ふべし。我黨は極力内閣を擁護し、以て我黨政綱の遂行を期す。

▲決議

教育を振興し健全なる國民思想の發達を期す。
産業及貿易に關する積極政策を、國有財産の整理を實行し、以て財政の基礎を鞏固にせん事を期す。
交通機關の完備を期す。
地方制度を改善し、自治體の健全なる發達を期す。
米穀を調節し國民生活の安定を期す。

藤男不應

滋澤子正式勸説
有力者運動開始

東京市會の興望を荷ひ、全會一致市長に推挙されたるも、固辭し居る後藤新平男に對し、市政繁榮の現狀に鑑み、男を市長最適任の第一人者として、十二月午前十一時より九の中央亭に於て、滋澤子、藤山、東京商業會議所、加藤、前市會議長、近藤、藤原、男四氏主催にて、東京市會の爲め一市民として、後藤男市長就任を懇請する目的を以て、懇談會開會。大倉、八郎、安田、大郎、和田、豐治、中島、久吉、男、杉原、三郎、山科、三、福原、有信、大田、新太郎、田、榮吉、有賀、長文、服部、金太郎、井上、幸之助、矢野、恒太、桐島、市會議長等十一、日、都市研究會、協同會、出席したる有力者廿餘名出席。滋澤子より十二日早朝、後藤男の邸を訪問し、男に對して、東京市會の現狀を述べし。

三百市民の爲め、切に市長就任を快諾せられ、男の巨腕に依り、市政刷新の重任に擲られ、度し。

懇談會、切に男の市長就任を懇願せるに對し、後藤男は、産業調査大機關設立の計畫に關係し居るを以て、即時承諾に困難なる事情あり。

と容易に承諾の色無かりし旨、報告あり、次で、桐島市會議長より、東京市會の現狀に對し、種々、陳述を、煩し、感謝に堪はず、余は一市民としてのみならず、市會議長として、全市民の爲め、後藤男を起す、しむべく、最善の努力を竭す、決心なり。

と、一席の挨拶あり、畢つて、後藤男、懇談會の方法に關し、極々意見の交換を爲し、たる結果、大要、

後藤男を市長に推挙せる市會の決議は、至極尤もなり、而して、同男に對する市長就任交渉は、行儀の現狀なるが、若人、市民として、市會の請決を速に實現せしめ、後藤男を、騰起せしむべく、努力すべし。

と、中合せ、該決議を貫徹する爲め、各方面に運動するに決し、滋澤子、近藤、藤原、男、加藤、氏の四、十、催者を代表者として、今後の運動を一任する事とし、先づ、原首相及床次、内相に陳情し、大に助力を乞ふ事とし、且、當日は、日曜の爲め、兩大臣共不在の爲め、十三日訪問する事とし、同四時散會せり。因に散會後、も、滋澤子、近藤、男、藤山、加藤、各代表者及、桐島市會議長等、皆、議決、今後の運動方法を、議せり。

大成會の總會

市長善後策協議
自治權尊重決議

東京市會の大成會は、市長行前、訪問、善後策協議の爲め、十二月午後六時より、淺草區東仲町、淺草俱樂部に總會開會。

岩松、小久江、堀内、作岡、笠原、野々山、長谷川、長崎、松崎、松山、新井、安住氏等。

全會出席、男、頭、原、文、大、郎、氏より、七日の市會に於て、第一候補に、後藤男當選せる以來、同男就任勸説の經過報告あり、たる後、目下、行儀のみ、

反後藤熱昂る

曖昧の態度非難
市會の情勢一變

新東京市會議長、桐島、一、名、議事、室、演、説、一、千、其、の、他、の、信、力、者、は、市長就任を固辭せる後藤男の意見を受諾せしめん、と、東、奔、西、走、頗る、始め居るが、

市會各派に於ては、若し後藤男にして、徹底的拒絶の決心を有す、せば、全市を挙げて、男の就任運動に、狂、然し、居るに、對し、男より進んで、自己の決心を表明すべきに、其事、無く、尙、交渉の餘地あるが、如く、思、惟、せしむるは、東京市會の、爲、將、た、男、自身、の、爲、にも、採、ら、ざる、所、なり、と、の、非、難、漸、く、起、り、來、り、桐、島、市、會議、長、谷、近、藤、氏、等、市、友、會、一、派、の、之、に、關、する、責任は、勿、論、なるも、大成會の、如、きは、別、項、總會の、決議の、如、く、市、會の、面目を、傷、け、んと、するが、如、き、程、度、迄、に、明、頭、良、願、の、必要、無、し、と、反、後、藤、熱、の、意思を、明、かに、し、公、和、會の、如、き、も、市、友、の、言、に、依、り、男の、就、任、承諾を、確、信、し、遂、に、自、派の、擁、立、せる、岡、部、浩、氏、を、犧牲に、供、して、迄、も、同意し、市、會は、全、會一致を、以、て、推、したるが、如、き、如何に、男を、信、頼、したるかを、推、知、し、得、べきに、後、藤男は、諸、するが、如、く、然らざるが、如、く、

表面拒絶

の意を明かにし、乍ら、面、色、氣、あるが、如、き、態度を示すは、市長職務干渉より、免、れ、ん、と、し、一日も速かに、就、任、を、懸、望、して、止まざる、今、日、市民の、迷、惑、至、大、なり、と、し、顯、る、反感を、抱、くに、至、り、拒、絶、會、亦、以上、兩、派、と、同、様、後、藤男の、態度に、對、く、不平の、念、を抱、き、強、て、後、藤男に、對、する、必要、無、く、後、藤男に、對、して、斷、然、拒、絶、せ、は、散、て、候補者の、銓、衡、に、苦、し、む、もの、に、非、ず、と、稱、ふるもの、ある、市、會の、多數は、漸、次、後、藤男に、對、する、反感を、昂、め、來、れる、模、樣、なり、

各區長招待會

都市講演決定

都市研究會にては十二日正午より工業俱樂部にて都下十五區長を招待し十一日の決議に基き講演會開催其他の實行方法を協議する所ありしが出席者は同研究會副会長藤原、内田副會長、堀田、渡邊幹事等の區長側は志田、谷、中野赤坂、松浦、藤井、山本、山縣、山田、佐藤、四谷、古本、小石川、新居、日本橋、箱崎本所、橋本、明各區長等にて午後午後藤原會長の挨拶あり協議の結果左の日程を以て講演會を開く事とし各區長に招待状を出すすべし人名會場及び辯士の振向等を依頼し午後四時散會したり

東京市會昏迷

東京市會は、漸次一致を以て推選した藤原の拒絕に達して、愈々窮地に陥つた。無論之は當然の歸結である。本來より云へば、道路不正事件暴露し、田尻市長以下二助役辭職し、殊に市會の牛耳を執つた高橋義信や、市會の根柢右衛門、酒井泰などの地位あつた以上、市會は當然實を施つて總辭職を爲さねばならぬ筋合である。然るに之を取てせずして、入らざる猿智恵を出し、唯だ人氣ある後藤男を市長に擁上げ、人心を此方に向けて自分等の責任を網羅しやうと云ふのであるから、其動機は甚だ不純である。其心事は極めて陋劣である。斯かる経緯に成れる推選では、後藤男と雖も容易にオイソレと引受くる譯には行かない。立入つて云へば、田尻市長以下は道路問題に坐して責を引たのであるが、現市會議會にはそれ以上の覺悟がなつて居る。即ち目下進行中の瓦斯問題の如き、檢察の如何によりては、市會から尙幾人かの細付きを出さぬとも限らぬ。更に發展して他の問題に及ばずとなれば、其波及する所測り知る可からざるものがある。要して然らば、現市會は尙被告の地位に在りて、少くも謹慎の意を表して

事件の善悪を待たねばならぬのに市長を推選するなどは尙越沙汰だ。藤原推選者等は今尙未練を凝して手を代へ品を代へ藤原の應諾を求めやうとして居ると云ふが、藤原にしても容易く之に應じ得られない言質もあり、又理由もある、と云ふのは、既に公表せられたる男の市政刷新、市長選舉法に對する意見である。藤原は、市政刷新の根本義は市民の自治に對する自覺に在ると云ふて居る。又市長選舉に對しては、他の公共團體を參與せしむる必要があると云ふて居る。市民の自覺に待たなければならぬとなれば、先づ現在の市會を解散し、新に市民に開ふて其自覺の程度を測定せねばならぬ。更に市長選舉に他公共團體の參與を必要とすれば、現在の市會が藤原一致を以て推選したとて、男の理想に反する譯になる。而も男にして若し、四圍に要請せられて、就任を餘儀なくせられたとなれば、男自ら其主張を裏切ることになる。即ち就任時頭に於て市民を欺いたことになる。斯くて尙ほ市政刷新の理想を遂行し得るや否や、言はずして明である。事茲に至りては、如何に頑迷不靈の市會でも、最早總辭職命總辭職の外はあるまい。新正會では疾くに辭表を取懸

めて只提出すべき時機を待つて居る。責任を斷する者は當然藤原であらねばならぬ。市友會では、藤原推選は自派であると云ふ關係から藤原男にして應諾せしむれば、會員總辭職を爲すの外はあるまいと覺悟したやうである。之は一步後れた爲に聊か醒しいが、併し爲さるに優る策である。獨り公正會では、藤原の態度を明かにして居ない自派から藤原の巨頭高橋義信を出し、根柢右衛門を出し、酒井泰を出し、而して假令法網は免れ居るにしても、市民の群衆の解可からざる此會が、獨り藤原藤原等かの活路を求めんとして居るが如きは、醜の醜なるものである。昨年八月、市會不信任の決議を擧げ付けられ、總辭職を爲すに當り、三人文が如何にして承認せず、大に手古摺らした例がある。今回も亦、各派が總辭職をしても、最も疑惑を蒙つて居る一團體のみが踏み止まり、腹を知る者のみ馬鹿を見るやうな事がありはしまいかとの疑念もあるやうである。

ある一言にして悉せば、彼等の政治的生命を斷つのである。それでは彼等は附くならん最後には監督權の發動である、全國に模範自治ならざる可からざる東京市としては、不名誉千萬ながら、市政刷新と云ふ大なる前途の爲には、忍ばねばならぬまい。それとも之れも總てが市民の自治に對する自覺に依らねばならぬ或は曰ふ、多數の市民は自覺して居るが、七万の有権者のみが自覺せないのでと、或は然らん、然れども、多數の市民が眞に自覺したならば、階級選舉制の撤廢の如きは、手に唾して爲すべきである。若し夫れ言ひても聞かぬやうな市民では、市政刷新の如き百年河清を待つと一般である。

後藤男に問ふ

市民の答辯

米の賣惜み

不自然の事

或は最低價格を制定し、或は生産額を減少し、之に依て強ひて物價の低落を喰留めんとするは今日の資本家の唯一の方策である、此の如き小刀細工がよくい

大成會の申合

後藤男の就任を強要せず

東京市會の大成會は十二日午後六時より淺草東仲町淺草俱樂部に總會を開き

小久江、作間、笠原、野々山、長谷川、松崎、松山、新井、安住の諸氏出席し市長問題に關し種々辯論の結果二七日の市會に就いて謝辭一致を以て後藤男爵を市長に推薦せるも今日尙就任を見ざる次第なるが右に就き速に相當の手續きをなすべく議長に請求する事二の後藤男の就任に就ては後藤委員に於て折角辯論中にて厚く

同男の就任を希望するも敢て市民の面目を損ふが如き態度を以てして迄も同男の就任を望まざる事さの意味を申合せ同十時散會せり

二

調査の範圍 産業貿易の調査を主とし正に産業參謀部とし

大約左の範圍に於ける調査研究に着手す

炭、石油、水力、(三)食料及民生用品、必需品の生産及び分配問題、(四)人口問題(移民、捕民等)、(五)外國貿易の統一、(六)勞務問題、體育及び體力問題並に社會政策、(七)實業界殊に勞働者のエジューケーション、(八)危險思想、各種の社會思想、國家觀念並に之に對する國家の政策、(九)國際對經濟產業、工業及び勞務問題、(十)實業會議所の連絡及び協力、(十一)金融問題、經濟的動員原則の問題、(十二)船舶問題並に道路運輸交通問題、機關の體制、(一三)本調査機關は産業貿易調査會と名づけて内閣總理大臣の監督に屬し、(一四)調査會に會議と事務局を廣き印刷場、圖書館を附す、(一五)本調査會の調査研究は實際生活に應用するを以て主眼とし、國立なるも干渉の舊式を避けて實捐施に努め、力なる實業家の献助に依つての點を以て前途を々保持しとして注意すべし、(一六)本會は總裁一人副總裁一人、評議員若干人及び常義委員五十人以上を以て組織し特別の事項を調査審定する爲

必必要ある時は臨時評議員又は臨時常設委員の兼任とし、副總裁は評議員大員を兼ね、(五)副總裁は評議員中より勅選す、評議員は勅選とす、(六)總裁、副總裁及評議員は無給とするも手摺を給す、(七)常設委員には年俸平均七千圓とし、最低三千六百圓を給與し、勅定待遇を與ふ、(八)常設委員には各秘書官一人及び助手三人と內を附するを以てを得、外國出張中は外國人の秘書又は助手を使用するを得、(九)常設委員には外國人を採用し、(十)常設委員を以て外國人を採用し、(十一)英、佛、獨、伊、西其他必要なる國語の知識ある者より、(十二)事務局長一人、事務官五人、(十三)附屬書記三人、常設委員秘書、書記、速記者、タイピスト、雇員各若干人を置く

機關の作用　評議員會に附せられたる議案を審議決するの外左の諸件を主要なるものとす、(一)調査資料の蒐集利用、(二)常設委員の調査、(三)調査報告の刊行等にして一中には海外に多數の派遣員駐在せしむる等含まる

評議員會に

の附せられたる議案を審議決する
の外左の諸件を主要なるものとす
(一)調査資料の蒐集利用(二)常
設委員の調査(三)調査報告の刊
行等にして一中には海外に多數
の派遣員駐在せしむる等含まる

大正九年十一月二十日

後藤男の起否

八日朝桐島新日議長が
代表して其出慮を懇請

満都雪に淨められた七日夜
市長選挙の東京市會は果せ
る哉本紙の豫想通り最適任
者と認めて後藤男爵が二百
萬市民の衆望を一身に背負
つて當選した斯くて我が帝
都は茲に漸く蘇らんとし
男の就任を待つて居る斯く
て市會を代表し朝桐島新任
議長は自働車を男の邸に飛
ばし正式に男の出慮を懇請
した承諾の上は直に府知事
の手を経て内務省に當選の
結果を報告し市長認可の申
請をなし其筋の指令あり次
第男は愈榮光に輝く椅子に
着くことになり同時に大海
原市長代理は事務の引繼ぎ
をなし辭職をなすことにな
る因に東京市は素より全國
大小府都市に於て今回の如

脱線的な處 男爵の長所

面目一新せん

東京市長の後登として第一
候補者に推薦された後藤男
に就いて内務省の松田勲參
は曰く「監督官廳として異
議のあらう筈はない男は其
天性的の性格から時に脱線
する處はあるが其處が却て
好いのである脱線しない位
の人には進歩がない此意味
から後藤男には脱線的な性
格はあるがそれが又長所で

ある其他地位に於いて識見
にわたって澤田候補者の顔觸
中で最適任であつた而も我
が自治制度の知識は内務大
臣として試験済みである上
に外國の新知識もある世評
では男が市長に就任するこ
とは其前途を葬るやうなも
のだと云ふが之は間違つて
居る東京市の自治を統制出
來ない手腕の人に總理大臣
が勤まるものでない故に男
は東京市を小國家として手
腕を揮ひ首相としての信任
を濃厚くすれば好い實際國
勢を處するも市政を調理す
るも同様である殊に東京市
は幕府の下として大事業の
多くが適つて居る曰く都市
計畫曰く上下水道敷設、河
水事業、港灣事業と並べ立
てると大事業は甚だ多い元
來男は其豪宕闊達な性格と
して小事に拘泥しないで大
局の着眼に鋭い而も人に接

して好感を與へる強いチャ
ーミングを持つて居るから
事務の才に優れた女房役を
得れば泥濁の東京市政は男
の快刀亂麻の手腕と相待つ
て面目を新たにすることが
出來やうし

投げ遣りも 眞逆出來まいと

後藤男の意中を
白井哲夫氏語る

白井哲夫氏は語る「後藤男の市
長就任は前關係が悦ぶまい第一
男を會長とする産業調査會も未
だ目算がつかずに居て抱負も經
緯も詳々たるものだし又男の前
途は悉く産業調査會以上の
大舞臺があるから此際
市長に就く事は男として決して
満足な事ではないそれや市長
に就職しても將來國政に携はる
場合は何時でも辭したら宜いで
はないかと云ふかも知れんが男
にはさうした投げ遣りの事が出
來ない人で此の點が男の寄所
だからよし何時辭任しても寄
といふ
條件附きでも快諾はし
まい都市研究會も無論さうした
意味から携つて居る譯でもない
のだから此の時いた種が縁にな
つて市長に推薦せられるなどは
男にとつて正に豫想外であつた
らうと思ふ」

市會議員に告ぐ

【一】
死ぬべき時に死なざれば、死に
まさる恥ありとは、古い語である。
東京市會議員は、此語に思ひ當る
事があるであらう。彼等は市政を
腐敗せしめた責を負うて、辭職す
べきであつた。而して未だ辭職の
決心が付き兼ねてゐる内に、檢事
局は東京瓦斯位上問題に關する檢
査を初めた。市會議員の幾人が、
無事で居る事が出来るであらう
乎。世人は掃蕩を以て痛快とする
ものでない、併かし辭職せざる市
會議員の處分法としては、天の公
平なる裁判に服せざるを得ぬの
である。

【二】
市會は後藤男を市長に選舉して
就任を拒絶された。後藤男が市長
とならば、其市長であるたらうこ
は、殆んど一致した輿論であつた。
併し後藤男にしても、又他の如何
なる政治家にしても、疑惑の懸つ
てある市會に選舉されて、市長と
なる人があるまい。世人は市會を
以て、醜類の巢窟と疑つてゐる。
醜類に選ばれて市長になれば、自
分も亦醜類の仲間であるを廣告す
る如きものである。苟も日暮心
のある政治家は、今の市會に選ば

れて市長となる者はあるまい。若
しありとすれば、吾人は先づ其人
の人格に疑を擲まざるを得な
いのである。

【三】
市會議員諸君は、辭職するべし
と、市長を選舉する事に焦慮して
居る。此は何の爲めである乎。諸
君は市長を選びさへすれば、市の
不正事件の始末が付き、市政の刷
新が行はれると思ふのであらう
か。世人の觀る所に依れば、市政腐
敗の罪は、市長に歸すべきでなく、
却て市會自身が負ふべきものと
して居る。田尻市長は無能であつた、
醜類の跋扈を制御する事が出来な
かつた、併かし市長自身が惡事を
働いたとは誰も思はぬ。腐敗の原
因が市會に存する事は、衆目の觀
る處、一點の疑ひの存せざるこ
ろである。
然るに市會を其儘にし、市長を
更へたばかりで、市政刷新が出来
るかの如く云ふは、如何にも市民
を愚にした詭辯である。市會議員
が、斯の如き、幼稚なる詭辯を弄
して、世人を誤魔化さんとする眞
意は、只た其の辭職を避けんが爲
めである。彼等は果して辭職を避
け得るであらうか。

【四】
市會は總辭職をすべきである。
市民之を要求し、輿論之を要求し、
道理が之を要求して居る。然るに
市會議員の中には、白晝公然強盜
を働く如き人物が居る。彼等は利
を貪ひ、瓦斯を貪ひ、其他利益
のあるものは、何物でも貪ひ盡さ
んとする人物である。斯の如き人
物は、市民の要求、輿論の要求、
道理の要求などに、耳を傾ける性
質の人間でない。彼等は毫も體面
も思はず、只市會を根據として、
利益を得る事のみを考へて居る。
彼等は檢査されても尚ほ、市會議
員を辭せぬであらう。彼等は裁判
確定して、名譽を剝奪せらるゝ
迄は、市會議員たる積りであらう。
誠に寧ろにも擧げぬ人達であ
る。吾人は斯る人に向つて、何事
をも説く勇氣を持たぬ。

【五】
併し市會議員悉くが醜類では
ない。中には泥中の蓮の如く、清
廉潔白な人が居る。吾人が云はん
と欲する事は、此等の市會議員に
向つて云ふのである。
吾人は市會にある正義の士に、
速かに辭職せん事を望むのであ
る。諸君は諸君が去れば、残れる
市會の腐敗分子は、諸君の居らざ
る事をよい事にして、所謂鬼の留
守に洗滌の心持ちにて益々市政を
腐敗せしむるであらうと、心懸る

れるかもしれない。併し是は無用の
心配である。世人の見て以て腐敗
分子と思ふ諸君が去つて、腐敗分
子のみが残る市會を、東京の市民
が存せしめて置くであらうと云
は、餘りに市民を意氣地なく見た
考へである。假令市民にして動か
さずとも、市會が此状態にならば、政
府は監督官廳として、市會を解散
すべきである。若し之を解散せぬ
如き事があらば、天下は闇である。

【六】
市會に於ける正義の士が、今日
牛に曳かれて善光寺に詣る如く、
他の腐敗議員と同じく市會の椅子
に懸々たるに於ては、彼等は泥中
の蓮でなく、泥の中に居りて泥の
臭さを容るゝものである。世人は
總て今の正義の士の正義を疑はざ
るを得ざる破目に陥るのである。
吾人は市會全部腐敗せりと信する
を欲せぬ、而して市會全部腐敗し
て居らざる證據を見ん事を熱望す
るのである。其證據として、正義
分子が一日も早く、醜類の握れる
袂を拂つて、市會を刷新せん事を
要求するのである。

東京市長問題

後藤男が市長に選ばれたが容
易に首肯しないのは定めて理由
もあるであらう。市友會が男を
擁いたのも、公和會が之に和した
のも、夫れ々、自己の利害やら
引やらから出發したものでない
は云へない。男も此達の消息を知
り、自重して動かない譯であらう
が、假令動つて擧げ出したにして
も、男ならは總に擔當がある。

市會議員の心意如何は留置き、市
民として後藤男の市長には大體異
論もあるまいから、此際男たるも
の是非一服脱ぐがよい。三顧の禮
も今流行らない筈だし、誰か乾
兒を市長の椅子に着けて自分は陰
から支配を振るさ云ふ様な譯にも
行かない。
選んだ市會が惡くとも選まれた
當人が責任ならはそれでいい。若
夫れ市會の不良分子に對しては司
法當局も市民も當時も監視の目を
止めず、檢査する者は檢査し、辭
職せしむべき者は辭職せしむべき
である。

交渉委員は尙ほ交渉の
餘地ありと報告——市友會總會

△市長交渉の顛末に就

△市長交渉の顛末に就

て中間報告を求めたるが桐島坪谷
委員は

言も話す事を得ず我々交渉委員
は最初は市友會のみの銜衡委員
なりしも現在各派の銜衡委員
より藤男との交渉を委任された
るを以て之等各派の委員のみに先
に報告す事能はず然し我々交渉委員
は後藤男の如き大人物に對して
單に一度位の懇願にて快諾を得
るものと思はず故に目下は最盛
の努力を盡しつゝあれば今暫く
我々を信賴せよ若し交渉ならず
とするも市會議員には何等迷惑
をかけざる覺悟を以て努力しつ

いあり

△坪谷氏の口吻に依り

市長選舉の醜態
結局市議總辭職の外なし

△脈は切れたり
後藤男

の市推薦は全然斷か切れたる如し男の推薦に就ては事前の交渉徹底し居らずに澤澤と柳澤伯が相本で一應の交渉を試み市會に受諾を約して一氣に推薦決議を爲さしめたるは柳澤伯なるが其の事前の交渉なるものが言はゞ國體と政治權とが威光程の應酬にて勿論充分の諒意を懐むに足らず只後藤男の其の際に於る應酬は仲小路氏が同席の内交渉に答へたる如き明白なる謝絶にあらざりしと市會當日に於るアンチ阿部の集團とが確信なき推薦決議に突進したる結果が此の

△再交渉も徒勞而して

後藤男周囲の者は市會一致の推薦が或は徹底的諒解の下に行はれたるかに吃驚し其の諫止に集思したるが當の後藤男が最初より受諾の意思なかりしより單ろ市會の舉動に果然たる形なり勿論市會側にては遺憾より再度の懇請を試むべきが後藤男の拒絶は最初の拒絶が最終の拒絶にて結局徒勞に終るべきは明白なり

△寧ろ源流廓清

謝絶の眞意は受諾の意思なき推察

醜態

辭職の外なし

全國自治體に彌漫せるを認め而も其の廢敗墮落には一定の源流あり故に男をして東京市長たらしむるも此の源流を清めざれば自治體の腐敗墮落は數ふ可らず而して廢敗墮落の源流を絶つには寧ろ市長の椅子に居らざるを便とすべし則ち自治體愛好の感念よりするも市長たらざるを可とすと言ふにありて此の腐敗墮落の源流に對する源流感念は男及其の周圍を通じて一致し居り無用なりし受諾禁止の理由も一に茲に存せしが如し

必然の總辭職

く男に受諾の意思な周囲の又此の如くなれば市會の推薦が一場の喜劇に終るべきは必然なるが而も市會議員としては當然にむ可かりし手續を履まずして匆々に推薦決議を爲し其結果が喜劇的失敗に終るに於ては責任として職を負担なくさるゝは單に推薦の中心に立ちたる二三氏のみにあらず不明の上に不明を重ねたる罪を謝して總辭職を爲す外ある可から

殊に一面に於て此の推戴決議に依りて野心ありし阿部氏を事實の上に排斥し一面に於て後藤男に絶えられたる不始末は次の候補者求めむる上に障礙を遺したれば現存會が形勢を改めざる限り如何に議員の椅子に懸着するとも市長推戴の能力を缺きし鹽澤職を位儀なくする人は最早必然の勢となれり

内務省に對する

市長申請は暫く

留保方を府に申し入る
桐嶋市會議長飽までも

後藤男就任を希望中なればさて

市長候補委員たる桐嶋市會議長は、前日に於て、一應就任を
九月午後三時、東京府廳に桐嶋市會議長を
事訪問したが、病氣餘動の爲め、再考を求め、是非就任される事を
大府内務部長に面會し、一市會が希望して居るから、内務省に對す
桐嶋一會を選舉した市長第一候補の申請は、暫く是を留保して貰ひ
若の後藤新平男は、昨日若々々の態度で、申入れて退出したと
ないせう

内相に具申して

市會解散か

後藤男何處迄も拒絶せば
三氏は辭職位では済まぬ

議員秋山明氏談

後藤男の市長就任拒絶について、
市會議長秋山明氏は語る「吾々は
後藤男三氏の請願を感じて、
後藤男を市長に推したので
あるが、若し噂の如く
絕對に 是を拒絶したと
然し眞に後藤男の出處を促し度い
人の言を信じて、選舉したのである」

とならば、須らく三氏は此の際死
を賭して就任を求めなければなら
ぬが、それでも

不調に 終るさすれば世

人が満足する程度に於て市民にそ
の罪を謝せねばならぬ、又後藤男
にしても數回の交渉を待ち所願勿
くも付てから就任を請うとの
意ならば、是は全く時代遅れの老
式辭令で、後藤人物を市長に仰ぐ事
は吾人の潔しとせざる所である
更に

行き違ひの原因

藤原俊雄氏の言を信じて

一回の交渉も試みなかつた爲

後藤男が市長就任を拒絶したと聞
いた市會議員連中は、九月朝から
細々と市會事務局へ押し掛け、額
りに額後藤に關して議論を断はせ
て居たが、何分後藤委員から何の
報告も無いので、未だ

拘らず 男の就任を保證
したか云ふに、津村市會、近藤
達見兩氏等と共に後藤男を擁いで
居る藤原俊雄氏から「議事一致な
ら大丈夫引受けるに違ひない」とさ
うの言があつたので、轉卒にも是を信
じて事を運んだものと云はれて
居る、何しろ後藤男が就任を請さ
ず、全部の引責辭任は當然の

交渉中

の總會を開くやうな事も無かつ
たが、今回の行き違ひを生じた原因
に於いて、或る消息通は下の如く
語つた「一應市會では桐嶋氏や
藤原伯の如き、全く政略家で無い
人の言を信じて、選舉したのである」

世評の 如く内閣乗取り
迄の間一時的に市長の就任を罷す
やうなら、是亦懸掛け市長であるか
ら眞平御免である、何れにしても
事茲に至つた以上三氏の責任は重
大であると同時に若々市會議員も
全部辭表を提出しなければならぬ
が困つた事に折角

總辭職 をしても是を處
置する市會が無くなる譯になるか
ら、寧ろ此の際内務大臣に頼んで市
會を解散して貰ふより外に途は無
いと思ふ」

拒絶理由

後藤新平男談

東京市長の交渉は断然拒絶した拒絶の理由は極めて明白である若き文明の下に在る我國の現状を看よ思想上の混亂社會上の陰鬱なる潮流の爲に國民は昏迷の極に達して居るではないかボリセヴィキ、レボリユーションなる言は現代人に如何なる脅威と刺激とを與へつあるか混亂せる思想を統一し社會制度を確立して國民生活を安定ならしめんとする事は予が屢に提案した産業參謀部即ち大藏省機關の設立の外なきとを確信する元來我國には形而上の文明はあるも化學的文化に就ては何物をも有しな久保、木戸等の先鞭は勿論我國一人として化學的文化を政治上に利導せんとする經驗抱負を有するものがないではないか予は已に總ながら此特長を有して居る大藏省機關案の如き即ち抱負に出でたものであるが果して政府之を容るるや否やは未定である若し政府之を容れずんば議會に懸へ議會亦容れざるに於ては全國國民に對しても其貫徹を期せんとするの決心である然るに國民も亦容れざるに於ては此世の禍を俟つの外なき所であるが何れにするも大藏省機關案の成立及之が完成は予が現世の

事業である斯く一方に重大なる事業を控ふる予としては東京市長の如き職務に當る事は全く不可能ではないか申には大藏省機關案は東京市長の委任を説くものもあるが其一方へ懸る重任なるに之が責任の如きは到底人力の能く耐ふる所でない予は右の理由を以て市長交渉委員にも謝絶の意を致した斯くは雖も予は東京市民の一人として市政の現状に對して甚も冷淡なるものではない現に十一日には市政研究會長たるの立場から市内の有識者百餘名を招待して極めて直截簡明に各自の意見を發表し市政改善に關する具體案を提出する者である幸に右諸者の意見を得具體案の成立を看るならば更に往復端書を以て市内公衆の意見を聴取し其上に於て市政改善に關する具體的運動を開始せんとする計畫である一砂利喚ひ問題起るや政治市政の顛覆を來す如きは東京市民に自治の觀念が缺乏して居る證左である參閱の現状を看よ如何なる困難にも打勝ち國民團結して尚く自治の要求を棄てないではないか流石の大英魂をして手の下しやうなきに至つたではないか市政の改善は市民の覺醒が第一の急務である事は看るも明かである予が此運動を起したのを見て中には後藤が市長の下達備だに解せられる事と信する

大得意で雪中獵

東京市長に當選した

後藤新平男

市會が何うあらうと雖も動きやうになつた田尻東京市長も脚下から落膽議員や收帳吏員が飛び出しては流石に豆汁の調製で詰まつても居られず今度ばかりは大に恐れ入つて舞臺退出、即日歸郷となつて後藤新平の段取りとなつた先づ第一に食指を張かしたのが言ふまでもなく一昨年の市會選挙の際田尻氏に對つて成り振なつた東京府知事柳田氏である、今度こそは外れつこ無しと仰り込みかけたところ御方議員の面目がこれぞ不正事件に引かつて氣勢更に揚がらず、人氣は前の農務大臣仲小路氏に集つた「我輩も市政の現状を憂ふること敢て人後に落ちぬが我輩の生命とする處は國政にあり」さばかり一向承諾しきうにも無い、之れに次いで後藤新平男であるが國政料理に於ては敢て仲小路氏に劣るものか少しも自信だけはあつた男のこゝから「此の二人は悉く承諾すまい」此は柳田氏保衛の談である、左藤新平男は東京市會議員であり又永年市の幹部顧問であり且つは貴族院議員の有力者であるから此こそ驚き三ツシヨウシヨミ御神興は三巴、イヤ中巴はふるふる、極月の七日夜市長選挙の一幕となつた、當々通り清んで投票を明けて見るに六十四票中六十三票まで後藤新平に出た、首尾よく當選はしたものの果して後藤男が承諾するや否や、田尻氏の言ひ草でないか、ゴトノ、新平の言ひ草でないか、競争によらず市會が全會一致で我輩を拒すならば東京市民のため敢て周旋せよと風人の苦言内意があつたものだから、斯くは二票を失ふ六十三票を男に授け、二次の内閣が、次の市長に變つただけの事ではある、明けて八日朝日新聞をたる東京市外へ英國第二遊覽船を雇ひて雪中獵する男の得意と思ふべしで追はれる雄こそ近頃遠慮千慮(東京電報)

大調査機関を控へて

どうも引受けられぬ

この事業を繼承して呉れる人があれば喜んで就任する

市民の熱誠には後藤男語る

昨夜十時工業倶楽部を出て麻布横田町の自邸に歸つた後藤男を問はる、男は記者の市長を引受けらるるや否やの問に於て先づ「我輩は正直の處萬々お引受けしたい併し引受けられない、誤解して貰つては困る、其々も引受けられないのであつて引受けぬといふ事は違ふ、餘も動機に於て異なる所がある」と微笑の裡に深甚の意を漏らす、で記者はその「られない」

事情を訊

「牛刀の感があるからでせうな」とやつて見た、すると男偉大に御機嫌がよくない、額をグイグイ引いて力みながら曰く「我輩はそれほどの誠意のない男ではない、假令一區長の微職を雖も市民の熱望である、今度にした所で市會が全會一致の推薦があるからには潔く出て難局に當り市政刷新の爲めに微力を傾倒するのが體であらう、併し世間も知らる、如く我輩は這般大調査機關の設置に關し全力を傾倒して政府當局に

傾倒して

政府當局に一般世間にも發表してある、一體此の調査機關たる現下の不安なる市民生活の基礎を安定し將來の方向を指すものであつて同時に又市民の生活をも安定せしめる所の機關であるにも拘らず世間は動もすれば冷淡である、之我輩が此機關の誕生に熱心ならざるを得る所以で若し今後我輩に代り我輩同様の熱心を以て

此事業を

繼承して下さる方があれば我輩は喜んで市長たるを辭せぬものである我輩は此事情を今中(八月)も御機嫌、御島坪谷、近藤の四氏に篤にお話して斷然お断りした、其で記者は更に「では市會が全會一致の推薦も遂に徒勞といふ事ですか」と訊すこ

我輩に代

る立派な市長が出來市政の刷新なる進行を見るることになればそれで事足りてゐる」と此後男自身が更に何人かを推薦しようかといふ腹はしく思ふぬでもない、斯くて男は結局次の如く結んだ「我輩は兎に角一公民として市政に盡す義務がある、十一區に各方面の人に集まつて頂くのは實は一公民としての自分の考へを披露し世に言ふに被難して貰ひ度いからであつて之は市長就任問題と何事關係がなく更にも市長は今後文政があつても何記のやうな次第で受けられないといふ外は無い今はそれ以上ない」

自由塔

住所氏名

係まで御

通知あり

たし

雪と市長

○七日の大雪は近來珍らしいことだ併し雪屑を掃ると十月二十七日で、此日は昔から降雪の多い日であるといふ、道路問題の日本一晴しい東京は例に依つて、路の泥の海となつてしまつた、开着道路の掃除は俄に大忙しを呈して路の板へ掃きをやらせて居る繁き合せて歩く、其の不體裁と時代遅れは一歩他では見られない圖だ

○然も此の費用が大ききもので日雇料だけでも全市で三四十圓は消えてしまふ、二三年前、暮に大雪が三三回續いて、此の方面の費用全部を消費してしまつたことがある、今年も是までに何やかや此の種の費用を消費し盡したので、秋の大掃雪が出来なかつたのだといふ

○開へ思ひがけない大雪で、要らぬ害の大天候料を何處からか支出しなければならぬと、市の吏員が嘆いて居た、償か處かは知らぬが、有りさうなことだ、併し毎年多になれば、雪の二三回降ることは珍らしいことではない、降るのが十四五回早いかとて狼狽するもの可笑しいではないか

○此の人大なるものゝ勢能を見るやよい、僅かに一二丁の處で半日位かゝつて居るのがある、其に擬いた雪を眺める所が悪いので、又もや夫れが解けて泥の海となつて居る

○唯五六丁の降雪の爲め、都一の面目の丸裸になるのは、東京と誇る東京市である、何等の恥辱ぞ、昨日は東京市會の市長選挙を行ふ日であつたのだ

○大勢で當選した後藤男は此の雪どけの泥海に多數市會議員や新聞記者などの包圍攻撃、喰つたらしい一市會を雪のやうに綺麗なものにしたといふ、なんといふ見は出なかつたにしろ、大雪が弱つたらう、此道路では何とかならばなまい位の考へは、雪明る後藤さん屹度考へついたに違あるまい

○市役所は、大雪の爲め少かの費用を使つたが、一方では無償同様に市長さんを喰つて來ることになる、恨めしい雪か、廣しい雪か、夫れは僕等には解らない(軍町人殺)

國策調査

後藤男と政府

閣議の一問題

後藤男

後藤男が東京市會の推選に對し之を拒絶したる表面の理由は九月朝刊所載の如く産業調査會行懸りを以てしたる次第なるが本問題に據て懸念を起したる如く男の建議につき政府は時局に適應すべき措置の一として其主義を贊し爾來該會の組織に就て男の成案を審酌し法制局に於て立案の結果該會所要額銀二千萬圓を、續り内一千萬圓は國庫支出五箇年繼續する程度に於て來る可き四十四萬圓に提案を可なりとするも他の一千萬圓は別途の方法に依るより外無しとの意思にて男と政府との間に未だ提議確定の運びに至らず男は戰後國策樹立の緊急業務として産業調査會組織の必要を囑ふるを當初の如く熱心にして最近政府に迫り其確答を求めたる模様あり右に對し原首相は近く最後決定を爲すべき筈にて多分十日の閣議に附する運びなるやも知れず後藤男の意圖は政府が明年度豫算に追加して本經費を要求することならば自己進取の要求上、是非其兩院の通過に努力すべく直接閣議に運動を豫期し居り若し政府にして明年度豫算に計上せざるに於ては政府は國策に

添なりとの懸念を下し場合によつては之を全國の輿論に問ふ爲め國策樹立の急務を各地に遍呼して之が目的の貫徹に努むべしと釋し居り右兩議の結果何れにするも男は市長の職に就く能はざる羽目に在りとし男の四圍亦就任を諫止して已まざれば市會より再度の交渉ありとするも應諾する疑間なりと云ふ、尙調査會設置に就ては關係及び政友會中にも相應に反對あり、一方後藤男の親近者中には本問題を中心として政府が之に對せざる結果男をして反政府の態度に出しめ兼ね局面打開の運動に歩を進めんとする向もあり、男は本件は市長辭任の理由以外政治團内にも多少の色彩を添へ來るべく問題となるべしとなり

市會面目丸潰

總辭職の外なし

諾か否か 去る七日の東京市會に於て後任市長第一候補者として後藤新平男は殆んど全會一致の聲援を擡んで當選したり然るに昨八日市會の代表者が麻布櫻田町に同男を訪問し市會の決議を齎して續々承諾の交渉を爲したるに男は産業調査會其他の責務を閑却し得ずと之れを拒絶したり右に對し市會交渉委員側は飽迄も誠意を披瀝して承諾を求むるの外なしとて九日前より東武西武の要なるが後藤男は會で満腹總裁よ

總辭職の外

なきに類り

しものさ云ふべし之れ眞に市會を憂ふるもの、言として一徒に市長選舉を急がば文書の流なきに至り止むなく還歸定したる後承諾を求めて拒絶せらるる事ともならは其れこそ此の次に來る市長は全然無かるべし云々果せるかを總辭職を恐れ一時を糊塗せんとして

候補者選舉

市會の面目

は之れに止まらず市友會一派は既に交渉内諸議みなりと稱し市會の同意を求めて全會一致の投票を爲さしめたるにも拘はらず今明が其の偶りなるを表現されたりと市會は第二第三候補者として衆議院大成會及柳田一朗兩氏を選びたるは單に年長者たるの故を

都市委員會

以て市會議員中より選出したるに止まり眞に後藤男にして破られ第二第三候補者を以て市長候補の意なき事明かなれば若し後藤男進選にして破れんか東京市會議員は深く總辭職すべしとの聲高く高まり來れり

後藤男爵の就職拒絶

市會總辭職
ある而已

去る七日の東京市會は、後藤男爵を推して東京市長第一候補者と爲せしむ。男爵の果して就職を請ふるや否やは疑問なりしが、其後市會の交渉に對して拒絶の意思を表明したりしを以て、市長問題は茲に一頓挫を來せると同時に、將來に於ける紛糾愈々甚だしきものあるべし。男爵の不承諾は一般市民の失望を與ふこと大なりと雖も、市會の狼狽は更に一層の甚だしきものあるべく、現に二三の市會議員は、之が爲めに引責辭職の餘儀なきに至るべしと云はる。

後藤男爵の勇氣と雅氣と街氣とに於ては、世に定評あり。曩に世論の男爵を以て新市長に撰ぶるに方りてや、男爵は之に對して絕對的否認の態度に出ず、寧ろ幾分の色氣を示して、市民並に市會の態度如何に依りては、必ずしも就職の意なきに非ざるを付度せしむるに足るものありき。是れ畢竟、男爵の性格の然らしむる所に於て、吾人は必ずしも之を以て男爵を責めむとするものに非ざれど、自家の責任を轉嫁するに急にして、何等の體面的交渉をも爲さず、漫然男爵を推舉せる市會の責任に至りては、吾人飽ちるべきを氣にせずを得ざるなり。

後藤男爵の市長就職拒絶に關して、吾人は其理由の那邊に在るやを明瞭に知る能はざるを遺憾とする者なれど、要は周囲の事情、男爵の態度を詳述せしむるに在らむ。男爵の性格より推せば、此際市民の輿論を食ひて委身せる市政を振作し、男爵一流の快職を揮はむと、必ずしも其欲せざる所に非ざるべし。然れども男爵の友人知己は、世上兎角の諍ある現在の市會に據立せられて、市民の期待するが如き刷新の望を果せむとは難く、之が爲めに男爵の公生涯を果するの儀あるを慮り、遂に男爵を諫止せるの結果、茲に不承諾の意を決するに至りしならむ。故に男爵の就職拒絶は市會自身の招く所にして、其實固より免かるべきに非ず。

後藤男爵の市長不就職に依りて、現市會の思惑は正しく裏切られたり。市會は如何にして之が善後策を講ぜむとする乎。第二第三の候補者たる岩松、棚橋兩氏が、市長就職を背せざるべきは固より其所にして、市會は再び市長選舉を行はざるべからざるも、其果して何人を推舉すべき乎。其人なきに窮せざるを得ざるべし。勿論公和會一派は、内心後藤男爵の辭退を歡迎して、其意中の一人たる阿部清氏を推挙するに努むべきも、部民にして當選し得べくんば、昨

に七日の市會に於て其當選を見るべかりしに、然らずして其知つて後藤男爵の推舉に終れるは何の故ぞ。市會に於ては後より阿部清の多數なるを慮へられしに拘らず、事實は之に反して後藤男爵の推舉を見たるは、是れ公和會の民意を意味せるものにして、此點に於て市民の希望の衝動ならざりや。吾人よく、是れ吾人の既に論述せる所のものなり。故に一度屏息せる公和會の又復燃頭して、阿部氏の當選に努むるが如きは、吾人の想像する能はざる所なれど、此點に關して、市民は更に嚴重なる監視を加ふるの要あり。

要之、後藤男爵の不承諾は、現市會の不信任より來るものにして、市會にして自ら其信任を市民に問ふが爲め總辭職を決定するに非ざるよりは、市會の信任を新市長就職に失せざる市會は、今日に於ても尚ほ且つ此點の道理を解する能はず、總々其地位に留まらむとする乎。一度當選せる市民は、市會の總辭職を見るに非ざれば、到底甘心する能はざるべし。

後藤男に振られ

大弱りの三委員

桐島氏から申請留保の依頼
責任問題が起さう

後藤男が市長就任を拒絶して以來、市役所内は又急に混沌たる空氣に裏れてゐるが市長候補委員桐島、一氏は九日午後三時突然東京府廳に出頭し、阿部知事に面會を求めたが知事が病氣

後藤男が市長就任を拒絶して以來、市役所内は又急に混沌たる空氣に裏れてゐるが市長候補委員桐島、一氏は九日午後三時突然東京府廳に出頭し、阿部知事に面會を求めたが知事が病氣

缺勤中

の爲め大海原
内務部長に面會し「第一候補者である後藤男に對しては昨日(八日)市長就任を懸念した處男は一應就任を謝絶したが吾々は尚男に是非就任して呉れと再考を促してゐますから暫時内務省に申請する事を

留保し

て貰ひたい」
と述べて辭去しそれより各方面を奔走して午後八時歸宅した氏は「昨日は後藤男の處へは行か

柳澤伯

は午前九時から自動車で何處へか飛び出してしまつたといふやうな次第で、後藤男に瞭解があるを引受け各派を纏めたのに此の始末さて其責任が問題にならんとして居る

六十二票の大多數で

後藤男市長に當選す

今曉零時までの東京市會で

何の兆ぞ、七日朝來雪降り頗る長席に就き問題の市長選挙に入る數で芽出度當選時に午後十一不正事件の責を負ふて辭職せる堂々めぐりを繰返し後藤新平時廿五分窓外の雪は尚ほ續粉さ男が六十二票の満場一致に近きして満都を埋めんとす

田尻市長の後任

を選舉するその日の雪は穢れを淨むる雪とも見られて無限の意味を有つ、此日市長問題を決す可く午前中から各派の詮衡委員等議事堂を中心として集り午後に至つては府市を通じて部屋にいふ部屋の總てに刺戟して神算奇術を連らし交渉の爲長廊下を飛走る者一偶に私語する者も切らず光景頗る緊張して片唾を呑むの暇なかしめる後藤男

頗る優勢を傳へ

るれば仲小路氏に次ぎ久保田氏阿部氏の呼聲も一高一低の姿だつたが最後の土壇場に至り愈後藤男就任の可能を發表した爲め形勢俄然一變したのである、茲に於て公和會は矢野鉦吉氏を阿部府知事官舎に派し病中の知事より「後藤男出馬すれば予は喜んで市長推薦を辭退すべし後藤男は

同郷出身の偉材

にして東京市長の最適任者である、予を推薦せる諸君の厚意は感謝するに餘りあるも此際一切の私情を去つて後藤男に投票せん事を望む」旨の返事を得公和會も亦肩よく後藤男を推すに決し茲に各派の交渉を打切つて午後八時四十分市會に臨む加藤議長辭職鳩山副議長病氣の爲め年長者島田藤吉氏議長席に就き報告し新議員を紹介して直に休憩二時間後の十時四十分再會其れより日程に入り

市會議長選舉に

移る例の堂々廻りの末市友會の相島氏四票の多數で當選直に議

三名の助役にも少壯者を應て一大異動來らん

助役の二人は先づ俳青風

後藤男の市長當選に就ては今八たり動一等たるが爲めではな日十時内記課長早朝後藤邸に男府を訪ふて其履歷書を請ひ東京府知事を経て直に認可申請書を今日の場合であるから

内務省に申達する筈で

あるが兩三日中に御裁可を得次第登壇市政に執筆するだらうといふが今月末の市會に助役三名を推薦して市會の選舉を請ふ事なるべく其顔振は永田秀次郎氏の如き暗動かざる處を見て差支なきも他は古手大臣級の人々よりも未來ある次官級の

少壯者を推す事疑ひな

きか同時に局長課長級の人物に對しても來春三月の年度替り頃迄に市政刷新行政整理の意味に於て一大異動を行ふ可く所謂情實に繋がる吏員の一掃を見るだらうといふ

柳澤伯曰く

坪谷氏曰く

後藤男に就き

興味を

有し自ら都市研究會長となり經驗抱負を吐露した例も駭かない殊に最近都市研究の目的を以て歐米の視察を遂げて歸朝した吾々が後藤男を適任と認めたのは以上の理由に依るもので決して前大臣たり男爵

市長に當選せる後藤男



後藤新平伯傳記編集會原稿用紙

市に實用書

國民

報社

信	僱	臺	北
濃	後	灣	文
丸	丈	行	那
十	十	門	司
日	七	司	理
十	十	大	津
一	八	津	秦
	日	皇	皇
		處	處
		行	行
		十	十
		七	七
		日	日
		神	神
		戶	戶
		發	發

後藤男の拒絶に依つて

市會に復も大旋風

三交渉委員の引責問題から
結局市會の總辭職ならんか
捨鉢になつた柳澤桐島坪谷三委員

後藤男市長就任拒絶によつて市會は復も大旋風に陥らうとしてゐるが交渉の任に當つた柳澤桐島坪谷三氏の責任問題は延いて市會議員の辭職となり或は
市會解散ともならんと思
察である今九日午後一時より開か
る市會で市會議員初め市參事會
では市友會三議員の不信を詰
問する事となり併せて後藤の處置
に就き議論拂出すべく豫想されて
ゐるが先づ前記三議員委員の辭職
は此處一兩日中には實現する事に
ならう

當の桐島氏

は九日朝も
三義の家屋部にて「何も訊いて下
さるな今日再交渉にゆくかどうか
判らない」と懸ける様に語つたが
又坪谷氏も多少自暴自棄味で九日
午前八時大體の別邸に赴き柳澤伯
は朝から不在で行方は不明とある

阿部派の再起

公和會飛躍

後藤男の市長就任拒絶によつて
第三の候補者若くは兼候補
一 郎氏の中から順位を以て定まる
わけだが夫れは問題にならぬ事は
明瞭である従つて市會選挙は當然
やり直しと云ふ事にな
らうが公和會が早くも阿部候補を
再起せん、謀つてゐると云ふの
は公和會の領袖長澤延次郎氏は八
日夜阿部知事を其官邸に訪ひ密議
久しきに亘つたからで
あると右に就て長澤氏は夫れは七
日夜市長選挙の模様を諒しに行つ
たのであると否認してゐた

堅き辭意を語りつゝ
自動車で姿を消す

藤男の席暖らず

市長就任を辭退した後藤男は麻布
の自邸にて語る「自分の意思とし
ては市民諸君の熱誠に對しても亦
全會一致で推薦して呉れた
市會に對し ても深く
受諾して市政の刷新を期したいの
あるが自分は數年來政府當局にも
で進言し且當時天下に聲明した通
り政體の機運に到達した帝政の國
是を定むる爲め一大調査機關の設
置に全力を傾倒して居るから自分
に代つて熱心に比一大事業を繼承
してくれぬ人が無い限り御令今日
阿部知事から正式に市長就任意
思の有無を
訊かれても 市の繁榮を
就該氏に速答した通り此理由を以
て拒絶するより外はない尚餘衡委
員諸氏は今一應の熱慮を希望して
引取られたので自分も又委員諸氏
の熱慮を望んで別れた、無論第二
回會見の日時等は未定である」と
尚男は午後一時五十分自動車に乗
つて何處へか姿を消した

正月の元日の夫れは恰も百三年
目に當るとして小石川藤澤院前の
大黒天別當では未だ春も來ない
のに御守札や福祿布を出すのに
目の廻るを化を極めて居るとは
此にも世相の奈何を窺はれる大
黒天の安置された藤澤院の寺
布施虎籠師は福相に微笑を
満へて語る「來年から尚ほ三十
三年目、夫れから尚ほ七十年目
と云つた風に百年の元旦に甲子
が來ることは大變に珍らしい夫
れが今年百三年目の廻り合せ
な處へ以つて來て不景氣と言ふ
のですから種んな階級の人たち
が居うした清淨の地に祈願する
のは人情でせう」

何故の辭退

後藤男は何故か東京市長たるを辭退した、其辭退の理由は明示されない、又吾等から見れば辭退を道理づける適當の理由を發見し得ない、強ひて想像すれば男を圍繞する家の子郎黨等が、男を東京市長たらしむるは其政治運動に不便を來たすの理由に依て、男の辭退を強要したる結果であらう、後藤男自身に於て、當初より絶對的に東京市長たることを拒絶するの意志があつたことは想像されな

藤男の反覆

後藤男は、東京市政の刷新を急務と認め、自ら率先して其事に盡力せんと言言せる人である、仲小路氏が市長たるを辭退したるを聞て、寧ろ之を囑ひたる人である、而して東京市會の全會一致の推薦を得、且市民一般からも非常なる希望を以て歡迎せられたるにも拘らず、不明の理由を以て頑固に之を憾拒せるは、男の爲に惜み東京市の爲に亦深く惜まざるを得ない、存外口先ばかりの豪傑である

總辭職ある耳

後藤男が市長の推薦を辭退せる

に就ては、跡始末は極めて簡單である、只市會の總辭職あるのみである、後藤氏の推薦を主張せる二三氏のみの責任にして、單に二三氏の切腹のみを要求して已む可きでない、推薦者二三氏の責任は内部の關係である、外に對しては東京市會全體が、後藤男を推薦して其拒絶を喰つた者である、前に既に總辭職を爲す可かりし市會は、更に總辭職の必要を重ねた者である

或は解散か

若夫東京市會が今猶責任を解せず、恬然として其職に留まり、更に改めて市長を選ばせんことを期きあらば、是法律の規定なきを顧みして其地位を保持する不埒の行爲である、市民は暴つて起て市會の不信任を叫び、更に強硬の手段に依て各議員の辭職を迫り、且一方に於て市會の解散を要求せねばならぬ、而も斯の如き事態を惹起せざる前に、市會の總辭職を見んとは、市民全體の希望である

改造の一途

吾等は後藤男の辭退を遺憾とするも、而も亦其辭退に依て東京市會の總辭職を餘儀なくせしめ

之に依つて東京市の大改革をなすを得ば、之亦時に取ての仕合せであると思ふ、或は頑固なる東京市會に對し、其自決を迫らんとする自然の命令として、此の如き事態を惹起したのかも知れぬ、大改造々々々、今日は此一途あるのみ

戦後の産業發展策として

京都に世界博覽會

百廿万圓で來年七月から九月まで

後藤男が總裁で大規模

戦後經濟界の不況と共に産業界の不振甚だしく國家の消長に關する事大なるより今や世界各國と共に之れが

振興策

心焦慮し、振興策の如きは其の疎略策として勸業展覽會乃至博覽會等に之れが出品の勧誘方を應じたとの事であるが我國には未だ何等の企圖なく徒に

産業界

のみで遺憾とする處であつたが、今我國戦後産業界の大發展策として經費百廿万圓を以て世界

博覽會

を開催する事に決した、右は京都實業組合聯合會及び京都品協聯合會主催で、期日は來年の七月五日より九月五日まで六十三日間、京都市上京區南堀公園にて開催する筈である、博覽會の總裁は

工業品

既に出品申込者多く目下夫々準備中である右に就き博覽會長は日く會期を夏期としたは京都祇園祭等にて賑やかな入出を觀としたの趣に夏期に取つて

優良地

最も好適してゐるのであります、博覽會期中は出來得る限り内外の裝飾を華かに施し、優良の催しも種々致し臺灣館等をも附屬館とせしめ諸種の産物をも陳列陳覽せしむる事になつてゐるが果に角之に依て我國産業界の不振を挽回するの一策となる譯であらうとす

報知評論

辭職の解散

後藤男にして最後まで議院を離れず、男を推挙するに特別の責任ある三氏は、無難辭職すべし。然れども其は市會の内部に於ては男を推挙するに、公式に於ては男を推挙せる市會全體は、若し同様の責任あり、三氏に次いで一同の辭職とならざるべからず。市會にして此態度に出でたば、事は其れにて一段落ならんも、荷も過重決せざる風あらば、其處に監督官廳干渉の機會生ずべし、解散是れなり。要するに東京市は正に一大腐敗の時機に達したるものにして、市會を改造するは建設の第一歩なり。監督官廳は無用の糾糾を重ねしめず、速に自治機關を安定せしむる義務あり。若し監督官廳も亦此時機を過引せば、監督官廳も亦亂彈せざるべからず。

輿論起る遅し

市政は未曾有の失態を演出し市機關は全滅せる今日、市民の輿論案外に沈静なるは奇怪なり。今日までに區民大會の開かれたるは、僅に日本橋、牛込の二あるに過ぎずして、其他市政を憂ふる微意は何れの邊にも見當らず。今となりては後藤男の振起は確定と見て、安んじ、市民は現市會に對する信任を担絶し、自から起つて善後を策する覺悟を要す。

市會總辭職の時期

即時決行必要、一日も安閑を許さず

市會の如く十一日の市會總辭職は、市長問題に一種變を與へんとする結果なるが其の結果如何に拘らず市會のものは、
△總辭職を速く 可いざる方向に進み居り過日の推挙決議は第一候補者たる後藤男の承認を得難きより監督官廳に申述の手を執る能はず今に議長の手許に留保されあるが結局承認を得る見込みなきを以て市會として前決議を取消して第二次の推挙決議を必要とするが夫れには改めて候補者を物色せざる可らず而も市政の腐敗が如く市會の混亂此の如き状態の下に於ては例令都市研究會の助があるとも。
△市長候補を諸 する者天下一人もどれなかるべく從つて必然辭職する處は只一切の手續を省略して總辭職を餘儀なくする一途あるのみ即ち新候補も物色する能はざれば前決議も取消すに由なく唯一の行き道は只だ總辭職の外なきを以てなり而して總辭職が結局遅く可らざる時を要す。今に其の時期は一日も速なるを要す。市會改選後の市長選舉を容易ならしむるのみならず、市會の現狀を一日も速なる必要あり何となれば東京市會の腐敗は速く二月市中

時間的の約束

市長として後藤男に多少の時間的約束を可からず加ふる市長選舉に先づ市會の總選舉に相當の期日を定むれば今日直ちに總辭職を爲すも尚ほ時間の足らざるを以て、總辭職は最早後藤男を許さざる大切の時期に迫られ居るなり。

後藤男の市會蔑視

各自治團體協的翼賛の途を啓かん

市會の總辭職は自己の手に負へざれば先づ監督官廳に後藤男に受託を要すべしとなし尙ほ父族の餘地あるかの如くに外面を憂ひ居れるも此は單に大言に至る迄の一面に過ぎぬ。後藤男は自己推薦を全然問外に置き都市研究會長として市長問題に關し、市會の解決方法を執らんとして市會の行動とは全く相反する方向に努力を進め居り、既經の如く後藤男は十一日に都市研究會を市長選舉の第一項には東京市會機關を擯けりて、
△男の作製せる 議案に依れば東京市會の選舉を市會のみならず、市長選舉、市會のみに依るに依りて市長問題に一轉機を形づくに至るやも知れず夫と共に、市會の現狀を一日も速なるを要す。市會改選後の市長選舉を容易ならしむるのみならず、市會の現狀を一日も速なる必要あり何となれば東京市會の腐敗は速く二月市中

自己粉飾に過

後藤男は自己推薦を全然問外に置き都市研究會長として市長問題に關し、市會の解決方法を執らんとして市會の行動とは全く相反する方向に努力を進め居り、既經の如く後藤男は十一日に都市研究會を市長選舉の第一項には東京市會機關を擯けりて、
△市會の大能 是る。市會の現狀を一日も速なるを要す。市會改選後の市長選舉を容易ならしむるのみならず、市會の現狀を一日も速なる必要あり何となれば東京市會の腐敗は速く二月市中

市長問題と内務

法制上の手續き

東京市會が後藤男を市長第一候補者に推薦し男の諸君未だ確定せざるも男は市會の交際に對し、拒絶の意思を表明したるの如く、職守の義務を履行するに依り、内務大臣は市會をして市長候補者三人を選舉推挙せしめ上奏認可を請ふに際し三候補者の中第一第二第三を問はず内務大臣に、
△最適任者 認むる。市會の現狀を一日も速なるを要す。市會改選後の市長選舉を容易ならしむるのみならず、市會の現狀を一日も速なる必要あり何となれば東京市會の腐敗は速く二月市中

再選舉命令を

後藤男の振起は確定と見て、安んじ、市民は現市會に對する信任を担絶し、自から起つて善後を策する覺悟を要す。市會改選後の市長選舉を容易ならしむるのみならず、市會の現狀を一日も速なる必要あり何となれば東京市會の腐敗は速く二月市中

飽まで藤男の

承諾を求めん

首相内相を煩して 就任を懇望の手筈

きのふ、實業團の會合

後藤男に出張を促す可く、藤男は東京市長問題に係り、中心となる東京市長問題に係り、藤男の有志は昨日午前十一時より丸の内日本工業俱樂部にて開議する筈なりしも、同俱樂部にては後藤男の十五區々長招待會ありし故、此處合同俱樂部にて會見する事は都合悪しとして工業俱樂部のメチーに故陣起りし爲め八十一の老子爵をわづらはすは

お氣の毒な

りこの理由

をつけて急に會場を丸の内中央亭に變更し會するものは藤男子爵を始め加藤正武、柳田泉、山科龍藏、安田善吉、近藤廉平、山科龍藏、安田善次郎、井上準之助、大倉男爵、郷誠之助、藤山雷六、中島久万吉、和田豐治、服部金太郎、福原有信、矢野龍太、杉原三郎、大橋新太郎、有賀長文及び桐島一氏の諸氏

一同は階上

の一室を

切つて熱議をこらしめ、藤男は所ありしが是より先き藤男子爵は

獨りて後藤男を藤男の自邸に訪問し市問題に關する最初の正式會見を試み市参事として男の市長たらん事を懇請する所ありしが男は依然として「産業調査機關の爲め市長の榮光職は遺憾乍ら

お受け致し兼ねる」この答へを得たるが子爵は「閣下一考を煩はし度し」と述べて歸去しこの返答を寫して中央亭の會合に呈列したるものなり而して前回の會合は藤男子爵、近藤廉平、加藤正武、藤山雷六の四氏の名義にて招集したるものに

て席上各氏の意見は「市會の決議は至極もつともなれどその後行なひ居ればこの際市會の方で市會の決議を實現すべく盡力する」といふにある

主務大臣に

る床次内相

及び原首相を煩はして就任を懇請すべく議決せるも恰かも日曜なれば兩大臣は不在なりし爲め昨日は一先づ中止し本日にも改めて兩大

臣に懇請して飽く迄後藤男の承諾を求むる事とし藤男、加藤、近藤、藤山の四氏は委員となり今日その席に當る筈なり

主務大臣と

相談の上

今後の方針を決する

藤澤子爵

後藤男と最初の公式會見をした藤澤子爵は昨日中央亭にて語る「私は午前中に個人として後藤男爵を訪ねし市民の懇望もあり是非にも市長に就任を懇請したが、男爵は例の産業調査の大任があるため、市長の兼任は出来ぬ相談の上のお話であつた、で私はそれで新開の輿論の様に現在の市會に御不満がある爲め市會を解散して後でなければ御出馬にならぬ御考へでありますか」と問うと男は全然それを否認され唯責任は不可能との理由でした、今日(十二日)は一先御別れしたが今後の方針は主務大臣と相談の上決める積りで

政府側の援助を乞ふ

之が一致の決議

桐島一氏談

「けふの會合は會場を借入れた名義を私になつてゐるが全く藤澤子爵、加藤、近藤、藤山の四氏が主人役で市會としては別に關係を持つてゐない後藤男と藤澤子爵の會見の結果は依然として産業調査機關の爲めといふので

この言葉に 聯してこれ

満場一致で 推したものであり紛糾してゐる市政を處理するのには何うしても男爵に出て貰はねばならぬと云ふ堅い自信を持つてゐるであつて、私などは昨夜奔走の結果果敢の目方が減つた位であるが市會としては此の有志會と密に相談して何處迄も男爵に出て頂く決心で居る」

◆藤男の區長招待 都市研究會長後藤新平男は十二日午後一時より工業俱樂部に東京市内の各區長を招待し市公民に對し市政改善に關する文書の發送方法及講演會開會に關する會場等に付協議と結局文書の發送及會場の貸借は各區役所に於て其部度研究會と打合せの上取扱ふ事に決し散會した

東人西入

昨年の夏東京府の茶話會の席上偶々東京市長問題に移つた時東京市長が後藤男が市長になつては呉れまいかと笑談半分に尋ねた所男は「市會議員は俺に投票する位の雅量はあるまい」と云つて何々大笑したさうだ、男推戴の火元はこんな所から來たのであるまいか、所て後藤男が市會の交際委員たる桐島市會議長に藤男の顔色では讀めませんかと質して見ると桐島君「此際諸君を顔色で讀まれるやうな候補者ならこちらからお断りがしたい、それが出來ないから是非共助かして見たい」辭句を持つに至つたのだと、物議を醸した例の電柱廣告問題に政友會の利根屋何れも勝点を奪みて押すな押すなと案次官を取り巻いたは宜いがイザを明けて見ると皆なて會社を作つて下さいと成たので開いた口が塞がらず今更案次官を恨んで居るものも少くないさうだ、印度時聖タートル翁は密裡に再渡來して目下東京市會を中心として「東西の融合」「文藝の精神」等の題下に巡回講演をして居るが藤澤或は再度日本に立寄るかも知れぬとの消息があつた

住宅難去らず

社會化の必要

住宅問題が著るしく八釜しくなつたのは何れの國に於ても大戦以來である。今日に於ては住宅問題に悩まない國はなく、住宅問題に悩まない都市はない。現に日本に於ても東京大阪等の大都市は勿論、他の都市も此問題で悩み抜いて居る。問題の中心點は住宅の不足にあるが、之は現在に於て住宅建築、貸家業といふものが主として投機者の手にあつて、需給自然の調節が妨げられて居ると、並に建築材料の價格が非常に高いとの二原因に基づくものである。其結果家賃は甚だしく不廉となり中以下の賃給生活者は其收入の半を割いて家賃に投せねばならぬ様な有様である。米國の統計に依れば、諸都市に於ては人口の八割八分は借家住居である。最も家屋所有者の數に富むデトロイト市に於ても、自己所有の家屋に住む者は僅に住民の三割餘に過ぎない。國家が産業化するに従ひ、借家住居が多くなるのは自然の數である。何故ならば、國家が産業化すればするほど、人口の移動が絶えず行はれ、自己所有の家屋に安居するものが不可能なるからである。此趣向は最近我國に於ても頗る顯著となつたことが看取される。英國に於

ては住宅は健康者の監督下にある。そして過去數年間に企業家が増築に力めなかつた結果大問題となつた所の住宅問題を解決しようとして居る。住宅を資本家の手に委ねて居る國民は是を此問題の爲に悩まされる。世界列國の中で我國の死亡率は甚だ高く、人口千に對し死亡率二〇・二を示して居るが英國及ウェールズは二五・七、新西蘭は僅に九〇・二に過ぎない。此の如く不良なる健康状態を改善する爲には、眞先に住宅を改善する必要がある。政治云々つても要するに生きるものである。凡ての社會生活は善く生きることにあらねばならぬ。シドニー・ウェッブ氏は其著「社會主義と國家の最低賃銀」中に最低賃銀は人の健康的存在を可能ならしむるに十分なる賃銀のたと云つて居るが、健康的存在は、確に社會生活の目安でなければならぬ。又ノンバート氏は住宅は最低、七間を有さなければならぬと云つて居るが、俄に斯くの如きを望むるは不可能であるし、我國に於て特に其感が深いのであるが、問題の問題も住宅問題中重要な地位を占めて居るとは無論である。要するに住宅問題の解決が出来なければ百の衛生會あるも國民の衛生状態を改善する望は極めて乏しいと云はねばならぬ。大部分の市民は借

家住居である。そして此大部分の市民の中更に大部分は殆ど文字通り蟻屋さへ稱すべきものの中に住んで居る。此等の市民に日光と新鮮の空氣とに充たされた住宅を最も合理的な家賃で供給する爲には、住宅事業の社會化が必要であり、若くは國家の監督が必要である。我東京府や市で色々に關する計畫もある様であるが、日數はかり立つて一向目鼻が付かぬ。噴ふに食はあつても住むに家はなと云ふのが今日の有様である。住宅難は諸々さ中流下流の市民の周圍に押寄せて居る。市會が整清され、新市長が出来た。此問題の如き素より眞先に着手するべきものであらう。

藤男出馬要請

都下の實業家連は藤男の市長たることを念を絶たず、其出馬を促すべく一の申合をした。今日の東京市政を調理すべく、凡そ男程の適任者は容易に見付からぬと云ふのであらう。市會の改選は無論必要であるが、解散や總辭職など云ふ荒療治を加へるにはまた間がありさうだ。乗懸つた舟のともあり、市民は先づ此市長問題から解決するのが賢明な遣り方である。更にも角市民の一部が市政の爲に瀕死した事夫自身の中に多大の意

味が發見される。強ち後藤男の出馬を促すに限つた譯ではない。此際市民は一齊に踵を擧げるがよい。そして市政の革新に努力するがよい。市は自分だ。自分のものだ。自分のものは自分で處理するが當り前だからである。

後藤男が市の有權者に質問書

諸君は眞に余が市長たることを希望せらるゝや否や

市會の推薦は飽くまで斥けて

花々しく大芝居

市會が全會一致を以て市長に推薦するを以て市長は推薦されたが、後藤男はキツバタを断つた前に市民の意見を問ふの必要がある。『假令如何なる人が自分を説かうが断じて市長にはならぬ』と云ふことである。今日は滋澤子爵が市會の依頼に依つて

▲出慮を促す 可く男を防ふ由であるが男は此に應ぜんとする意志は毛頭ない。『何が故に男は斯くの如く断乎として拒絶するか其理由如何』と記者は男の眞意を問ふ可く男の意見を叩いた男曰く『余は決して市長たることを望むものではない。唯現在の市會議員に依つて推薦されて

私は一市民として 出馬を懇請する

平谷氏に泣き付かれて 上京する滋澤子語る

▲市長になる ことを欲しない。現市會は今や市民の疑惑の中心になつて居る。全市民に依つて疑はる市會に推薦された市長は同じく全市民に疑惑の目を以て迎へられる。余は其を欲せぬのである。市民に依つて選舉された市會であるから平日ならば市會の意志は即ち

▲市民の意志 と思ひ可きであるが今日の市會は既に市民の意志を害し代表してゐない。斯る猜疑の中心となつて市民より較もすれば敬視されんとして居る故に

出馬を

後藤男に口を切る

後藤男に嫌はる

衛生課の悪き市會議員よ。足下等は何時迄、其の職に停まらんとする乎。

足下等を選舉したる市民は、既に足下等に對して、斷乎として辭職せんことを迫りつゝあるは、

足下等既に熟知する處ならん。而も尙其汚れたる手を以て市長を推薦せんとするの行爲は、市民が其の圖々しきに驚き、其の耻を耻とせざるを堪えんことを知らざるや。足下等が全會一致を以て、

選舉したる後藤男は、今や全然足下等を無視し、否な足下等の選舉に依ては、斷じて市長たるを欲せざるを宣言し、足下等を差置いて、市の有權者に直接其意志を問はんとする手段に出づ可く、決心したるなり。

嗚呼、市會議員等は、既に徹底し、其の信用を失し、殆ど罪人視するに至れり。彼等はこれをし、尙自ら省みず、蓋々として市長選に奔走せんとする乎。全市民は、足下等の辭職を強要す。足下等が全力を擧げて推薦したる候補市長は、足下等を認めず、足下等を嫌うて此を受けざるなり。足下等は打たれても、叩かれても、

飽くまでも嘔り付かんとする乎。吾人は最早や、不正分子に向つては、何事も言ふを欲せず。市會議員の正義分子よ、爾等斷乎として、此の汚れたる機關の因より去れ。去つて而して其清きを市民に實證せよ。是れ爾等の幸福にして、且全市民の喜ぶ處なり。

市の廓清は、現市會の總辭職を待つて始めて、出現することを自覺せよ。

大評定

首相に頼み込む

祕密會後の澁澤子等が

本日打揃て訪問

後、男に御けを打たれて、まさ
に眼ももの土端處に遺つてゐる。同
馬市會議長は、理が非でもの結果
の大童で十二日の正午に丸の内中
央亭に、この露お傳の刺とはかり
澤澤に時やその他前日都市研究會
の席上で藤野君き上げの賛成意志
者を招んで然るべく各位の御力添
へと泣き入れの誠懇協力を期し
たものだ、會費四圓の徴立などは
この際窮乏の限りでないが、語は

慎重に

して頗る眞面目

といふ意味から酒抜きの淡泊と
込みの手早く午膳を済まして別室
の祇待間といふ廊下だ、大倉財や
近藤康平男、豊山市太、加藤正義の
兩氏に、矢野龍太、阿部鶴藏氏な
んとも見えたが、輪流の集まり
ではない、藏部金太郎氏や杉山友
三郎氏など十六名程の集が揃ふ
そんな裡に戴れて餘儀を戴の彌生
嬢が大急ぎで飛込んで来た、何れ
市會館から斯々の次第につき二
つ三つ市役の役め廻り後、男の

馬を

出馬を お願ひしたいと
製願に口を切ると、遊澤子が御

尤もの次第、皆さんもこの際に御

援助を仰いでゐるの援助があつた
諒の末、遂に原直樹と床次内務大
臣の手を離れては下交を積み堅
の作戦に出ることとなつた、内
樞に電報を掛けるやら花香を鑑
るやら、諸侯交遊の最として頭角
が露澤し、近衛、加藤、山田の四氏
が滯留された、四氏は今十三日打
揃つて館内、内樞を訪問して後援
の承諾を頼み込むといふ筈である

溫澤子藤男

會見顛末

內相依囑經緯

中矢幸徳協會の要領書には當日午前十時後廣府と自邸に訪問し市民として初めて出陣を懇請したる様子を報告したるが其處に男は下國獨立の產業調查機關設置を急務とするを以て今迄に市会たるは得ざる事情あり、**敵も男を擁護**一致以て懇請したる現在の市會は内部に激濁せる潮流を留してゐるを以て、**敵も男を擁護**は再も角

此際の

絶立は不可なり

との説に對しては決して中長餘任の渾出とせざるを答へたりとありたれば國體の主題は茲に一變し勸業調查機關は政府と直接關係あるを以て渾出は原旨に出會見のなるに相違する事とし大て前記の姫に主務大臣としての床次内相にも陳情し出直を總而せしむる事に決せし次第なるが兩相共に罷不在に俾十三日歸京の上が渾を開始する事となりしものなり

大成會の由合

東が市會大議會にては十二日夜五時半より津東警察部に於て總力を開張各新聞長町氏を除く外各部十名の市議員が當の市長秘書に就て協賛を取れたるが結局(一)福島市會議長は市會の決議を尊重し速に市長選挙の結果を市達せられん事を誓ひ(二)後援男は前都市政の現状に鑑み市民の輿論を容れ身を提して市長に就職せらるゝは尤より歡迎する處なりと雖も本會は此上市面日々萬くる手段を論じてまで里の出處を欲せず

との中合せをなし午後十時散會

澁澤子を取巻きて

藤男説き落しの大評定

梶島傳一、郷誼之助、服部金太
郎、藤山雷太、加藤正義、中島
久萬吉、有賀長文、大橋新太郎
鎌田榮吉、大倉喜八郎諸氏外二
十餘氏は皆薄子と共に十二月朝
丸の内工業俱樂部の一室に會合
市長問題の善後策を協議する筈
なりしも折柄同俱樂部に都市研
究會の催さるるあり且又暖房裝
置不完全なるの故を以て突然中
央亭に場所移し午餐を共にした
る後會議を開きたるが協議の結
果は本稿締切迄判明せざりしも
一個の決議文を作製し之を齎し
て後藤男と最後の睦話談判をな
す筈にて當日出席の都市研究會
員市會の交渉員中より新たに數
名の委員を選びて工業俱樂部に
赴き極力交渉の任に當るべし附
つて後藤男の起否は大體十二日
中に日暮附くべき模様なり

中央亭に集り

口説く打合

目鼻が付きさうと桐島氏は語る

午後から愈會見の幕

昨日未だなく終つた後藤男爵と
濫澤子爵の會見又子爵を中心
市會其他關係者の會見は引續き
今日午前十一時から東京驛地下
業俱樂部に於て行なはれる筈で
あつたが會場の都合で丸の内
中央亭と變へ市會關
係其他何れも中央亭へ集る十二
時濫澤子爵は自動車を驅つて來る
と輔佐係の桐島新市會議長が連
早く玄關先へ出向へる相前後し
て藤山雷太中島久萬吉男有賀長
文加藤正義藤田榮吉服部金太郎
氏等が續々と

馳せ集る 藤島

の說も起つて取敢て關係者の内
相談を行ひ實行委員を擧げて工
業俱樂部に於ける午後都市
研究會に 出席する藤
男を訪ね再び交渉を重ねた方が
農策であらうとの説が多數を占
めて居た桐島新市會議長は語
「晝夜兼行で奔走したが漸う今
日の會合で目鼻は付けられさう
です藤男の出處は是が非でも
知して貰ひたいと思ふ我れに
ても

打合せの 結果でなく
ば確心は得られませんが真進
する心算です」と決意の固い証
を示して居た(午後一時記)

原首相床次内相まで引出して

後藤男を説く計畫

濫澤子昨日一人で行つてお断はり

問題は今日の會見

昨日後藤男市長推薦會を丸の内
工業俱樂部内に開く筈であつた
が暖爐が毀れて寒いとあつて俄
に其會場を同所の中央亭に開い
た、當日の會合者は

産婆役を 承はつた
濫澤子爵を始め大倉、近藤、郷
中島の四男爵及加藤正義、井上
日銀總裁、福原、矢野、藤山、
山科、杉原、和田、安田、有賀、桐
島市會議長の十六名、一同は午
餐を共にした後別室に於て推薦
に關し秘密會を開いたが其席上
濫澤子から昨午前十時半藤布
櫻田町に後藤男を訪問したが

其際男は 例の産業調
査機關を楯に取つて容易に承諾
を與へなかつたといふ報告があ
り、夫れより一同は市長餘儀不
具の苦衷は大に諒さるる吾々も
市民である以上行儀んで居る此

の問題を等閑視する事は出来な
いから協力其實現に努力すこの
申合せをなした後、後藤男をし
て市會の決議同様東京市長たら
しむるは到底尋常一様の方法で
は行かない、此れは何うしても
最も

有力な筋 から懇請し
て貰ふ必要があるとあつて結局
主務大臣である床次内相及び原
首相に今日迄の事情を訴へて共
に盡力方を依頼する事となつた
其處で濫澤子、近藤男、加藤正
義、藤山雷太の四氏を委員に擧
げた結果委員は先づ床次内相を
訪問すべく官邸に電話をかけた
が生憎不在であり一方

原首相も 昨日は相州
片桐の別荘に在つて不在の爲め
本日内相及び首相の都合を問合

脈は未だある

濫澤子爵談

「今日(十二日)の午前十時半唯
一人で後藤男を櫻田町の自邸に
訪問した、そして約一時間半男
と會見して正午引下つたが

會見の内容、夫れは言
へない、自分の乗り出したのは
市長問題で永くゴタ付く事は重
一東京市の不面目であり、且つ
紛糾せる東京市を救ふには男爵

後藤男辭す

後藤男東京市長を辭す、勸説する者百方多端、遂に應諾せざるが如し、ナリたい人は何程有るべし。開を和説、推薦しては如何、實に世の中には適當の者が少しと見ゆ

一票の効力

世は民衆の時代なり、多数の時代なり、聖人孔子の一票も、悪人盜路の一票も、その効力に於て同一の世の中なり、誰か好んで徳を研かむや、智徳を研く無用の時間を利用して、實地に費やし、脅迫に費やし、運動奔走に費やすに若くすと思ふ者あるも亦宜なり

享樂の風習

後藤男亦所謂成功者の一人なり、何をか成功といひ、不成功といふ金あり、地位あるは成功なり、そのなきは不成功なり、所謂成功不成功といふものは此の如く淺薄なる觀念なり、必竟享樂の觀念に原づく時弊を憂ひ、將來を慮るものは、先づ享樂を脱しむの風を養ふを要す

簡易の生活

衣は粗を欲し、食は淡を欲し、住は隘を欲す、是に於て乎、生活に費用を時間を要すること少し、儉然として錦衣、玉食、美屋を流し、眼下に見下すを得べし、眼下に見下しつゝ、智徳を以てかれを壓倒

す、亦以て男兒の一快事たるを失はず、今の青年にして此快事に志す、幾何

青年の特色

青年は青年の特色あり、長處あり、世間に交渉が故に、その思想純潔なり、利害の感に動かされざる也、青年が老人に追隨し壯者に媚するに在れば、青年の特色、長處、蕩然として空矣

青年の擡頭

青年にして享樂を貪る、老壯者に對して頭の上の時節ならむ、而して社會の進歩、向上する亦時節なからむ、誤解する莫れ、老壯者に對して頭を上るさいふ、決してかの老人の上に坐し、壯者に先たつて行く不遜、無禮の謂ひにあらざる也

直接の選舉

市長の選舉を市會に任せずして、市民の直接選舉に附すべしこの聲往々して聞ゆ、亦これ一方法なるべし、試みに小都市に實行して、其結果を驗するも面白からずや

丈夫の覺悟

人の毀譽褒貶はアテになるものならず、爾獨一致にて推薦したる市長も、一二年にして無能呼ばれりせらる、例は多々あり、大丈夫は毀譽・褒貶・成敗・利鈍の外に立つの覺悟あるべし

大正九年十一月廿二日

後藤自重

城南 誌士

△愈々後藤も市長になつたネ、周
圍で笛太鼓で囃せば直きに浮か
れ出すのがアノ男の性分ぢやで
ノー、例の白哲一派は頻りに止
め役として居たが何の効もなか
つたネ。

△サテ後藤が東京市長になつた以
上は何か仕なくばなるまいが。
滿洲や臺灣で無人の荒野で仕事
をしたのとは一寸勝手が違ふか
らネ。

△結局本人も慊氣になり、市民も
失望して止めるとでもなければ
夫れこそ後藤にしちや一生の損
失ぢや處で政友會邊ぢや、後藤
を市長に祭り上げたのを狼を檻
に入れた位に安心して居るとい
ふネ。

△タチの悪い連中ぢやから、此度
愈無條件で市長に祭り上げると
後藤を瘻物にして出さう位の事
は直ぐ考へるのぢやから溜まら
ないよ後藤たるもの少しく自重
すべしぢやノー。

△何、市會議員の中には今にも自
分の體に火の付きそうな奴があ
るので後藤を祭り上げて置いて
彼に絶つて問題と打切つて貰ふ
といふのもあるとハツ、ハツ、
それぢや後藤は市政革新の爲に
市長になるのぢや無いネ。色々
な事に昇がれるのが後藤の缺點
ぢやから益々以つて自重の必要
があるにノー。

産調財源難

大藏省反對強硬

後藤男の提唱に係る産業調査機關
は原首相より會見に於て追加豫算
として必ず今期議會に提出する口
約束を促さるゝ云ひ又内閣側は於て
は財政上へ許すならは云つたま
で、必ず提出云々を約束したと雖
も、ないさも云うて居る然らば其間
題の財源は如何、大藏省當局の設
明に従へば大正十年年度豫算編成の
際政府の確言に所有して居た剩餘
金は、大正七年度及同九年度豫
算計上、大正十年度より同十三年
度迄の財源に充當すべき費途確定
のもの一億四千八百一十一萬圓、大
正九、十年年度の豫算財源に充當
し得べき剩餘金二億二千八百廿
九萬圓合計三億六千九百一十萬圓で
あつたが、この一億四千餘萬圓は
内十年度分として三千七百六十七
萬圓を明年度豫算に繰込み、同一億
三百餘萬圓を剩すも之れは十一年
度以降に於て既に豫定割當額の定
まつて居るものであるから今更
何をもすべからざるものである、大
藏省は、この二億二千餘萬圓中十年度
豫算編成の際、入不足補填財源とし
て一億五千六百萬圓を提供し、其
餘額約七千餘萬圓を九、十年年
度の追加豫算に使用し得る事とな
つて居る右の如く十年度豫算に未
編入の剩餘金は現在合計一億七千

三百萬圓を算す、雖も實際當期議
會に使用し得べきものは僅か七千
萬圓に過ぎぬ、計りてなく九年度豫
算編成の際、何れを見込んでの
年額割當決定を實行しなかつた關係
から同年度の決定額、豫算事業中資金
不足の爲、事業の滞滯を來せるもの
極つたから、大藏省の建費追加
一千五百萬圓を初め各省より、大
藏省に於て追加を提出し來る九
年度追加豫算は、僅か六千七百萬
圓の巨額に達し、其全部を各省に
か十年度豫算に追加し、上する事に
決定し居る、か年額割當決定の提
供にすら及ばざるの他、なからんとす
る状況で、已むを得ず九年度追加
費にすら大赤字を加へて、五千萬圓
程度に打ち切らんとせざるを得ない
現状である、従つて産業調査機關の
設置が如何に必要となれば、右の
如き財源難の全日、後藤男の要求通
り、應に着手せん事は到底思ひも
及ばざる所であらう尤も財政とし
て多少の無理をするならば大正九
年度へ繰越納入の事となり居る八
年度官費金の四千五百萬圓もあ
り、又九年度歳入状況も現在の勢
を以てすれば、一億圓内外の剩餘を
生ずべき形勢であるから、後藤男の
計畫に相當の變更を加へ、明年度に
は單に其額だけ出して置くやうに
すれば、又何さかならぬ事もあるま
い、大藏省は財政の現状に鑑み、照
る後年度に於てやうな追加事業は
一應不安定の財源に對する是れ

後藤男の腹の中

原床次兩相の勸説があつたら
その豫想は推察にお任せする

◇と……此際聞落されぬ一言

現況に適應した處置
を取る者が即ち最良の政治家と
云つてよいと言つて居る所が良
の政治の如くに思はれるやう
になつたと思ふ。大いに若返
る都府の意向を済ませ再
び男の室に歸つた男爵をおさへ
て「滋養」府以外に原總理大臣
原次内務大臣に對し男の就任
を建議すると云ふことである
が若し原床次氏から男に交渉
があつた場合には……と如何に
答へられるか。質問を發した
男は「それはまた今日から

毎日繰返しして居るの
で面白いことは何にもない」と

鼻眼鏡をかけて室に這入つて來
て一時市長談に花が咲くと男は
十八番の「出たい、出たい」とは
出たいが引られないのだ。産業調
査機關に就てはまだ直の所流
石の君にも本當に其會の必要
を感得して居られないので……
況や他の一般人士に於てをやだ
と氣を挫くのである。やがて食堂
が開かれ主人席に着いた男は意
氣盛んに一人でメートルを
ゆけ「アリストートルは最良の
政治家は理想家でない國家の

て來た男の答辯には此際聞落
されぬ言葉もある更に男は言
を繼ぎ「滋養」子にも二つ受持ち
の出来ぬ譯を能く御話して置い
た。子爵はそれでは兩方出来る
やうにして呉れねば宜しいので
せう、それではさうしますとの
御話であつた。云々と語つた男
は即ち「滋養」子爵の所請

兩方出来る

やうにな
れば用處するも差支ないといふ
のであるか。意問題に迷宮に
這入つて來た（東京電話）

産婆役の子爵が來た

市長が生れるか 什か

後藤男の承諾は大疑問

東京市の産婆役たる滋養子爵の承諾は大疑問
は十一日午後客時十二分東京電話で下さるか付うかはお目にかい
着大磯別邸より夫人同伴にてた上でなすれは願ひません。私
會釋しながら自動車にて同子事熱誠を以男に會見し付うして
務所に到り晚餐を喫したる後午も承認して貰ふ心算を案成
後一時過より丸の内工業俱樂部がありましかとの質問に對し
にて當の後藤男と會見した會見は滋養子爵の言葉に對し
前子爵は語る「私は養育院の院長の言葉に對し滋養子爵は
長々として居るので夫等の事務のて居る尚後藤男會て滋養子
上から早く市長を決定して貰はし一度は市長になつて度い
なければ困るので私個人とと語つたと云ふ説に對し滋養子
して後藤男お願ひに歸つて來て然る處事はありませんと否
たので別に録行委員から頼まれ認して居た（東京電話）

を指して他にないと思つて微力を盡して居るのです、男爵は

◆新聞紙で報じて居るが如く先づ新なる市會を作つてからなら言ふやうなそんな考へは持つて居ない様だ、全く男爵の抱負たる産業調査機關が立つて居る様にも思はれるが、全然絶望ではない、一線の望みは十分あると思つて居る」

市政の刷新問題

後藤男の名士招待會 市長問題一層渦巻く

の諸氏にして先づ開會野内田都
市研究會副會長より簡單なる挨拶
ありたる後藤男市長は市政刷新に
關し大要左の挨拶を爲したり

會長挨拶

市政刷新に關し親しく御高見を仰
かんが爲に御來賓を乞ひたる所幸
にも御衷の在る所を察せられ各位
の御會同を得たるは深く感謝する
所なり時勢の進展に伴ひ市政刷新
は益々其の重要な程度を加へ外
りしにも拘らず我が國都市の自
治行政は未だ極端に遅れたる不
振の感無き能はず殊に帝都たる東
市の現状に至りては帝都たる東
へざるものある事今更言を要せ
ず然れども往々に當局者を攻撃し
其の更迭を迫り或は市會の解散を
叫び市會議員の選挙權を取消する
も若し百弊の源泉を探究して之を
廓清せず例之市民にして選挙投票
の神聖に對し從來の行動不十分な
ること自覺することなくれば幾
度市長を換へ市會議員を改選を
更むるも畢竟皆同一弊害を繰返
すに過ぎず要は市民の自覺に俟つ
あるのみ申す迄もなく自治政治は
各人が其の共同生活を共に自覺頭
上の問題と心得て其の責任を竭す
に在りて單に一人若は数人の當局
に其の責任を歸し若は制度の不備を
難するのみに止まるが如きは本末
顛倒の沙汰なり東京市政の振はる
るは即ち御互の責任なり第三者を
責むる前に先づ第一に自己を責め
ざるべからざる問題なり即ち還

來會者 岩永裕吉、石黒五十
二、井出繁三郎、河野幹雄、伊澤多
喜、森村太助、渡辺雄幸、林田
龜太郎、服部金太郎、井田益太郎
徳富第一郎、大倉喜八郎、橋本新
郎、大久保利武、岡田正平、和
田豊治、渡邊誠、加藤正幸、金
美五郎、神田清藏、樺田千之助、吉
野作造、谷森眞男、塚本清治、仲小
路康、中嶋久高吉、永田秀次郎、長
然、齋藤内野仙一郎、野村達治、長
田静太郎、柳原義光、柳田四男、矢
野恒太、安田善次郎、山科龍藏、松
田源治、松山茂三郎、松方廣、松本
幹一郎、松井茂、藤山雷太、福原有
信、近藤廉平、網城之助、小橋一太
小松謙太郎、江木義、有賀長文、安
藤正藏、荒川義太郎、佐々木男、助
指田義雄、湯原元一、志保義次、下
関忠治、新渡忠三郎、廣岡宇一郎、
杉原繁三郎、鈴木梅四郎、他
都市研究會員 後藤新平、池
田安福、内田嘉吉、前田金門、
藤原俊雄、佐野利壽、桐嶋一

に當りて有権者として如何なる心
得を以て臨みしや又市政上の問題
に對し市民として如何なる心掛を
有し如何なる態度を採りしや悉く
自問自答して衷心より其の責任を
痛感し各自が眞に其の責務に就て
奮闘する事に依りて初めて問題解
決の曙光を見る可きのみ吾等敢て
市民を指導する言はず市民と共に
に切磋して自覺の道に一步を進め
んとする時に方り各位の如き平素
來深く尊敬する先覺者同輩の士
の御會同を煩はして隔意なき意見
の交換を乞ひ自治刷新に關し適當
なる指針を得ば幸之に過ぎず吾等
同人數年來都市研究會なるものを
組織し都市刷新に對して研究を遂
げ來りしが今や觀望すべき時に非
ざるを以て茲に此の會合を主催した
る次第なり而し此の會合を主催した
る各方面の先覺者諸君の一室に會
して談話交換を得るは洵に得難き
好機會なりと信するを以て今後
時々此の種の會合を催す事の願
望を度度し勿論之は都市研究會の
擴張とか宣傳とか言ふが如き意味
が毫も在るや否やの問に偶々本會
が唯此の會合の除却を勧めたる
次第なれば今後と雖も斯る場合に
は本會を以て之を否と問はば廣
く各位の如き方々の御會合を願ひ
衷誠なく論議を盡され其の結果進
んで市民に周知せしむべき事あら
ば満當なる施設を講ずる程致度も
のなり一言開會の挨拶を致す

夫より内田副會長は左記決議案を
本會者に配布するに之が大
體の説明を爲し更に
議事の進行を圖る必要上會長を
設け且つ會長には幸ひ後藤男都
市研究會の會長なるを以て氏に
本會の任を煩はしては如何
と決議し懇々之に決したれば
即ち後藤男會長席に着き直に

決議案

一、開會の趣旨に賛し本會を繼續
開會し自治刷新上の重要事項に
付き審議を凝らし其の結果を市民
に發表して自治刷新の進展に資す
ること
二、本會の決議を以て案を具し市
公民の意見求め自治刷新の振興に
資すること
其の市公民の意見を徵すべき事項
左の如し
一、市民は自治制に依りて與へら
れたる權利義務を未だ十分に盡
さざるの感なきや
二、果し之に在りせば十分に市民
たるの權利義務を盡すの途如何
三、現行制度上に於て刷新を要す
ざる事項あらば其の要目如
何
三、此際市民の間に前項の趣旨を
徹底せしむる爲各區に講演會を開
催すること
を議題としたるに第一 岡田卓平氏
は
此際市民の自覺を促すは最も時機
を得たるものにして本決議には大
賛成なり
と述べ次で齋藤第一郎は
市政の改善を圖るは今日可りの
緊要事なり其之が實行は相當困難
な件ふもなれば此等の點には十分
考慮を要し以て徹底的に當分の
方針を貫徹するを要す一例を舉ぐ
れば余の關係せる青見院の如き小
事業すら尙ほ完備を貽し之が改
革刷新を断行せんことを之が又影
て市政を改善せんことを初めから
此時に於て本決議を爲し大に改
の目的に即つて努力せんことを
余の双手を擧げて賛成する所なり
と辯じ夫より仲小路康氏は
余も亦本決議に對して賛成の意を
表すものなり而して先刻後藤男
の挨拶中に述べられたる「若し百
弊の源泉を探究して之を廓清せし
め市民にして選挙投票の神聖に
對し從來の行動不十分なること
を自覺することなくれば幾度市長
を換へ市會議員を改選を更むる
も畢竟皆同一弊害を繰返すに

更に會合

本日遊澤予其他

市政刷新に關して後藤男の名士招待會散會後市長推薦に關する協議を閉きたるに就ては大體別項の如くなるが同協議會は藤山實大、遊澤樂一、鎌田吉男、他の諸氏より特別交渉委員を設けて直接後藤男に對する交渉を爲すべく提議したる中仲小路廉、安藤正純、藤田徳則氏等の反対ありし爲め結局該問題には有耶無耶に擧り去られたるが當日は後藤男の招待會とバふ一理由ありし爲め押しして正式の進行を圖らんさせざりしも遊澤子を中心とする後藤男推薦の大多數は更に此の問題に關し具體的方法を講じて徹底した後藤男の驅逐を促さんとし別記協議會散會後更に一應の相談を試み今十二日再び某所に會合することに申合つたれば後藤男の市長後任問題は依然繼續し或は意外の展開を見んも知るべからず、或る有力なる一部に於ては後藤男の出處を堅く信じて疑はざるものさへありと云ふ

後藤男推薦協議

交渉委員の設置問題
結局不得要領に終る

市政刷新に關する後藤男の名士招待會は別項の如くにして午後三時二十分更も角も主題を議了したるが引續き市長問題に移り明頭遊澤子は先刻藤山君の提議せられたる當面の問題即ち後藤男の市長就任諸君に關する件に就き此席上に於て諸君に一應諸り度き議あり遊山君は後藤男の自覺を促みたり共後藤男は既に十分自覺せられ居る事と信す故に今は自覺に依る實行に在るのみならず此際特に若手委員を設けて直接後藤男に其實行方交渉しては如何と折衝會長席に在りし遊山君は一身に關する問題なるを以て姑く退席すべしと會長席を去つて遊澤子に譲るや鎌田吉氏提議は當を得たるものなり今此處に都市研究會懇談會有志に依つて成されたる決議もあれば是非共後藤男の出處を希望すさて手にせざる左の決議文を朗讀せり

決議文
東京市の現状は大に憂慮に堪へざるものあり幸ひ都市研究會々長後藤男の市長に就き最善の努力を爲さん事を期すさて右の意味により交渉するに於ては何等の支へなかるべしさて一種の妥協意見を述べたるに參照者の大多數は之に同意を表したりしが中小路廉、淺田徳則氏等が暫く何れにも決せざりしが折しも濱口雄幸氏より勸諭ありさて本提議に對する賛否は之を別とし對者あるに於ては過場一致を期し能はず、去りて斯の如き問題に單に多數、少數に依つて決すべき性質のものにあらずれば此の問題

決議文修正

東京市の現状は憂慮に堪へざるものあり都市研究會懇談會有志は此際東京市政に就き最善の努力を爲さん事を期すさて右の意味により交渉するに於ては何等の支へなかるべしさて一種の妥協意見を述べたるに參照者の大多數は之に同意を表したりしが中小路廉、淺田徳則氏等が暫く何れにも決せざりしが折しも濱口雄幸氏より勸諭ありさて本提議に對する賛否は之を別とし對者あるに於ては過場一致を期し能はず、去りて斯の如き問題に單に多數、少數に依つて決すべき性質のものにあらずれば此の問題

過ぎず云々」に就き一言し置かんと斯の如き狀態に置かれあるは決して二に止らず、若し今日情勢の探察更に一步を進めんには殆んど全國に及ぶ云ふも過言にあらずして東京市今回の事件の如きは偶々其一面を暴露したるに過ぎず余の間は之を以てする所のものは即ち斯かる審裁権にまさる市政に對し都市研究會が單に審議詰りの態度を以て進まんとするや又は全國に亘り徹底其本領を發揮して徹底的の改革を斷行せんとするの態度を以て進まんとするや否やの問題なり余は此際都市研究會が後藤男の方針を以て押進まん事を信じ即ち本決議に賛成を表す大次第なりさて賛成意見を述べ續いて藤山實大氏は

本決議には滿腔の誠意を以て賛成すべし市政の繁盛敗は今や一二に止らず雖も東京市の如き其最も甚しきものにして實に市將來の爲め憂慮に堪へず幸ひ今日東京市會は滿腔一致を以て後藤男の市長たらん事を決議せり市會乃ち市民の熱誠を代表したるものなれば此際後藤男は此熱誠を容れて大に東京市の爲め御活動せられては如何と切出し愈々市長問題に觸れんとしたるに後藤會長は

藤山君の御發議は余が一身に關係あるを以て余としては此際退席するが順序なれども今は其問題を議する場合にあらずして本決議の可否を決する時なれば市長問題は後刻に廻されたい

と告げ之に取合す更に矢野恒太氏の賛成意見ありし後濱口雄幸氏は決議の趣旨には何人も不同意あるべからず余は大に賛成する所なるが市民の自覺を促すと同時に後藤男又自ら自覺して市民の熱誠を容れられん事を望む

と結び既に意見も大體盡きたるを

は後日に譲ることゝ原案、修正案共撤回しては如何
と仰哉し結局濱口氏の提議通りに決して同四時二十分散會したり

東京府會

第五日議事

東京府會第五日は十一日午後三時三十分より開會、花井議長より阿部府知事は病氣引籠中にて當議場に出席し得ざる旨の通知に接せり
と報告し畢つて前日に引續き衛生病院費等の質問に移り村田徹太郎氏と清水繁樹應衛生部顧問にトラホーム及結核療養所を關し應答あり村上隆八、大西朝光兩氏と衛生部顧問に同様の應答あり久保三友氏は赤十字病院を關し移轉したる理由及松崎病院は各私立病院に比し入院患者少きは經營方法宜しからざる爲めならずやと質し佐藤應務部長
患者少なきは當局に於ても遺憾とする所にして今後は努めて患者の收容を計り尙ほ其他の施設經營方法を關しても調査すべしと答へ小森七兵衛氏再び同様の質問を爲し鶴岡英次氏と佐藤應務部長に公開問題に關する應答あり



後藤男の市長問題
以來例の産業大調査機關問題が又も
世上に喧傳されて
來た男の提案以
來もう殆んど三年近くなるに拘
はらずまた海のものとも山のものとも分らないのだから男自身の焦れるのは勿論、世間にも何なるかと怪奇の眼を睜つてゐるものが少くない其の矢先ついで「御安心なされ、産業調査機關は急設置に決定した」と後藤男に申入れたと云ふ噂がバツと立つた、而も其お使は首相の懐刀横田法制局長官と云ふのである併し横田長官が御使を承はつたといふ日の同時刻、當の長官は首相官邸に在つて例の頭腦を抱へながら何等御存じなく「其問題は法制局では何時でも立案出来る準備があるが、目下は首相と後藤男との間に交渉中で別に話の進んだやうには聞かぬ」と語つた事實があるさうすると問題は何うなるのか、焦れつたことは山々だが天機未だ窺ふべからずとして置く外は無い

市長になるか ならぬか

後藤男の長廣舌

▲何に、石塔に前東京市長後藤新平は否かされるだけでは語らないといふのが東京市長の地位は其んな侮辱したものでないのだ、現在の東京市の状態は如何だ、之を此儘に放任して置く結局如何なる事になるか解らない、道らうと思はば市長として進めることは幾らもある全會一致を以て選舉された以上我輩も其好意を享け遣つて見たいのであるけれども、今や我輩は産業調査機關といふ大問題を前にして居る若し之が愈々實現さるゝといふことになれば我輩を置いて他に之を運るものはないのである、原君も君でなければ到底外に之を運り切れるものはないのだから宜敷願ひを豫て我輩に言つて居る
▲若し之が出来ないとなると政府も國民も未だ大調査機關設置の理由を適切に了解して居ない結果を見る外はないのだから、我輩は之を十分に理解させる爲めに、全國を行政として一大宣傳を試みる積りであるから、東京市長の好意を無にするとは如何にも氣の毒であるが調査機關の成否執れにしても吾輩は之を引受くることが出来ないのを甚だ遺憾とするのである市會の交渉委員諸君からは調査機關は重寶機關で市長を被れて遣れぬこともなからう市長としては早

に市政の大體を定め輪廓を造つて貰へば澤山であるから半年でも一年でも是非遣つて呉れといふ様な言葉もあつた様であるが
▲我輩が一旦決心して苟くも市長となつた以上單に市政の輪廓を造るだけのもで満足する譯には行かない、四年間の任期を果す決心で飽迄徹底的に運るといふのが我輩の本意である故半年でも一年でもいふ様な姑息な考へでは市長には固よりなる氣はないのだ、結局二足の草鞋は履けないといふの、現在我輩の考である、市政重きが調査機關重きといふ様なことは問題でない、市政と云ふ調査機關と云ひ之を擔當して進り切れる人があるか無いかの問題に歸着するので、市政の方は我輩が運らなくとも他に運れる人は澤山あるではないか、然も調査機關に至りては原君も言ふ通り我輩を置いて他に運れるものはないのであるから我輩は調査機關の方に重きを置いて居るわけのことである
▲我輩が市長に選舉されて以來我輩の市長たることは牛刀を以て鶴を刺くに同じか、或は政友會や憲政會が手を拍つて喜んで居る、市長になることは見合せたら宜からうといふ様な理由で市長たらざることを忌むて呉れる者もあるが、之は我輩の心事を十分に知らないからのことで、我輩が牛刀たるや否やは我輩の知らない處

であるが、今日の市政は兎に角牛刀を用ふべきの時で刺身庖丁や菜切庖丁では到底行けるものではない牛刀云々の批評は餘りに市政を侮辱した低能者流の言ふことである、政友會や憲政會が手を拍つて喜んで居るといふ様なことは何を意味するか知らないが例の通り我輩に未來の總理大臣たるの野心があるものと思つてのことであらうが、他の付度は如何でも我輩には開きな野心は毫頭ない固より造るさなれば成敗利鈍は眼中に置かず造るのであるから政友會や憲政會が喜ばうが喜ぶまいが願ひる處にありといふものであるが東京の市政で日本の國政でも我輩を要するといふ様な状態を造る我輩は遺憾に感ずるものである
▲夫れから又市會の全會一致も怪しい、我輩が受任を拒絶するだらうと言ふ前提の下に世間體を造る爲の全會一致に過ぎないといふ様な話を持つて來る者もあるけれども、我輩の知る範圍では之も外觀の應酬で市會は誠意我輩を全會一致で選舉して呉れたものさ信じて居る、夫れに又拒絶といふことは如何にも市民の好意を無に亙つた委員の面目を潰すことになるのである氣の毒に堪へない、何れ又交渉委員からは手を換へ品を換へ再三再四の交渉があるだらうが、之に對して我輩が如何にするかは之までの議で察して貰ふ外はない、更めて交渉の餘地がありやなしや

「いふ様な開いた低級な問答に時
間を潰すことは我輩は御免蒙り
たい(男は頗る流暢の口調で)貴
言へは市長は選り度い固より外
の選挙票を成敗利鈍は全然度外
に附し、遺つて見たいのである
貴問題に我輩の生命であるか
ら、之が目的が附く迄は市長を遺
ることは出来ない、實際責任の
遺るとは出来ないのだから我輩の
苦衷は貴外に察して貰ひたい

藤男と老子爵

呆氣ない一幕

口説落しの段取にも
ならずお次は明晩

また脈はあると老子爵

東京市民「百鬼の夜は、御同様に
いまだ市長(御免)と通ける後藤
男の眼鏡の上にながれて居る昨
日の正々老を大蔵の別荘から運
んで来た誰が、老いの親男さ
てどう後藤男を

口説く かはこれも興味

ある見物であつた、それは折も折
後藤男は都市研究會長として二百餘
名の入道工業俱樂部に招て「東
京市の現状は憂慮に耐へない、御
慶なく市政問題の御意見を」と
いふ集まり、開會二時前に仲小路
氏が見えたり後藤男が見えたり、
橋に上る市長候補の諸氏も度々
に入る、蓋澤子が師走の風を白い
頭巻に巻けて来た、またどしく同
島市會議長や加藤正義氏が来て

別室に と男と子と桐島

加藤の兩氏が歸れた、政口説き
落しの幕かとさつたが、間も
なく扉の外に出たも呆氣がな
い、研究會の席では蓋澤老子が人
眼の隅に口説きの機會もなく今日
は空しくお別れとなつたといふ一

幕、「東京市の現状如何」が政
交い論議が済んで後藤男と
蓋澤子と身障者から落下に降つた
眼鏡の老を牛轡に牽らした男相繼
らばの「我輩は脈を申す通り

市長になつてもよいが

産業調査の方がどうするのか、二
つの仕事は出来まいぢやないか
といふ所へ内務省の松田勲參議か
ら口を出して「そりや時代遅れだ、
一入て二つの仕事は出来んことは
あるまいぜ、選り給へ」もこの
酒會化した男相繼向き直つて
「君は物を知らんよ、本ばかり讀ん
だつて駄目だよ、人民をよく讀ま
なければ仕事は出来んぢやないか
ウツフ」と蓋澤を叩ける、その傍
で蓋澤子は

眞面目な顔、デバリと

男の顔を見「今日は……今日は後
藤男爵に市長のお話を切り出す折
もありませんので、明日また蓋澤
が集まつて相談の上、更めてお薦
めし、お願ひを願ひになつて
居ります、私は研究會の席上で緊

急動議を提出し市長問題を懸りま
した所、反対の人があつて今日の
會合は別室だからといはれまし
た、多數御賛成はあつたが強ひて
申すもいかと思ひ打ちりました

私こし ては後藤男爵は

最も適當と存じ、男も又絶対に拒
絶されるところと思ひません、脈も大
いにあると思ひます、別室で會合
したこともそのお話を「と口
籠り再び男を讀みて「別にキツバ
リとお断り喰つたこともないので
あります」子爵の話には口説き
落しの成功をほめかして居たが
四時頃別れくに出て行つた

藤山會頭の

斡旋無効

再考を懇請す

十日坪谷四郎、近藤達見の兩氏
は藤山會頭所會頭に對し後藤
男が市長就任を承諾するやう勸
ありたき言を依頼したので藤山氏
は杉原會頭と共に同日午後五時
頃男を自邸に訪ひ懇談したが男は
自分は都市研究會を起して都
市問題につき研究し市民として
も協力努力する積りだが一面産
業調査會の設立に盡力し度いの
と直接市政の術に當る事を好ま
ぬ事情にあるので對にお断り
する
との挨拶に兩氏は更に再考を煩は
し度き言を述べ取つたが十一日
午後六時が過ぎ坪谷近藤兩市會
議員に傳へた

と述べ他に二三氏の發言があつて
後藤男爵より閉會を宣し遂に都市

研究會は終りを告げ懇談會に移つて遊澤子爵は後藤男爵に代つて座長席に着き

先刻藤山氏も述べられた通り刻下の東京市政改革の重任を託するは後藤男爵を指して他に得難いと思ふ此機會に於て本問題を論じたいと語り藤山氏も後藤男爵の協賛の動機を出し藤山氏の賛成があつた所矢野巨太氏其他より市政現狀打破の爲市會總辭職せねばならぬとの議論が續出し藤山大に色めいた實業家の多數は藤山氏の動議に賛意を表したが仲小路氏から今日以後後藤男爵の地位に保る都市研究會の席上であり且此會合に於て市長推選の決議を受けるが如きとは後藤男爵も非常に迷惑すると思ふ

この反響を見出し出で指田義雄氏は委員設置を申ししたが濱口雄幸氏後藤男爵の市長就任に結構なるも此場合決議を以て市長就任を強いるに就ては出席者中にも異議がある斯る問題を議場一致にあらすして決定するのは種々困難があるこの議論があり實業家側は多く遊澤田兩氏の提案に賛意を表したが政治家側の諸氏は何れも反對の態度を執つた爲問題は何等の結末を見ず遂に同決議は撤回することとなり午後四時十分散會した

○首相内相に

聲援

を懇請す

後藤男依然拒絶
十二日午前、遊澤子爵は麻布新橋田町の邸に後藤男を訪問して出處を勧めたが、男は

依然として「自分には

國家に與す大事業があるから遺憾ながら御断りする」と體よく拒絶したので遊澤子、近藤廉平男、藤山太、加藤正義の四氏主催となり夕報所報の如く實業家並に市内有力者を丸の内中央亭に招いて種々

協議の

上遊澤、近藤、藤山、加藤の四氏を實行委員に擧げ今後出来る限り種々の方面から説伏せる外、原首相床次内相にも説伏を懇請すべく十三日兩相を訪問する事となつた、其れに就て

奔走し

て居る、私は心配の餘り目方が一二貫減つた」と藤山氏はちよつと頬を撫でた、

「私としては未一縷の望みを懸いてゐる、若し最善の努力を盡して後藤男の拒絶を見る時は、公職全部を抛棄する覚悟である——」と語つた

後藤男推薦協議會

運動繼續—推薦委員選定

十一日の日本工業俱樂部に於ける都市研究會出席者有志に依りて計畫せられたる後藤男推薦協議會は十二日午前十一時より丸の内中央亭に於て續き開會、發起人側の遊澤子、近藤廉平男、加藤正義、藤山太の四氏を始め藤山有雪、杉本三郎、大倉喜八郎、大橋新太郎、山科三、安田善次郎、中久満吉、有賀長文、服部金太郎、鎌田繁吉、和田豐治、柳田一之、諸氏出席遊澤子より十二日朝市櫻田町藤山邸に於ける

遊澤藤男會見の

經過に關し大要左の如く報告する所あり

之れ後藤男と自分との正式交渉の第一回なるが自分方は市政の現狀に照し且つは社會各方面の要請を以て是非とも此際市長就任を承諾ありたしと説きたるに對し後藤男は遂に自分より内閣に對つて提案したる國策大調査機關の運命未だ確定をせずと云々此際之れを放擲して直に御勸説に従ひ難き事情ありとの事なりしも全然藤の切れたる話にも非れば私に一層努力する決心なれば諸君に於ても何分の御聲援あり度し

協議に入り

結局左の意味の申合を爲す

申合

市會の決議は至極當を得たるものなりと認むるも其の後の交渉行爲める機微あり吾人は市民として充分の聲援を盡し市會決議の實現を期す

同は今後に於ける運動上の便宜の爲め

遊澤子、近藤男、加藤、藤山の四氏を委員に互選し更に萬全を期する目的を以て床次内相原首相の盡力を煩はすことし直に電話を以て兩大臣の在否を確むる所ありたるも生憎中斷の事とて何れも不在にて打合を爲すを得ざりしを以て止むなく十三日改めて交渉を爲すこととし同三日散會したが一方市會委員側の柳田柳澤伯坪三氏は別働隊として活動し御記有志は且と兩々相俟ち是非とも市會の決議を實現せしむ可く努むる所なりと云ふ

大成會の申合

後藤男を恨む

東京市會の大成會は十二日午後六時より淺草區淺草俱樂部に於て開會か久江美代吉、佐久間耕逸兩氏以下全員出席、勢頭登原文太郎氏より市長選舉後に於ける經過につき詳細に互り報告ありたる後協議に入り左記申合を爲し九時散會せり

一、桐島市會議長は市會の決議を尊重し速かに市長選舉の結果を進達せられん事を望む

二、後藤男は帝都市制の現狀に鑑み市民の輿望を容れ身を挺して市長に就職せらるゝは元より歓迎する處なりと雖も本會は此上市の面目を毀くる手段を講じてまでも男の出處を欲せず

斯くの如く大成會は後藤男の態度に對して面白からざる意向を示したるが新政會に於ても同様の意向を有し居れり

後藤男區長招待
都市研究會會長後藤 平男は十二日午後一時より工業俱樂部に東京市内の各區長を招待し市民に對し市政改善に關する文書の發達方法及講演會開會に關する會場等に付協議する處あり結局文書の發達及會場の指定は各區役所に於て其程度研究を打合せの上取扱ふ事に決し散會せり

澁澤子と藤男

要領を得ぬ會見

昨日都市研究會で小手調べ
更めて正式の交渉する
肯かれずば内相から勸説か

研究の會

市長就任を後藤男に懇請す可く昨朝大蔵から出京した澁澤子は午後一時九の日本工業俱樂部に歸付けた同俱樂部では折柄後藤男が都市研究會長として識者の會合を求め市の自治に關する

撤回して

で期待してゐた就任懇請の發言はその機會を失ひ更めて子爵から男爵に會見を申込み交渉する事となつた。放會後藤男は例の大きな眼罩に茶色と言ふ扮装で語る「澁澤子爵が市長の話し左様な話は受けぬ只都市研究會開會中一寸子爵からその話があつたが子爵自ら撤回されてしまつた今日の會は

市長問題

さは何等の關係もないのた私が受けるかどうかそれは「受け度いけれども受けれぬ」と幾度も言明してゐるではないか其理由は既に話して居る如く大産業調査機關の施設問題があるからである「交渉委員は未だ交渉の餘地があるやうに言つてゐるが」と問へば「委員連は兩方やつても出来ると言ふのたうが」と男は

勵聲一番

して「見給へ日本のやうな幼稚な國で……兩方やれるなんて左様な不景面目な産業機關の事は日本の大問題で……先程も松田（榮吉氏）が兩方やれと頼りに勤めてゐるが松田は書物の上の議論でまた頼みやうを知らぬのた頼みやうをこれから致へてやらねばならぬ」大氣憤記者が然らば閣下は今後さも斷じてお受けになりませぬか

駄目を押

せば何時の間に松田源治氏が現れて「君左様な事を聞くのは野暮だよ」言つ

是が非でも引出されば

澁澤子に縋つて
桐島鑑衡委員語る
會後澁澤子は「また二回二回で話

今後の方針

を相談決定する」として歸つたが一方鑑衡委員の桐島鑑一氏は曰く「今日（十一日）の會には鑑衡委員でなく都市研究會の理事として出席したので後藤男には私達からは其後何とも交渉してない、幾度も子供が親に強請るやうにも行かないから未開會前に澁澤子に

市會で選舉

した事情から後藤男と交渉した顛末を報告もし今後市會選としての御骨折を依頼した私等鑑衡委員は各方面に向つて出来るだけの努力をなし是が非でも一旦も男の就任されるやう期待してゐる、運動の經過等は今更言明は出来ない」

決議には絶好機會だつた男に明したい

鎌田榮吉氏談

鎌田榮吉氏は右懇話會の席上で後藤男推舉の決議文を朗讀し場所頗るなこの説が出て撤回したが氏は語る「後藤男は人格才智共に備つた人で吾々市民が希望する所だから都市研究懇話會有志の名義で澁澤子藤山氏の勸諭と同一意味を文として出したのである、併し此席では云々その説があつて撤回したが此様に人の偏つたのは極好の機會だから此集つた顔で推せば辭退と雖からうさ考へてゐたが、十二日改めて協議する事になつたが全體が男を望んでゐる事如何なる方法で傳へるかは問題で私の考へとしては十名位の委員を選んで全體の意のある所を表明したいと思ふ」

大童な滋澤子の勸請を

頑固に應ぜぬ藤男

昨日正式に會見したが駄目

男は市長を外の都市研究

脈が無い様であると子爵はいふ

藤澤老男も時節感のない仕事を
仰せつかつてお困りの暇付だ、十
二日は午前十時から正午迄後藤男
の麻布の

新邸へ

出掛けて無暗に
口説いて歸る、一方では市會議長
の桐島一氏を主人役とする市會
の藤澤さん達が丸の内中央亭に集
つて藤澤さんへの懇談をつづける
事五時間餘り、大倉喜八郎男を

首めとして

加藤正義
藤澤山田太服部金太郎中島久萬吉
男有賀長文和田豊治鎌田榮吉
近藤康平男井上源之助の落氏に
斯うした會合にはお珍しい安田
大郎翁迄見えてそれに盛岡邸から
送つて来た

立役者

の老手會が一枚
入りの約廿名「どうして後藤男を
出馬させるか」と心配顔をつづけ
たが結局「市會の決議は至極尤も
だから皆協力して何んとかして
出て貰ふ事にしよう」となり先づ
子爵を筆頭に近藤康平男、加藤正

當る事

となつて雨のし
よぼく「と降り出した此頃實業界
の御座々の自動車は一つ一つ中央
の道を動かし出した。此日の藤澤老
子爵の語に「今日はゆつくり落付
いて話して見た前日と大體に於て
同じ事を

繰返し

たのみであら
る、男の態度で無く無いやうで有
れるかどうかは私にも解らない
明日は床次内相とも會つて是非男
を立てるやう努力をお願ひする
考へてゐる、その結果どうなるに
なるか之れも亦莫當はつたによつて
といふ主人夜桐島氏は例によつて

例の如く

「男爵は大調
査機關に關係してゐるからの一
張りで未だ承諾して呉れないが
私は彼迄も立つて貰ひ得るといふ
自信がある」此日、當の會は午
前十一時から工業俱樂部に市内十
五區長を招待し市會に議する意見
の交換をして終る脈を見せると

後藤男の希望通り

産業調査會決定す
圓滿授受の前提か

◇後藤男は此の春「産業上の急務
本部」と云ふ條の産業調査機關設
置法案を政府に提案し臨時議會に
提出せよと迫つた、此の後藤案に
は原首相も大體賛成であつたが、
之れに要する經費の

豫算が折合附

かず、更に六月中後藤男が大患に
罹つたりなどしたので臨時其れや
之れやで臨時議會には提出されず
に了つた

◇臨時議會後は政變説喧しく、現
在開校時期及び後藤内閣組織者
等の問題が世の話題の中心と成り
後藤男の産業調査會案の事は一向
忘れられた様になつて居た、其れ
が今度

市長問題に附帯し

て又も世上の注意の惹く事にな
つた、即ち、後藤男、藤澤山田太
山として一産業調査會と云ふ大事
業を進行して居る行は掛りがあ
るからと云つて居る

◇後藤男は更に「産業調査會は後
藤男の事業である、後藤の外に
は進める者は無いと我れ人共に認め
て居る之を以て市長には成れぬ
又二足の草鞋を穿く事は出来ぬ」
と聲明して居る、從つて此の

後藤案に對す

る世上の注意は臨時議會會期より

大に成つて来た、政府は如何に
後藤案を取扱ふか、四十四議會に
提案するか、其れとも臨時議會同
様擧げ直して仕舞ふか

◇斯んな事情で後藤男の市長諾否
より、産業調査會の成行の方が
より大きな問題として取り扱は
る様になつた、若し政府が來議會
から何するかと質問して後藤男は
十五億の大豫算を編成する我が
國の財政状態として總額二千万圓
四箇年経る

年額五百萬圓を捻

出出来る事は無い、而も政府が今
度も擧げ直したと云ふ輩は最上政府
を相手にせぬ、因に手を相手に全國
に宣傳する」と喧嘩態度で威張つて
居る

◇政府も後藤男を敵に遇すのは好
まぬ事情がある、總額多數と云ふ
基礎固々な現内閣でも色々弱點は
ある、後藤男と手切れに成る事は
困る存続がある、大體ならば後藤
案を採用して後藤男との友好關係
を保持するのが

大局の利益と

か、かつて藤澤山田太が色々心算した結
果、政府内閣、政友會内の異議を鎮
撫し最近、後藤案を豫算を計上
する事に決定し十日午後藤田法制
局長官を以て市會の後藤男に報告

した、之れで問題は後藤男の希望
通りに解決したのである

◇産業調査會案の劈頭に於いて後
藤男は一本調査會の總裁は總理大
臣か、然らざれば之れに代るに足
る重望ある人物を以てす可しと
云ふ意旨を高唱して居る、これを
文字通りに解釋すると總裁に

首相が首相級の人

物と云ふ單純な意味、藤澤山田太、後
藤男の本言は「首相が出来るのが本
筋だが、首相が出来る事が出来ぬ時
は、次期内閣の首相たる可き人物
に遣らせろ」と云ふのである

後藤内閣を僕

に譲渡する」と云ふ意味に成るんぞ
が、後藤如何」と云ふ折合と云ふ事
に關係して宜しいのであるが、今
回政府が後藤案採用に決定し
た、と云ふ以上、後藤内閣は先づ
圓滿授受を以て後藤男に對つて
くものと見て差支無い、之れは
して吾輩一個の觀察では無い、
藤男自身も斯う思つて居るから

今日の後藤男

都市研究會の招待日第二日は十二日同じく東京工業俱樂部で開會したが當日は十一日澁澤子から後藤男に市長を勧誘する問題が中途で折れたので今日改めて澁澤子を初め有志者から

張り市長問題が混がらかつて居る
が、本日は都市研究會と同室で道
る。この出来ないので、濫渾子等は
世の室でさうな事になつたが、折
悪くステラムに損所があつて、
むを傳す丸の内の中央亭へ室營へ
と云ふ事になつた。一方都市研究
會では、意の如く市内各區長を招
けし、當の後藤男も十二時頃例の鼻
帳盤にモーニング套でさうしたの
が、常にニコ／＼して近頃にない

上機嫌 其他内田嘉吉氏
田宏氏 渡邊博士等とも見え別
記の各區講演の日劇と各區の公民
の取調べなどや濟ませる客である
際、後佐氏は「イヤ未だ後驗さん

大橋村太郎、有賀長次、郷誠之助、
鎌田栄吉、近藤廉平、柳鳴像一、
中嶋久萬吉、大倉喜八郎の諸氏を
初めとして二十餘名が詔を揃へ、
愈々後藤男の市長公決議文を傳
つて午後三時頃後藤男を工業倶楽
部に訪問して其旨を傳へ大に勸告
することとなつて歸る

出演者の顔觸れ

御都市研究會の講演者は左の如く
 決定是れを各人の承諾を行つて
 表することになつて居る
 △澁町區 松田源治 關山彦、江木
 翼、池田安、内田盛吉、後藤新平、
 神田區 高本益太郎、黒々龍太郎

松田源流、藤原俊雄、内田嘉吉、後藤新平、△松本橋田、仲小路、矢野恒太、△松田源流、堀田貞、内田嘉吉、後藤新平、△京橋區、岡田平、山田喜久、松田源流、渡邊鐵藏、内田嘉吉、後藤新平、△芝區、鈴木梅四郎、後藤新平、永田秀次郎、佐野利器、内田嘉吉、後藤新平、△麻布區、柳田國男、下岡忠治、窪田榮吉、前田多門、内田嘉吉、後藤新平、△赤坂區、○都廳區、前田利定、松井茂、池田宏、内田嘉吉、後藤新平、△台區、内田大吉、湯原元一、松岡俊三、堀田貞、内田嘉吉、後藤新平、△牛込區、林田鶴一、吉野作造、澤村政太郎、原俊雄、内田嘉吉、後藤新平、△小石川區、岡貫、中郷安、後藤新平、△本郷區、金杉英五郎、仁井田大太、後藤新平、佐野利器、内田嘉吉、渡邊鐵藏、内田嘉吉、後藤新平、△本郷區、大河内正敏、安藤正統、前田多彦、内田嘉吉、後藤新平、△淺草區、添田敬一郎、志立豐太郎、指田喜雄、池田宏、内田嘉吉、後藤新平、△本郷區、窪田靜太郎、内田秀次郎、江木翼、藤原俊雄、内田嘉吉、後藤新平、△深川區、松井茂、中郷安、松田源流、渡邊鐵藏、内田嘉吉、後藤新平、

東京市民の自治

思想を試験する

市會議員選舉有權者に
六萬五千餘の葉書飛ぶ

都市研究會第一回の試み

遺憾を感ぜらるゝ點

印刷所

その三項目といふのは第一が從來東京市民は自治の民として其本分を盡し自治の協力（例へば議員の選挙町内協議等）を遂ぐ上に於て



産業貿易調査會

◇後藤男の計畫の内容

後藤男は市長就任辭退と共に頻りに産業調査機關の事を高唱しつゝあるが該調査機關の體制調査事項及び作用等に關する後藤男の原案左の如し尤も政府財政上の都合に依り本機關に要する經費は非常に削減された模様なれば從つて其規模も亦縮小するべきは勿論のことなり

△調査の範圍 産業貿易の調査を主とし正に産業參謀本部とあらはる産業上の問題に關し調査研究に着手す

△機關の體制 (一)本調査機關は産業貿易調査會と名づけ内閣總理大臣の監督に屬し(二)調査會に會議と事務局を置き印刷場、圖書部を附す(三)本調査會の調査研究は實際生活に應用するを以て主眼とし國立なるも干渉の舊式を避け實用指導に努め有力なる實業の獻策に俟つの點を以て特長とす(四)本會は總裁一人、副總裁一人、評議員若干人及び常務委員五十人以内を以て組織し特別の事項を調査決定する爲め必要ある時は臨時評議員又は臨時常務委員を置く(五)總裁は内閣總理大臣の兼任とし副總裁は評議員中より勅選す、評議員は勅選とす(六)總裁、副總裁及評議員は無給とするも手當を給す(七)常務委員には年俸平均七千圓とし最低三千六百圓を給與し、勅委任待遇を與ふ(八)常設委員には各秘書官一人及び助手三人以内を附することを得、外國出張中は外國人の秘書又は助手を使用することを得

澁澤さんが

今日は本口説

手筈は朝の中央亭で

問題の後藤さんの首は

矢張り横に振られさう

大藏の別邸から腐爛を推して東上した澁澤子爵の推挙をも無氣に退けた後藤男閣下を今更如何に口説き落すか狂歌くは世間の

耳目を引付ける興味ある問題だ、勿論後藤男ばかりが東京市長としての最適任者であるかと云ふ點で疑ひを起すのはなく

後藤男を市會一致で選出した關係は市會の不面目は勿論男を推選した桐島市會議長、柳澤保康、坪谷善四郎の三氏は當然責を負ふて市會議員の職を辭さねばならず延いては三氏の所屬たる市友會の面も潰滅を免れねばならぬ

破滅に陥るからである

従つて昨日の工業俱樂部に於ける澁澤子爵の突如的市長推薦決議案提出も有無を言はず承諾させやうと掛つた仕事であるが男を往生さ

せるまでには行かなかつた、それで今日午前十一時から澁澤子爵を初め後藤男、指田義雄、大藏新太郎、山田大、中島久萬吉、服部金太郎、加藤正親、石賀長文氏其他有力なる實業家と桐島、柳澤、坪谷近藤其他

一二の市會議員が中央

亭に集合し種々協議をかされた末本口説の筋を定め猛烈に勸誘手段を採ることとなり午後後藤男を會所に招いて極力勸誘を試みるがだが果して是れが筋を奏するか否かは疑問である、右に就いて市會議員は語る「後藤男の受諾は却々困難であらう」と云ふのは如何に東京市が

自治體であるにしろ市

長の職に就く以上當然内務大臣の監督を受けねばならぬ故に男の氣配としては到底是れを忍ぶことが

出来ないことは火を賭るよりも明かな事ではあるが條件が著しくしつ先づ困難であらう併し澁澤子爵を擁め各有力な人々が大きい勢力されてゐるから或は受諾するかも知れぬが假りに受諾するにしても男は先づ

有權者に對し一々其の是非を問ふであらう所謂一般投票の形式に出るのだその上なくば全くの諾否を決すまい是れは男の性來の遺口だ」と

實業家の面々が

後藤男を勸説

満場一致で其出盧を希望

十二日中に更めて會見と決す

問題の後藤男と瀧澤子の第一回會見が空しく終つたので瀧澤子も個人として後藤男に市長就任を説くより多数の結合力で動かさんものと關係者の會合を十二日午前十一時から工業俱樂部で開くこととし前日の夜の幕を閉じ十二日その集まりを工業俱樂部に催さうとしたが都市研究會がまた同所を開かれ従つて後藤男も臨場されること放面白く無いとあつて突如舞臺を中央へと移した

主人役

の洞島像一氏が氣もせず處から最先に姿を現し昨夜の急先鋒であつた藤山南太氏が其次に乗込み續いて鎌田榮吉大橋新太郎服部金太郎中島久万吉有賀長文の諸氏が續々と來場し人氣の中心、花形役者の瀧澤子待つのみとなつた會合せる人々の氣は凄じいもので「今日は何んとかつても承諾をさせねば」とて黙圍いて居る、やがて十二時近くに瀧澤子が現はれる、そしてものと

斯くて

今日會合せる諸名士は後藤男の出馬を二日も早かれと催促する方々の事として忽ち満場一致で出盧を希望すると可決した
男との會見を十二日中にする事となつた會見の期日は日下中央亭にするやうに傳へられて居る此の會見こそ三交渉委員の運命を決する處若し瀧澤子の聲が遂に物を奏せず後藤男が何と云つても市長就任を背けないとしたら昨後の市會は如何なる波瀾を生ずるか判らぬ或一部の人々の脚運に依ると後藤男自身としても決して就任を承諾しないと云ふ程の深い理由はないのだから金的に矢を放てば或は市長に就任すると云ふのである

市長の産婆役として

瀧澤子確信を抱いて歸る

豫言者ではないから斷言は出来ぬが熱誠を以て市長に就任して貰ふ積り

藤男果して動くか

東京市長の産婆役を勤める瀧澤子は十一日午後零時十二分東京驛着の列車で大磯の別邸から夫人同伴で歸つて來た、驛頭には市長の秘書委員谷村島柳澤三氏を始め子爵の院長たる養育院の人々其他多數の出迎へがあつた

子爵は囁息で懐んでゐる體を黒霧降の外套に包み白い首巻をして出迎の人々に會禮しつゝ兜町の事務所へ自動車を乗り置きを認めて少憩の上、午後一時過ぎから丸の内工業俱樂部で當の後藤男と會見した、子爵は驛頭に於て語る「私は養育院の院長として其の方の事務の上から早く

市長が決定して貰はねば困るので私は個人として後藤男にお願いに歸つて來た、別に養育院委員諸君から頼まれたと言ふ許

岩松氏市長就任の意を洩す

後藤男の意志意外に聞く此際何うしても出盧を消しまいと云ふ形勢を看取した大都會では第二の候補として岩松兼雄氏を推しもう運動に着手した岩松氏も就任の意を成かし場合に依つては府の職務を掌る免れる爲めに一時的に助役でよいから成らうとの意を洩らし



筆者不明
の投票は
採らず

市長適任者

○市長に當選した後藤男が固辭して受けぬといふ事である。さうすれば第三候補者も辭退するのが普通である。而して市會は再選挙の舉に出づるに至る。若し市會で紛擾あるに於ては、選挙を進行し、序に市政の革新を畫するも却て妙であらう。

○自分は先日本欄に寄稿された矢野太君の意見に徹頭徹尾賛成する者である。市政革新の事は自分も熱心付いて居り、願に之を遂へてゐた。田尻北龍翁が市長の任に就かれたので大に意を強うしてゐた。由來北龍翁は、大蔵大臣に擬せられたるも其職に就くを肯ぜず、會計検査院に入て大に功績を挙げた。一朝市に身を投ぜられたので極めて期待する所があつた。然るに所、市の大問題に就き如何なる計畫ありしや否やをしらぬが、自分を以て之を就れば、下圖の如く検査院長時代各官衙に嚴密の監督を加へられたるに似ず、今日の如く部下に醜態を出し、刑事問題を惹起したるが如きは、聊か手落ちたるを免れぬ。去翁は既

に勇退されたるを以て落馬の將を突き、死馬に鞭うつが如き多くを言はぬ。

○若し後藤男が辭して起たぬならば、自分は更めて小路君に申す。君は此際斷然意を決して市長の任に當られんことを望む。農商務大臣となり、榮譽に身を在りと雖も、一省の大臣たるに甘んぜず進んで總理大臣となる大抱負があるであらう。然るを一都市の市長たるを勤務するが如きは不明の計を受くるかも知れぬが、思つて思へば、歐州西北歐諸市長の榮譽は時々の總理大臣の夫れに幾層倍する。歐州なる極東府市長の名譽は今更々を要せぬ。況や現下の狀態君の手腕に待つの外なきに於てをや。若し聊かても自分の言に意を注がれるならば詳細は面陳する。

○終りに自分は東京市民、就中市會議員に申す。仲小路君の市長に選任なるは公知の事と思ふ。此際勸告を乞ふ。職を求めんことを望むのである。(法學博士寺尾亨寄)

雨か風か

後藤濫澤會見

本日午後の都市研究會招待會の席上で

大體の別邸に歸還中の後藤男は、濫澤のこの上もない市長の濫澤役を引受けて今日午後零時十二分の列車で入京した。東京の兩市會議員其他に迎へられ、自動車で一先茅場町の事務所に着き午後二時から丸の内工業俱樂部内へ開かれる都市研究會の招待會に出席し、其處で後藤男に會見して市長就任を懇請する者である。車中に子供を訪へば曰く「私は市民の一人として、又市吏員としての立場から、是非此際、更に角一日市長の椅子を空けて置く事は、首都としての面目に係り、世界各國に對しても甚だかしい次第である。後藤男が私の懇請を容れて快諾するや否やは不明の限でないが、私は可なり交際も深いし普通以上、懇話の間際

だから、無理にも御馳ひする積りである」と同

大體の 雲行から云へば後藤男は濫澤十の懇請を容れて市長を承諾するならんと聞かされてゐる

産調案の交渉

首相の苦慮

後藤男は東京市長辭退の理由として産業調査大機關設置の重大任務を帯べる旨を述べてあるが右調査機關設置に關し最近政府と男との間に行はれた交渉の内に後藤男は二千万圓の金は是非とも必要であるを主張した然るに當初原首相が男に申し出た「一千万圓は政府が豫算に計上し一千万圓は之を民間に募る」と言つたとは財界今日の不況から實際上不可能であつて首相が男の計畫に同意を棄した關係から云へば二千万圓全部を豫算に計上しなければならぬ筋合

であるが既報の如く無い事は振れぬと云ふ日當の下に同設置費は一交も來年度末豫算に計上せられなかつた之に就いて原首相は頗る心苦しく思つた。さう見れば豫算決定後臨時法制局長官を男の許へ遣はし其経過を報告し更に其額を或程度迄削減して追加豫算に計上するとしたといふ云ふ交渉に移つたのであるが男は僅少な經費では到底所期の目的を達成することが不可能であるとの理由を以て容易に交渉に應じさうもない一方政府側では男の此計畫は結局濫澤に據るの外なしと觀測して居る男も首相が來年度豫算編成に際し各省の莫大な新需要に對して大々的の増徴を下さしめた關係に同案も亦亦否みにするとの出来なうとは思はせないうでもないけれども實際問題として總額二千万圓四年間繼續の年額五百萬圓位は十五億の大豫算を編成する程の力のある我國の財政狀態に於て之を提出することは易々たるものでなければならぬと主張して居る男は兎も角首相からは今日の所未だ何等の援手もないさうだが原首相は實現は困難であらう尤も男は政府が急木案を閣から閣に擧げて仕舞ふやうのことがあつたならば勢ひ貴族院に之を問ひ更に國民に懸へる意見であるとは男自ら主張してゐる通りである

何うしても

説破するつもり

都市研究會側からも

決議文を齎して後藤男を説く

十一日

夜の都市研究會

に於ける後藤男市長就任の決議文は、朝刊所報の如く、茶々を入れる者があつて其儘となつたが、十二日は再び決議に賛成の人々が工務俱樂部に集結した折柄男の會長たる都市研究會が同所に開催されて居たので席を

中央亭

に移した、夫れは岡島一、藤山雷太、近藤

平、中島久萬吉、大倉喜八郎、有賀長文、大橋新太郎、加藤正義、堀誠之助、鎌田榮吉、服部金太郎の諸氏廿餘で午後の、午後二時頃決議文を齎して、工務俱樂部に

後藤男

と會見、極力説

通する所があつた、桐島氏は今日はどうしても説破する積りである」と意氣込み切つて居た

大分調子が變つて來た

大分調子が變つて來た

後藤男爵思案の空模様

澁澤子は掛持問題に對して出来るやうにして來る云つてゐる

それが出来れば出る云ふ結論

山崎の後藤男は十三日正午から丸の内俱樂部で都市研究會の自治政用に関する宣傳依載の爲め都下各新聞通信社長を招いた「イヤ忙しい、まるで

俺の家

は病氣見舞客で押寄せるやうに、賑を呈たり熱を計つたり、呼吸を調へたり、毎日の同じ様な事を繰返されてゐる。で面白くも何ともない。鼻眼鏡を手にしてソラノ室へ入つて來た。一しきり市長談に花が咲いて例の十八番一出たいのだけれども出られないのだ。産業調査機關といふ事に就てはまた正直の虚構明なる原君にもホントに

其効果

必要が存込まれてゐないのだ。況んや他の一般人に於ておやだ。一と氣溜り大である。饑て食事が開かれる。主人席に着いた男爵は意氣益々旺に一人でメートルを掲げる「アリストートルは最良の政治家は理想家でない。國家の現状に適應した措置を

執る者即ち最良の政治家である云つた。ところが之が誤られて刺す。その日の先政治が最良の政治家の如く思はれるやうになつたのだ。なご、大いに

政治家

若返る。都市研究會の用向きを濟ませ再び議室へ歸つた男爵を捉まへ「澁澤子以下の民間推薦委員は原總理大臣、床次内務大臣に對し男爵の就任推薦を無視するといふ事であるが、若し原床次兩氏から男に交渉のあつた場合は如何されるか。この質問を發した處男は「それは未だ來ぬから判らぬ、來るといふ事を假定して

今豫斷

宜しくない。一と適け「然し必ず行ふ事は明かであるが如何。一と再度の襲撃に對しては「それは諸君の御推測に任せやう。一とカラ／＼笑ひ乍ら答へた。此從來と餘程調子の違つた答辯振りは此際聴き洩らぬ言葉である。男は更に語を繼

ぎ「澁澤子爵にも二つ掛持の出來ぬわけをよく話して置いた。子爵はそれでは兩方出来るやうにして來れば

宜しい

しませうと云つて引取られた。云々を語る。男の言外には澁澤子の所謂兩が出来るやうにならば出處しても差支なしといふ意が汲み取られるのである。いよいよ問題は遂官に入つた

市會の權威を疑ふ

後藤男ばかりが人物でない
三銓衡委員は何の顔がある

市會議員 松山傳十郎氏談

今日

に至るも尚ほ就任受諾を爲さず市會以外の澁澤子や山其他の人達に懇願してさうぞ説得する様に相談するが如きは市會の權威を無視したものである。我々は就任の見込ありといふからそれを信じて賛成したのである。若しも市長になれない人なら何も後藤男獨りが人物といふ譯でないから他の有望なる人物を

推薦

したかも知れぬ、今に於て此結果を生み市會をして混濁たらしめた事は推薦者として市會議員の一人として毫に慚愧に堪へないが吾々を欺いた三銓衡委員は辭職のみを以てしても決して責任解除といふわけに行かない。況んや選挙結果を内務省に申達するとは少し待たれたし等々府へ交渉するに至つては情かざるを得ない府は一日も早く

第一

第二第三の候補を直に申達して第一候補辭退の上は就

任の意思ある第二候補若松兼經氏を當然市長たらしむべきである。それが選挙の集合假令形式的であつたとしても市制の明文に據つて選挙されたものであるから決して違法ではないのである。故に若松氏が就任して助役を置き直に辭退したとすれば再選挙を行つて新市長を出す事が出来る。煮に切らぬ言語に三委員が

血眼

になつて説得して數日を經過しても依然として變らない様な事では何の爲めに市會に選挙さふものを置くのか何にか少しも解らない

首相の謎の言葉

戯談ぢやない

兎に角考へてこの返事
四委員遂に兩相に懇願

十三日午前十一時には藤山、近藤、加藤、柳、桐島、の四委員は官邸に床次内相を訪ひ後藤男を市長に是非とも起つて貰ふやうに説得方を

依頼に及んだ、其後で床次内相は「委員からは市長選挙後の経過を聞いたのみで別に懇願されたのではないが後藤男は市長としては適任者である事は私も認めてゐるから交渉をして呉れ云

云つて別れた、市政云ふものは何時迄も遅滞して居る譯にはゆかないから云々」と語つた内相官邸を退出した

委員は更に午後二時五十分永田町の首相官邸に臨み藤山が原首相は未だ御見にならな

いので待つ程もなく六九號の自動車

が官邸に横づけになつて和服姿の原首相が降車する、委員は直に階上の会議室に件はれ會議約一時間にして四時三十分退出した、藤山

勸誘依頼の件は未だ受けぬ

藤山、近藤の四氏は十三日午前十時半頃面會した、其際は市會が後藤男を推薦してから今日迄の経過を聞いたに過ぎず自分から

藤男を勸誘して呉れとの依頼は受けなかつた、原首相が官邸で面會された時にも首相は戰に其経過を聞かれ續り考へるから

それ迄待つてくれとの返事であつた、自分としては勿論藤男を適任者として其就任を希望するのであるがそれが爲めに兎や角さ勸誘な

さをする事ではない、それはまた頼まれて居らないからである男の諾否が決定するまでに

時日が掛るか云ふのか、さあ何れになるにしても左程長引くこと

はあるまいよ、藤男が受けるかどうかが云ふのか、そんなことを我輩に聞くのは野暮な事である

男は仕事の整理中

少し芝居が大袈裟になり過ぎたが整理が済めば首を縦に請合口調で某高官談る

後藤男の市長就任に就き近なる某高官は語る「世間で男爵は絶對に市會就任の野心はない、飽迄相違するであらうこの説は人に

食指は動いてゐるが引受の道程としての行き方を執つて

あるのであるこの兩説があるが自分の見る處は後者の方であるから

また藤山は十分にある、男爵は最初から市會一致の推薦を三百萬市民の熱誠なる懇請に對しては深く感謝の意を表して降り随つて市長就任の職はちやんと決まつてゐるが

少し芝居が大袈裟になり過ぎた

出場も引込みも一寸困つたといふ姿だ、けれども大丈夫芝居のある男爵だから何さかヤンヤ云はせる工風を付けて出るよ

自治三項

後藤會長より講演會も開く

後藤男爵を會長とする都市研會はいよいよ来る十五日頃から市内各區に自治政運用に關する講演會を開き同時に市公民六萬人に對し

左記三項の質問を發し回答の集まるを俟つて市民多数の意志により自治政改革の動議を講ずる由である

第一 市民は從來自治の民として其の本分を盡し自治的協力例へば議員の選舉町内協議等を遂ぐる上に於て遺憾と感ぜらるゝ點なかりしや

第二 若し遺憾の點ありしとせば之を改むるに如何にせば宜しきや

第三 現行市政の運用上遺憾と認めらるゝ點ありや現行政度改むる必要ありとせば其其目如何

市民に質す

講演會の日割

△十六日 御町區(富士見小学校) 神田區青年會館(十七日) 日本橋區、麻布區、南區、赤坂區(十八日) 四谷區、本郷區、下谷區(十九日) 京橋區、芝區、牛込區、小石川區(廿日) 淺草區、本所區、深川區

断相日日



男 後藤新平 君平 風雲 呼ぶ遠き 非ず 相親善野藏

○東京市長に推薦されて拒絶した後藤新平氏を列す。頭蓋骨にして重量約一千六百グラムを越え、額門高からすと頭面も不明にして気色頗る佳、眉毛清秀ならずとも亦必ずしも早こませず。眼珠の暗白稍昏しと雖も瞳心明淨にして炯々。兩頬は硬くして面も骨を露はさず。平頭大ならずと雖も端正にして豐肉華直、其の形獅子鼻の如く正して又縦筋に似たり地膚は牛乳色を帯び皮肉豐潤にして皺の疎密其の度を失するなく下唇大いに全む。

○而して身材長大にして兩肩直正豐肉、背骨厚潤にして腰は硬くして胸、胸は横にして三甲三王、體骨頗剛、肩下雙線ありて心窩陷らず、丹田盛ありて腹の如く臍下肉横直して兩腿尖削せず、臂肉亦厚豐にして骨を見ず、手足之に懸して隆厚、妙麗鮮明、章紋幾枚の現はるゝ。

○彼れや北國の産、資性精確、治的野心の爲めに飛躍するこゝ之れ無しとせざるも、然し勇氣に富み、其の形に長じ、且胸中少の變換を蔵す。嘗て寺内内閣の倒壊するや野に下つて然る程年、爾來一たび外遊を試みたるの外、最近何事を見るべき飛躍を爲さずと雖も、彼れの政治的運命は尙且長へたりとせず其の風雲を眺む必ずしも遠きにあらざるべし。(東京朝日新聞二八六日本州學會にて)

○内相も一緒に頼んだが 首相は不得要領

後藤男を引張り出さうとして やつさもつさの大騒ぎ

遊澤子、藤田雷太、近藤廉平、加藤正義、桐島俊一、柳澤竹などは十一日午後十一時大内務大臣官邸を訪れて、東京市長候補選出に對する経過報告の後、内相に對し「市會と市政の爲め閣下も後藤男出陣の

交渉を

御承諾ありたしと懇談した、夫れに對し内相は、「僕も後藤男は東京市長として當分の人と認めるから、盡力せぬ限り無いが、原首相はどんな意圖を持て居るか、丁度今日面會する約束が出来て居るから御同道して首相に懇談して見よう」と答へた。仍て午後三時揃つて永田町の首相官邸に

官邸に

訪うたが、さて首相は「私としては即刻引受けると云ふ事は今の所出来ぬから熟考の上お答する、夫れは明日か明後日か判らぬ」と頗る曖昧な返事をした、つまり一同は不得要領で午後四時引取つたさうである

◇後藤

男が職なら職でよし何時までも口説き廻るは見ツとも悪くて醜態也、天下無道義無からんや、早く歸めて外を捜す方が江戸の面目立たり、自決せよ。

◇都市

研究を標榜する藤男は快活直ちに出席すべかりし也空しく機會を逸し去つて今出陣に出られずは男の政治的生命にも暗影を投げるの懸無きや否や。

◇首相

に藤男勸誘の後目を置はざんとするは恰も先代萩の芝居に大星由良之助を登場せしめんとする如く筋道が違ふ、窮して頼すも大抵な處で止めて置け。

◇極東

を日本に導はれんより寧ろ米國と提携して物資を仰げと希力説す、已を知るは斯ら敵を知るに在り敵を知らずして天下を亂ふ彼未だ兵法を知らず。

◇年の

蘭迫りて生活難にやり切れず何處をそれとめ無く踏々々家出するもの日に十名以上を算すと、杖つくは次第に太くなつた長袴の袴ならぬ、亦慘。

咄、市議

大成眞意奈何

●後藤男に對する市長就任の交渉は殆ど絶望と見られるに拘らず、市會の交渉委員は遂に藤澤子に頼み藤澤子は更に財界其の他の有力者と協議して其の中から又委員を挙げ首相内相に對つて斡旋を依頼する事とした。吾人は其意に到れる經過に就いて多く異議を挾むべきで無い否な事を善意を以て之れを諒解するものである、但だ此の間に於て市會の一團體たる大成會の執つた態度は抑も何を意味するものであらう。

●今や市會議員の大部は殆ど皆沈黙して居る、恐らくそれは自分等が全會一致を以て推舉した後藤男に對する交渉の結果を待つて居る爲めであらねばならぬ、早くも此の際阿部氏を物にしようとしたり中西氏を捉へて見たり久保田氏を弄いで見たりすると謂ふ様な事は議員の徳義上到底事實として承認せられなからである、或る者は謂つた現在市會議員に道義心があるならば今日の事態を惹起する事はなかつた筈だと、事實或ひはさうかも知れぬが、併し吾人は彼等多数の良心が全然麻痺して居るとは斷定するに躊躇するものである。

●殊に彼等の中には鐵中の鐵將たるものもあらう、所謂健全分子も居よう、併し此の際其の健全な分子を強硬にする事は頗る難事であるが其の難易如何に拘らず既に醜事實の暴露によつて市民注視の範圍となつた理市會は、包括的に其の責任を背負ふ可きものであらねばならぬ、加之市長田尻氏は之れが爲めに責任を負つて辭職し、助役亦爲めに其の椅子を去り、市會議長亦之れが事由を聲明して其の地位を棄てた、公人の出所進退は正に如斯あるべきである。

●嗣つて今大成會の決議を見るに、其所謂「市民の面目を傷けて迄も男の出處を欲せず」とは抑も何を意味したものであらうか、其の解釋は極めて平易であらうが吾人は強硬派と稱する大成會の決議に對して單純なる村度をし度く無い、恐らく之れは同派所屬の議員が自己の責任を明示すべき時日の遷延を恨れるが爲めであらう、市會は既に其信用を傷けて居る、市民は之れに依つて業に十分其の面目を傷けられて居る、彼等は藤男に對する交渉の遷延に依つて決然たる有爲の行動に出づるの機会を遷延せしめん事を憂ひて居るのであらう、吾人は最も善意に考察して斯の如く推定するの他はない。

●新正會早くも正義の行動に出づるの申合を爲し、大成會亦吾人の善解に従へば前者と同一行動に出でんとす、唯諸他の市會議員！後藤男に對する交渉の實行は大體に於て決定して居るではないか、速かに其の責を負うて職を辭せよ、諸君が職を去る事一日早ければ早きだけ市民は其の面目を傷けられる事の少い道理である（記者）

●外調委員と市長
若し万一、後藤男が市長就任を承諾した場合、外調委員の方はどうなるだらう、辭任するだらうかと云ふ疑問が起る。外調委員は純然たる官吏ではあるまいが、併し國務大臣の待遇を受ける准官吏である以上、市長の職を兼ねることはチト變てはあるまいか……と今から官吏服務規則を據に彼等は云ふものもある、最も後藤男は大丈夫就任承諾したらうから右の心配もあるまいが

筆の筆

北市先主を首にした東京市は後藤男に白羽の矢を立ててヤイノノを極め込んだが客場には内よい返事をせぬので氏大内相と原首相を併介に頼んだが娘さん中々首を振らぬ。市長の年俸は一万五千圓、至三萬圓の定めてあるが市會では後藤男ならウンと認めて最高級の三萬圓を出すと云つてゐる。斯うなると後藤男は田尻より十圓俸になる譯だが……田尻の黄白を撒し進出してまで市長になつたい人間があるのに後藤男の手を煩はしてもアイと云はぬ氣位娘さても許せば儼ならぬものぢやア一體後藤男を見立てたのは國民黨の近藤達兒君で彼の娘なら大丈夫とはかり獨りて承知した處で藤男や藤澤を過ぎる藤男も仕舞まじき有様。に藤澤、制局議長、坪谷、近藤の四氏も一失敗に終つた。責任は諸君を切らねばならぬ。白にあるので昨今三度の食事も落付いて明職を辿らぬとはさてく、後藤男も辛いものかな

自動車永田町へ飛ぶ

マア考へて置かう

と云はれて悄然歸る

午後 三時半に首相官邸へ

入つた床の内相、近藤
 男、加藤正経、藤山、桐島
 議長、柳澤伯の七氏は午後四時
 市官邸を辭し去ることになつた。
 選子、近藤男、加藤、藤山の四氏
 何んとなぐ不安らしい面持て元
 氣なく玄關へと姿を現はした。
 市議長は殊更に不女の氣が漂つ
 て居た記者が首相は後藤男勸誘を
 快諾なさいましたかと問へば「い
 や、唯考へて置かうとのみの答でし
 た」といやに洗み勝ちであつた。
 更に、坪谷氏はどうして貴
 尊と一緒に來なかつたのですか
 云へば「坪谷氏は君々と全然
 別の方面で後藤男の出處に奔走し
 寸兎に毎首相が直に引
 受ける事も出来ぬからまづ考へ
 て置かうと云はれたのだから遅く
 も明日か明後日の内には何れとも
 決定するでせう」とて心細い言葉
 であつた。「若し原首相と後藤男に
 勸誘して下さらず後藤男が絶対に
 出處しないとしたら貴は今後如何
 します」と急所を突けば「絶対に
 に拒絶されたならば自分は勿論市
 會議長も市議も辭する考へです」
 と斷然最後の決心の程を示して悄

適任者ではない

首相に迄も泣付くと

は何たる不體裁ぞと

銓衡委員に對する非難の聲

澁澤老しづきはらう
子爵を煩はして

までも、説き効ひのなかつた
長崎の後藤に對して、桐島
市會議長等が、今尚擧起となつ
て手を換へ品を替へて、就任
を要して居る想ひ切の惡さに、
批評が聲が舍所になつて來た、
桐島氏所屬の市友會ですら、非
常に

憤慨して居る向きもある

り、大成會の如きも十二日夜、
會を開き、「市會は此の上市の面
目を傷つくる手段を講じても男
の用贖を欲せず」と決議した、
公和會、新正會又同じく反對の
氣勢を擧げてゐる、市會の某有
力者は語る

去る日、鳥羽から拒絶されて、取り付く島が無かつたので内田嘉吉氏に始め、男の親近者に手を合せて勸誘を頼み、それでも再三梭拒されたので、今度は老翁の滯留手を大磯から迎へ、百方手を盡して見たが、是れ亦思ふやうにならず。尙も新藤、藤山氏等の實業家を委員に、大仰にも眞首相や床次内相にまでも聲援を懇請するとは、自治體の不臣の手迄煩はすとは、官吏の職務掌管以上の干渉とものみかたらず自治制上の干渉とものみかたらず。關東には市會連長の輩に上、自己の公職を抛棄しても盡力するといふ志は同情するが、後継男ばかりが、市長たる資格があるのではないから第二、外三候補にして悪ければ、更に舉の仕直しを行ふもよいでは

後藤男の口説役を

首相と内相引受く

本日非公式に交渉する

後藤男を動かすべく十二日會合せる實業團の委員藤澤子爵を始め近藤廉平男、加藤正義、藤山雷太の四氏外柳澤伯、桐島市會議長等は十三日午前十時半自動車で驅つて霞ヶ關の官邸に

△床次内相

を訪問した内相は快く四委員を陸上の一室へ案内して引見した、先づ藤澤子爵が一同を代表して今日迄に於ける市長問題の経過を述べ後藤男にして遂に市長たるを肯ぜない時は唯に東京市の不面目であるのみか、之れが爲め市政は益々滞する一方だから

△此際男が

市長を承諾する様何分の御力添へを願ふと熱心に懇請をした、内相は之れに對し諸君の意は頗る諒みするが、個人として一應後藤男に話して見やう、然し責任を以てお受けは出来ないと案するより産むが易く、内相も委員連中の熱心な態度に動かされて後藤男△口説落し の役を引受

けたので委員はこれに漸く願ひが叶つたさばかり微笑みながら正午官邸を引上げた後更に相州腰越の別荘から歸京した原首相を午後三時永田町の官邸に訪問して内相と見同様其事情を藤澤子から述べて居る處へ

△内相も顔

を出して其に口添へをしたが、原首相は諸君の意の存する處はよく明つて居る、が然し今直に御依頼を受ける事は出来ないから、暫らく留保して貰ひたいと即答を

△後藤男を

説き進むる下心があるのみか、十二日迄内心ビク／＼もので悲觀して居た委員連が昨日床次内相や原首相に會見して以來俄に活氣付いて樂觀して居た處から推しても何

等かの確信を得たものゝ如く或は床次内相の動向に依つて後藤男も遂に餘儀なく市長を承諾するに至るやも知れない模様となつた、床次内相と後藤男との本日の會見こそ最後の決定を與へる肝腎な一幕である

後藤男に脈があるかテ

其りや聞いただけ野暮だ

△床次内相は斯く語る

昨午午後四時半首相官邸より歸する床次内相は語る「藤澤子爵外五名の委員と會見した、其内容が、夫れは

△委員連中

から助力を依頼されたのは事實だ、夫れに對し何ういふ返事をしたかテ、私の口からは何んとも言へない君達の推測に任せて置く、首相官邸へは午後三時頃行つた、其席には矢張り藤澤子爵の外五名の委員が

△原首相と

會見中で委員達は切りに後藤男を動かしてくれと依頼して居た、之に對し原首相は「此場合直に可否の即答が出来ない」と言つて返事を保留した、後藤男にまだ脈があるかテ、そんな事は私には判らない、又夫れは聞くだけ

△野暮だよ

兎に角市長が何時まで決定しない事は甚だ良くない事で又市政の上から見ても何時迄も愚圖々々して居る場

後藤男に

一縷の望

△桐島市會議長談 桐島市會議長は昨午午後三時官邸に原首相を訪ひ後藤男の東京市長就任を勸説、れたし「懇請する處ありしが桐島氏は「原首相は其際遂に確答しかねる故熱考すべし」と答へられた而し予の考へでは首相は必ずや後藤男を曾て就任を勸説すべければ決して絶望に非ず」と例の如く一縷の望ありと語る

漲る夏後藤熱

後藤男に比較しても出て貰は
ばならぬと市會の柳澤伯、桐島
年谷の父、市議員の外市民を代表
する渡津子に近藤男、加藤正義
藤山雪太の四氏が別働隊として

懇請する

方原首相床内相の勸告をもつて、
水となり前記交渉委員等は十三日
原首相の歸京を得て訪問運動を
開始する事になつたが之によつて
男が果して受けるかどうか頗る懸
問されてゐる何れにしても、今日
中には何れかに決定すべく顧慮さ
れてゐるかも知れない後藤男が交渉委
員を手置閣下し市民を失望せしめ
て迄容易に肯じない模様があるの
に快からざる感じを抱く者漸く
多くなり殊に

於ても

市會各派に於ても「そ
んなに出来るのが厭ならお願ひなく
てもよい」あれは後藤男が勿體無
つての芝居である」と云ふ様な反
感が次第に募つて來て大成會は十
二夜讀先に其辭を公然と擧げ始

首相内相を迄

煩すのは

心外至極

寧ろ御免を蒙りたい

右に就いて市會の某有力者は「後藤男が必ず出ると思ひ違ひしたのが總て今日のこた／＼を來す原因で交渉に當つた三銘衛を員にも罷があるが要するに我々市會議員全

餘りに淺慮 輕舉に失

た酬いてあるが後藤が「調査」
關の完成に名を藉りて斯迄の勿
擧つての芝居は實に憤慨に堪へな
い殊に首相内相の力を借りて迄

將來に於ける

或野心の爲に又一部に
は政府と或默契があるとか云ふ體があるが夫れは兎に角として腰掛市長等は御免を蒙りたい後藤男といやなら他にも候補者はいくらでもあるのだから」とひどく興奮の體であつた

内相との

密談

委員連黙々

十二日、薩摩男の就任文書委員に擧げられた薩摩子、近藤男、藤山雪太、加藤正義の四氏及び市長銚衛、委員澤田伯陽、藤一、平谷善四郎の三氏は原吉、末次内相等を勸めて、其應接を乞ひ、後薩摩意志の如く、さすべく十三日午前十一時を觀、赤土町の官邸に末次内相を訪問し、二階の應接室に於て一時間餘に亘り會談する處あり、零時五十分一同は默々として退去したる。

原首相歸京

交渉委員と

原首相は十三日午前十一時、府分
駕着の汽車にて、腰越より歸京
に芝公園の私邸に入れるが、別
後藤男の交遊を最は午後一時半
至るも首相を訪問せず

都市研究會の
講演會

後藤男を初め

多數の名士出演
後藤新平男の主唱する都立研究會
では、愈々自治體の刷新を圖らん爲
来る十六日から市内各區で之が講
演會を開いて獅子吼することに
つた。同講演會には後藤男及び他
田島吉氏、は全部へ出演するが、其
の講演場所及び講演者は左の如く

である
▲十六日 勸町區(富士見小學校)
林田龜太郎君、仲小路康君、江
木靈君、池田宏君△神田區(青年
會館)關直彦君、添田壽一君、松

田源泊君、藤原俊雄君、内田亮君、
▲十七日 日本橋區 仲小路康君
田澤義輔君、建部遯吾君、堀田實
君、柳田國男君

下岡忠治君、鎌田榮吉君、堀山
君△赤坂區、仁井田益大郎君、
前山利定君、松井茂君、池田宏
十八日 四谷區、田川大吉郎

湯原元一君松田湯原元一君
門君△本鄉區 金杉英五君
仁井田益太郎君、濱口雄幸君、
野利器君△下谷區 正木直君

大河内山鉾君 笠田雷太良君
田多門君
▲十九日 京橋區 東部源吾右
藤山雷太君、松田源治君、渡邊
藏君△芝區 鈴木梅四郎君、

野恒太君、永田秀次郎君、佐野
器君△牛込區松田瀧治君、吉
作造君、澤柳政太郎君、藤原俊
君△小石川區 岡實君、東郷
君、半沼淑郎君、渡邊鐵藏君

▲二十日 淺草區 深田敬一郎
志立鐵次郎君、指田義雄君、藤
俊雄君△本所區 田川大吉郎
永田秀次郎君、江木翼君、池田
書△墨川區 公井支吾、東郎

一人の後藤男に大騒ぎの醜態 市長に困つた東京市

舌腹を切るのが厭さに蛇の様な銚衡委員 原首相も御免を蒙つた乎

問題の銚衡男が東京市長に就任の作は、最早全く断念しなければならぬ破目まで押詰められて居るにも關はず、桐島市會議長を中心とする

銚衡委員

等は今尚ほ起つて手を変品を換て其の就任を強要して居るので今や市會議長等に對する此種の態度は各所に高唱され初めて居る、彼等は去る八日男爵から謝絶されて取りつく島を失つたので内田嘉吉其の他有名男爵附近者に手を合せ、勸誘を依頼したが是亦美事に接拒されたので今度は老練大藏に遊樂中の

澁澤子爵

を呼び進めて口説き方を教み込み三度其の拒絶に達つたにも應りず尚執拗にも中央亭に會合し多数の力で説き伏せやうと澁澤子爵近藤廣平男、山田大氏等が委員となつて今度は大仰にも原首相床大内用をして男

産業調査

の爲め到底市會就任不可能の理由を繰返して寸毫も譲らぬに係はらず、血眼になつて聞く理由は、桐島氏等が舌腹を切るのが辛いのと傳くまで自己の面目を立て度い威嚇として内心では絶望と知りながら未だ厭があるの一縷の望みがあるのと稱して二百万市民を欺いて居る、其の心術の醜劣さ来るもの外はない

大成會の

如きは今や市會の面目を傷つけて迄も其の出願を欲せずと決議を發表した程で之を要するに永く官吏の職務を受けくると自治體の不面目だと確し一夜作りに持ち上げた男爵が承諾しないとして主務大臣の手まで届はすとは官吏の職務管掌以上の不

某消息通

は語つたが事実に至つても何の智恵も見せぬ市會に事實は本據の毒集まりである、因に桐島市會議長は若し今度の事が失敗に終れば市會議長と市會議長の職を退くは勿論各機關の要職から脱退すると聲明して居るさうである

後藤男否否

東京市長に當選せる後藤男は、銚衡委員の交渉に對し、出題の意と表せる爲、市會は百方其の就任を懇進せんとを盡しつゝあり、而も、首相志願者なる男を推薦するに、最も諒解莫くして銚衡を了せりとは信せられず、殊に功名心に急なる男が、勝つて無く被拒せるは、箇中何等かの豫定のプログラムの存する莫きやを疑はざるを得ず、思ふに結局已むを得ず就任といふ形に歸着する莫きや、士がりの男に是位の芝居は在內也

悪妻の祟り

前後八年、自由党内閣を保持して名首相の名を轟はれしアスキス氏をして、一蹶また起つ能はざらしめし原因の、小賢しき夫人の悪活動に存せるは、世界の周知する所なるが、此の悪妻又もや回想錄なる一巻は、アスキス氏の首相時代に周圍に集まれる公私各人の私事を忌憚なく描寫し英國政界の物議の種を蒔き、米國の言論界にも盛に問題とされつゝありと云。女賢しう

將軍心事

雄志空しく敗れて、天涯流落の悲運に沈淪せるセシヨフ將軍の窮乏せる、或は榮因の厄に遭ひ、末路を辱べきを蒙りて、車中自後を圖れりとは、心事真に悲しむべし。百折不撓、最後の五分間に宿志の遂行を期するの意氣を缺くの謂莫き能はざるも、事は運命を以て斷す可らず、明に薄志を笑ふ可きは非ト

何と觀んか

父の遺骸を看護し、自己の生血を滴りて注射し、更に二次之を重ねんとする少年あり。現代に珍しき孝子の愛情、人をして坐るに何情の涙は咽びしむ。而も現代の道徳は、吾人をして無條件に感服せしむる能はざるを奈何せん是れ確に研究に値する一提案とすべく、吾人周圍に憾あり

後藤男にまだ

脈ありやこ

首相、内相から説伏せる手筈

事情が纏綿して弱る——と
苦笑する男の胸中は？

後藤男の市長就任を促すべく最後の手段として原首相、床次内相の手を経て男を説伏しようとしてゐるが、昨日上野俱樂部に於て此の旨で後藤男の意圖を訊すと、男は例の

快活な態度で「今度さ

いふ今度は……と纏綿して閉口するやうに苦笑して「未だ原君よりも床次君よりも何とも云つて来ないが、僕は毎度新聞紙にも傳へられた通り、産業調査機關といふ大事業を企てゐるので、市長就任をお断りしてゐるのである」次に記者の「首相、内相を通じて條件をつけて

懇請して来たさします

「閣下は如何なさいますか」この問ひに男は「また来ないものに對して兎や角さといふ事は出来ないぢやないか」更に記者の「閣下は如何なる條件を附しても絶対に出席なさらないお考へですか」この最後の問ひに對し「それは諸君の想像に」まかせるより外

はない」さ男の態度は相變らず付度する事は出来ない、此の問答の歸結する處は條件次第によつては男も絶対に出席しないさといはな

頼むくど

首相邸へ六委員

藤男を勸説するやう駄付く
「一應考へて」この返答

別記中央亭に於ける實業團體會議の代表委員近藤子、近藤男、藤山、加藤の四氏へ市會館の柳澤伯、柳澤二氏が如きは昨日午前十一時から床次内相を首相に訪ひ後藤男の出動説を依頼し次で同二時五十分前記六氏は首相官邸に

◇自動車を 駛らせ首相

が腰越から歸るのを應接室で待受けた、雖て三時半頃六九號の自動車に着いて茶色ソフトに黒色トンビ姿の首相が忙しく室内に入るさ前後して内相が自動車で駆け付け附合會で一同會見する、こゝで藤澤子等委員から約五十分になり市長問題の經過を述べ後藤男の勸説方を

◇頼込んだので首相は

「諸君の意志のある處はよく解つたが一應考へてから……」さの答に一同聊か物足らぬ氣味で四時半先づ藤澤子が出て来た「一應考へてからこの事で御返事は何時たか判りませんがよく了解しては下

さつた、今後の方法？そりやわかりません」さいひ残して門外に消える、近藤男が其後を追ふ次に

◇加藤氏が「首相も内

相も共に吾々の意志を諒され何れ何さか形になつて現れて来やう」さ簡單な言を残して去る、柳澤伯の後で最後に桐島氏が自動車に乗る處を訊くと「連日で大分疲れましたよ、床次さんは交渉して呉れさなら交渉もする、市政は一日も遅かに出来ないから早く解決をつけねばさ云はれ又原さんは考へてからこの事でした、尤もな事と思ひます」桐島氏は他方面に活動してゐます、今後の事は言明出来んが最善の努力を持續してゐます」次に現はれた

◇床次内相に「さうで

す首相は——と聞けば「首相だつて直ぐ引受ける譯には行かないだらうさ、經過を聞いただけだからさだけ、五時原首相が現はれ話を聞いた」さで車内に飛び込

む時後藤男は適任者ですかさういふ人が居るさ「冗談云ふな」さ不得愛嬌な笑ひを残して私邸に向つた

後藤男と計畫

後藤男が、案の案本部を設け、せねばならぬといふ一大綱を、後藤男の計畫は、其後餘り多く世間に傳へられなかつたが、今度後藤男が東京市長職を辭退した唯一の理由として同男の口から此計畫が語られたことに依つて、吾等は男が依然同計畫に執心であることを知つた。吾等は此計畫に關しては、雖に二回本欄に於て反對の點を指摘したけれども、去ればさて男が熱心に此計畫を實現せんとする努力に對して異議を入るゝものでない、何となれば斯る新規な大計畫は十分に研究せられ計畫せらるべきものであるからである。併しながら吾等は後藤男が此計畫を實現せんが爲に取りつゝある手段に就いては不幸にして賛成することを得ぬ。坊間傳ふる處に依れば、男は原首相及内閣を動かして此案を採用せしめんとして居ることであるが、此の如きは現代の政治界に推察するべき途でない。寡頭政治時代にあつては爲政者に近いものが政府の政治を動かしても別に異せられなかつた、

又其れが内實的に悪いものでなかつたかも知れないが、現代に於ては政治は公開され民衆化されねばならぬとなつて居るのであるから、誰の案でも其が立案者の口から政府の耳に傳へられるのみでは政治的に合理的な方法とはいへぬ。後藤男は理想に走るといふかも知れないが、理想的にいへば男は此案を提げて國民の前に叫ぶべきである。若し男に其れが出来ないことは、男は貴族院議員であるから建議案としてなりとも法案としてなりとも之を貴族院に提出し、其處で十分なる理由を開陳すべきである。斯くして男の計畫は初めて世論に問はるゝのである。今日傳ふる如く之が原首相顧問のギョ・アンド・テークの問題にされるやうでは、國民は却て悪い心證を與へらるゝのみである。吾等は後藤男の計畫の多きに敬服する、併し吾等は男が野心的政治家の地位から脱出して、立法府を相手に國民を對象として其計畫を唱道せんことを勧めるのである。光明を避け暗い處で行はるゝことは其れが善事であつても現代民の心理には受け入れられないことを古い政治に馴れた政治家は知る必要がある。

首相泣付かれ

考へて置く」と

後藤男には市長に成る色氣たつぶり

後藤男の市長問題も推す方も推さるゝ方も少し眞面目になつて研究して見るさ全く馬鹿々々しさを感ずる

▲今迄の成行 茲を傳へて見るに例の桐島、柳澤伯、坪谷さ云ふ連中は何か考へたかキツパリと斷られた男に泣き付いた結果更に斷られて更に手を變へて渡瀬子、山、杉原の諸氏に頼んで説いて尙も斷られて今度は床次内相に泣き付いて原首相を其の官邸に訪問して「何分後藤男の御出馬方を御依頼申し上げたい」と腰を七重に折つて頼む

▲流石の原首相 も少し馬鹿々々しく感じたさ見えて「さやうか考へて置くさよ」と押ッ擁はれて全く取り付く島だになつた様となつて又會合に會合を重ねて居る幾たびさ云ふ者に對して何故に斯く滑稽じみてまで頼むか後藤男果して斷つたのであるか果してキツパリと斷つて居るかさうか云ふことを知つて置く必要がある

▲一體後藤男は 何の破のこゝろでは居るもの、市長になりたくつて、堪らないのである、さ斷言が出来よう先づ茲に其證據を示すさ男が十三日九ノ内工俱樂部で直接記者と男の問答を許らずに上げて見る

記者 市會の代表者が今日は來りしや

男 來ることにはなつて居るが未だ來ない

記者 若し再度來つて頼まれる時はどうするか

男 從來新聞にもある通り市長にはなれない事情がある

記者 然らば再度來るも斷然拒絶するのですか

男 其は會つた後でなければ解らないが、前にも會つた後の事を語るのには豫斷である豫斷は避けた

記者 だが併し閣下が眞に市長になれぬならぬ意であるさうならは十度來るも同じでな

男 其時は豫斷も即斷も出來ようではないか

男 さうは行かぬ

記者 然らば閣下の所謂事情を披けは閣下は市長になるものな若しくは否に依つてはなつても宜いさ云ふのではなからうか

男 それは君の想像さ

のではないのでせう、男、其れも君の想像だ、押せば通ける詰めれば煮え切らない即ち此中で市會の代表者等は引づられて居るのださ判明する

記 併し閣下の拒絶は絶對のものではないのでせう、男、其れも君の想像だ、押せば通ける詰めれば煮え切らない即ち此中で市會の代表者等は引づられて居るのださ判明する

後藤男起つか

藤澤子等藤男の説得に努む

紛糾して結局解散の外なげん

9.12.14

後藤男再選の拒絶に依り、東京市問題は又もや昏迷の中に入りたるが、藤澤子其他後藤男の市長承諾に熱中しつゝある諸氏は

▽手を換へ品を替へて

飽き飽きの承諾を求むべく、後藤男は調査會對する責任を以て、市長候補を断するの理由を掲げつゝあるが、目下都市問題の提げて徹底的に市民の自治権の發揮に努めんとし、都市問題に關して多大の興趣を抱き居る諸君に見ても、自己の負擔に於いて遂行し得らるべき見込みは、後藤男必ずしも市長たるを欲せざるに非ず、従つて藤澤子等が

▽原首相を動し

後藤男との會見行はるゝに至らば男は自己の提唱に係る産業調査會の成立に關し、首相の明確なる答を求むると同時に、市長就任後に於ける何等かの保證を求むべく斯くて後藤男は市長就任を承諾すべし、若し斯かる順序を経て承諾せば、後藤男が敢然として市長就任を拒絶するに於ては、茲に市長問題に懸念を見るべし、而して此場合にて市會の新政會は、市友

會の市長選挙案に向つて

▽其責任を糾弾すべく

大成會は昨夜市長問題に關して總會を開き、市會の面目を傷つけて後藤男の市長承諾を求めざる旨の決議を爲し、今後、後藤男の推挙には無關心の態度を執るべく、公和會に於ては市友會大成會の聯盟に依り、市長問題に關して後藤男を推舉し承りたるより、阿部氏を推挙の主張を一擲し、直に之に賛同を表したるも、其後市長問題の解決遲々たるに至れるが爲め、今や又

▽阿部氏を擁し

陣頭に起つ決心を定めたるが如く、愈再び公和會が阿部氏を推挙して市長選挙を爲さんとするの形勢に至らば、大成會の十二名の中心より浅草組五名は直に之に賛同を向ふべく昨夜の大成會總會に於て藤澤子見聞りの決議を爲せるは、蓋し此間の消息を語るものに非ざるべきか、併し藤澤子等市長就任を拒絶し、市長問題に關し男と藤澤子等に違着せば、新正會の市友會

▽詮衡委員に對する責

任組の藤澤子は、浅草組を除く大成會員の共謀を断し、市友會内に於ても亦之に共鳴する者を生ぜし、而して此時公和會が大成會の浅草組と結んで、再び阿部氏を推して市長選挙を爲さんとするに至らば反阿部勢は新正、大成、浅草組を除く市友三派に激り、遂に一轉して市會總機關の氣味昂進し來るやも知る可からず

大正九年十一月十九日

物々しや市長問題で

山縣老公を擔ぎ出す

宛然内閣組織でもする様を騒ぎ
原首相邸へ老公から使者が行く

今十五日に諸否の返

後藤男の東京市長就任問題は、原首相等が原首相に泣き付いて、無き山縣公を訪づれて、今回の市政紛糾に依り後藤男が市長に就任しなければ市政は暗黒になることを述べ公の盡力を求めた處が同公は深く憂慮して直ぐ後藤男の許に

是非藤男

の就任に盡力するやうとの使者を派したと傳へられる市長問題は、元老の意を動かす所となつて宛然内閣組織の時の如き紛糾を來たしてゐる。今日の原首相の瀧澤子に對する返答に依つて藤男の去就はどうなるか分らなくなつて來た

老公の御盡力は

私も聞いてゐる

と……瀧澤子爵談

瀧澤子は十四日午後十時半華族會返事することとしたが、今日館に同子主他の忘年會を了へて記(十四日)返事のないことは盡力さるに諸る「原さんとお會ひしたとれてゐる證據で、明日(十五日)も後藤男の問題を引受けな時は、成るべく返事のな方がいゝ、山縣公が御心算下さつてゐることは、その點を話しただけ、藤男のいふも聞いてゐる、今日後藤男に午別中おひしたが、それは今日ま

後藤男説服を

頼まれた原首相昨夜

「何も聞いて呉れるな」といふ。原首相は十四日夜は三浦を通過すると「今日は市長問題では瀧澤子の喜望の賀宴が開かれた地、地盤に會へない」と言ひ「明日(十五日)の芳野家に臨んだ、府上には内田(五日)何分の返事をするからなに、日井齊夫、野田進相、堀田も聞かずに置いてもらひたい」と十之助氏等もゐたが、原さんに「後は何事も語らな

首なし地藏

お前の首は

どうこへた

「ドウだ、瀧澤子の靈波振は、駄目だつてアハハハハハハハ、まあそれ來にやならぬ譯や。實の處後藤男の位や未だスネ足りまいよ。なアにもうちとスネるが宜い。そしたらトの語りはまあ何とか落付くだらうぢやないか。だが今度の事で、手を取つたのは、沙汰委員で馬鹿を見たのは市會議員サ。○ナニ、首相がドウ答へるだらうツテ？お前も餘ツ程野暮大だ。考へても見イ。全體市長問題を政府に持込まふなんて、第一其處から間違ひつてゐる。東京市は自治團體だ。政府は國家の行政機關だ。如何に血迷ふたと云へ、自治團體の代表者ともあらうものがあんなに迄戸惑ひするとは一體何と云ふ態だ。今の文明の世の中に時代錯誤も甚だしいぢやないか。

○それから後藤男に足元を見られたり、時鐘を喰はされたりするのだ。だが花嫁に振られたからと云つて、區役所へ泣き付く奴もあるまいぢやないか。男の意氣地は此處だ。而も江戸ツナだ。此際男らしく、バツと總辭職をやつちまや宜いのだ。身を捨てこそ浮む瀬もあれとは此處の事だ。○だが大きな聲では云へないが後藤だつて満更ではないぜ。あの色氣タツブリの様子を見給へ。處が底に底があつて、内では子分が綱を引いてゐるし、目移りのするお前さんは澤山あるし、後からはヤイ、云はれるし、詰り此の處ジレンマに陥つてゐるだ。○唯可愛なのは首なし地藏のやうな東京市だ。オイ、これからお前が先達になつて、鎗太鼓で首提しと出かけて見る。「首なし地藏ヤイ。お前の首はどうこへ」とな、アハハハハハハハ(某老政客談)

首相が口説役になつて

後藤男の首縦に振んか

遂に拒絶され難き破目に陥つた

今日こそは決定せん

遊澤の外三名の委員の懇請に叶はし考慮すべしとて口説役を留保した原首相は周囲の事情から素氣なく

◇拒絶し難き羽目

に陥つたので遂に昨日に至り友人關係から後藤男に對し市に承諾を應答する事に決意したされ更に首相自ら矢面に立つて悠遊せんか自治體に干渉するの誤を恐れて先づ床次内相及び横田法制局長官をして後藤男の内意を探り然る後自ら正式に會見の上後藤男を

◇口説落さんこの

底意あり、それかあらぬか、床次内相と横田長官とは本問題に對し會見の上種々打合せをなせしのみか、横田長官は單獨にて後藤男を訪問の上内々漸踏み

試みたこの事である。傳ふる處に依るに後藤男の真意は絕對に市長を肯ぜざるにあらざる場合に依りては出處せんこの色氣あり

◇殊に監督官廳の

主務大臣や原首相に應答されては辭退し難き事情あり、結局は餘儀なく市長を承諾すべしこの説一種有力者間に唱へられて居るのみか原首相既に口説役を決心した以上其間曙光を認めたからであるか、其結果原首相は本日午後首相官邸に於て後藤男三會見の上

◇正式に東京市長

たる事を應答する段取となつたが果して後藤男が首を縦に振るか横に振るか其何れかに決定するのは今日である

山縣公まで幹旋

遊澤子は斯く語る

後藤男の東京市長就任に對し數日來奔走して居た遊澤子、桐島像一氏等は十四日中には原首相床次内相より何等かの挨拶に接す可しとて

◇編首して一日を

送つたが原首相や床次内相を憤はして尙ほ其力の及ばざらん市を慮た委員の一人なる藤山雷太氏は十四日午前中麹町番町の新橋山莊に赴いて居る山縣公の對し原首相をして後藤男の市長就任を懇請す可く依頼したるに説もある遊澤子は曰く「今十日午前中私が

◇後藤男に面會し

た事は事實であるがそれは十三日首相内相に會見した頃長を要説して内々後藤男の諒解を得たに過ぎません其時も相變らず産業調査機關問題を楯に山縣の意思なき事を表明して居ました原首相からは今日特に返事する事にはなつて居ません私共としては首相の返事のある時は

◇争る絶望の時

何等の返事のない間が却て原首相の盡力されつゝある時ださ考へて居ります此意味よりして却て返事を遅れる事、希望して居ます」更に本問題に對し山縣公が幹旋の勞を執りつゝありこの説を聞きしに子爵は「私も或人が目下

◇在京中の山縣公

を通じて原首相に對し後藤男の出處を應答しつゝある事實を聞きましたが右は盡力される云ふ程度ではなく寧ろお口添ひをして下さるさういふ程度のものであらうと考へます十五日中に後藤男の諾否が判明するかさういふ問に對しては何さもお答が出来ません」

萬更でない原首相

今日逢はうかと思つてゐる

忘年會の歸り玄關にて

別項の三浦觀樹將軍主權の忘
曾を終り午後九時三十分だらり
こした紺のマントを漣酒なる和
服の上に被りつゝ原首相が
◇玄關口に現はれた處
擱まへて市長問題を内海に及ぶ
相曰く「また市長問題かね先
刻から方々の記者諸君も見つた
様だがその事なら今迄に幾度も
云つた通りだ、随分執拗いぢや
ないか、何遍聞かれても尚ほ考
へ中だといふより外に何も云は
れぬ、今日(十四日)かね、まだ
誰れにも逢はず又誰れも
◇訪ねて 來なかつた今日
返事する約束はしてない、併し
明日(十五日)あたりは返事しよ
うか逢はるか(漣酒子に)と思
つて居るかね」云ひも終らぬ
内芝の自邸へ自動車急がす

原首相は後藤男と

未だ會つて居ない

漣澤子へは産業調査會の

解決が附けば市長に成らうか
市長問題も今日で片が付きさう

後藤男を惹いたために市長問題も
漣澤子へは産業調査會の
解決が附けば市長に成らうか
市長問題も今日で片が付きさう

た、それでは今日後藤男と御會ひ
になることを聞きましたか、お會
ひにならないのですかと專使の記
者陣の問ひに
原首相は微笑しながら
「自分は今日此處に居るが、
漣澤子へは産業調査會の
解決が附けば市長に成らうか
市長問題も今日で片が付きさう

後藤男を説伏に 山縣老公を動かす

坪谷氏藤山氏を働かし

山縣の市長問題について床次内相
さては原首相へと引きついたがそ
れでも尚ほ不安とあつて大きな
居るが、漣澤子へは産業調査會の
解決が附けば市長に成らうか
市長問題も今日で片が付きさう

漣澤子へは産業調査會の
解決が附けば市長に成らうか
市長問題も今日で片が付きさう

未だ脈がある證據

原首相は引受ない時は返事する

四日午後十時、牛海濱には華族會
 議と同じ主眼の忘別會を了へて歸
 途、中者に語る一語さんとお會ひし
 た時、少華族問題を引きやない出
 は波事することとしたが、今日返
 事のないことは體がされて居る
 證據で明日も成べく返事のない
 方がいゝ、山縣公が御心配下され
 てゐることは私も聞いてゐる、
 今日後藤男に午前中お會ひしたが
 それを今日までの運動を話したた
 げて後藤男の出馬はまだわかりま
 せん。

後藤男が承諾なくば

山松氏へお鉢が廻る

お後に控へた候補には
市長になる意思が無い

意市長第一候補者森岡が遂に就任を承諾しないと決定すれば市長職務官署として執るべき途は第二候補岩崎氏に就任の意思ありや否や先づ市議長に照會し、岩崎氏が承諾の意思があるとするれば直に知事へ報告すれば知事は内務大臣へ第一候補者の降退した經過と第二候補者の就任の意思ある旨の副申を附して申達する段取りとなるが其邊内務大臣が適宜と認められ森岡の手續きに於て何等の所がない以上は奏請の手續に據ふてあらうが然し第二候補者に就任の意思のない時同一順序で更に第三候補の意思を確める事になるが今回は第二第三の両候補者の意思を一併に確める考へである因に岩崎氏も櫛橋氏も市長を引受ける意思はないと

市長問題は

遂に政爭化

山縣公も動いたと云ふ噂

宴會歸りの原首相

は巧に言葉ことばを濁にごす

後藤男の市長問題は益々混沌とし、哲夫氏を交へ盛大な酒宴を張つた。て其の諸否に就ては殆ど捕捉し難い状態となつた殊に原首相迄渦中の一人となつた爲め今や一箇の市長問題に止まらず政界の大問題化せんとしてゐる即ち或方面からの

▲情報に依れば 藤山首相を安國口に要した原首相は「市長の問題なら絶対にはねよ」と手を振りつゝ「其の問題は

▲今考へ中だ から何んぞも云へぬ誰れにも會見してゐないし渡邊子の方へも何んの返事もしてゐない何れ明日十五日邊り返事しようか又會見しようかと思つてゐる」云ひ捨て、趣ける様子に自動

に於て常に政界低氣壓の中心たる三浦鐵藏將軍は此夜午後六時から政友會系の人々約廿餘名に白井氏に乘つた

摸索中の市長問題

濫子藤男再訪 藤男尚應ぜず 諸名士悲観 首相考慮を語る

行儀ある市長問題に關しては既報の如く遂に原首相、床次内相の辭庭を乞ふ事となり十三日懇談委員等が兩相訪問の結果更も角首相の考慮を保留せる儘其回答の時期を待つに決したるが十四日も濫子藤男は午前八時半個人資格を以て後藤男を麻布櫻田町の邸に訪問の上後告の意を以て右首相依囑の頭末を陳べ尙男の就任受諾を重ねて懇話する所ありたるに男は尙ほ依然として産業調査機關設置の確信を固持し、周囲の事情止むべからざる旨を述べて濫子藤男の懇請を拒絶したりと云へるも今後局面の轉化如何に依つては未だ必ずしも絶望と云ふに非ざりしが如しとは當日濫子藤男が某氏に語れる所なりといふ而して一方桐島氏は同日中央亭に於ける火曜會の例會に臨み散會後は三菱家庭部に入り鶴首して首相の所謂考慮保留の時期を待ちつつありし模様なりしも午後四時遂に何等要領を得ずして歸宅したるが同夜采女町芳野屋に於け

る有志懇親會には原首相、田中閣相、野田閣相、三浦閣相、田健治郎、松岡康毅、望月圭介、大岡青造、早川千吉郎、高岡孝一、福原俊九、松本剛吉、藤田庄太郎、白井哲夫、中村啓二郎、松田源治、兒玉秀雄、久原房之助、高橋光威、高橋是清、田中三氏の出席あり同席上も座談的に市長問題に賑ひたりと傳へらるゝが大體悲觀説に傾き後藤男を推挙したる市首の無責任を笑ひ今の場合男の出馬は到底困難ならんと云ふに一致したる如くなるが更に同夜原首相が廣岡政友會幹事長を通じて在訪の記者に語れる一節は所謂考慮問題解釋に關する唯一の憑據として最も興味深き言質たらざるべからざる理由あり首相は曰く十三日濫子藤男等が後藤男の市長就任勧告を予に依頼せられたる際、予は即刻拒絶するも差問なしと考へたるも折、濫子藤男等の來意に免じ不取敢考慮すべき旨を以てせり、而して断然右勧告依囑を拒絶すべきか或は後藤男に對して就任を懇請すべきかも亦今何は考慮中

なるか予の此の考慮は明日(十五日)を俟つて何れにか釋明せん

とす

と此の言外の真意が抑も何を語れるやは今俄かに推斷の限りに非ざるも首相が濫子藤男等に對する勧告可否の決答の長引けるには其間何等かの暗示あるかの如く一般に觀測されつゝあり

後藤男と市長

後藤は多情多恨 野に置けは千の馬 槍舞臺では如何

「何れ後藤は出るか出ないか」と云ふのは、後藤は飽き出まいと思ふよ未だ一縷の望があるが濫子藤男は言つて居る相だが之れは多情多恨の後藤の心であるから濫子藤男の老人が此意大に相手を引續ける腰を曲け七重の膝を八重に折りて頓首再拜して御粗み申すさありては無下に斷りも出来まいじやないか多少餘韻々々の愛嬌を振舞くは當然の事だ

原が是非一肌脱きてはさうたそんなにぢらすな妙に碎けて出れば後藤も惜ま返事するだらうといや原に限りて口實を取らるゝ様な馬鹿氣た口説振をする氣遣ひはないよ萬一原が旨く勸誘するにしても今さなりて後藤が承知したそれじやと言言を取消して産業調査會を兩手に花と二足の草鞋を穿く事が出来るものかい市會が満場一致でやいのやいのを極め込みし時はいやで御座るさ強く肘鐵砲を喰はせて置いて總理大臣の懇談がありたさで然ら一笑縱に冠を振るさしたなら後藤が近頃八益しく云ひ出した自治ださか自覺さかは拒絶から預れる事に成るではないか常務會へては、後藤が

迄不承知と頑張るは分り相なもので

河豚は喰ひ度し生命は惜し後藤は色氣はたつぷりさ云ふ噂があるさ云ふのかそれは後藤の近狀を知らぬ奴の空口だらう昨今の後藤は餘り老練して來て思慮が周密なつたのは驚嘆の外はないよ舊は百選願は忘れぬから相手が笑うがしかめ面をしやうが、後藤は手拍子打つて舞踏をやる舞は今は止まぬに相違ないが東京市長で意の如く踊れるか踊れないかはあの機敏の頭でちやつと讀んで居るよ大姑小姑が百匹もうじやうじやし手を取る奴も脚を牽く奴の多い處で何が出来るか地位はかり切つて居る後藤さ云ふ男は原無人の野に出して鐵槌に嘯かせるさ鐵槌に千里の馬だが、後藤を養つて舞臺に出すさ兎角後藤の持前が演文句は忘れる仕打は頓珍漢を演ずるし見物人の期待に背くは必す定めの豪腕の様に見えて懸けて其實神經質の後藤が自己の長所も短所も知り抜いて居るから中出處を肯んぜざるは無難もないよ

何しろ謝安不出祭養生の人間を賣つた後藤はユライものだが、後藤の花だよ此上懸がれもせまいが後藤が踊るのは止しにして矢張り後藤は野に置く事にしてはさうない(某老翁談)

遁口上の穴を

調べに行つた

産業調査會の成行が問題

首相の考へで藤男も應諾せん

◆ 桐島市議長談

藤澤子以下の運動も床次内相原首相の援助等で漸く市長産出しの期を早めたかの感がある要は藤男が應諾せぬ唯一の口實たる

男提唱の

産業調査會

を片附けぬ中とは云ふ遁辭と立場を明らかにさへすれば問題は平易に解決される譯である昨十三日の運動組と首相との意見の

解されて

は甚だ困る

實は産業調査會に對する首相の感考を求めた次第で決して首相に藤男を優遇して貰ふ譯ではないと確信ある所を頻りに漏らして居た因に今日は午前中藤男組は何等の運動も打合せもせず午後でも首相の返答次第で疾風迅雷的の行動に移るのだと云ふ

意見は返

答される譯

である右に就三愛家庭部に桐島像一氏は語る「一度一週間努力を續けたが漸く望みは抱けた様

轉法輪 (中絶)

歳晚日に押詰めて天下不景氣風の吹荒ぶこと甚だし。所謂世界改造の本舞臺に入るべきゼヴァ會議は泡沫會社の破産整理の如く、大株主の米國は權利株のみを收めて拂込を行はす、の列強亦何れも出鱈目の空手形を發して今は専ら不換紙幣の收集に多忙を極む。獨り正統なる日本は大名行列を行ひて正作を浪費し以て支那や南洋に目度がられつゝある。南無三、結構な外交よ

上れるものゝ下るは物理學の原理也、之を稱して諸行無常といひ盛者必衰といふは昔からの通り相場也。有爲有能なる原内閣が三世相を實地に示現して滿天下の阿呆共を訓誡しつゝある哲人政治家たるは今ぞ分明也。故に無庸宰相は屢々財界振興を聲明すれども其實績を開示し給はず、又頻に救済策を講ずれども其救済の神様と同様、一向にパンを喰ひ給はざる也。然り、因果應報の哲理を體驗せしめる原内閣の偉大さよ、財界反動に悩める者は沁み、其現實教訓に感謝して可

既に暴落あり、暴落の避くべからざるは哲人政治家たる原内閣が夙に即承知の事也、之が爲に犠牲となれる農は眞に同情に堪へずとも、それは是れ因果哲學の必然的結論乎。米穀賣止重といひ常平倉の設置といふも固より一般の哲理以外に出でず。故に地主は之に依つて一時の溢ぎを附けんも一般農民は實に賣られず、買ふに錢なしてふ第二の現實教訓を受けるなしとせず、今日の計に焦慮して他日の反々動を考ふるなくんば、又原内閣の偉大なる哲人政治に翻弄されん

會て之を政友會員に多く、首相の「考慮」は即ち「承諾」と同一意義を有すと。蓋し細心深慮たる大政治家は凡俗と異なる言語を用ふるを常とする。近來國民の熟知する所也。故に藤澤子以下の東京市民は大に安心して可なりと雖も、男後藤の首を縦に振るや否やは天眼通なき吾人等を知るす、例の大調査會案に「賛成なる原首相は今頃舌をペロペロつがせつゝ鼻を舐める策案中ならめ

説あり、空閑の速力を以て新市長を選舉せる彼等は又數日にし這平の態度を示す。市會解散論に戰慄せる輩の心理狀態を暴露して餘蘊なし。此の如き市會を有する東京市民は永久に救はれ難し。レニンの發明せる玻璃鏡りの獄舎に封じて彼等自身の姿を見せしめば妙的ぞ

市會の反後藤熱漸く高しとの

後藤さんの脈と

原さんの腹

今日中に診断が付く

首相曰く「十五日には返事も男にも逢ふ積り」

後藤男の市長問題で俄に中心點となつて来た原首相は十四日午後六時頃例の優しい和服姿で京橋樂地平女町の芳野家の前で

自動車

を降り奥座敷に消へて行つた、これは當夜開かれた三浦閣將軍の忘年會を兼ねた喜の字の祝宴に招かれたからである、席上には野田、高橋の兩大臣始め田澤、内田、廣岡、宇一郎、大岡、横田、手之助、望月小太郎、日井哲夫の諸氏外十二三人がずらりと居流れて新橋から坂の美人の酌に賑を盡しお開きは九時であつた、其客中に

後藤男

と床次内相も来る筈であつたのを御兩人共缺席は聊か物足らなかつたけれどそれだけに話題は市長問題に花が咲いた事は云ふまでもない、恰度九時半首相は口の端を拭いてそんな事は知らぬと云つた顔付で女團に現れたのを待ち構へた記者達の包圍に手を振りながら「今日は市長問題

では誰にも會はないからさう聞くな」

逃げる

袖を捲へて「何れにせよ早くして頂きたい」と記者の言葉に首相は眉を動かし「併し僕は早く解決して呉れさば頼まれて居ないし早くする約束もしなかつた筈だ、だが明日頃は何か遊藝子にまで返事をしようとも考へ又後藤男に會つて見やうかとも思つて居る、これだけで許せ」さ身を離へして自動車の中へ

山縣老公へ拜付く

口添へ位ゐして頂けやうこ澁澤子爵尙疑はず

自分

は後藤男と三回日の見を遂げた、其際自分は去る十二日の委員會の頭末を語り或は原首相からお話があるかも知れない事も語つて置いたが男は相變らず職業調査機關の事のみを云つて市問題に對しては一語も及ばなかつた、其處に自分としては充分望みを置いて歸つたのである、一方原首相は十三日自分共が懸願した時「交渉の結果

が惡かつたら直ぐ返事をする」この約束であつたのにまだ何も首相からは返事のないう處を見るさ首相も尙熟考中の事と思ふが大丈夫口を叩つて頂けるものさ信じて居る、其上最後の手段として或有力者が十四日在京中の山縣老公を訪ひ御辭儀を願つた事も聞いて居るが老公としては正式に御交はれないとしても口添へ位にして頂けるさ信じるから自分としては矢張り後藤男の出處を疑ふ事は出来ない云々

申達は一兩日の後

後藤男の諾否を待つて若し斷つたら岩松氏が

大海原代理市長談

不明瞭

になつてゐるの申達が延引してゐるが茲一兩日中には愈々其結果が解ると思ふから其際は桐島議長に通告し議長は山縣各派に交渉をなし第二候補がお受けするか、矢張り第二候補も第三候補も辭退するさかいふ經過を知事に報告し知事は正式に三候補に向つて意志を述べた、一切の事情を副申として申達書に附して内務省へ送り内相は認可して可なりと信ずる候補者を上奏

手続

さによつて選挙したものであるから濫りに不認可など爲せばそれこそ自治體を蹂躪する結果となり市會の一部に大問題さならう、而して後藤男辭退の組合第一候補だけ候補選舉を行ふべしなさいと議論に至つては現行市制の明文にないから問題にはならない然し第二候補がお受けし

御裁可

を仰ぐ順序となつてゐる云々尙ほ後藤男にして不承不承の場合は岩松第二候補に就任の意思あり更に氏を推したる大任に於ても既に氏の就任を決議してゐる状態であるから此問題は

産業調査會と市長と

を兩手に提げたい

野心満々たる後藤男

市長就任を拗ねるのは産業調査會の豫算を強請りたいた爲ぢや、

原首相の勧誘は愈男の思ふ壺

愈之からが大芝居

努力が、脱走であるといふに、彼等を激勵してゐると云ふ

昨日は午前を二時間ばかり、藤男の現の難なことが爲めである、三つとも一處に嚙下する位は男に取つては餘茶の子である、故に産業調査會へ實現すれば、男は

其問題

は言ふてはならないといふ、原首相も湯までとは行かないまでも苦い丸薬（ピル）を飲ませられたやうなものでせう、男曰く「何故だ」と願ひて他を言ふ、男の産業調査會に熱心なることは、想外で、男は之を畢生の事業であるとしてゐるらしい、その經費を支出するに就いて腹内閣は何うも

其艱難

が取れたのであるから、これぞ大芝居として來た市長を承服するに相違あるまいと思はれる、就いて原首相は何うする

と云ふ、男曰く「何故だ」と願ひて他を言ふ、男の産業調査會に熱心なることは、想外で、男は之を畢生の事業であるとしてゐるらしい、その經費を支出するに就いて腹内閣は何うも

一千萬

の文庫を提出せよ、更に原首相が男に市長就任を勧告するに由なしと爲つたならば、市の財局は如何に變化することであらうか、今は之を豫言する時機ではない（華山）

胸中を察するに

市長就任を拒絶するのは、産業調査會の豫算を強請りたいた爲ぢや、

後藤男推舉には筋書がある

詮衡委員に責はない

市長推舉はもともと後藤側から運動したので

若林成昭氏談

市會の硬骨漢若林成昭氏は、昨日、桐島氏の詮衡委員が後藤男を市に推して行つたり、首根内根に其の腕を依頼したとは、詮衡委員の胸算に、在る事で、斯く

胸算に

在る事で、斯く

筋書が

外れて招待會より、後藤男の申込が先になつたのである、又詮衡委員に中絶して後藤男が市會に申込して、後藤男の部下の某氏等が男にお金を廻して貰ひたいといふやうに、力動したのは事實だ、だから詮衡委員も

其運動

を察して其處に

適任者

として選まれて

始めて後藤男就任の件を我等に任せて呉れと表したのである、そである」

市の銓衡委員今度は

山縣老公に縋る

市の現状を詳さに聴取したる上
原首相に對し助言の使者を出す

後藤男の協働問題益々大きくなる

後藤男の市長問題は、床次兩相の立入るに及んで池水の波紋を誘ふが如くに大きくなつてゐた所へ俄然更に巨石が投ぜられて

彌々擴大し、物々しくなつて來た。巨石とは山縣有朋公である。其顛末を記さんに十四日午前、實業界の代表との交際委員の一人なる山縣太氏は市會の銓衡委員の一人なる坪谷善四郎氏と共に山縣公の舊邸の邸に訪問し詳さに

市の現状並に後藤男市長受任に應ぜざる事原、床次兩相に動議依頼したる等經過を語つて

何分の助言方を哀請した結果午後山縣公は使者を芝の原首相邸に後藤男勸説に付き遣はし

助言する所があつたと

傳聞す之によつて問題は益々重大に風雲漸く急ならんとするものがある

返事の無いのは

吉い前兆

山公にも口添へを

◇…澁澤子語る

右に就て澁澤子は十時半華族會館舊町の山縣公邸には誰か交渉委員に於て語る「今日(十四日)午前山縣公が行つた際である公は盡力と云ふと其邸で會つて吾々交渉委員が原かずとも何とか口添へをして貰へ床次兩相に依頼するに至つた顛末に就て後報告せよ」

諒解を求めて置いたが

男の方は相變らず調査機關の一助張りであつたが途の開き様によつては出馬しないとも限らない様に思へた原さんの方は返事がなければ必つと凶い報せである返事のないのは有難い

意味してゐるのである

今日定る

首相の態度

後藤男が市長就任を願として應じないのて手に餘した市會の桐島氏等の銓衡委員や實業界の澁澤子等が交渉委員に並ぎ込まれた原首相

が什を頭を振るから世間の耳目を集注してゐる原首相は十四日夜京橋栄女町の芳野家に催された三浦梧棲子の七十七の賀の祝に行つてゐた原首相に刺を通すると「市長問題なれば此際一切

お話能きま(せぬ)との御宣告に暫らく腹を据ゑて九時過ぎに漸く大岡氏を先頭にぞろ／＼歸りかける中から紺のマントにくるまつた原首相を捉へる「あの方の御返事は何うなさいましたか?」と詰まて云はさず「未だ／＼何も今日返事すると

約束した譯ではない

「……」と早口に逃げるを追つて更に突込めば「何うも困るねまあ明日(十五日)にも返事をしうやか會はふかと思つてゐるよ」と云ひ捨てて行く其後を廣岡宇一郎氏が「内閣つて大いに笑ふ歳の暮……どうだ名冷だらう」

後藤男市長を 諾せよ

東京の市會は、曩に全會一致を以て、後藤新平男を新市長に推すべく議決した。阿部市長を始め二の議員は、市會を代表して之を後藤男に報告し、且つ其職務を勸告した。遊澤子近藤男其他の諸氏は、有力なる市民の代表者として市會外に於て、後藤男の職務を切に懇請した。更に一兩日來原首相は、大内相等も亦後藤男を引出すべく努力しつゝあると云ふ。是の後藤男に取つては誠にも至極と云はねばならぬ。東京市の市長は極めて困難な地位であるから、是まで市長候補者として推薦せられた多くの者も容易に承諾はしなかつた。而して之を承諾せしむる爲には、市關係者は相當に骨を折つたものなり。されど今度の後藤男に就するやうに、朝野の有力者が、殆ど一一致の勢で、大膽きをしたことは、全く空前である。而も吾人が此文を草しつゝある頃までは、後藤男は、此空前の名譽ある推薦を未だ受諾しない模様である。なるほど後藤男は、東京市長として適任のやうである。故に吾人も亦一度後藤男に之を勧めて見たいと思ふ。

後藤男は何故此名譽ある推薦に應じないのか。彼が政界に於ける野心の強々として制する能はざるものがあるが爲めか。現内閣の崩壊したる場合、アハよくば原首相の後釜に据らんとする野心があるが爲めか。なるほど其の點を我々が於て、後藤男が斯かる野心を起すのは、當然である。無理のないことである。而して若し彼に斯かる野心ありとせば、今市長の職務を受諾するのは或は不得策かも知れない。されど彼自身が、之を拒絶する理由として世間に公言して居る所は聊か之と異なつて居る。彼は公言して曰く「國際經濟關係の確立は、目下の我國に於て最も緊要である。政府をして之を設立せしめ、首尾よく其効果を擧げしめん爲め、自ら市政の細に當るとが出来ない」と。之が拒絶の口實か否かは知らないが、後藤男にして眞にコソナことを考へて居るならば、吾人は一應其遷還と間違ひを指摘して置かなければならぬ。

聞く所によれば、此の國際經濟機關は、五年間に二千萬圓、少くとも一千五百萬圓の巨費を要するといふ。後藤男は元來且下の財政に、斯かる餘裕があると信ずるか。政海が有りと有らざる財源を濫り、鐵道の運賃を上げたり、歳入の自然増加を餘計に見積つたりして、尙歳出入の均衡を維持することが出来ず、遂に來年度の豫算案に於て、其年來繰上り來つた積立金を捨て、寧ろ極端に消極方針を取るの面目を忍ぶに至つたやうな始末ではないか。後藤男の注文するやうな大事業に着手する餘裕のないことは勿論だ。若しこれが近々に出来るやうに思つて居るならば、吾人は其汗滴を噴はざるを得ない。

然りに出来るにした所て、其方の仕事ならば敢て後藤男を須はすに及ばない。他人は擧出ある。例へば今度東京市長を辭した田尻子、遊澤子、市長としてこそ失敗した、國際經濟機關の確立と云ふは、是より更に大に困難である。而して之が適任者は頗る少い。先づ後藤男が最も適任でないかと思ふ。故に吾人は後藤男に對して、前者を捨て、後者に就かんことを勧めたい。後藤男が國際經濟機關の機關は、是非とも彼自身たがざるを得ないと考へるのは、大なる間違ひである。

但し後藤男にして、若し原首相の後藤男を以て自ら任じ、此野心の爲に東京市長に就任するを得不得策なりとするならば、問題は自ら別である。されど今度の如き有力者の熱心なる勧誘を受け、而して何人も最も困難とする東京市政を首尾よく刷新せんか、其名譽の決して内閣總理大臣に譲らざることも亦之を知らねばならぬ。

藤男の就任絶望 遊澤子の勸説を容れず

加藤、桐島の大氏は後藤男をして東京市長に就任せしむべく十三日床次内相及原首相を訪問し其職務援助と求めたること既報の如くなれば、遊澤子は十四日朝更に原首相に就任を勸告する所ありたるに男は其の好意は感謝に堪へざるも國策調査機關設置に専念せざる

べからざる關係上諸君の希望に副ふ能はざるを以て之を諒とせられたしとの意味を反覆し飽くまで拒絶したる由にて假令此上原首相其他の勸説ありとも遊澤子に其意志を變更すべしと思はれず即ち男をして市長就任を承諾せしめむとする詔書は殆ど絶望となりたる模様なり

朝野名士會合 原首相に藤男 勸誘の意無し

三浦梧村氏は十四日京橋區米女町吉野屋に原首相以下朝野の名士を招き忘年会を開きせり出席者は原首相、田中義一、野田卯太郎、高橋是清、田中健次郎、大岡青造、松田光成、横田千之助、堀月圭介、田澤治、松岡康毅、伊藤文吉、廣岡宇一、内田信也、松本剛吉、廣岡宇一、内田信也、松本剛吉、兒玉秀雄、中村盛二郎、藤田平太郎、早川千吉郎

の諸氏にして市長問題亦其話に上り後藤男就任の可否に關する意見の交換ありたる由にて當夜往訪なれり

遊澤子其他の諸氏が十三日來訪し後藤男をして市長就任を諾せしむべき斡旋方を要求し來りたるに對しては即時之を拒絶するも差支なけれど折角の來訪に付考慮し置くべき旨回答せり而して其考慮の結果は今十五日中に返答することとなり居れり

との言明を爲さしめたり即ち之によれば原首相は遊澤子等の要請により後藤男に對して就任勸説を爲すの意なきこと明かにして男の市長就任は全く絶望の外なきことなり

余は市長に成らぬ

先決問題は市會の改造

急を要す大調査機關の實現

後藤新平男談

東京市會が予を市長第一候補者に
選挙するに至るは、予との間に
極めて諒解あつての事なりと云ふ
ものあれど、予は事實にあらず又世
間にては無諒解に選挙したるが爲
め予が選挙せざるなりと云ふ者あ
るも是れ亦誤りなり予は些々たる
手續上の事を答ふる者に非ず從つ
て諒解の有無に拘らず應
諾すべきものならば直
ちに應諾するも絶対に
不可能なるが故に應諾
せず其の意圖は既に今日迄に機
會ある毎に表明し居るを以て之
れ以上予としては如何ともする能
はず只此の上は東京府知事より予
に對して就任の意思如何の照會を
待つのみ若し知事よりの照
會あらば予は單に「否
！」と答へんのみなり然し
未だ其の照會に接せず從つて

予の意思

が正式に發
表せられざるが爲多くの人々に多
大の誤解を與へし誠に相濟まざる
次第なり而して予が就任を肯
ぜざる理由は屢々發表
したるが如く全く大調
査機關の實現に在り何

となれば今日は當に東京市のみな
らず實に日本國全體が一大改造を
要す即ち東京市の現在の狀態は國
家總體の一部を暴露したるに外な
らずして其の最後變如何に就て云
へば市會の改造が先決
問題なり乍ら市會の改造は

東京市政

の意見は同時に移して以て國政に
適用せんとす譬之に云へば日本は
今や内外百戰の庶政に對し國際的
長計大策を樹立するにあらずんば
到底世界の大勢に應じて國運の
隆昌を期する事能はず此の國際的
立場は悉し内外全體に亘る大調査を
爲すが第一歩なり世間予の大調査
機關の性質を解せず市長に就任す
る事を得べしなど云ふものある

も予の企望せるは去る小規模の機
關にあらず國家全體の改造に資す
る大調査機關なり現内閣が幸に
予の提議を容れて其の實現を見
予は全能力を擧げて之れに従事せ
ざるべからず若し又現内閣が予の
提議を容れざれば予は其の實現の
爲め茲に一大宣傳を開始せざる可
らず何れにしても予の一身は一に
曝つて此大調査機關の實現に在り
市長として東京市民諸君に見ゆる
能はざるは遺憾に堪へざるも國政
改造に對する大事業遂行の爲め
は眞に已を得ざる也

國策調査機關

首相提議を容
れず今に其儘

後藤新平男の提議に係る國策調査
機關に對し最近原首相より後藤男
に其提議を採用すべしとの旨を告
せりと傳ふるものあるも確固す
る所に依れば該提議は前回の臨時
議會當時には原首相が男の提議を
諒とし之を採用せんとするの意を示
したる事ありたるも原首相の意圖
は形に於ては男の提議を容れたる
が如きも實質に於ては拒絶も同様
なりしなり即ち四疊半の座敷にて
二間柄の槍を揮はしめんが如き座
敷なりしは當時男が然る小規模に
ては到底提議の趣旨を貫徹する能
はざれば一先づ見合せられたしと
挨拶し以て今日に至り居るものに
して其の後何等の發展を見ずと

溫澤子藤男訪問 原首
相諾否十五日中に決定

後日男の市長柳澤龍蔵が、龍蔵と
なる澤澤子、龍山、近藤加賀
氏は十三日午後床次内相及び市
長の雲井桐陽氏と相携へて首相官
邸に於て龍蔵大臣を訪問し市政
の進捗に今日迄の進捗を述べて
男龍蔵方を讃へたる結果原首相
は考慮し後地を興へられ度しむ
なりしは院中の如くなるが

澁澤子訪問

子は商人にして十四日午前八時
 麻布櫻田町の白邸に義男を訪ね
 し追つて原首相より何分の御相談
 ある可きも、めづるの事情を御耳
 に入れ置く次第になりて述べ扱て男
 の志如何か質したるに對し男は
 然として國家大調査機關の行掛
 を理由として概々應諾し難きを
 告へられたれば淺瀬子は更に義男
 の考慮を煩はして同九時退出せり
 首相言明 一が桐嶋館
 を見るを得ざりき

首相言明

一
方
銅
碼
像

首相は未だ

藤男

藤男に會はぬ

原はらさんの諾うけか否いなは

明日中には分る筈

市長選連日解決は一に係つて原首相の腹の中に鎮壓して終つた、昨日三田外相、土井清子や桐村市會議長が原首相に頼んだ「禁へて見る時」を興へて貰ひ度い」と

大臣に就しては、時日が非常に迫して居るのだから、誠に濟まない次第だけれど、至急諸合の返答をして頂き度い」と頼んでおいた。少くとも今日の

首相は

「エス」ノ一は午後二時迄には何
とも桐嶋氏の方へ通知がない、首
相官邸では閣議が開かれて居て、
しまふと思ふ」と

夕刻迄

而して藤男の就任不就任は明
 白中にはイスス、ノーが定まつて
 しまふと思ふ」ど

何故な

藤長に與ふ可き返答は「驍勇に達
 つて勤める事を諾するか、否か」で
 ある、其諾否の返事のない中に達
 夫郎が無い、桐嶋氏は曰く「總州

市政革新運動

市政革新運動 （梅町區の）
公民同志交友三團體の有志は十四
日午後五時富士見町富士見軒に集
會し後藤男の市長就任諾否の如何
に拘らず市政革新運動の統一を謀
る爲め區民大會開催の協議會を開

● 机の塵 後藤男も漸く世間が忘れかけて居る所に、今度の市長問題が起つて、市會議曰、蓮が淋澤の老爺さんや柴ては内相、首相までも引張り出して、口説役を勤めさせ、今更ながら後藤の箔の上塗をやつてゐる。此様子では天下は後藤の方へ廻つて行つて憲政會は何時になつたらウダダが上るか知れたものでないと同會の一部の蓮中は著して居るさうだが、意氣地の無い話だ△大隈侯は十四日記者連に語つて曰く、昨日淋澤に會つたが市長問題などは少しも話さなかつたよ、だが昨今東京市の有様は何うぢや、芝居がゝつた交渉などは口にするだも不愉快である、アレは宛然田舎之居の道口で、實に樂持がならぬぢやないか

内相に絶る

藤男出馬は可能性を見せて来た

是非とも後藤男を市長に就つたう
三例の市會から委任された交渉委員
員渡瀬子、近藤男、加藤、藤山の四
氏は桐島市會議長、柳澤伯をも同
道十三日午前十時半大内相を主
始めに應じ、運動に入つた官
邸極上で渡瀬子は前後の事情から
市會が後藤男を推すに至つた経緯
に就て懇々述べた上「是非此の
際後藤男を出馬させるやうに主務
大臣として十分御骨折を願ひた
い」と頼み込んだ右に對し内相は
「十分骨折して見やう」と答へ
委員等は一番槍の奏効を喜びつゝ

渡子尚ほ説く

渡瀬子は十四日午前、後藤男を其
邸に往訪、例の市會就任に付懸
する所あり、而も藤男は依然就任
を肯ぜずとの説あり、之に付、市
會議長桐島氏は曰く、若し藤男が
絶対に拒絶せりとせば、余の所に
も何等の通知ある筈なるも、未だ
其事無きを以て見れば、尚ほ幾分
交渉の餘地を有するに非ざるか、
何れにしても今十四日中には、諸
否何れとも決定を見るに至るべし

正午、官邸を離した午後は打合せ
の上、藤男にも面會依頼する機運
であるが桐島議長は如き「此の調
子では後藤男出馬は餘程可能性を
見せて來ましたよ、吾相との會見
にウント馬力を掛けたら恐らく大
丈夫だらう」と信じます。一先日來
見ない晴れやかな顔を上げた尚見
大内相は午後個人的に原首相と會
見相談するさうだが内相は語る
今日はホソ報告を聞いただけで
あるが我輩は後藤男の市長は誠
に適任であると思つて居る。從
つて同男の出馬は此際大に望ま
しい事である交渉委員も後藤男
出馬に盡力して貰ひたいとの勢
であつたが皆何うするかまだ具
體的な事は確めて居らぬ總理大
臣と後藤男との面會！夫婦は自
然に必要になるであらう（東京
電話）

大正九年十一月十六日

後藤男の承諾迄

◇本日は承諾書に調印

後藤新平男は去る七日の東京市果し後藤男を訪ひ正式承諾方を會に於て満場一致を以て第一市求むることとなり而して正式承認と共に大海原代理市長は後藤男の承諾書及び願書書を添へ東京府を経て進達する順序にて茲に紛糾を重ねたる市長問題は漸く解決を見るに至りたり

助役顔觸

内田、永田、池田、田川等

行儀み居りたる東京市長問題も別項の如く解決せしを以て市會各派は近く助役問題に關しても亦意見の交換を行ふ筈なり而して今日の處にては市會各派の意は勿論市長の意も亦不明なるのみならず今後多少曲折を経べき事情あれば俄に豫想し難きが市長との關係上助役三名の内一名は前選信次官内田嘉吉、前警保局長永田秀次郎、内務省社會局長池田宏、法學博士松岡均平氏等の中より出べしとの説あり尙田川大吉郎、渡邊鐵藏博士等

大切

X

この挨拶ありしかば一同は五時半麻布の後藤邸を訪ひ同男と會見し大體承諾を得たり依つて市會の各派代表者市友會、桐島像一、柳澤保恵、坪谷四郎、近藤達見、公利會、辰澤延次郎、宮崎三之助、竹下延保、新正會、伊藤定七、若林成昭、大成會、新井興四郎、長谷川泰次、笠原文太郎、無所屬、眞下五郎、各氏は十六日午前九時市會に參出づべしと推測する者もあり

二足の草鞋は履けぬと

後藤男見得を切る

首相官邸に向ふに先ちて飽迄拒絕の下心を示す

果して何う決する？

開議の後藤男は十五日朝自宅にて横田白井兩氏の訪問を受けて約二十分間會談し夫より自動車にて内山下町の東洋協會に到り午後二時より首相官邸にて首相と會見する事になつてゐる後藤男は首相官邸に向はんとし記者に語る「何人から話があつても二足の草鞋は履けないからね」と拒絕の意を洩しつゝ自動車に乗つた切端詰つて受諾するであらうと專ら觀測して居る

受諾か

外部では樂觀の體

當の後藤男は飽まで拒否の意を見せて居るか外部は今日こそ藤男は

助役の呼聲を背に

昨夕後藤男邸へ

永田さんご池田さん

先口もあるが

女房役になれ云ふなら
考へもあると青嵐氏いふ

遷けたり消ひ断けたりして、恐ろしく氣を揉ませた後藤男も遂に頭強な頭を巨きく纏につつウンと振つた、北留居士の掛けた椅子に鼻眼鏡の男を迎ふるも

近きに 在る、さうなる

と女房役の曲役として内山嘉吉、永田秀次郎、堀田真、池田宏、前田多門の孰も田端ひの五氏、仕事多し内田氏は至道とすれば體て高級助役となるべき前警察局長の青嵐永田氏の噂がバツと立つ、男の囁りを聞つてまた俄に忙がしげに男が就に承諾の日にもそれかあらぬか、氏の姿や同じく噂の池田社会局長も亦麻布の後藤邸に見えた

意味 ち ある、永田は

「やあ」とまづ一つ笑つて「いや後藤男は、受けたかも知れんが、吾輩の助役はどうだかね」と氏はまづ後藤男が快諾の意を背的に一々香はして、話を己の細帳に入れ「僕に助役をくれといふなら、

別だ、男の市長就任に就ては、男も理想を有つその國政は國政として、又別に市民の一人として努力したい日頃の希望もある様で、殊に都市研究會の會長と

市助役の

噂が高い

(上) 永田 青嵐氏
(下) 池田 宏氏



なつてゐるのだから市政に對しても、男としては市會の解散なん趣味と理解はあらう」と更に話頭か行なふ事はあるまい、生れた母體を男と政界とに轉じ「此輩の真な男も後藤内閣の噂もあつた様だが來年にもなつたら何と強ひて受ける要もあるまい、政會の方に長いなり短いなりに天下一取りをさせるもよからうとまあ云つた様な男の心も見ることゝ好女房よく亭主の心持を知るや否や斯う言つて「市長となつて見だからね」と話は暫く半々

第一步

だといつてゐるから、それは男として萬一にもそんな事はあるまいと思ふ……まあ一つ引受けて行つて見るかね、貴族院の方だつて日頃の沈黙主義が別に市に引込んだつて相變りもせず

産調機關と手を切り

市長の草鞋を穿く後藤男

後藤男の市長内諾理由は別記男の談話に依つて略之を通知するを得る次第であるが三男府邸近者の此間に於ける消息を綜合するに男の言葉を要する。産調子事所謂産調家は十三日原首相と意見の一致を以て市長拒絶の理由は産調機關設置問題を控へ居るためといふにあれば内閣においては是非此の問題を解決し後藤男の出處を容易ならしめられたしと思はれたさうであるが冷然なる原首相は市長問題と産調問題を混淆せしむる事なくこれを切放して男の出處を保留した次第である。而して十五日男と原首相との意見は無異に市長問題に關聯して産調問題の語頭に上つたとは想像する迄も無いが而も大雑把な男は之れをさういふ形式で紙に込んだかは知らぬが首相は必ずや話に筋目を立てて問題の錯綜を避けたに違ひない。即ち男爵としては産調問題を自分では解決することが出来るといふにある。

予の内諾理由

産調機關設置の言質を得た爲め

後藤男爵談

經過は至極簡單だ最初産調委員が話のあつた時「御厚意は感謝するが産調機關設置の言質があるんで承諾は出来ぬ」と言つて斷つた。然るに十五日原首相と意見の一致を以て市長拒絶の理由は産調機關設置問題を控へ居るためといふにあれば内閣においては是非此の問題を解決し後藤男の出處を容易ならしめられたしと思はれたさうであるが冷然なる原首相は市長問題と産調問題を混淆せしむる事なくこれを切放して男の出處を保留した次第である。而して十五日男と原首相との意見は無異に市長問題に關聯して産調問題の語頭に上つたとは想像する迄も無いが而も大雑把な男は之れをさういふ形式で紙に込んだかは知らぬが首相は必ずや話に筋目を立てて問題の錯綜を避けたに違ひない。即ち男爵としては産調問題を自分では解決することが出来るといふにある。

首相と山公と

のお使者が二人後藤男邸へ

市長引受説は

また何とも判らぬ

十五日午前山田千之助氏は原首相の命を受け、また白井哲夫氏は山縣公の依頼により後藤男を訪問し市長問題につき勸説する所があつた

自分の役は済んだ

後藤男は市長として最適

十五日朝山田千之助氏が原首相の内命を受けて後藤男邸に會見し、東市市長たるべく勸説したる事、就て床次内務大臣は語る「自分後藤男の市長たるべき事に就ては日交渉委員から頼まれたわけを原首相に通じたのであるから自分として責任は最早済んでゐる、横田氏が後藤男に會見したとすれば首相の内命に依つて出馬した事と想像せられる、白井哲夫氏の勸説ではあるまいか」

市公民六萬五千に對して

後藤男の問合せ

市政刷新自治振興に就て

都市研究會會長後藤男は十五日を期して東京市の公民權所有者六萬五千に對して市政刷新、自治振興の三箇條を掲げ、往復はがきにて問合せをしたが、照會の形式は市内の十五の區役所に依頼して各區役所から夫々の區内の公民者に手渡しする事になつた、夫れで午後一時から大手町私立衛生會館にて同會の評議員會を招集して會長、副會長各理事も出席して會長から十一日以來十五日までの經過に就て報告

藤男起否如何

本日中原首相と會見せん

桐島議長喜色あり

後藤男は十五日午後首相官邸に於て原首相と會見する事に決定し、居る由なるが本稿締切迄にはまだ此の事無く首相秘書官の語一氏は何故か朝來頗る喜色あり、十一時より開會の國勢調査評議總會に出席したるを以て未だ左様の會見行はれず、或は本日中午には之れあるやも測り難し、但

難産の新市長

産聲を擧ぐ

白羽の矢を立て、から九日目
藤男首相との會見で漸く受諾

けふ正式に受諾

後藤男は漸く首を縦に振つた。大東京市長が七日市會で後藤男に白羽の矢を立て、市町の出産を待つ事九日、瀧澤子、原首相から山縣元老といふ大産婆達が片腹痛くといふ難産が漸く昨日午後五時半産聲を擧げた。随分方々の氣を揉ませたが原首相が勸説する形勢になつては無下に断り兼ね、昨日既近者に或は受諾すべしとの意中を洩したと久聞したが別記の如く首相官邸に於ける原首相との會見に於て遂に受諾の旨を答へた。高橋總長と横田法相局長の云ふには、首相が後藤男を勸説したのは大臣として、なく個人の資格であつた。後藤男も此會見で遂に折て色よい返事をしたからいづれ後藤委員は同男邸に赴き正式に受諾を聞く筈となつて居る。

蒟蒻問答めいた

内相の指の輪

◇圓滿解決の謎らし

藤男は黙して辭去す

原首相は昨日正午官邸に於て國勢、伯に次で四時に近い頃床次内相は調査會の連中と午餐會を済まして金びかの大禮服で来る、廿分程しから午後三時頃私立衛生會内の都てから少し赤い顔をした内相は市研究會に出席してある後藤男にニコニコと年ら出て來て記者の問電話を掛る。三時廿五分藤男が官邸の意味か左の指の輪を指らへるの奇蹟に現はれた「承諾になる」「之だ、之で察して來れ」と他をのすか」といつてもたゞ黙、左言はずに自動車に乗る、五時藤男の顔に妙な變態を見る程の緊張さが官邸に現れたが依然無口で直にを浮べて内に消える間もなく聊薄瘳布の新服に歸つた。

嬉しゅうな顔

生返つたやうにイソくこ

永々

歡
び

ある、殊に朽島老の得式は一人入居簾障嬢さのもひたいたほに明るくホテつて「いよ」聲を擧げた。此の上は明日正式に婚約をしたが罷り出て正式に御承継を願ふれへかに地味！

澤伯の丸ヘダの頭が晝燈に照えてヒカリと光つたは此の刻合さて口出度しく斯くて四氏はホク／＼もので自動車に同乗席を突いで何

辭表

煖爐

網島、柳澤、坪谷の三委員と近藤達見の四氏は省廳して自動車を作り、役所に飛ばし七時大森原順務警察の室に現れ先づ柳島氏が

◇◇晴やかな

日十時半各派の代表者が打揃つて
正式の承認を受けに行く旨の披露
をする、大海原氏が喜んで披露す
ればオーバーも取らぬ柳澤伯が

「僕は茲に辭表を持つてゐる今日
出さうか明日出さうか」と壽命が縮
まつたよ」と破顔一笑、伴谷氏も
感傷的な表情で「今日決らなかつ
たら此れを出す處だつた」と辭表
を出す、桐島氏「機いてしまひ給
へ」と

◇◇發議する

「水仙や梅を散いで身の輕さ」此の朝霞記長へ送つた一書らずに散るも花なり冬至梅一の辭世的俳句が早著りする、悲喜劇的一幕が演ぜられた

今日一日と意味深長... 藤男起つか

原首相と新平男愈本日會見す

午前中お使者横田長官が

男を訪ふて辭去する人替り

例の白井哲夫氏が現れた

「誰が何と云はうと出ないと言つたら出ない」と明言してゐた後藤新平男も或は泣付かれ或は悲しさを隠した顔で断り切れなくなつた所へ更に後藤委員等は山縣公、原首相、床内相等を介して後藤男を訪ふてゐた。後藤男は「快活さうな面色で」

其の後で後藤男は「横田君は原首相が今日午後官邸で會ふからと傳へたもので別段市長問題に關係した話ではない、従つて首相と會ふのも産業調査に就いての用件だ、白井君の來たのは個人として市長就任の勸説に來たのだ、一現に角先日來何度もいふ如く自分には産業調査といふ大きな仕事があるのだから市民諸君並に市會議員諸君の御希望は諒とするが受け難い、だ」と語り首相に會見すべく自邸を出て途中丸の内東洋協會へ立寄つた

其の起否のアヤフヤになつて來た今十五日は午前十時十分頃法務局長官の横田之助氏が首相の意を受けお呼び寄せ訪問し三十分程談話を交して退出すると入替つて白井哲夫氏がソリと來訪する、白井子何と問進つたか「今日は何誰にもお會ひになりませんか」と断つたので白井氏「これでも會へませんかな」と懷中から名刺を出して玄關子を恐縮させながら奥へ通る、十分程話した白井氏は長邊を

◆遊澤子曰く「私は市參事の關係から微力を盡しましたが、男の出處が絶望だとは最初から信じてゐませんでした、併し産業調査會關係上二足の草鞋が穿けないといふ危惧の念はあつたが、今日幸に快諾を得たので市長の奮闘を祈つてゐる次第です」

◆若林成昭氏曰く「後藤男が愈々承諾したと云ふ事會も大分順かになるや、昨晩の相手として申分なした處で早速男に問ひたい事は先日日本工業俱樂部に相談した人は殆ど全部が一般市民であるが東京市民は今日一般に自覺してゐる今回の不正議員は一般階級選出である、今回各區各地で有志が激怒するやうだが市民は今更に必要のあるやうな人許しは出来ないやう、不餘計な事は止して眞面目に努力を拂つて欲しい、現在市役所の長三名の付く者は小學校長から區長議長と全部更迭して所内の空氣を一新するが急務である」

◆大海原市長代理曰く「六日に應ぐ後藤男が正式に市長就任を承諾するに決まれば早速男の履歷を府知事に送達し府知事は副知事を附し内相に申送するが御裁可を得た上初めて市長として登壇する段取りなので、初登壇は多分廿日頃だらうから市會、廿四日開開かれよう、僕は先づ一日は早く新市長に格下を御譲りしたい」

◆作間耕逸氏曰く「後藤男の就任承諾は先づ祝儀をうけ然し事勢に至るものなら何故市民が然望した時に快く承諾して呉れなかつたらうと思ふをいひたくなが此際一切の私情は現置き男の活動に要望する向う回銜委員の執つた態度に就ては將來の事もあつて充分考慮して欲しい自分此際此以上の上の事はいひたくない」大成會

自邸に改まつて

内諾を仄かす

諸否の確答は正式の

銓衡委員に會つてからと

柳澤等四氏が歸るまで、後藤男は念一藏君に家内役を命じて應接室に記者を通した。今日は珍らしくも茶づけ、背廣殿に包まれてゐる。先づ御内諾あつたさうです。がさ聞くこれは又意外「間違つちや困ります、まゝ決して就任の内諾は與へません」といつになく言葉

◇町寧に

キツバリ言

つて逃げサテ次々に語り出す。「今會つた四氏も銓衡委員の一部には相違ありませんが私は最初からあの人方と交渉はしてゐないので

◇諸否の

の返答をす

るさいふ事の内諾に違ないので、所て明日私がさういふ返事をする。かといふ事ですが之は當の市會議員ですらも私に聞けないのです。から今何人が御座つても聞き出し得られよう筈がありません

後藤男就任せば

大更迭行はれん

都市計畫局を新設して
合計七局制の豫測

年俸は二万圓ならん

後藤男が市長の椅子に据ゑる事となれば、就任後、臨時参事會を開き、事となるが差し當つての問題は、市長年俸の確定である。現在の係給金によると市長は年俸一万五千圓、以上三万圓となつてゐるが、後藤市長は多分二万圓と決定するらしいといふ。次に助役は、
▽高級助役 一万二千圓
次席助役 一万圓
三席助役 八千圓
決定すべく、細測されてゐる。次に、田原市長時代に立案された部制は、自然中止となり、例の後藤市長の派手趣味により、局制が採用され、現在、電氣、社會、道路の三局以外、新さなつて、遠からず、辭職せんとする

▽土木用地

の各課を併

合して土木局とし、更に池田宏氏の助役説が實現すれば、用地課を中心として、都市計畫局が出来て、合計七局制となるべく豫測されてゐる。又局制の結果は、自然課長、部長級の大更迭が行はれ、現在の局長級にも變動あるべく豫測されてゐる。即ち井上

▽電氣局長

は鬼怒電氣

後藤男無條件承諾

市長詮衡委員の訪問に對し

市長問題全く解決す

市會各派の市長詮衡委員たる柳澤保、坪谷善四郎、近藤達兒（以上市友）、民権延次郎、富崎三之助、竹下延保（以上公利）、伊藤定七、若林成昭（以上新政）、新井與四郎、空原文太郎、長谷川吉次（以上大成）、眞下五郎（無所属）の諸氏は、桐島市會議長の召集に依り、昨日午前市會議事室に參集、前日原首相と後藤男と會見の結果、後藤男は市長就任を承諾せりとて、其經過及結果を詳細に報告する所あり、終つて市會代表者の後藤男正式訪問の件を語りたるに、異なく之に決したるを以て、市會委員は速刻に後藤男を訪問し、正式に市長就任の承諾を求めたる處、男は無條件にて承諾の旨を答へ、茲に過般來糾糾に紛糾を重ねれる市長問題は漸く一段落を告ぐるに至れり、斯くて各派詮衡委員は打揃つて市會に上り、正式に桐島市會議長に右の經過を報告し、午後桐島市會議長より大海原市長代理に此の旨報告する所ありたり

藤男就任承諾事情

後藤男の市長就任承諾は、世上一部に於て意外なるが如く思惟し、又男は從來應諾の機嫌なかりしが十五日の原

△首相との會見に依り俄にて一轉したるが如く傳ふる者あるも、報紙の誤報道したるが如く、後藤男は始めより絕對に市長就任の意思なかりしものに非ず、從つて其承諾を見たるは毫も怪しむに足らず、又原首相と後藤男との會見に就ては、原首相が敢て市長就任を勧誘したるに非ずして、後藤男の提唱に係る産業調査會に關し

△其設立の言質を與へたるに過ぎず、後藤男が今日迄市長就任を承諾せざる理由は、市長たるを適せずと云ふに非ず、又市政に趣味無しといふに非ず、唯産業調査會を提唱し、之れが設置を

原首相に勧告し置きたるに、首相は未だ之が設置を實現せざるが爲め、自分としては是非之が設置に努力すべく、從つて

△之が設置如何の定まらざる間は市に於ては是はずと云へるのみ也、然るに原首相より産業調査會設立の言質を得たに男の主張漸く貫徹したるを以て、さてこそ市長就任承諾の機を堅むるに至れるものなりと云ふ

内相奏薦

御裁可は明日か
明後日中ならむ

桐島市會議長より市長第一候補者後藤男の就任承諾の報告を受けた大海原市長代理は、此旨直に府知事に報告する所ありたるを以て阿部府知事は七日の市長選挙に依る市長第一候補者後藤男、第二

意外の感

後藤男の進退は頗る明確を缺ぐ

後藤男が市長に就任する事を承諾したに對し自分は意外の感に打たれた、世の中に之れ程判らない話はない、市長問題は初め自分に懸つて來た問題で、自分は之に對し

▽明確に拒絶した、後藤男に對しても市會全會一致の決議を齎らして出處を斷絶したのであるが、後藤男は産業調査會に全力を盡さねばならぬからといふので斷然拒絶した、自分は此時最早後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

廣した男らしく受諾すべきであつた、産業調査會の議決を得たといつても、今日の政治は議會政治であつて、議會の承諾を得なければ決定せざる問題である、自分は決して後藤男が將來總理大臣になる機會を逃するを慮れて居るのではない、又事實自分は其點に關して何感男と語つた事はない、

人物記者の問題であつて、朝野に保たざる間、勿論後藤男が今日の紛糾を濁せる市會を其

▽巨腕を以て、應酬する事は衷心より希望し、又大いに抑する所であるが、其出所退の機を缺いた事は惜むべき事であつて、其間の經過は男として明確にする必要があると思ふ

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

後藤男の市長問題は全然断がないものと思つた、然るに公式の市會の議決、市民を代表した市會の市長

役不足とは思はない

後藤男正式受諾

詮衡委員との會見内容

十四時四十五分、後藤男議長外十一名の市會詮衡委員を乗せた三臺の自動車は、麻布新橋田町なる後藤男邸の關に簡付けされた。十二氏は直に日本閣議接室に導かれ、椅子に安堵の眼を卸して待つ間程なく問題の主人、後藤男は、大黒餅の製菓着に、黒羽二重五ノ紋の羽織、仙臺平の袴、いふ装束にて悠然と現れ、卓を圍んで椅子に着けば、

桐島議長

は一同を代

表し、「昨日内諾を得ました市長就任の件に就きまして、今日市會の詮衡委員打揃ひ正式に御承諾を得るたの罷り出ました、何分よろしく願ひます」と改まつたお使者の口土よろしくあると、是から四年の間、密都のお奉行、市長の重任を負ふべき後藤男は例の鼻眼鏡を一寸弄り、是亦改まつた口上で曰く「前にも申上げた通り、

新聞では

種々言はれてるが私は市長を以て役不足とも何とも思つてゐない、又後藤男内閣のことも問題にしてゐない、唯私は産業調査會といふ大事業を控へてゐるのでお断りした譯である、

新聞では種々言はれてるが私は市長を以て役不足とも何とも思つてゐない、又後藤男内閣のことも問題にしてゐない、唯私は産業調査會といふ大事業を控へてゐるのでお断りした譯である、

反對を排

して茲に市長就任をお受けすることになつたのである、云々、茲に全く正式に承諾した、桐島氏始め一同は今更ながら喜色満面、隠すに隠されぬ面持であつた、

持であつた、仍て宮崎氏は助役問題に就ては後藤男に一任することにし、厚く禮を述べて引下つた、會見三十分所く、後藤男一流の大芝居は先づ、芽出度幕さなつた

手續履行

後藤男は別項の如く正式に諾したので、東京市では早速手續を履むべく、大海原市長代理は十時内記課長を従へ、正午十二時半、後藤男邸に赴き、履歷書を請て歸廳し、午後二時直に阿部府知事に市會に決議せる第一候補後藤男を始め、第二第三候補の三名を送達したが、知事は又副中を附して床次内相に申達の手續きを履んだ

初登廳は

廿日頃か

本日、後藤男が正式に承諾するにせよ、其の旨早速府知事に送達し、知事は副中を附し内相に申達するが、内相も事情を察して急速に御裁可の手續きに及ぶだうから、また廿日頃には市長としての後藤男の初登廳を迎へる事だらうとして、市會は二十四五日頃開かれる事と思ふ云々と、大海原市長代理は語る

を非難してゐるじやないか、内田嘉吉氏か、都市研究會に居るのだし、まの可能性が多いかな、さ大いな體を揺る振つて山公口添の一條を正直らしく眞向から打消して

山公は無關係

助役は内田嘉吉氏か

後藤男が昨夜、府知事と會見するに先立ち市長就任を德達すべく山縣公の意を受けて昨朝男を訪ひたり、就任承諾の事もこの頃ある、白井哲夫氏を訪へば、「昨朝後藤男の所へ行くには行つたが山縣公の使者云々は全く無根だ、自分は此數年來山縣公にお目に掛つたことが無いよ、後藤男はそれ以前に山縣公に會つて居るのだから其時には何れ

市會の方

から昨夜

市長問題

の話も出た

らう然し公が何等か言葉を與へたとは思へない」と否定して居るが、何れにせよ昨朝男が後藤男を訪問した時には首相との會見の際に與ふべき返答が決められたのは明かである、進んで首相に會見して承諾の意思を表明するに至つた迄の経

永田氏か

わ、あの

人は秘書だから然し小説家じやないか、山川氏かね、男の就任

大島捕に納つた

今朝の新平男

引受た以上はミツシリやる

今朝内田嘉吉氏の來訪

今朝の後藤新平男郎は十數人の土工が霜解の地面を均らしたり、突をしたり仲々の景氣で、一方自動車格納庫では運轉手が大汗になつて二臺の自動車を掃除して居る等何さ無く活氣が満ちて居る様に見えた午前八時と云ふに一臺の自動車は左側に横付けになる誰か見ればブローカー屋兼政商として知られてゐる岸一太なる人で、何か後物様のものを手にして

會見を求め

約五十

分も過ぎた頃亦自動車が見られたが之は助役候補者として問題の人となつてゐる内田嘉吉氏であるが之と同時に岸は辭し去り後は内田氏と差同ひでの密談に耽つた。追々訪問者が増し邸内は賑やかになつて來た男は大島細の羽織袴にセルの襟と云ふ納まり方で瓦斯ストープの赤く熱して居る際接間で客を見しながら元氣よく語る

内諾したよ

然し

レは原首相や山縣公等から勸誘された爲めに受ける機になつたのでは無く我輩が内諾してもよいと思つたから内諾したまでだ。夫れなら何故先に断つたかと云ふ我輩は産業調査會の設立に全力を盡さなければならぬから市長の方を勧める事が出来ぬと思つたからである然るに原首相に逢つて政府は政府の手で産業調査會を設置し此の際直に

我輩の力を

待つま

でも無く何かするさ云ふ意向のあることを確めたから、我輩はソレでは此の方の手がすぐから市長をやる事が出来る市の幹線委員に承諾の意を明かにしたのだ、助役を誰にするつて、ソレなことは市の諸君と相談の上決することである今所さうと返事をする譯ともい

我輩の天窓

には何

の考へも持つて居らぬが一旦就任する以上はミツシリやるよ、我輩は生半可の事は嫌いだからね、勝手の方では頻りに電話の鈴が鳴り女關には更に自動車の音が聞へ折目正しき袴羽織の若い人々は其取次を足送りに忙殺されて居る時正に午前九時二十分世は押しつまつた年の寂しさに怯れて居るのに後藤男郎のみは宛ら春めいた花やかさを示して居つた

士氏打揃ふて

新市長邸に参向

正式承諾頂戴に

桐島議長の新コ顔

後藤男

は急市長就任

十二名

打揃つて後藤男

の内諾を與へたるに就て市會の各派幹線委員は今十六日午前十時市會に幹線委員會を開いた桐島議長は之を初め、柳澤厚谷(市友會)長澤官雄(市友會)伊藤若林(新正會)新井笠原長谷川(大成會)眞下(無黨)がけまして、これから一同打揃ふて男爵を訪問し正式に御承諾を得て來ます。さいそくミ自動車議長の勢を多し改めて

の十二人(午前十時半)

大正九年十一月廿三日

新市長後藤男が

最初の自治論

報酬を求めぬ紳士税
を拂ふが白覚せる市民と

後藤男が新しい東京市長としての最初の講演云ふので十六日夜神田青年會館で連日小學校に開催された都市研究會主催の講演會は

非常な人氣

新助役の池田宏氏や高橋助役の晴を取つた内田嘉吉氏も理事や副會長の名で演壇に立つた。後藤市長の演題は「自治に關する市民の自覺」連日小學校の講堂内には全く火の氣がなく冷たい風が吹き通す。會衆數百の市民がブルブルと震へた。最後の番に辛抱した「此の夜に斯く迄熱心に集まつて下さった諸君は

實に先覺者

である。遅く私の話など聴かぬとも好い人だ。マア聴いて呉れ給へ」と得意の新市長は大きな管甲線眼鏡の中からは不都合な程な細目を透して話頭一轉「今更自治の講義をせねはならぬさは何とした哀しむべき事だらう」と所謂文明の趨勢に對抗すべき自治制出現の所以を説

個人の力を

及はざる處を大い組織の力で補つて行かうとするのが自治である。さへ拍手に迎へられて一種の感奮を興する。紳士税は物質的に値を發揮する。紳士税は物質的に精神的にも可なりものものを拂ふが其報酬を要求しない。然るに現在在の市民の大多數は之れを拂はな

只威張らう

から社會問題となり、階級問題となり、生活問題にもなる」と實際を挙げたり、理論を用ひたり可能な方針に對しては全く一言も聽れずかくて十時半頃切つた會場内を流る風は一入令けて星の光も凍つて居た。宛然新しい市長と市政の新しい試練の道程に進む情

頼まれたら越後から

米搗にも来るよ

だが、市長は愚者の仕事だ

乃公は

後藤市長が受諾と事決まつたので所「昨日原首相との會見で意見の一致點を見出したから無條件で市長の就任を受諾した迄のことだ。頼まれたら越後から米搗に来るぢやないか、否や云ふ譯にも行かないさ。だが市長は要するに愚者の行仕事さ。夫れに市長の職は傍觀機關としては面白いかも知れないが實際當面の人として考へものだよ。夫れよりも諸君のやうな人が批評する方が好いんだ

今言ふ

べきではない。何れ今明日中に腹書を出して御覽可や仰ぐ事になつて居るからマア何もかも其上の事だ」と

(東京電話)

政府の對議會問題

政府側語

政治外交

議會に總動員を爲すべきものゝ然らずして待たざるものゝあり一擧の座談に其輪廓を悉すは難事なれども概して言へば時節内外に重要な懸案からず而かも思ふ様に運はざるは事實にして當局として遺憾の點多しとす然れども國家緊急の施設と案件とは夫々片付けて行かざるべからず中には未だ公表を許さざるものもあれども大體は廿三日の豫算内示會に於て厚首相より説明表示する所ある可し

豫算案

は財政の許す範圍に於て相當國務の急に應ずる計畫を樹てたり大要は既に世間に洩れ傳へたるものと差異無し要するに現内閣四大政綱の遂行時代に入りたることを其意を期するを主とせんと國民の一般に諒解を求めざるべからず其詳細は明日の首相蔵相の説明に譲るを便とすべし

朝鮮問題

は我國家に取て關する要すべき重要事なり總督府の方針は確立して一面に不逞鮮人の取締を厳重にし其禍根を掃蕩する積極策を樹て他の一面には文化政策に立脚して教育産業の向上を圖るに決し之に要する経費は財政緊要の際にも拘らず政府は思

食糧問題

の大計は既に政府の留意したる所にして目下經濟調査會の成立を求め居れば其決定次第更に政府の考慮を加へるべく適切な解決を與へたきものなり常平倉設置の事は何分重大の關係あるを以て委員會も慎重審議中なるが來春までに委員會の最後決定を告ぐる筈なれば若し本問題にして法律の制定を要する場合には是非共今期議會に提出したき懸案あり、此外に船舶、鐵等の問題も財政委員會の答申に基き政府の執行し得る範圍に屬する分は成るべく速かに其方策を實行すべく希望し居れり

陪審法案

は幸ひに法制審議會の立案成り、其審査も進捗していよいよ閣議に附する運びにまで進み付けたれば明春早々閣府へ御審議の運びと成るべき筈なり、閣府には同案に反対の人々多しその説を聞けども一方には又時代の要求に照し其實施の妥當を説くものもありといふ何れの意見を立てらるゝやは知るに由無きも動

勞働法規

は各方面に亘る即害關係の重要なものあり目下慎重立案中に屬し居れども今期議會に提案すべく努力しつゝあることは事實なり、世間種々の風説を傳へ現内閣は勞働法規の制定を好まず議會提案の意思無しと囁く者あれども政府は是非今期議會に提案の考へを有し居れり案の内容には關する議論あれどもいよいよ決定する場合には左程の困難も無かるべく豫期せらるゝ但し一部人士の期待する如く外國の勞働法規を其儘といふ譯には行かず十分に國情を參照して立法する方針なり何れにしても提案實現を豫期して可ならん

産業調査

後藤男の提唱とか建築とかに係る産業調査機關の設置は未だ正式に閣議の決定を経たるに非ざれども首相は其必要を認め夫々の機關に命じて調査せしめたる模様あり何れ設置案を具體的に閣議に附せらるゝならんか首相にして其意ある以上、關係に異議ある筈無し無難追加案

地方制改正

府縣制市町村制改正即ち公民權の擴張を主とする改正は政府が議會に聲明したる云はゞ公約事項なり、本案は既に法制局に於て整理申されは日ならず脱稿提出のとなるべきなり

司法三案

少年刑、矯正院、刑罰執行法等提出のつもりにて目下其準備中なり新刑罰法改正案は未だ完成せざれども來春議會開會までには間に合ふ筈なれば本案の提出は問題に非ず

教育關係

學校昇格問題既に既に教育委員の意見を尊重するに決し其間種々の行違ひありたるやに傳へらるゝも議會の問題としては何等の支障なかるべきを信ず、世評の所謂昇格五校は依然其儘にして豫算計上の事無し或は學校學生等の運動起らんも此等に就しては政府として相當の措置を執るに決し彼此紛擾を醸さしむるが如きとは無き筈なり其他種々の案件あらんも隨時處理應酬して國務を要するに遺算無きを期すべし云々

東京市長決定

後藤男の手腕と自治の精神

行儀んで居た東京市長は決定した。

二足の草鞋は穿けないといつて、後藤男は、とうとう他の一足草鞋を棄て、一足の草鞋だけを穿いた。原首相が産業大調査の設立に關する或諒解を得た後、後藤男は、かくして東京市會の推薦に應じて、東京市長たることを承諾した。原首相に取つては、野に放たれた虎を捕へて、檻に入れた感があるだらう、と思はれる。

東京市長として、乃至純粹なる自治體の首長として、後藤男が果して適任者なるや否やは、疑問である。何せなら、彼が衷心果して自治その物を理解して居るや否や、疑問であるからである。けれども、行詰つた、そして腐敗して居る現在の東京市政を刷新して、一時生色あらしむべき手腕は、むしろ安心して彼に認めなければならぬ。彼が創業の才であつて、守成の器でないとは、衆目の認むるところである。既に創業の才であるといふからには、目下眼前に控へて居る東京市の五大事業は、彼の手腕によつて、相應の成績を見るであらう、これは勿論、彼は彼の有して居る大蛇を擲つて、目下東京市役所内に纏まれる悪弊を根絶

するも、疑を容れない。けれども、彼を守成の器でないといふれば、彼は任期間、見事なき東京市長の椅子に坐つて、碌々として居ることを欲しないであらうし、またしく碌々として居るならば、そこに彼の缺點、弱點が暴露され、終に市民攻撃の標的となつて、辭職を餘儀なくされることであらう。況んや自治その物は市長の創業の才に待つが如き、市長自身に取つて積極的のものではなくて、市民や、市民の利害を代表して居る市會の發意乃至決意に待つ、市長自身に取つて消極的のものであるに於てをや。言ひ換へれば、市長といふ役目は創業の才であるといふ後藤男に取つては、或ははまり役でないかも知れない。かうした關係に想到すれば、彼は就職後、慶應したる東京市政を復活せしむべく、彼一流の應接に違なき手腕を揮ひ、そしてその守るべき時期に達すれば、斷乎としてその職を棄て去るのではないかと思はれる。産業大調査會に關して、原首相の諒解を得たといふのは、或はかうした豫想を暗示して居るのではなからうか。時來れば、彼は今棄て去つたと思はれる他の一足の草鞋を拾ひ、突如としてこれを穿きはしないであらうか。

あらうか。それは兎に角として、彼が世人の豫想に反して、何等の條件を附せず、潔く東京市會の推薦に應じ、出て、東京市長たることを承認したのは、東京市の爲、大に人意を強うするに足るものがある。論者動もすれば、現在の慶應したる東京市會その物を先づ解散しなれば、何人が市長の椅子に着いて、市政を革新するにぞできないといふ。けれども、それは市長たるべき人の手腕を疑ひ、又市長たるべき人自らに手腕の自信なきが爲である。後藤男が市長の銜を委眞に就つて、現在の東京市會はこれを解散しないでも、僅に市政を刷新するの餘地ありといつて居るのは、彼自らにこれを刷新し得る手腕あるとを自信して居るからである。東京市に取つては、實に頼母しいところである。しかのみならず會でも論じたるが如く、自治の觀念に通曉せず、よしやこれに通曉して居ても、自治の實際に訓練されない分子がその大部分を占めて居る東京市民乃至全國到るところの市民に對して、幾度市會を解散して新市會を招集しても、眞に自治的なる市會を得るとは、桃中に石を求むると一般である。形だけは新しい市會であつても、現在の市民が選出したる市會議員によつて成立する市會の内容に、何の新味があらう。古き市會に古き酒を

盛るのは、ふさはしいものであらうが、市民として飲むに堪へない。率直にいへば、私共はこの意味に於て、後藤男の東京市長就任をさほどに意義あり、價值あるものとは認めない。彼の市長就任によつて、東京市政は恐らくは一變するであらう。活氣を帯び来るであらう。特に市の事業の上に於て、恐らくは大に見る所があるであらう。けれども、それは形の上に於ける自治の進行だけのものであつて、内容乃至精神の上に於ける自治の進歩、發展を意味しては居ない。彼の謂ふ所創業の才は、動もすれば獨斷的、獨裁的に流れて、却つて自治その物の精神を阻止しないかと思はれる懸念もないではない。眞の自治的精神を養成し、そして眞の自治を擧げしとするには、矢張り私共が爾來力説して止まない學校立憲國、學校自治國を創設して、第二の國民を根本的に改造しない限り、斷じてその目的を達するにぞできないのである。

新市長を迎へた

初市會が開かる

反身になつた風采に吞まれ
助役も議事も異議なく通過

傍聴席は初舞臺だけに大入満員

府廳と市會とを過ぎ起しつゝ、
あつた東京市に二百万市民の熱誠
なる興奮を以て迎へられた新市長
後藤男の初舞臺とも云ふべき市會
が二十二日午後四時開かるゝ際
なつたが此の極めての市會で新市
長の手腕振が窺はれると云ふので
傍聴席は定時前から議員で皆々興
味の眼を射つて居たが却々開會さ
れる様子が無い

議場 正副の大時計は客

なく五時六時七時となつた一方新
市長後藤男は締切と聲張も鮮かな
木札をかけた市長室に何事か
どりつゝあつたが今日の市に於
ける男の一舉手一投足は市民の注
目の的となるのであつたが先づ新
市長最初の仕事として議場入口に

突如動議が出て

議員同志の小競合

横山市議の辭職問題糾弾する
後藤新市長の苦い顔

新市長が立板に水を洒く如くに
安んじ浮き腰となる突如動議
の安部氏から横山君大

開會 議から非常な緊張振
を以て居た後八時を十分過ぎ
る頃となるや問題の市會の幕が
あつた新市長後藤男が例の通中
の信任振り御手臨も鮮かなもの
の幕を開けて居るゝや議事あつた

次で 問題の三助役を議

に諮つたが新市長を信任して議
事進行に保る永田、池田、前田
の三人に決して目出度
く拍手起り新市長後藤男の面には
何となく喜色も漲つて居るやう
であつた次いで議事進行した
が全議四十二件全部異議なく通
過したのは九時五分過ぎ、新市長
の信任振り御手臨も鮮かなもの
であつた

並に傍聴席は一齊に視線を男に向
ける男は後藤市長に着いたが
先づ男の眼を射つて全議員を一驚
させたから反身となつた其こそ
大市長たる風采であつた制島新
市長の報告あつてから、やをら登壇
した新市長の底に力のある聲で議
任の挨拶を述べるや道に議場は
一つせす静まり返つた

を八田書記長の手許まで提上
た夫れ以前には新市長が總辭職を
するなど騒々しく辭職するものが
あるが市會の名文には事故なくし
て離るる者には則ち如何なる
規定されてあるかに辭表は如何な
る所へ提出すると同時に効力があ
るものであるか何れも辭表を提出
したのみで離職したものと心得て
居るのとは不都合であるから十名の
調査委員を呼んで附託されたし
その動議が提出されたのは新市
會の調査及び離職すべき性質の
ものでないかと答へたので端な
くも一大退潮を呈し、新市長も是
れには些か呆れ返つたと見へ苦り
あつた辭表を提出しては、議場を
外したり掛たりして居たが結局議
決で動議が破れ、後藤男の辭職
が否決を消し、後藤男の辭職に
市長は對し「東京市の特別市制に
於ける所見如何」との第一の矢を
放たれたが新市長は重々しい口調で
「夫れに對する所見は持つて居るが
市會の議決を尊重するもの」と
招いても市會と思へば更に諸君の
意見を訊きたる上にて答へせん
と大見得を切つて初舞臺の幕が下
ろされた

民を治むるは難しと

新市長の大見得

新政會の辭職と助役の人数が問題

政號と騷擾に終つた市會

新平後藤男の新市長振りは倍々
盛かう三日の午後開かれた皮
切りの市會を見物である開會
に先立つて午後一時

新市長は「参事會出

の席」の札を給仕に掛けさせて
鼻眼鏡を弄り、獨條一統を率
ゐてスタく、市長室から参事會
室に入るコトリとせぬ會場内
には十名の参事會員が藤男を中
心に額を集めて市會お立ての
大評定を後で聞けば

二萬圓だ いや二萬五

千圓だと市長の年俸問題でゴツ
た返しをしたが度々の詰りが桐
島氏の腹煎りで二萬五千圓に羅
の響に桐島議長の勿體らしい因
上けられ第二の暗礁の助役問題
頭を眞先に請ひ連ソロくと潮
願の銀毒を押し揉み

新正會議員の

資格を問題にし

一方では 元永井助役
が持ち上る議場に三時間も前か
室に大成會第一重閣でた市會務
委員室には新政會の猛者連が陣
取つて遙か離れた公和會の陣地
がガランとして鳴り渡る

敲き着けるの騒ぎ等

も永田、池田、前田と云ふ藤男の
意見其の儘に離陸して市参事連
が心配とスチムで雄章魚の様
に蒸氣した顔を外に現はしたの
は三時間の後たつた其の間

ながら市委員連に取り圍まれて
今日許りは例の愛嬌顔をニタリ
とせす外行き顔で一審の三角
柱の前に反り返つたが間もなく
身を起し地の底からでも聞える
様な怒々とした聲でボツリ／＼
と「國を治むるや易く民を治む
るは難し東京市民を治むるはよ
り難しいだか

難しいの 何のと云つ

てる場合ぢやない」と通れ名市
長の見得を切つて自席に納まり
返ると桐島氏の閃頭がムクと浮
き上つて助役選舉の場面となり
市参事會應選の永田秀次郎、池
田安、前田多門の三名が満場一
致を以て可決する其の間僅に一
分三十秒、其の時久保氏登壇し
何と

饒舌り出 さうとして

彌次に揉み消されたのを血祭り
に漸く室内色めき立つて來ると
藤男一寸畫面作つて式手でドツ
ンリ頬杖突きながら右手で議案

を繰返したり顔にコソ／＼鉛筆
で書き込んだり果ては鼻眼鏡を
取つたり懸けたり分一分目眩し
い程忙しくなつて來る

一番前の 長谷川吉次

氏が何やら文句に議長席にノコ
出掛けて行くと「進行々々」と新
政會が囁囁り消て議事は一萬千
里一餘は平穩無事に手持無沙汰
になつた新市長隣の井上電氣局

新政會に向ひ「辭表

は議長の手に達せずとも議員の
手に出されても效力が發生
する」と喰つて掛つた黄色い聲
に眞赤になつた新政會の大庭氏
が囁囁り返す公和會側は躍起と
なつて辭表事實を確めよと焚き
着ける其の時秋山期氏が仁王の
様に突立ち上つて刑事被告人議
員三名の資格を審査せよ「不必
要」と威丈高になれば議場は
一時に

蜂の巣が 壊れた様な

轟然然散々新市長を呆れさせ
十時に打出し

井上局長の首を刎れ

後釜に長尾氏

いふ新市長の胸算用
何れ一騒動は免れまい

「止めるものか、絶対に止めない
電氣局長室の廻轉椅子にドツ
カと腰を下して大見得を切つた井
上局長も市民の痛罵に絶へ兼ねて
今度こいふ今度こそは
どうやら局長の椅子を追はれると
いふ噂が起つた、然して其の後釜
としては現職道省の理事長尾生平
氏に白羽の矢が立つたといふ、此
れは前田尻市長も意志で既に長
尾氏を招置する下心があつたので
後藤新市長との間に了解が成行
はれたとも傳へられて居る、又新
市長對

新市長
初舞臺の
期待さる、
今日の市會

長尾氏
との關係よりす
るが新市長後藤男の初舞臺であ
り助役選舉など雨になるか風に
も豫想外に早く或は年内に其の

變るか
かなり賑ふであ
らう助役は多少の議論があつても
大體は市長の推薦通り決定しやう
其他の目録四十三以外に別段のも
のはなく、現市長の失政を糾弾
及市政改良

公債等
が日増に追加さ
れるであらう

新東京市長 後藤男の進退(再)

内閣乗取策 落第の喜劇

後藤新平男が東京市會で全會一致の推薦を受けながら一應拒絶したことには、過日の本職に於て吾人の所見を述べて置いた。然るに男は床次内相や原首相に推薦せられたばかりでなく山縣公にまで口添をされて、十六日遂に東京市長たることを承諾したと云ふのである。

二

後藤男は就任に際して類に自己辯明に努めて居る。曰く「原首相や山縣公に面會したのは例の産業調査大機關の問題である。曰く「産業調査大機關は政府とも説解がついて將來設置することになつた。曰く「原首相と市長間諺に就て會見はしたが、原君は首相としてではなく一市民としての資格であつたから、余が正式回答を爲したのも市會の特別委員に對してである。男の議論は強て筋道を立てようとして居るが、由來作事事の解解には無理がある。無理があるから牙齦が出て来るのは免れない。何をか作事といふ。これ吾人が黨に指圖して置いた通り、後藤男が東京市長たることを辭退した理由が

産業調査機關の設置に非ずして、其の理由は次期内閣乗取りの強要にあつたからである。

後藤男の言ふところに従へば、産業調査機關の設置が國家の急務で之をやる人が他に付けれないから二足の草鞋を同時に履くといふ出来事といふ言分では、市長といふ草鞋よりも産業調査會長といふ草鞋の方が彼れに取つては大切といふことになる。誰が何と言はうと市長なる草鞋は断然捨てしまはねばならなかつた。そうすれば男の言分は表面は支ても筋道を通る譯になる。然るに原首相や山縣公の推薦で、はき度い草鞋もはけず、はき度くない方の草鞋をばくに穿つたのは明かに矛盾して居るではないか。

吾人は後藤男が市長として決して不適任だとは思はぬ。けれども若し男にして市長たんとするならば、兎も何も市會一致の推薦を受けた時に何故承諾しなかつたか。眞に市政を愛するの士ならば、閣下しつては居るといふもの、市會から招かれた時に頭を縦に振るのが當然のことであつた。にも拘らず山縣公の御座がかりで自己の決心を堅めたのは公人としての出處進退を誤つたものと言はなければならぬ。後藤男も後藤男なら東京市民も東京市民だ。

地方自治體の如何なるものなるやは最もよく理解して居るべき人々の住んで居る東京市の實際が此の通りだから笑はせるではないか。實業家や官憲の方で市長を出すのなら、民選ではなくして官選の市長である。我が島島市民など大いに味はつておかねばならぬことではあるまいか。

後藤男の芝居は徒らに識者の目を驚めしめたに過ぎなかつたが遂に落ちつくところに落ちついた。ただこゝに吾人の最も興味を引いた一點は、市長選挙の一幕に山縣公が登場したことである。

い。次期内閣の總理に何等政黨の候補を有しない男が到底物にならぬと見て取つた山縣公は相當に大勢が見えたと評すべきか。さるに後藤男の心事は氣の毒であつて、彼れに取つては近來の悲劇であるが、一國國民から見れば、未熟品の一大喜劇である。

永田氏は

本日から初登壇

池田前田の兩氏は免官の辭令を頂戴してから

廿三日認可を得た市の三助役

廿一日

の市會で、後藤市長の推薦した永田秀次郎、池田安、前田多門三氏の助役就任は、満場一致で可決されたのである。府知事に直に申請、廿三日府内務省の認可を得た、永田氏は浪人の身の輕さ、廿三日から直ぐに登壇したが、池田氏に府省の社會局長、前田氏は現職に在る關係から、依願免官の辭令を受取次第、分廿四日中に就任するだらうといふ。我無き助役室は、警備課に御化粧を凝らしてゐるが、御大の後藤男を始め三助役とも揃ひも揃つた官儀のお歴々市政の改革振りこそ見物である

皮切りの歓迎午餐會

元來自分もとよりは脱線だつせん的な男
後藤男ごとうおとこの珍めづらしい愛嬌あいけう演説えんせつ

東京市議會所ては廿三日正午から後援新市長を招待して歡迎會を催した。主賓として後援市長水田、池田、前田の三助役後援者井上日敏、徳義等を始め自餘名の實業家、東京後援會頭起つて、「巨人後援男」を東京市の市長として迎へたのは二百萬市民の要望であるだけに新市長に期待すること頗る多い。仕事を食さるには金も要らうが之には此際觀望義務に倣つた劇増金附の小續登市公債を發行して鐵鋼の資金を繰めるも一方、男の大勝負を伺ひ厭いものだと嘲り上げたのを享けて後援男は鼻眼鏡を押へ乍ら起ち上り東京市政は至難だと云ふが至難とは市民に採つて各譽か不名譽か此の至難な職を引受たのは脱線的な目分て始めて出来る適當であらうと思ふ此至難の仕事を引受た私の進退に關し大々居を打つたとか、官儀的だとかの批難がある様だが、仕事を待つて居て且つ四圍の事情がオイソレと引受られなかつたので時日の経過があつたのは止むを得ない

い之をを居を打つた言ひの
は、能い、自分としては始めから
遣りたかつた、それで遂々遣る
事になつた。私は自台の發達
に關しては當初から熱心な研究
者であつて始めから試みには希
して居た。廣重相や山縣公から
勸められたのでは決して無く實
際^の所^私に對して責任を以て
勸めて呉れた人は一人も無かつ
たのである、一度就任した以上
功績の舉がると否とは自分の責
任であつて今後皆様に成るべく
御迷惑は掛けぬつもりだが根が
脱離的な私のことゆゑ或は御
迷惑を掛ける事になるかも知れ
ない。市政の革新には金も要る、
紳士税を起すと言ふ議論がある
が紳士税とは盡して報酬を目的
とするものに非ざるものでなく
てはならぬ、市政に對する抱負
としては就日早々の事として語る
べき何者もない。今後幾分の調査
を経て發表の必要があれば申し
上げる、其の時は皆様は意外に
失望に當るかも知れない。云々
と愛編ツツブリの中に暗に憎殺の

止む可からざる事
に永田次郎氏、池田、前山三助
役を初め、澤澤子の挨拶があつて盛
會裡に二時半散會した

助役室の模様替

新調の窓掛に壁の塗替へ

永田氏は本日午後に登廳

二十二日後藤市長初舞臺の市會に於て推薦された永田秀次郎氏を首め池田田前田多門兩氏を帝都の新助役とし歓迎するに決したので永田

窓掛を懸

窓掛を懸けるなど盛
装され朝來注^{あさきた}曆も備へられス
ト^ひーブに火を入れるやら大變な
多^{おほ}氏^{うぢ}も市^{いち}長の時^{とき}と^{おな}同^{どう}じく各^{おの}裂^さ

高級助役

高級助役に對しては、早くも昨夜深更にも拘らず阿部府知事の許に申達し手續を済ましたが同氏は目下浪人のことゝて早速就任し得る身輕の結果愈々廿三日午後三時を期し初登壇をなすに決定し居り同氏の控室なる前永井助役の室は床に草色のリノリウムを張り壁を塗りが

長を市参事會室に集めて就任の
披露をなす筈又池田 前田の兩
助役は内務省に奉職して居る間
は日本中に依願免官の手續を
なし遅くも

廿四日午前 十一時

頭物登壇をなすべく同時に市参
事會室に於て恒例により就任の
挨拶をなす筈

廿四日午前十一時

所謂調査機關

過日、後藤男が市長に選挙された。其の選挙に關する所の調査機關がある。市長にはなれないと云つたところがある。而して男が原首相と會見して後藤へつて市長の任に就いたから世間自ら男と首相との間に調査機關を設け置の相談が成り立ち男は市を以て其機關の主と云ふ。然るに約束が出来たなど云ふ。裁判があり従つて此事に就て眞面目に其是非を論じて居る者もあるけれども頗る辻褄の合はない話ばかりである。

吾々は原首相と後藤男との間に何事を語つたかは知らないが、僕しながら我が日本の憲法政策に就て調査研究すべきとは有ると思ふ。而して我が政府にして此種の調査會を設け置るには一面には秘密院の議を経たる勅令を以て其組織を定めなければならぬ。これに必要な豫算は衆議院貴族院の協賛を経なければならぬ。

且大凡調査研究といふ主として事關問題を調査し各國の歴史や實例を參考とするといふが其の當然の務めであつて是れより以上の權限を附與すべきものでは無い。抑國家の政治の中樞としては内閣と其の政治の中樞として一定の主義政策を有つて立ち此に全體能を有すると同時に全責任を負ふものである。又重要な審議する所としては

警察院といふものもあり、或政治上の機關と政治機關とを區別し、政治機關はつて居る以上は其の外に國家の根本政策を定むる所は無いはずである。根本政策が定まつて而して後に調査研究機關なるものがあり得るであつて内閣や秘密院が調査機關から國家の根本政策を考へてもらふやうな事は有り得べきではない。

或は我が日本には調査機關があまり多く有り過ると云つて非難する者があるけれども吾々は然うは思はない。英吉利北米合衆國などは最も能く委員會を利用するところであつて委員會を設けて事物の調査研究を爲さしむるのみならず、時として委員會に若干の行政權、若干の裁判權を附與して其任務の功を全くすることがある。北米合衆國の行政部の仕事を補翼するものは各級の委員會であることは何人も能く知るところである。これに比すれば我が日本の委員會は其數に於て甚だ寡いのみならず、其仕事も一定の器械的調査研究に限られて居るのは吾々の常に遺憾とするところであつて我が日本も行政部の事務若くは地方自治の事に就て大に委員會を利用して其効用を收むるに努むることを要する。

所謂國家政策調査機關なるものに就ては今茲に詳説すべき時機ではないが吾々は敢て其を必要なら

りとは云はぬ。但し調査會は自ら調査會であり之を設けたからと云つて内閣や政府當局者が之に由りて自己の取るべき根本政策を發見してもらふとか造り出してもらふとかいふものではなく、國家の根本政策は内閣自ら其を立て、其實行すべきものであつて決して之を道に聽き鎗に説くべきものではない。且つ國家の根本政策先づ存して而して後に調査會も研究委員も有り得るといふことを明かにしたならば二三論客の疑惑も自ら解けるであらう(公法學人)

三足の草鞋

△後藤男は市長と産業會議長との二足の草鞋は履けないといふ。云つて市長の推薦を拒絶しないといふ。或人「男は二足の草鞋は履けない」と云ふが第二次桂内閣當時逓信大臣と鐵道院總裁と兼ねた上更に新設の拓殖局長職までも兼ね三足の草鞋を履いたことがある。では有りませぬか。

△其當時議會に於て後藤男の無職が問題となり、男に對して隨分皮肉な批評をしたが男は「無職にしても其責務を顧慮せず之を遂行すれば敢て差圖へ無いではないか」と威嚇言に之を叱り飛ばした事があった。其時は議員連れの男の元氣と氣血に吹き捲くられたものが今となつて二足の草鞋が履けぬと云ふはチト矛盾して居るではありませんか。

△之は連日上か將又男が衰へた爲めの弱音か」と突込むと流石の後藤男もグワの音も出し得なかつた。

上機嫌の新助役

登壇して語る

後藤市長の女房役となつた三助役の一人永田秀次郎氏は二十三日午後二時五十分、市役所に姿を見せ、永井助役の室に入り直ぐ市長室を訪れた。後藤市會室に各議員を集めて挨拶を済まし、十時内閣議長の室内で一巡後上機嫌で語る。後藤市長の官更生活を経ては前後十四年間の官更生活を経ては、色んな事の経験を積めたが、官更の背景を去つたのは今日が初めて、助役といふのは一體女房役なんだから、自分で行かうといふ事は無いよ、自分のやうにする事は僕が市長で後藤男は助役されたアハハ。前田、前田助役は今二十四日から就任の當である。

大正九年十二月二十九日

内務の兩事務官

東京市を取調ぶ

下谷小石川の兩區役所も更に各區役所も取調べん

不正事件摘發か

二十四日東京市役所へ内務省の長官が突如出張して山なす書類を取調べに及んだが是れに對し東京市役所の各課長は經理部では臨時費に關する汚物掃除費、公費、臨時費、測量調査費及び試験費等に就いて

取調へ

をしたが、是れに對して廿四日朝は突然社會局の監察事務官、警保局の石原事務官、並に地方局の平島事務官の三事務官が自動車に乗乘して東京市に出張し、何事か取調べるに同時一度内務省に引返し、平島、石原の兩事務官は下谷及び小石川の兩區役所に出張して同區役所の書類を

内容は

勿論秘密であるが何事か各區に亘つて問題があるらしく同引續き全市の各區役所の書類を取調べる事で内務省として、後市長と床次大臣との間に充分の援助をするといふ打合せがある。今後とも土木局からも收買士或は其他の技術家をも出し全般に亘つて大に取調べ若し不正の件があれば此際露然

相當の

處置に及ぶ筈だ云はれて居る所にて東京市は勿論各區にも一大震撼を與へる様である

中村氏と後藤男と

新市長への初非難

後藤市長は就任後毎日招待に忙殺されて居るが例の議員と市民の自覺を唱導する爲めに昨夕は麻布田町の自邸に市参事會全部を今日は正午から工業俱樂部市會議員全部を明日正午よりは各區長各區會正副議長及都市研究會員を招待するを茲に面白いのは一昨年六月東京市會議員の總改選の時麻布から一級候補で打て出た北新門前町醫師中村鐵二氏である、此人は同區に於ける後藤市長唯一の乾兄で選舉當時同區草野武雄氏と激烈な競争となり草野氏の八票に對し中村氏は九票で僅か

後藤市長は就任後毎日招待に忙殺されて居るが例の議員と市民の自覺を唱導する爲めに昨夕は麻布田町の自邸に市参事會全部を今日は正午から工業俱樂部市會議員全部を明日正午よりは各區長各區會正副議長及都市研究會員を招待するを茲に面白いのは一昨年六月東京市會議員の總改選の時麻布から一級候補で打て出た北新門前町醫師中村鐵二氏である、此人は同區に於ける後藤市長唯一の乾兄で選舉當時同區草野武雄氏と激烈な競争となり草野氏の八票に對し中村氏は九票で僅か

一票の差

で草野氏が落選した結果訴訟が起つた、而も其理由は後藤男は自分の一票を衆人の見ゆる場所を書いて投じたといふので其事實を立證する爲め同區仲の町一掃護士赤井幸夫氏が當時現場を映寫した

藤男の政的前途(一)

市長惣憑の經緯を通して

付

東京市政の革新は大正九年から十年にかけて特越さるべき重要問題の一つであつた、市の不正事件の檢舉は愈出て、應重たなるものがあり、田代市長は先づ其を引いて辭し市参事員亦そのこれに坐して辭職するに至り、こゝに後藤新市長の就任を見た、後藤男の市長新任は男が從來積極的政治家として名聲ありたる事、奉天民政長官を擁り出しに南滿鐵道總裁として桂内閣の要相兼鐵道院總裁として寺内内閣の内相兼外相として常に政界の表に後藤ある事を知らし

首相の慫慂

更に男が市長就任に際し先づ東京市會の推薦を拒絶し渡澤子等一流の實業家連をデモ構はせつゝ終に首相原敬氏の懇進を受けて厭起した事も隨に男の市長が露骨のものでない點に思はれた、男が市長就任に際し原首相が産業調査會の追加豫算計上を爲したとか爲さないとか云ふ問題は今尚ほ政界多數者の疑念として存在して居る様である、故

原と後藤の性格

に吾人はこゝに後藤男の市長就任に就ての裏面の消息を揣摩し併せて新平市長の政治的將來を揣摩して見たいと思ふ。

調査會の成否

野に在つても一向平氣である、
變するに原は意思の強い處に待
微があるこれに反して參藤は徹
頭徹尾才の人である

問題は他に

後藤男は興して而かく産業調査機關を重大視して居つたであらうか、又假りに男が而かく該會議を重要視し居つたとするもそれが興して市長の就任に就ての條件となり得るであらう乎、若し條件たり得るとすれば首相がこれを實行する聯合こそ却て市長たり得ないではあるまいか、事の真相を言へば後藤男の原首相に期待した處は他にあるのである、男はその政治的將來に就て原首相の好意を希望すべき運命に置かれ居るのである、男が首相より得んとする處は産業調査機關に非らずして首相それ自身の好意である説明である。

後藤男爵の就任で

秋田代議士の蒙つた

大損珍談

藤男は果して市長になるか
ならぬか百圓の賭け

後藤男

が新東京市長に

なるに就ては其裏面に種々な波瀾が渦を捲いて起つた。そして其間珍談も奇談も澤山に製造されたが茲に記す代議士秋田清君の失敗談の如きも後藤男爵市長就任問題の背景となつて居るから興味深い。夫は後藤男爵と原首相と會見する日の午後であつた、内幸町の

秋田清

君の事務所にて

谷誠夫君がグラミ訪ねて来て四方八方の政治談に耽つて居る所へ長島隆二君が更に來り加へて談論風發却々賑やかになつた。雖も長島君は急に眞面目な顔になつて「時君君君は今日後藤男を訪問したか市長には絶對にならぬと云つて居たよ、世間さ云ふ奴は馬鹿なものさね遂う／＼今日首相まで引張り出たさ云ふぢやないか」と藤男が

腹の中

を見て來たやう

な事を言ふ、するさ秋田君が一つ大きく頷いて「そりやあ君無論さ後藤男さもある人が市長位に祭り込まれて居るかいそんな事は始めから判り切つて居るんだ」と之も本人の男爵に成つたやうに市長不承諾を明言した、默然と聞いて居た

大谷君

が此時俄に開き

直つて「秋田君そんな君は藤男は絶對に市長にはならぬと斷言が出来るかい」と念を押せば「無論さ、絶對にならぬ若しなつたら此首を擡るよ」と平手で自分の首をバタ／＼と叩いた「よし面白い吾輩は必ず承諾するさ信する一人だから賭をしよう然し君のドス黒い首では貰つても困るから

金百圓

を賭けて置いて

待合で大に飲まうぢやないか「大賛成」早速百圓の賭けが成立した、そこで長島君が保證人となつて此三人は立ち別れたが其翌朝の新聞を見るさ藤男が就任を承諾したさ云ふ記事が一齊に初號標題の三段抜きで堂々と出て居るのさ秋田代議士少々面喰つて早速後藤男爵邸に馳せつけて

直ぐに

其實否を尋ねる

さ全く新聞記事の通りなので愈々秋田君大調り悄然と事務所に向つて來て見るさ早くも大谷君が勝ち誇つた顔して待ち受けて居てさうだいなあ之から飲みに行かう今長島君にも直來るやうに電話して置いたさ快々々々大喜び、秋田君も仕方がない遊々ながら長島君の來るのを待つて三人打連れ立つて築地の花本へ

自動車

をつけて飲み始

めたが此日の會計の總額高二百五十圓也で百五十圓だけ超過して丁つたので秋田君泣面に嫌で「噫今年は運の悪い年だつた」さ遊面作つたさは後藤男爵も意外な邊りに損害を與へたものだ

吠犬鳴驢

後藤東京市長も愈々初登壇をして正式に就任した。が斯う納まつて了へばア案外平凡化の氣味がないでもない。▲未だ全く野心を捨てない否捨て切れない後藤男が何うして東京市長になつたかは一個の謎として人々の興味を獲つたが個中の消息を知るに獨待無比の便宜を持つて居る本紙住京記者の通信を一讀するさ誠程さ首肯される。▲即ち仕事氣の多い後藤男はめつから色氣はあり乍ら問屋は安くは卸さぬ風を装ふ爲めさ一つは次の内閣組織に就て何等かの引掛りを進める爲め思はせ澤山の嬌態を見せた。▲が智慮に堪へては後藤男より二段も上手の原首相から難なく説き伏せられて一切無條件で承諾の餘地なきに至つたのは懸引掛けの好典例である。▲尤も例の産業調査令文は首相の同情思ひ遣りで追加豫算に計上さるゝさ云ふから男も少しは慰めて可い。▲それとこれとは事柄は違ふが勢國が突如として英佛伊三國に對し希臘問題で高飛車に出たのは同じ掛引にしても餘ッ程さ。▲さ云ふもの▲希臘の勞農主義者が早くも頼もせぬ帝國主義國の後見を脱すべしと狂喜してゐるなど。▲兎に角過激派は芝居が甘い

特別市制實施を

京都と協議

京都連上京し本日打合せ

他の都市も協同せん

東京市が多年の懸案にかゝる特別市制實施の希望は未だに實現を見ずに居たが今度

後藤男が市長になつたのを機として此の計畫に最も熱心な京都市からは二十四日應

應同市參事會員市會書記長大國引吉氏外五名并外五名を東京市市役所に派遣し東京市と同一の方針の下に専ら實現を促進すべく協同的行動を以て事に當つては何かと申込んで來たので二十四日午前十時より東京市

特別市制 實行委員長たる桐島市會議長并に市會議員秋山朗氏八田書記長電氣局の平井良成氏等數名出席し實行方法につき協議中だが無端大阪、神戸市等も此の協同作戰に呼應するであらう右につき八田當京市

會書記長は語る「内容は議會に於て東京、大阪、神戸、名古屋、京都、横濱の六大都市が結束し事に當らうではないか夫れには東京市でも運動に加盟して貰ひ度いと云ふのである」

後藤男の今後

後藤男が東京市長としての今後の活動は、東京市民は勿論全國一般に期待せらるゝ所なるが、男は意々永田池田前出三助役を物色し、左右羽翼の陣立を整へ、市政刷新の第一歩に着手せんとするものゝ如し。三助役の何れもは撤出身たる聊か氣受け悲しき感嘆に非ざるも、是亦強ち不適任と云ふ可らず。唯市役所内の空氣の漸く秘密主義に傾かんとするは、吾人此を採らず

普選案提出

普選同盟委員會が、議會開會後、普通選舉法案を提出せんとする、其意氣や壯なりといふべし。唯憲政會國民黨が普選案に就き甚だ冷淡なるが如きは、吾人の頗る感ずべき所也。政友會既に議會の絶対過半数を占むる今日普選案の運命の如きは、問題にあらず、苟くも普選の大義に賛同するに於ては、勝敗を度外に措かず、突進すべき耳。何ぞ右顧左盼の要あらん

大將の授爵

前西利伯派選軍司令官大谷大將に男爵を授けられたる、聖慮甚しきものと云ふべし。大將が過去三年に亘り朝北荒野に雪風餐の苦楚を嘗め、駐兵の軍督に當りたるは、其勞や多大なりと云はざる可らず。唯西利伯出兵は、大局より見て失敗にして、這是政治家の責任なりとするも、用兵上亦幾多の失敗ありしを免るべからず大將たる者授爵の恩命に接し、衷心悲憤たらざるや否や

新年の雑誌

新年の雑誌は、己に書翰の店頭に陳列せられて、世は節季師走の忙しき折に、春を急ぐ長閑けき氣分を漂はし居れり。斯の如き頃には、最初幼年雑誌に流行の端を作られて、婦女雑誌に及び、遂に一般雑誌をも風靡するに至れるものなるが、是れ新を競ひ功を焦る時代相の反映にして拙速主義の象徴とも見るべきか。吾人は今の雑誌經營者の餘りに輕慢自ら恃みて、一味鈍重の氣莫きを痛惜する者也

自治の精神

東京市が一市長を得るが爲に、各面の人々を煩はし、遂に首相内相果ては元老にも頼み込みて、一旦辭意を致せる後藤男を以て置き、つるは近來の滑稽劇といふ可し。東京市は、是れまでもなく、全國各市の模範市にありたき所也。勿論東京市のみが斯くあらざる可からざる理由なきも、東京市にては行はるゝ所は、動もすれば善きにも悪きにも地方各都市の之に模倣する所たらんとする傾向あるをて、東京市が善き模範を示せば、各都市之れに倣ふものありて、自治の精神は徹底すべきを以てなり。

東京市の市長選挙は、固より人に直接何等の痛痒なし。然れども自治の精神に付いて考ふるに、吾人は其の成行に關し、大に興味なきを得ず。後藤男が承諾するにせは、固より問題なきも、後藤男が就任せざるにせは、市長選挙の結果は如何なるべきや、或は内務大臣の職權に依り、再選挙を行はしむ可しといふものあれば、後藤男の外に選挙せられたる第二、第三の候補者は如何なるべき、東京市會が是等の選挙を行ふべきは勿論第一候補者を選出するにあり

て、第二、第三候補者は、言はば洋文に充當するまでの事也。然れども第一候補者にして如何にするも、其の選を受けずあらば、今更第二候補者は看板に過ぎずと言ふ能はず、既に第二、第三候補者を置くは、豫め第一候補者の支障ある集合を豫想しての規定なるを以て、第一候補者を受けざるに於ては、第二、第三候補者を受けざるべく、第一候補者を受けざるに於ては、第三候補者を受けざるべく、第三候補者を受けざるに於ては、第四候補者を受けざるべく、若し市會が此の如き、慮らずして徒に木偶然たる候補者を第二、第三に擧きたりせば、市會の自から悔るも亦たしと謂ふべし。若し風説にして眞ならずは、東京市長第二候補者は、其の第一候補者不就任の場合、進みて自から就任の意ありといふ、然らば問題は簡單也、後藤男の手の切れ次第其の人に任命ありて可也。其の人選任ならば東京市、爾後候補者を求め得べく、就任を欲せざる名流をあさり過る面倒なかるべし。若し其の人不適任ならば、東京市は自治精神を自ら侮りたる天罰を自省すべき也。而し實に又東京市の問題にあらむ也。

高橋の息のかゝつた者は全部根絶すと
後藤市長の荒々しい鼻息
今日二助役初登廳
意中を明かしたと云ふ
既に永田高橋助役は昨日から市廳へ出てゐるし、その池田前田二助役は今日中に登廳の運びとなるべく、さて三期後の選挙の運びとなることを危されてゐる市の其々局長、課長、部長等の首が伸るか反るか、遠からず運命が決まるのである。過日市長

後藤市長は市會議員の泰氏に對して「無論融解は融解せずさねばならぬ」と考へてゐる否、融解する決心ではあるが何を云ふにも理事者としては吾輩市長一人でもどうにも仕様がなからぬ、助行が出来たらしくと相談してやるつもりである」と

初登廳の日
後藤市長は、昨日午後、市會議員を驚かした平國道路局長は、當然、後藤市長の事を恐れ、てか又は後藤市長の威嚇者に示して、その事か何れにしても巧みな進退振りを演じてゐるが、或は後藤市長が考へて、早くにと云つて、また手許に據られたと云ふのである。

大正九年十月十八日

新市長に希望

市民たる立場より――掲載到着順

◆ 伯爵 柳原義光
新市長の卓絶せる手腕を信頼し市政の刷新期して待つべきものありと信するが故に何等希望する所無し

◆ 佐々木 堅久
東京市は大小雑多の市事業を條々に多く市廳に集中せるの弊あり、是れ即ち市民と市廳と殆んど没交渉の觀あらんとする所以也、此の弊習より脱せんと思はる、此の弊習の大半を脱つて之を區に分擔せしむべき也。市會の改造も必要也、吏員の淘汰も緊要也、されど斯の種根本的弊習を改善する事は市事務の進歩上更に一層必要なるべし

◆ 三上 英雄
新市長に對し市會解散を望む人多きが如し、然し乍ら總令市會を解散するも現在の階級選舉制の下に市會議員を選挙するに於ては依然として市民大多數（現在公民と異なる）の満足を得ざる道理なり、故に吾人は一面、現行の三級選舉制を廢すると共に何にもない



市社會局長

松岡均平博士が窪田氏に代らう

大崩壞後の東京市役所は後藤新市長を迎へて幾度も一段落を告げた。近々あるが平岡道路局長の辭表呈出後各局課の間には何時餘餘の波動を受けるやも知れず不安の空氣に動いて居る。端なくも社會局長更迭の聲が聞かれて來た。同局長更迭の噂は以前より幾度か傳せられ、局内に於ても窪田局長不信任説は最早動かし得ずと言はれ殊に

▲後藤市長の新任と共に同局長の命脈は一層縮められるに至つた。されどこれである。窪田氏に代る噂の主は前東京大學教授前協同會理事松岡均平博士である。同博士は去十月政府委員として内田氏と共に伊太利ゼネバの海員大會へ参列後暹羅歐米の諸國を歴訪して去る十一日歸朝したるまゝ、其後表面社會的活動すべき地位に著かず目下直接に關係するは

▲滿鐵のみで あつたが最近中西同社副社長が博士の献策を用ゐて施設上の失敗を來したる所が同社に於ける博士の地位に動搖を來した。際々博士と關係淺からぬ後藤男の東京市長選任は此に活路を見せしめ遂に窪田氏の椅子を奪ふ事になつたのであつて迎奉と共に其實現を見るべく傳へられて居る

大庭 重治

日井 哲夫

行き詰れる市長問題

○東京では新市長後藤新平男に對する反對の聲が、かなり盛んに行はれて居る。之が爲めに激説會なども開かれて居る、市會議員間にも大分反對があり、市吏員連も戦々として居る、反對の理由としては、第一後藤男があれ程明確に就職を拒絶しながら、濫驕子や原首相などの勸説を受けしめて、手を離すが如く就任せしは、其態度餘り不徹底なりと云ふ事、第二後藤男の推薦せる永田氏以下の三助役が悉く内務省側の官僚出身のみにして、東京市政を官僚化し、東京市は内務省の出張所たるが如きの觀ある事等は其重なるものにして、其裏面には種々込み入つたる事情もあり、殊に其第一理由として數へられつゝある、其間には政黨的色彩もある様子なるが、三助役が官僚的にして、市役所が内務省の出店同様官僚化するなど云へば、第一後藤男其ものが、先天的官僚肌の人である、山縣公の御聲がかりや、首相乃至内相の口添へにて、初めて就任を承諾する云ふ一事に徴しても、男が如何に官僚的であるか云ふ事が分る、三助役の顔驕れを見て、今

更官僚化など相愛するものは、抑既に迂愚の極だしきものである、獨り後藤男や永田氏以下の三助役のみならず、現代の我國に於て官吏生活をして居つたもの、官僚的なるは、味噌の味噌臭きと同様に、百人が百人迄殆んど免れぬ、其通の性質である、自治制度に官僚的臭味が禁物なりとすれば、初めより官界の落伍者などを、相手とせぬがよい、自治政治の官僚的なるは、勿論變へた事にあらざるも、自治政治を政黨派の渦中に巻込み、唯徒らに紛擾を事とするは更に一大禁物である、○後藤男が一旦東京市會の交渉を拒絶しながら、更に第三者の交渉を容れ、之を承諾せしが如き、其間如何なる事情もにせよ、自治制度の根本義に照らし、甚だ面白からず、而も市政治上の問題を黨争化し、攻撃せんが爲めに攻撃し、反對せんが爲めに反對するが如き、一層不都合なり、吾人は直接東京市行政事務と何等の交渉あるものにあらず、然れども東京が帝國の首都にして、東京の市行政事務が常に全国各地の模範となり、標準となりつゝある以上は、他山の石

とて、又全然没交渉なる事は出来ぬ、然んや今現に京都市に於ても、市長候補者の詮議は當面の問題とし、其候補者の物色は東京よりも一層困難にて、京都市會の矛盾不徹底は、東京市會よりも、ヨリ以上なるに於てをや、○京都市會に於ける、市長候補者の詮議は一頓挫を來せるものゝ如きが、今日迄其候補者として擬せられつゝあるは、土著人としては大村彦太郎氏、他地方人としては島田剛太郎氏、岡實氏、杉山某など云へる人々が其重なるものであり而して大村氏に反對するものは、氏は財閥の資産階級なれば不可なりと云ふ、然らば島田、岡、杉山の諸氏が、果して官僚的にあらすして、又政黨的に没交渉なりと云ふを得可きや否や、よし候補者其人に何等政黨的關係なきものとすも、今日の京都市會議員諸氏が、果して政黨派の上に超越して冷靜なる事を得るや否や、兎に角斯の如くにして、彼れは財閥的なるが爲めに不可なりと云ひ、彼は官僚的なるが爲めに不可なりと云ひ、彼は政黨的なるが爲めに不可なりと云へば、適當の市長候補者は果して何に依りて得らるゝか黨派的感情其他種々な情實困難

より、事毎に反對せんが爲めに反對し、批難攻撃するが爲めに批難攻撃すれば、何人が如何なる候補者を物色し來るも、到底完全なる候補者を得る事は、自明の理なり、○吾人は今現に京都市長候補者として數へられつゝある人々及び候補者として擬せられんとする人々を對して、敢て輕く月旦する事を好まず、勿論重大なる吾人の市行政事務を委託する市長候補者を選挙するに當つては、慎重に審査研究せざる可らざるも其慎重に審査研究する事と、輕く月旦する事とは、其間大なる區別ある事を忘れてはならぬ、然るに京都市會に於ける、銓衡委員諸氏の態度を見るも、之に反對する一派の市會議員の爲す處を見るも、輕率妄動と云ふより、寧ろ其餘りに不謹慎にして又餘りに不眞面目なる一齋を喫するの外はない、斯の如き狀態にて適當なる候補者を得んとするは、要するに木に據りて魚を求めんとすると同様である、大それたなくも、前市長安藤謙介氏の選挙及び其退職に際して失態に次ぐに失態を以てせし、今日の市會議員諸氏が、果してよく後任候補者を選挙し得るや否やこの事

は一般市民の間に於ても、疑問とせられて居る、然るに銓衡委員以後に於ける、市會の醜態果して斯の如くなる以上は、彼れ等は此聯合一日も速かに責を負ふて、市會議員の職を辭し、總選挙の上、改めて市長候補者を物色する事とするのが當然である、彼れ等が躊躇逡巡自ら決する能はず、一日を緩ふすれば、即ち夫れだけ市民に對する責任を重大ならしむる所以である。

相手に不足はない

既う暗嘩腰

新市長を向ふに廻して腕に擦るをかける猛者の面々市會は何よりの見物

「新市長後藤男を迎へての初市會」を以てある。市開會期は未だ決定しないが、分廿五日頃だらう。

久し振りに

乗込めるよと當局者あれば誰でも相手はあらず。きつての者といふは、あるさる會の某議員は、第一今迄の市會と違ふのは、各派の色彩が濃つた事だ。是迄の御用黨は、永い間公和會だつたが、今度市友會と公和會が、どんなに流行つた好意的中立とも出るのには、なからうか。大成會新正會は、始から後藤男は意中の入でなし、公和會の

阿部よりは、と云ふので一致したに過ぎない所へ後藤がある。んなに手古慣らしたので全かり感傷を害して、餘り有難がつてゐないから見て居る。給へば、者揃ひの新正會などは、事々に大反對をやるよ。今に後藤が無禮者奴と怒鳴る様な事が出来る。と初市會は市長

就任の挨拶

高位置で終るだらうが、今後の市會に上下水道の問題等があるから、さういふ事だらう。市會各派の大勢は、公和會の態度で定まるが、市友會を除けば、反對黨の勢力が、此間を男かどう云ふ、工合に操縦し切れて行くか？見ものだが、夫れより

一層興味

役が永田、池田、前田あたりだと、大後藤と同じく、何れも官儀臭味のある奴許り。宛然東京市に後藤内閣の出現さ、大東京の官儀化など、入参し事を云はずに済めばよいが、危ぶまれるよ。後藤なら相手に不足なし、大いに大刀討ちやるから見てくれ給へ。と毛もくぢやな腕を出してシゴいた

廿四五日に

市會開會

大海原職務官掌 新市長と打合せ

後藤男外三名の東京市候補者に對する認可申請手續は十六日夕阿部府知事から内務大臣の手許に申請されたが、十七日午後大海原市長職務官掌は、個人資格で後藤男に就任の挨拶と、助役の推薦承認を兼ねた市會の開會期日等に就き打合せを爲した。大海原職務官掌は、曰く「認可申請の書類は、昨夕内務省に申請されたので、今十七日午後大海原から東京認可を仰ぐ事にならうが、御認可は、何れも明日十八日になるべく、翌十九日は日曜であるから、新市長の初登壇は二十日にならうか。従つて市會開會期も早くて廿四五日頃になる事と思ふ」

後藤鼻眼鏡男が

大臣禮遇の歳末御下賜金を頂戴に 其他歴々と宮内省へ出頭

市長

の御認可が今日か明日かと噂とり、の十七日午前十時四十分頃、鼻眼鏡の後藤新平男が自動車に乗せて宮内省に來た、氣の早い連中は「認可の御認可ですか」と質問すると、「いや、市長に關係した事では無い」と二階へ逃げる。内閣へても御用で……と

我儘

なことである。上院議員長や山本權兵衛大將も見た、又大岡平田、牧野の各外調委員、小川總城等も續々來た。因に歳末御禮の思召で來る。十八日正午山縣、坂方、西園寺の各元老以下、樞密顧問官等を千種間に召され、午饗を賜はるべき旨御沙汰があつた

追及

すれば宮中だと苦蛇を渡した様な體して、スズンお奥へ急いで入つた、約十五分にして青い封書を手にして出

時の人

新市長後藤男

▲何の彼の、集めるだけ集めた後藤男の市長就任は其の職務ならぬまでに端々たる衝動を露白したものの、既に彼が所有の性癖は既に著明なる上に就の一件で一層色揚げられ、其の出處に就ての大變な芝居集も餘りに明瞭な事實であるから、時の人としての紹介は、無用なるが市長としての彼に就ては一言贅減して置く必要がある、市長たる彼に贅減するよりは彼を市長とする市民に贅減して置く必要がある

▲彼は其の出處の一齣として都市研究會長たる名義を利用して自治に就て市民に三ヶ條の質問書を發して其を抑も彼自身に自治の何ものたるかを知れるや否やが疑問である、何となれば彼は市會一致の推薦を拒絶する正に一週日の後元老や首相の勸告を容れて初めて就任を承諾した、彼は此の受諾に於て商業會議所と諮問する調査會との關係を事々しく詳解して居るが調査會を自ら主宰するならぬに角政府に案の採用を迫るだけなら市會一致の推薦を拒絶する理由はずっとない、畢竟彼は自治體を無視して體力の勵進に應じたに過ぎぬ、既に市民に自治の機を實現した彼は彼自身に自治の何ものたるかを完全に瞭解して居ないのだ

▲更に滑稽なのは彼が就任承諾に就て市政の革新は現在の市會で結構で總辭職も無用、解散の必要も認めないと放言したとた、都市研究會の集會以來日を極めて市會議員を罵倒して居た彼が突然此の言を爲すは後事が護士に教習したよりまだひどい變り方である、抑して来る豺狼の防禦を怠つたか行軍が市政に懸れたのと全然同様の市會の組織に就ての引責、或は豺狼を防かんやである、竟もあるものではない、只た彼は罷免要求である、群衆に激はれたる市に然るのみならず彼の就任其の舞臺を崩壊へて大見得を切て市會を改造せざれば眞の刷新が期せぬが狐狸の使役者たる豺狼の親玉に現れた迄である

市會委員往訪——無條件
快諾——助役後任應答

無條件にて

承諾す

次いで後臨

男より
不肖市長就任を承認したる以上
當然起る可き問題は補助機
關たる助役後任の件
なるが諸君の側に相當の適
任者無きや

と口火を切りたるに對し市會側
助役は云ふ迄もなく市長の女房
役なれば全然市長の意
嚮に依り御推薦下さ
るを相當なりと信ず
る。過般の市會に於ても此趣旨に依
り延期し置きたる次第なり
と答へ最後に佐藤男は助役後任と
關しアレミアム附若しくは餘りに
年若なる者は面白からずとの暗示
を與へ之れにて會議を終り同十一
時十分退出せり次で大海原市長職
務執行代理は十六日午後佐藤男の
慰問書及び同男就任の意志ある謝
書を附し府知事を經て内務大臣に
申達する所ありたり

筆者不明
の投書は
採らざる

◇自分は昨年六年間の外遊より歸朝以來筆に口に大調査機關創設の必要を高調して居たが、先立つものは經費で却々實現の困難なるを痛感して居た。然し後農男の如き地位もあり、手続もある人にして此の調査機關設立を使命と信じて努力せらるゝことなれば、時機の問題は有るにしても其の實現に可能性がある。曾て米のルーズベルト氏が大統領當時第一の農村調査を決定して農村教育の爲め偉大な裨益を與へた事を想起する。

◇然し自分は、何故に後農男が其の方策を興へて、現在の國務院をして農業調査を創始せしむる様式がせられないて有りしかと疑ふの

定するとなれば莫大の費用も入り、特別の施設も必要であるが、今の國務院の事業を擴大して一時的の事業でなく永続的の調査機關とし、産業調査を實施せしめられては如何であらう。

◇政府とてもあれだけの費用と人員とを以てして、僅に入項目の人口調査だけで満足して居る譯でも有るまい。必ず行く行くは此の産業方面の調査に着手する計畫で有らう。何れにしても政府が此の事業に反對する理由は有るまい。時勢の要求でも有り、政治上、産業上、學術上、必要缺くべからざる此の方面の經費の増加には、國民も不平あるべき筈がない。

ある。(一) 滿工教授小野富吉(吉)

である。自分は其の方が最も自然な米國では既に一八一〇年の第三次國勢調査以來、人口の調査に附して國勢調査を試みて居る。第十三回國勢調査の如きは人口の部は四三三七頁の四つ折版四冊を初

後藤男爵が市長に

就任するかせぬかで

兜町の大賭博

車夫や小僧等まで金儲け

東京市長

の椅子に後藤男爵を据へやうとして市會は全會一致で持上りてゐるが當の男爵はキツパリ謝絶してゐる若し男爵に出馬せざる以上推薦者は責任を辭職せなくてはならぬのみならず疑獄事件に取巻かれてゐる市政は愈々混亂し混亂益々甚だしからうと云ふので後藤男爵まで大急になつて後藤男爵の態度に狂奔して遂には原首相

床次内相

までも引張り出して大騒ぎしてゐるので錠でも動かぬ氣勢を示してゐる後藤男爵も遂には口説き落されはしまいかのみならず謝絶の理由は頗る簡單なものであるし船に取つて承諾しなかつた産業調査會は来る議會に提出されることに略決定したと云ふので或は受諾するかも知れぬとの観測さ次の内閣は

當然男の

手中に歸す

巡查の語

る處によろ「取り所」に出入する車夫や仲買人の小僧等は見るもの聞くもの何れも賭博の材料にして電車番號の過數が奇數を組合ふや相撲が初まれば一勝負毎に熱中し金を賭けてゐる一勝負に一圓で二千圓や三圓位は常事と相撲を買収して八百長をして貰ふなど威い事をしてゐる位だから材料さへあれば何にでも賭中事する後藤男爵が市長々承諾するか否かの問題は二分興に入つて大きく賭けてゐるらしい小僧等は正月の小遣ひまでも最う賭けたものがゐるそうだ」

後藤新市長が

自治の講釋

昨夜市政刷新演說會で

市民は紳士たれど

新市長たるべき後藤男爵は十六日午後七時、後藤町小学校講堂に開かれた都市研究會主催の市政刷新演說會へ會長として出席した斯くて椅子に凭れて演說を結び乍ら池田、野村、淳治、内田嘉吉氏の市政刷新都市政善に關する

演說を聞流

して午後九時四十分、眞影を背にし乍ら後藤市長が自治の觀念を市民にさとす様な態度で「我國が自治に對して三十年の歴史を持ち乍ら今尚牛が歩みの様な状態にあるのは誠に嘆かしい次第である從つて市民は此際よく考へ與へられた自治の權利義務を全する爲に努め紳士は求められずとも自ら與へる

所謂紳士税

を支拂ひ然からざるものは自ら奮り自ら治むる自治の本分を盡して市政の刷新に努めねばならぬ」と口を結んだが此日の聴衆六七百名中には五六人

都市研究の講演會

昨夜青年會館の大盛況
劈頭に登壇した後藤男

新東京市市長藤野平男を会長とする都府研究會の講演會(十六日)より廿日まで各區で講演する)は先づ十六日午後六時より練田青年會館に開いた。後藤新市長を見送つて藤野氏刻前から舞臺に詰め掛け

たが時頭

下に藤野雄氏、次に添田壽一博士が「自治の精神」に就き講演した。が「自治の精神は人民各目の生活の境域にある。従來の政治家は國民生活を度外視して居つた故に

自治は發達しない」と述べ、關五郎氏は大東京市の

第一 開會の辭を述べんこ
て、後、紳男演説に現はるゝや、拍
手、急激の如く起る。男は先づ今日
多數の出席者あるを感謝して「市
政の革新は公民の自覺にある」旨
を述べ「自己の生活を完全にする
と同時に、他人の生活を考へねば
自治は發達しない」市議員選舉

中、比較の有難さを感じるもの
は水道ばかりだ、事業を完成せし
めよと云つても、財政が許さぬと云
ふかも知れぬが、財源は工夫次第
でいくらも得られる、先づ市有財
産である土地を今少し

有効に 利用して貰ひな

有權者 すべてに對して
市政に關する意見を聞くべく畫狀を出して濫いたが之に對しては誠意を以て回答して貰ひたいと述べて降壇するや、聴衆は後藤男の都市研究會長としての講演でなく新市長としての施政方針を聞く積もりで來たが云はんはかりのい、市では一年を二十錢で貸してあるが市に關係ある少數の人は之れを更に高く貸し儲けてゐる、權利の轉讓では一坪百圓の相場だ、市では之を何故に放置してゐるのか、不可思議だ、今後後藤君には、
理窟はかりでなく實際にやつて欲しい、
終りに副市長内田嘉吉氏が

不滿足

不満足　で醜を見合せて
閉會の　辭を述べて散會
ゐた。次いで内務勅諭松田源次郎氏　したのは十時であつたが、都市電
白電制の運用に反し、次は「何　究會と云つても重に東京市を中心
故に市政は腐敗しめしきや」の題とするものであつた

都市究研會の宣傳

後藤男の獅子

市民に自治振興の自覺を促がす

昨夜の兩講演會の盛況

問題 男が娯楽を入れて居る都市研究會
主眼の口は娯樂並に刷新に關する
市内各區の宣傳的講演會は十六日
夜田町の青年會堂と鐵道小學校の
兩所で開催された先づ青年會館へ行
後に説を轉じて以上の意味に於
て東城野矢氏はいよいよ自覺した
を以て都市研究に各自従事して實
ひたいさうした意味でこの都市研
究會を開催したのであると結び
聴衆 は新市長のやゝ市井

血來

つて見ると、舞臺は、足踏前から綴々と滑り降り、藩政の盛衰を呈した後、藩弁平男、大拍手に廻へられて登壇。市民諸君に往復はかき六万程出したが、それは今日になつて始つて思ひ附いたのでなくて、既に先づ心に同志と語り計畫したのであつたが、今日になつて見ると自分ばかりとしてこれに關係しなくてはならぬ。なつて来たが、今日も市議會も非常に盛況であつた。

都市

研究會の一員として

新任公使を招
待して午餐會

議會の關係を述べるのであると自分
 と都市研究會の關係を明かにし更
 に點を次いで市政の健全なる刷新
 を計るゝのは市民殊に市民の各都が
 自己の責任と云ふことを激しく自覺
 して貰はなければならぬ、即ち物
 地的にも精神的にも所謂紳士社會を
 擲ふと云ふ大決心を自覺する必要
 があると市民に一大激震を發し壯
 い會台であらう

後藤男と 東京市長

(東京政治問題に見
て大に興味あり)

従凡として後藤男が東京市長に
選挙されたりとの飛報来る。是れ
信ず可き歟、信す可からざる歟、
否實現する可き問題なる歟、將た
實現する可からざる問題なる歟と
は、何人の心頭にも突き来る疑問
なるべくして、更に角、人耳を聳
動せしむるに足る一事件なり。若
し後藤男にして、後藤男市長たるの
内閣、若くは選挙されるれば承諾す
べき暗示を與へたる事實ありとす
れば大なるなり。若し然らずして選
挙すれば承諾すべきものと信じて
市會が此舉に出でたるものなりと
せば、男は果して之を承諾すべき
かの疑問を起さざるを得ず。

奔走する人々は世の目して官僚
系の人々を爲す所たるはまた看
すべからざる事實也。然るに後藤
男が東京市長たることは男が當分
内閣組織問題と絶縁したるを意味
す。また従つて官僚系の人々が政
局に勢力を得る能はざるを意味
す。是れ決して輕少なる事實と云
ふ可からず。左れば後藤男と東京
市長問題とを關聯する時に當つて
は、男の市長たる適否を考ふるよ
りも、先づ男が果して之を承諾す
べきや否やを考ふるに至る所以な
り。固より市長には任期なるもの
あり、任期中と雖、必らず辭し得
られざるにもあらず。然かし男を
して近々の中に内閣を組織せんと
する野心や期待を有するものなら
んには、容易に市長たるを承諾せ
ざるべきはまた略易き理なりと
云はざる可からず。

有することによりて看取するに
難からざると共に、其先強たる後
藤男と此點に於て默然冥會する所
あるなるべしとは、人々の推測し
易き所なり。然るに仲小路氏は
市長たるを辭し、後藤男は之を請
せりと云ふは理に於て解すべから
ざるにあらざる歟。或は曰く仲小
路氏の辭するは、後藤男の爲に路
を開かんが爲なりと。若し之をし
て事實ならしめば、世人の是迄に
築きたる對官僚系觀は、一大變化
を來たざるを得ずして、後藤男
の近時の思想の變化は、他の想像
する可きものなりしなり。

然かし實際問題に就て男の市長た
る適否を論ずれば其根柢大なる
所、其創意に富めるも機軸を缺く
の所、其華美を好みて實質を缺く
の所、其事務的たるよりも政治
家的たる所、皆市長に不適任なる
半面の素質にして、唯東京市民の
人氣を買ふを好み、男の人氣に
投するの巧なることが、相合し、相
投するに過ぎざるのみ。

つて其手腕を嘗試せんとの心を起
したるにあらざる歟。東京市の大
改革、倫敦市長の位置、必らずし
も男を動かすの好材料ならざるを
す。若し男によりて帝國の首府の
位置高まることは、以て一國の
として政府と相當するに足るものな
り。且つ男にして東京市政により
て技術を示し、東京市政によりて
聲望を收め、其勢力を持して徐ろ
に帝國政界に躍まんとするの眞面
目なる持久的の野心ありとせば、
男は實に其思想に於て一激轉を見
たるものにして、男の爲に說せざ
る可からず。

大正九年十二月十七日

後藤新平男

男爵後藤新平氏、東京市長に選出せられ、辭す。江戸ッ子等が、此人を市長にしたら、市街のシンヘイが入らぬと思ふたらんも、ガラリと空が外れたり、かれ老たりさいへども、猶一道の爽氣を帯ぶマシラ他人の傀儡には使はれまじ

凡物ならず

後藤氏嘗て愛知醫學校長兼教授たり過々板垣伯政軍にて刺客の刃に罹る、時に政府軍垣を穿る仇等の如し、手を叩て快哉を呼ぶ者あり、乃ち敢然として往て治療す、醫は人の病を治す、政府の反對否とは問ふ所に非ず、此時より世人凡物にあらずるを觀す

判事を叱る

後藤氏、務省の衛生局長たり、相馬事件に關係す、その相馬法廷に立つや、張騰目、判、檢事を叱り、人なきが如く、人をし、被告たるやを疑はしめ、彼の腹氣が尋常吏人に超出することを世人に認めしむ

英雄識英雄

日清事件に京王將に就いて衛生の事務を視る、一見其知の如し、將軍深く其能に信任す、後藤氏の他日大に名を成すに於る、實に將軍の推挙に由るもの多々、英雄

老氣猶橫秋

男の老氣猶橫秋、東京市長の亂離を斷つ確信ある乎、或は其てん徒らに他の傀儡に甘んずるものにあらずるべし、なるにても豫め打合せなかりしが、叫きは少々不協の心増せざるにあらず

阿部推戴派

阿部氏の東京市長は、或意味に於て適任ならずとせず、氏の人物、腕世に定評あり、火を以て火を執ひ、毒を以て毒を制す、時に取ての妙方ならずとせず、知らず阿部氏推戴派の心中、何が故か早變りせしむ

大河内子爵

大河内子爵の海軍省勸參こそ最も選任を推す、かれ大砲の智識に、日本の第一人者なるのみならず、一昨午羅馬に於ける行動、日本紳士の典型として認められしに徴しても、亦その人品の高きを察すべき也

縣會の質問

山口縣會の質問議員、何れも眞面目なるは結構至極也、最問、賦問なきは特に結構至極なり、酒に酔ふて愚慮、になるは、日丹谷の亭にして山口に見られぬなるは宜し

外調委員不辭

後藤新平男東京市長就任に際し、阿部の臨時外交調査委員たる資格に異議なきやを取沙汰する向あるが、政府側に於ては、阿部の外調委員は依然たるべしと斷じ、且つ曰く外調は陛下の側近に在りて、選任の任に屬するものにて、委員は大任を担ふるものなり、非ず從つて公吏たる後藤東京市長が外調委員たるも、法規上何等支障なし、且つ公吏と兼ね得るは、法規の明示する所なれば也云々

市會の

○後藤男は何故に
市會の
市會を直ちにお受けなさなかつたかと
添田博士の皮肉
既報、都市研究會主催の十五區巡回大講義會は先づ十六日午後六時から神田（青年會館）講堂へ遷り、阿部市長が正式に開始した、阿部市長が此日初めて正式に東京市長を受諾したのだから「新市長が何を獅子吼するか」と好奇な期待を抱いて來會した者もあらう

一致の

市會を直ちにお受けなさなかつたか、何故に市民一同の希望に重きを置かずして、何とかいふ偉い方々まで引張り出さねばならぬとしたか」と卓を叩いたのは皮肉味たっぷりであつた、市會と共に市會は阿部の會場へ自勵車を購つたが此方では、男爵の外に渡邊博士、野村淳治、内田嘉吉、博士の講演があつた

紳士税

紳士税だ、強制的にも精神的にも、どうかお互が東京市自治の上に留意なき意見の交換も出来、希望も披露するやうにした、と云ふ、大で松田内務勸參、阿部（後藤）理事、添田博士、關直喜氏の講演があつた、其中で添田博士が自治の精神から餘りにデモクラシーを説き過ぎて「後藤男は何故に市會全會

十七日

十七日は午後六時から日本橋（久松小學校）講堂（南座）赤坂（赤坂小學校）で講演する

東西兩市の市長問題

京都市會の處決を促す

説をなすものあり曰く、後藤男は必ずしも絕對に京都市長の地位を拒絶せんとするものにあらず、唯今日の京都市會は世間疑惑の中心として果して眞に東京市民の意志を代表するものなるや否や明ならざるを以て、直に之を承認する能はず、故に適當の方法に依りて東京市内數十萬の市民が氏の市長たる事を希望するや否やをたしかめし上にて、或は市長たる事を承諾するやも計られずと、果して然らば後藤男としては頗る用意周到と云はれねばならぬ、而も東京市の職に市長を失ふや、兩助役も引續き責を負ふて辭任し、市會議長及び各市議會議員も辭職し、大淵原東京府内務部長は遂に市制の明文に依りて、市行政事務を管掌するに至りしより、各市會議員は一氣呵成に市長候補者を選舉し、愈市長が御裁可を得るに至れば、自分等も亦引續き總辭職をなすの決心なりしと傳へらる、形勢既に斯く如くなれば、後藤男が其市會の推薦に依りて、直に自個の進退を決する能はざるは、又決して無理ならず、而も其實情如何に係はらず、市會は市會として、形式だけにて、市長候補者選舉の職能を備へ居るものたる以上は、市會の意志が市民の意志を代表するものなるや否や明かならずとて、表面之を御けんとするの不合理なるや又云ふ迄も無い、要するに後藤男の其去就に苦みつゝあるものが爲めに、避澤男が市政研究會の席上に於て改めて後藤男が市長に推薦するの決議をなさし更に一部の有志者と共に其善後策に就き頻りに苦心しつゝあるもの全く之れが爲めなる可し、東京市に於ける状態既に斯の如し、顧みて我京都市にても市長候補者の選舉は何れにしても行はざる可らざる事となつて居るが、果して今日の市會に於て市長候補者の選舉を行ふ事が出来るかどうかが假りに京都市會が適當の候補者を物色し來つても、其人が果して承諾するや否やは頗る疑問である、京都市會が決して市民の意志を代表するものにあらず、今日の京都市會が市民の間に不評判なる事

は、東京市會が東京市民の意志を代表するものなるや否や疑問にして、東京市會が東京市民の間に不評判なるより、より以上に不評判なる事は明かなれば、此市會に於て選舉せし候補者が後藤男と同様に容易に甘んじて其職に就かざる事は明かである、況んや東京にては市長の辭職に引續き、兩助役、市會議長、各市議會議員等も、責任を負ふて辭任し、市會議員諸氏も後任市長さへ決定すれば、直に總辭職するも咄へ居れるに係はらず、京都にては、市會議長、市議會議員は勿論、各市議會議員も殆んど責任の何ものたるを自覺せず、依然として一日にても其椅子に啗ざり附き日分等の在職中に後任市長候補者を選舉したしと云ふ、其半面には、之に依りて自個の地位權勢を維持し、場合依りては更に進んで、何物かを所得所あらんとするが如き野心勃勃たるもの少からざる事は蔽ふ可らざるの事實である、よ現在市會議員諸氏に斯の如き剛劣の心事なきものとするも、市民の多數は決して今日の市會議員諸氏は決して其心事の公明正大のもののみと信じ居らざる事明かなる以上は、要するに今日の京都市會に於ては到底適當の市長候補者

を選舉する能はざる事は想像し得らる、現在の市會議員は尙ほ來年二月迄其任期がある、然れども其議員が最も重大の任務たる市長候補者すら選舉する能はざる以上は、寧ろ斯く總辭職して、改選後の市會に於て適當の市長候補者を選舉せしむる事とするのが、當然である、夫れとも今日の市會議員諸氏に、市民の信頼に背かず適當の市長候補者を選舉し得るの自信があれば、躊躇する處なく、自個の所信に向つて勇往邁進するがよい、東京市會が豫め十分に後藤男の諒解を得ず、市長候補者に推薦せしは聊か輕忽の嫌なきにあらずるも、而も迅速果斷に自個の任務を遂行せんとせる其心事は推薦せねばならぬ、若し今日の京都市會が例に依りて、因循姑息唯進に遷延して、遂に其任務を遂行する能はず其繼退任するが如き事あらしめば、夫れこそ今日の市會議員諸氏は市民に對して實に市議會なる事となる、吾人は其何れにしても市會議員諸氏が一日も速かに自個の任務を遂行するか、然らざれば斷然直に總辭職して市民に由請するか、兎に角其責任を市民の前に明かにせん事を切望する。

めいれん 年十九月一日

新市長に要望す

何よりも先づ市會の解散

今日の市の根本的廓清は市會の解散の外なし市民の大多數は熱心な市會解散論者たるを知れ

之れ新市長の試金石

後藤男は遂に東京市長就任を承諾し床次内相は意明十八日を以て

御裁可

を得る體定である。然して後藤男は自ら名乗つてゐる如く都市の研究者で現に市長問題が懸がれてゐる間も自らが會長の椅子にある都市研究會をして東京市公民六萬に對し市政の改善すべき陳述に就て往復端書を以て問合せてゐる位でこの問答も二十五日までに男の

手許に

堆まる譯であるが期せずして市長自ら公民に對し市政の改善すべき點を問合せたやうな陳述になつた。併も男は昨十六日より二十日に至るまで市内十五區に亘つて都市研究會々長の資格を以て連夜市政革新の

講演を

開いて歩く譯であるから男は必ずしも市民の眞の要求を察して腹敗せる市政の改造を行ふことであらう従つて二百萬市民は男の陳述を信じて多くを言はずとも茲に尙且つ市政改造の第一歩として男に要求する處のものは市會の解散である。現在の市會は既に三百萬市民の

怨府と

化し、怨府に變つてゐる多くの市會議員は市政の各方面に腐敗、陰謀なる手足を延ばしてゐる。斯の如くでは如何に市長が出現するとも再び失敗を重ねるは火を見るよりも明かである。故にこの醜態を一掃し根本からは等寄生蟲を驅除する必要上市會の解散を決定し自覺し

自分は

同じ市會議員である充分革新はせられると信じてゐる男の眞意は固より此の點片では分らないが解散論者は決して一部ではない市民の殆ど全部だ。市會の解散は既に後藤男の市に對する誠意の試金石と見らるべきものだとし市民なる名望高い紳士は物語つた

産調と上院の空氣

首田の變説改論に非難の聲起る

後藤男の東京市長就任の條件として原首相が産調有大機關の設置を承諾し、大正十年度追加豫算として議會に提出することとなりとの旨は男の聲明せるとなるが其は果して事實なりや若し事實とせば

△首相の變説

改論と稱するも不可ならん今般りは産業調査と謂ふべし殊に男が義に數米大機關そのものに就て觀るも察より歸朝し同機關の設置を適當の餘地十分にあり況んや國政するや原首相は其趣旨は可なるべし其計畫が餘りに膨大且理學的にして頗る實際と隔離するを感ぜしに財政上に考慮して實現の至難を認め遂に徹底に斷し大正十年度の豫算編成に際しても一議だるやも知れざるべしと某貴族院議員は是にあらざるや然るに市員は語れり

背負投げを喰った阿部知事

新市長と舊知なだけ「まあまあ」

立派な市長さんが来るから注文もないね
頼母しいやうな操たいやうな妙な表情して

市は自治體、立入つて口出しせぬ

東京市長の候補者として一時非常
に優勢であつた阿部清氏は、僅に
一時間形勢逆轉し後藤男の爲に
すつかり破れ、之で東京

市長の 脈も到底取れさ

市の力 だけで解決して

うもない事となり、僅に監督官廳
として市長を監視するだけとは相
成つたが、昨日老知事を訪れてこ
んな入込んだ市政に「新市長に命
令になることはありませんか」と
問ふと、老顔に要領を得ない微笑
を湛へて「まあ、まあ」

立派な 市長さんが来た

から注文するともないね」と大き
な聲で顔を押る、聞けば知事は
同僚の誼ばかりでなく新市長は餘
程の知り合らしいので寂しさうだ
が何處か頼母しさうにしてゐる、
あるだらうさアハ、ハ、ハ」と

出かけ て行くやうなこ

後藤男ともあつした仲

謝絶する譯にもね

高級助役に決まつた永田氏談
官吏畑から池田氏と前田氏が

田揃とあつてお産婆役にする

後藤男爵の旋毛曲り始の大芝居で
摺つた揉んだの揚句東京市長も辛
つと危がついた、之れは又女房役
の助役は高級助役から三名共バタ
バタと決まつた、其の助役が光の
警保局長吏曹卿永田秀次郎氏を筆
頭に之れも内務省畑の池田安、前
田多門の兩氏、然も三人が田揃ひ
なのも一寸偶然とは云へ面白い組
合せである、上座助役に決定した
永田秀次郎氏は十七日の
午後維多利亞の自邸で「まだ決定
した譯でもない其の氣分にはなれ
ないよ」と風邪氣味で嘆きながら
「實は後藤男爵とは云ふ仲だ
し、明から何うても助役になれと
言はれ、ばよう勝れないから僕の
自由意思に任せると云ふので、怒
うだ一つ考へて見んか、考へて見
ませうと之れが只今の

内輪を割つ た話さ僕は

田尻市長の書跡

後藤男の直筆
新市長の目録
第一の目録
電氣局であら
う、本館内では
今の儘の土
木課である以
上の局課には
老朽瓦葺以外

無駄な人

それ新市長の眼に映るであらう、次に新市長は田尻市長が書きたる書跡を遺つて置いた始末を如何するか疾の首に行るべくして財源の關係上行働んで居る事業の重なるものすけでもツツの通りである

○土木の部 △小名木川改修 四千万円を要し水道も亦二千万
五百四十万円 △大島川筋改修 圓下水は約四百萬圓の市債を必
改修六十二萬圓 △古川筋改修 要とする其外敷へ立てれば際限
百十五萬圓 △横十間川筋改修 ない何から先きに着手するで
四百五十萬圓 △平久町辨天町 あらう恐らく新市長の派手な性
地先海面改修百五十七萬圓 △ 格からは先づ路面改良を第一に
本所押上より向島須崎町に至 築港三億圓 △淺草金龍山瓦町
船川改修百二十五萬圓 △東京 より三の輪に至る新川開鑿三
築港三億圓 △淺草金龍山瓦町 百十七萬圓 △葬式場火葬場
七十五萬圓 △公設學生寄宿舎 三十萬圓 △公會堂新築五百萬
圓 △市役所新築六百萬圓 △路 面改良費五千八百萬圓
△尙ほ一億 三千萬圓以上ある 加之電車未成線建設費
一億四千七百萬圓中三千萬圓は 本年中に片づけ来年度には別に 所新築問題であらう

原首相床次内相に勧められ 藤男が就任を承諾するまで

男の理想の大調査機關は實現

後藤新平男は十五日夕刊所報の如く十五日午後二時永田町首相官邸に於て原首相と會見を遂げ折柄來訪したる床次内相も亦參加の上市長問題及び之に纏繞する例の國策大調査機關設置問題に就き約一時間半に亘り熟議する所あり床次内相は宮中野所に於ける御例祭參列の爲め十數分にして辭去したるが當日は原首相床次内相孰れも個人の資格を以て男と隔意無き意見の交換を行ひ孰れも男の大理想たる國策大調査機關は政府に於て兎に角之を引受くる事とし充分男の諒解を得又東京市長の諸君問題も原首相並びに床次内相の熱心なる勸告に依り遂に男も決心して其衝に當るべき内意を傳へ正式の決定は東京市會の監衡委員と會見を遂ぐる迄留保されたしこの希望を述べ首相内相共男の意中を察し徒らに之以上を問はず同五時五十分引分れたり(東京電話)

市長就任御裁可

昨夕後藤男に提示

内務省は十六日夜東京市長候補者推薦書を受けしに付十七日小橋次官を加へたる地方局會議を開き左記奏請書を作成したり

從三位勳 後藤 新平
一等男爵

從七位 岩松 兼經
一等男爵

右は東京府東京市長從三位勳一等子爵田尻稻次郎大正九年十一月廿七日辭任に付其の後任候補者として推薦候處從三位勳一等男爵後藤新平最適任と被存候に付御裁可被爲在度別紙市會議長申請書相添右謹で奏す

仍て三邊市町村課長は阪本屬を隨へ同日午後二時首相官邸に至り高橋書記官長を経て原首相に提出し首相は閣議散會後參内之を捧呈せし所直に御裁可ありたるを以て内務大臣は東京府知事を経て東京市に對し左記の通告書を送附し大海原市長職務掌は即時之を市會議長に通ずると同時に後藤男を訪問提示せり

從三位勳 後藤 新平
一等男爵

右東京府東京市長就任の儀御裁可を経たり

大正九年十二月十七日

内務大臣

新市長の手腕

市政刷新の前途

曾我子曰く市長も無き

勝男が出る幕となつたが誰かや

つても東京市長は難物ぢや誰であつたか後藤は破産的の男だからと言つたものがあつたが此の際東京市長には破産的の方が適當だらう何にしても東京市長が完全に勤まれば總理大臣はオオオの子である今や砂利喰問題、瓦斯まで飛火した様であるが市會の巨頭連に私利許り營む者が有つては實際困つたものだ此の際司法大臣は大に法の威力をね徹底さすべきであり後藤男として極力市政刷新の巨腕を揮つて貰ひ度いものである

大本法相曰

後藤男は

今日の東京市長として適任と謂つて宜い男が今日迄受けなかつた理由に就ては種々の批評を受けた様だが勿論相當の事情はあるとしても例の産業調査會の如きも素より必要な事で政府も衷心之を賛してゐるのであるから之に關し原首相の諒解を得たといふ事は當然であらう東京市政は今や粉粒混濁復混濁之が收拾には大なる努力を要する間々最近

新市長評

市會各派の

後藤男は

應よ正式

に市長に就任する旨の承諾をなしたるに對し、市會各派の態度を見るに市友會は後藤男を初めより推薦したる關係上、後藤男受諾まで、一週間の経過し、之れが爲めには桐島、柳澤、坪谷の各交渉委員等の辭職を見兼ねまじき程なれば、同會としては、後藤男の就任を以て市政上に於ける新機運を拓くべしと冀望しつゝあり、而して公和會に於ては、無論後藤男に屬望し居れるも、唯だ世上、公和會に對し醜類呼はり爲す者あれば、後藤男就任後は、必ず此の汚名を雪ぐるゝこと明か也と樂し、大成會は、後藤男が元來、積極主義の人なれば、或は市の消極主義と衝突する勿らんを懼るゝと同時に、政變ある場合、市長職を抛たんことを望み、新正會は後藤男が市長就任まで一種の芝居懸りにて着目せしは、男自身を大ならしめたる如く思惟せんも、事實は寧ろ市會對後藤男若くは市民との間に面白からざる感を抱かしめたりと做せり

醜類呼は

りを爲す

後藤の腕が観物だぞ

観樹將軍が睨んだ新市長振

彼れの外に人が無いと騒いだは少し耻ぢだ

新市長に對し三浦觀樹將軍の御注文といふを罷り出て、何ふ、一種の御句風筋の感を授むところか聴きどころであらう歟。後藤も出たやうだ、重も角市會が全會一致で擧げた人が就任したのは芽出まいことであり又後藤のためにも名譽なことだ、だが後藤が何んな腹で市政に凝むかは知らない、從來の閑庭から見ても決してヘマなこととはすまい、だ

や特に東京市民ばかり自覺ぢやない日本全國民が自覺せねばならぬ、愚う言ふことは疾の昔から言はれてゐることぢやが、年々歳々行はれる種々の選挙でさへも満足には行かない、之も國民の政治に對する自覺がないからぢやが、こんなことは學校の先生が卓子の上で言ふことも、實際の御に當る者が大いに心せねばならぬ、然し自覺自覺と言つても人間の集合してゐる處では事毎に理想通りには行かぬ、何時自覺するか判らない、それで初め市政を改革しやうといふやうな者が市民の自覺を條件とするやうでは頼りないことぢや、自ら進んで

ないといふのは、御外に對してちいつと恥かしくはないか國を恥かしむるものではないか、それは後藤さんの名譽としては結構ぢやが、五大國として一市長に手古摺るやうでは大口も利けまい、何も我々は彼アまでして大膽さをする必要はないと思ふが、之を要するに僕としては人眞似をして世に彼の入より外に東京市長としての人材がないと言ふやうなことは言はぬ云々

改革は市民の自覺といふ事

が條件にされてゐるやうだ、後藤も亦自ら然う言つてゐるやうだ、だが市民ばかりが自覺しても駄目ぢ

積極的に自覺せしむるやう

に努めねばならぬ其からモウ一つ自分として遺憾に思ふのは、假にも五大國の班に列した帝國の首都に此人より外に市長としての人材が

大正九年十一月十九日

はなめがね
鼻眼鏡を光らして

新市長の初登壇

大に市政に努力したいとの
挨拶も道に重味がある

大海原代理と事務の引継も終る

後藤男爵に就する東京市長職は、井上、藤田、平野の三局長を始
市の特別な職務により、昨夜九時過ぎ、各局長等に御面会の
ぎに至り、職務管掌たる大海原内務局長の手に達したので、直に後藤
男に挨拶を報告すると同時に諸般御認可を得て東京市に市長として
の打合せを了し、愈々十八日朝十一時、

正式に

新市長が初登壇
ふ事になった。此の日後、新市長は二四七號の自動車に市廳からお迎へに参上した。十時内務局長、市廳顧問、秘書、同乗し、新市長は市廳顧問へ乗り込んだ。内務局長の案内で、相變らず鼻眼鏡を光らせ、フロック姿を略脱のオーパーに包み珍らしさうに正面の

石段を

上ると、待ち構へた寫眞船が一齊にレンズを向け、大盛で大掃除をした市長室の、新市長を迎へるに適應した暖火が燃えて居たが、新市長は悠々山高帽子とオーパーを令井秘書に渡し、トツカと静り初めて市長の椅子へ腰を掛けた。待つ間、屋なく直に市參事會室へと案内さ

慶賀に

塔のさる所であ
る。今後は府は市と協力して自治の發達に實績を度考へてある。次いで井上電氣局長は市吏員を代表して簡便なる答辭を述べ畢つて、後藤新市長は再び市長室に入り、大海原市長職務管掌との間に事務の引継ぎを了し、市退出し宮中並に各官家への御禮廻りをなした

全市民が新市長に

何を欲し何を求む?

刷新に關する意見を募る

戦後後藤男は東京市の研究である。男は就任に先立つて東京市公民六區に向つて東京市政の改善すべき諸問題を質問した。併し六區の公民は市民の一部であつて必ずしも

二百二十萬市民ではない

そしてかく露瀝しかく紛糾しつゝある東京市政の改むべきものは
(一)軍車問題 (二)道路問題 (三)養民處分 (四)農井處分
(五)上下水道問題 (六)財政困難 (七)東京海運港計畫 (八)
社會政策 (九)電燈問題 (十)吏員充實
等枚舉に盡かない。此の市政を刷新するのは實に二百二十萬市民の余瀝の義務であり責任であらねばならない。市は今や新市長として後藤男を迎へた男の抱負と技術は一に後日の事實に徴する外はないが、今や市民が市政刷新を望み又夫れを達成する好機である事は事實である。此際本社は市民諸君の要求する所を發表する意に

先づ何を新市長に望むべきか

といふ十日間を限る一般投票を募る。夫れは諸君の眞に切實なる要求を聞き新市長の耳に徹底させたい爲である問題の大小は論じない。應所からの問題先づ結構である。條件として
(一)用紙は端書 (二)なるだけ簡明に意見を發表されたい事
(三)宛名は本社市政投票係の事
者を出した關係上、後藤男市長の辭表を提出するだらうと云ふ

新市長の初登壇

市し政せい革かく新しんの爲ためににこ

御挨拶も簡單至極

十八日夜來の雨も霽れやらぬ午前
十一時新市長後藤新平男は出迎に
行つた十時市内記課長、今井前税
書等の先導で例の二百四十七號の
黒塗自動車

のオーパーを被り、藍甲縁の鼻根鏡
を光らせながら上る階段も足踏く

待構へた各社の寫眞前の包圍政變
にマグネシウムの煙爆したる中
を駆け抜けながら被覆で銃撃を凝こ
れた市長室に入つたが椅子にも落
着かず直ぐに之より先き新市長の
御挨拶があると云ふので之に、第
田、平岡三局長を総め各課長等
を召集した市長室に行き、昨日
十七日、勅裁を経て

りましたので今日御挨拶の爲めに
登壇しました……諸君と大いに

胸襟を開いて市政革新の爲めに努
力致したいと考へます……一との
致つて簡單な挨拶をして市長室に
引取つた其處へ昨日後藤男市長は
在の御裁可と同時に市長職務を

を解かれた大海原内務部長が驢付

ける後藤男は椅子をくると運し
ながら、大海原さん引繼は助役が

定まつてからに願ひたいと思ひす

平井理事、窪田社會局長、武藤

總務課長等か押かけて來て一何分

一 方大海原
内務部長は

市參事館に行き、最前より參集し

を述べて一職務管掌を命ぜらるゝ

から僅か十七日ではあつたが、
人の心も所為が罷きたから、今

は府市相協調して自治府清期

たいし」とも簡単な挨拶が出来る

に輝いて居る某局長に「市長が

つたので幾らか気分が違ひませう。

が更つた程には感じませんよ一

笑つてゐたが、氣輕にも新井長十
時内記課長等を案内に兩手を

ボンの

ホクシ



眼鏡の顔を心持しやくくり上げな
 から「ウム、ウム」と何やら黙
 頭きながら各局課の室々を夫れて
 も何處やら喜びに尤たした風情をし
 なから見廻つたが何でも早稲市長
 鑒に全送のははやく日當りを懸け
 と云ふので大に斷つて此處の方
 に向したたゞ一つ廣い庶務課室に懸
 けになると云ふ。新市長は午後
 宮内省に参内をそれより各官署に御
 見廻りをやつた

話は後で

ゆつくり

町役は新聞通り
 で結構この仰せ

十八日午前十一時初登臨をした
 藤新市長は何となくさはつく氣
 の中に市長室で悠然と眼鏡を
 らしながら記者に「今来た評判
 やないか、そんなものはない
 」、また聊りつこないぢやない
 」とつくり相談してからの
 さと狡猾く逃ける「町役は新
 に見てる三人が官い所だらう一
 階に永田秀次郎、池田秀、前田
 門三氏推進決定の意を仄めかし
 町招集に就ては「急いでやるつ
 りだが未だ決定はない」と云
 てゐたが二十二、三、四の三日
 の中に開會する筈で町會事務局
 準備中である

後藤男

内務省は十六日午前五時半東京より市長候補者推薦書を受けしに於て十七日午後二時三十分市村議長は坂本朋を従へ内閣に出頭奏請手續を了したり右申請書に付き内閣は審議の結果原首相より推薦可を奏請し後藤男爵最可を得たれば十七日午後六時半阿部府知事に向つて右の趣を通達し府知事より更に市會に對して通告を爲したり

初登壇の新市長後藤男を市長室に
訪へは御機嫌の體にて

助役の顔觸れ 助役は
た決定したる譯に非ず永田、油
前田の三氏に交渉中なるは事實
るも未だ承諾に接せず若し亦予
り推薦するゝするも市會に於て
して當選するや否やをも考慮せ
るべからず

初登臨したるはかりなれ^に別後
れと云ふ考へなし何れ助役にて

決定した上で徐々計置する所あ
べし

新市長日曜の自邸に

堆き書類を閲す

井上電氣局長辭任など、流説御本人は美事に打消して居る

「絶對拒絶」市長後藤男爵閣下の覆、お役所と違つて自治政治と云
御勉勵は實に目撃ましいもの、お役所と違つて自治政治と云
だ、本日午前同邸を訪問すると玄之助が先に諸君から教はらねば
關先には此邸の訪問客としては相と云ふ仰せに十時さん大に恐縮し
應しからぬ泥靴が二足あたりを履てゐる處へ閣下の第一乾兄たる鑑
らず並んでゐるに不審を起して訊道省の大道さんが自動車でお越し
くと市の内記課の

滅多に首の恐れのない下ツ端役人が

二人、午前八時と云ふに豫算書や諸種の關係書類を山の如く積んで自動車で罷り出たんだとの話、奥の應接間では「絶對拒絶」閣下例の眼鏡を通して日曜にも拘はらずのお精進振りは天晴れの市長とて二人の書記先生恐る／＼應答といふが實に惜しいものだ、全くのしてゐる處へ又しても自動車の名局長である、私は辭表云々とがして十時内記課長が現はれ具に云ふ評判もあるやうだが決して其市政の現状を陳述して「いや或るんな事を考へたこともなく且つ新

井上電氣局長の辭表を連んだのだと

十八番の鐘を鳴らした、日曜を中流谷の邸に留置中の井上電氣局長を訪へば「平岡局長は辭任したとて二人の書記先生恐る／＼應答といふが實に惜しいものだ、全くのしてゐる處へ又しても自動車の名局長である、私は辭表云々とがして十時内記課長が現はれ具に云ふ評判もあるやうだが決して其市政の現状を陳述して「いや或るんな事を考へたこともなく且つ新

市長とは舊の電車關係の舊好意の時から意に於てゐるので決して双方に意見の疎隔と云ふやうな事はない」

後藤市長

事業財源難易各派態度如何

後藤市長は東京市長に就任と共に市内部の改造を行ひて大に市政の刷新を計るべく之と同時に下水道擴張電車改善計畫、路面改善の既定計畫事業の遂行のみに止まらず未だ實行の緒に就かざる築港事業下水改良事業の遂行は勿論進んで新事業を計畫し平素抱懐せる

都市經營

の理想實現に努力すべし而も斯の如きは巨額の事業費を要すべきを以て之が財源は増税に依るか將來公債に依るか問題なれど財界不況の今日二者共に容易の困難に非ざるべきが如し然らば如何なる方途を以て自己の抱負實現を行はんとするが問題

抱負實行

に對し忠實なる支持擁護の任に應るべく公和會は今回の市長問題に對し大成會の一部を糾合して最近迄阿部氏を推せしも遂に市友會の反對に依り再び阿部氏を擁護して後藤男爵に同意したる關係上市友會に對する反感もあり大に男に反對すべき立場にあるも此際大に市民の信用を回復せんとし市會に於ては大體野黨の立場に立ちて市政を嚴正監視し是々非々主義に依り從に反對せんが爲に反對するが如き事を爲さず市政の進捗を以て第一義とし中立的態度を保持するに決定し居り大成會、新正會は何れも十一名の會員を行し

亦一勢力

たるを失はずと雖も一人一黨的色彩に富み男の支持者あり反對者あり又中立的態度を保持するもの等雜然たるも男の抱負實現に對しては何等支障無かるべく加ふるに男一流の政策に依り市會反對分子の拘束に努むべく相當の治績を挙げ得るに至るべき乎とせらる

の抱負實現を行はんとするが問題、問題なれど財界不況の今日二者共に容易の困難に非ざるべきが如し然らば如何なる方途を以て自己の抱負實現を行はんとするが問題、無からん乎に懸られ新事業と財源の關係は市長として相常人なる苦慮を要する所なるべし而して市會各派の態度を見るに數に於て二十五名を擁し市會の綱柁を掌握せる市友會は後藤男爵擁護に其出處に對し努力したる關係上男の

日曜評壇

今團十郎

茅原華山

如何に日本の首都の市料だといへ、あんな騒ぎをして選挙したり、選挙したりするなどは唯だるを得ない、世界自治の歴史を考へて市料の意義に一顧の草履及び元衾(元老)といふものは日本を以ては今の世界にはない、西洋には過去にもあつたか、疑問である。を思はしたといふことは過去にもあつた、將來にあるべき筈がない、唯日本を然りとす

人である、或人が若し、或人から口説かれたなら情死さへ仕舞ねまじき人だといつたのは能く男の情を穿つてゐる、私が曾て長崎の某村から神社の大輿の輦を載されたことがあつた一字の大きさが二、三文字位である、第一に斯る字を五字も書ける、第二に斯る字を五字も書ける、第三に斯る字を書き得る人がない、其處で早速男の許に附けて「日本に閣下ならは到底可能ないことが出来ました、是非に」と持ち帰した處が、男はその何事なるやを言すまでもなく最う断り切れない、夫ならばといふので某處を借り込んで或日男は巨筆を寫し、手に握んで恰も巨筆のノタウチ廻るやうな勢で流瀉落

懸してつた、最初のは出来が、といふので、斯かる大字而も五字一對の大輿の文字を二度も三度も書き直した、これが男は斯るの實物に當つてゐるが、男は斯る後一向平氣で毫も後進した様子を見せなかつた、精力の横溢する驚くべきものがある、今回の市長問題は適確に此れだ、閣下ならは出来ないことだ、最う男は逃げられない、産業調査機關と市長とを引懸けたのは男が國家の政治家たるを其本色とする所以である、市長と斯るをキツかけに産業調査機關を振盪したのは芝居といへば芝居である、首相や元老までも引張り出して見れば、男の政治生活に於て他日の餘地を存

じたことに當ると共に一代の人氣を一身に集めた點は今團十郎だといつても不可はあるまいが、要するに男は舞臺を演つた歌舞伎舞臺を演つたに過ぎない、男は是れから市長として二百萬の市民相手に社會劇を演らねばならない、御手並見といつておく、助役三人を盡く官吏より抜くは男の爲めに取らぬ所である、これでは自治體が全然官衙所化し官衙化する、三人共舞臺で演じてあるかも知れないが、官吏ばかりしたものには人間を演ずることが出来ない、此點は男が再考せねばならぬ所ではあるまいか

憲政會の八方塞り

全く手も足も出ない
藤男市役所入の打撃

憲政會が如何にもして政權に近づかんとして焦慮しつゝあるは天下周知のことであるが、總選挙に依つて大の打撃を受けて以來、議員の意氣頓に沮喪せると共に加藤の威嚇は會員を服するに足らず、同會の領袖にして亦唯一の調停たる尾崎行雄氏の如きは總裁に頗る懐疑たるものあり、憲政會に取りては眞に窮乏であつた特別議會に於ては終つて沈黙を守り一言も發せなかつた様な奇現象を呈し遺憾なく

黨内の混亂

暴露するに至つた而して江木義、下岡忠治氏の献策に依つて企てられた他力本願主義即ち議院にては到底政友會に對抗し得ざるが爲め貴族院の力を利用して其の所志を達せんと試みた計畫も、乗せんとし拜み倒さんとした貴族院議員の方で憲政會の附甲斐無きに愛憎を盡かし、戦慄の舉に出でないのみか一部人士の矯激なる議論に對しては、之れに反對せんが爲めの反對なりとの反感さへ誘致し、憲政會一派の運動は貴族院方面に於て寧ろ現内閣に有利なる空氣を醸成したる結果を招いた而して現内閣に對し憲政會の終する非難攻撃は相も變らざる抽象論であつて

何等對策を

提げて
是亦會員の意氣を沈せしめたに違ひ無い之を要するに憲政會は今や手も足も出ぬ窮境に沈淪してゐるのである

第二流所が

く政務調査會に没頭するのみで唯一の在野黨たる憲政會の振はざることを嘆しい特に今次後藤新平男が東京市長に就任したのは憲政會に於ける一打撃で同會には今尚ほ加藤子、後藤男を結び付けて以て政友會に對抗せんと志みてゐるものも餘らなかつたのであるから
十八日初登壇をしてチョツミ小氏、前田多門氏なんぞ自動車手調べをした新市長後藤新平で新宿に宏大な庭園をもつ落野んは廿日から馬力をかけて大に邸へ赴き鴨獵をして幾度もなく手腕の程を見せるのも先づ浩然鼻眼鏡を落す程に豪傑笑ひをし
の氣を養つてから最初の公休でゐた十一時半頃自分の邸へ引日の十九日は午前九時内田嘉吉現けた

最初の公休日の新市長

◇鴨獵をして骨休め

新市長を取巻いて

お辭儀攻め

何分宜敷と簡單な就任挨拶

後藤男本月初の登壇

寒雨そよ降る十八日午前十一時
新市長後藤男爵の初登壇で市役
所内は早朝から上を下への大混
雑此處許りは最早お正月気分
大變な賑ひを見せる定刻市長を
運ぶ二百四十七號の

自働車 が雨を衝いて威

勢よく正面玄関へ乗りつけると
今井前秘書の案内で山高帽にフ
ロック姿の新市長が微笑を含ん
で石段に差しかゝる待々僊んで
居た寫眞班の一齊射撃に遭つて
渾められた市長室に納まる大卓
子には市廳舎の圖面と市の出版
にかゝる参考品が山と運ばれて
給仕の持つて来る

澁茶に 咽喉を濕して

間に市參事局長議長等長等を引
見すべく就任挨拶の式場に充て
られた參事會室へ入つた新市長

は徐に「今回市長に就任しま
した何分とも宜しくお願ひしま
す市の仕事に就ては段々と悠り
承はり度い」と簡單な挨拶并
上電氣局長が代表して「閣下
は今回市民の切なる

希望を 容れて御就任を

御承諾下されまして誠に有難い
仕合であります諸般の事務は市
長の計畫方針に基き各自分を守
つて遂行致し度い宜しく御指導
を」と答辭を述べる次いで
大海原市長代理から「期間は短
い乍ら測らずも東京市の事務を
學習して大に裨益しました」と
挨拶し夫から

市長室 は一頻り市吏員

の見参でお辭儀攻めの有様記者が
「市民は名市長を戴い非常なる

歡喜と満足とを閣下に捧けて居
ると同時に閣下の抱負を承る
事に於て熱望して居ます」と置
れば市長は「マア今からさう云
つて呉れるな暫く待つて呉れ」
と破顔一笑される記者「助役は
噂の高い永田、池田、前田氏等
御内定 であると云ふこ
とですが……」るか「交渉中だ
が承諾して呉れ市長じらう」と
なり市廳舎を一週し一時過ぎ就
任お禮の爲め宮内省や各皇族を
應訪すべく退廳した

乘次
取期
魂內
瞻閣

大都會の模範とならねばならぬ東京市が實は多年の困難にからまれて飢餓が絶えないのは帝都の爲めに犠牲とするところであるが、現下のやうな窮乏した市會では誰か出てでもよくゆけるものでないから市長にも随分後援の當惑は上出来たと評せられて居た

の實現を希望して居る。して見れば此の重大なる一關の創設に就して全力を注ぐの必要があるから繁忙な市長の椅子につくことは出来ぬ。けれども外にあつて及ばずながら東京市政の爲めには努力する機りであるといふのだ。

三

後藤男が東京市長を辭する言葉は正に此に述べた通りである。けれども之を以て男の眞意と見るべきであらうか。吾人は必ずしも然りと信ぜぬ。男が全會一致を以て市長に推されたのは府の最も名譽とし得意とするところであらう。彼の原田氏の下から市長選舉の成行きを眺めつゝ阿部府知事にてもお鉢か廻つたから全く以て不面目だと考へて吾々に相違ない。といふのは選舉の前夜には彼れの課トを一人ならず二人まで張番をさして居たといふではないか。これほどまで或廳のパニテイに働いて居た男が當選したのであるから別に就任しなくとも大いに男振りを上げた次第である。否、こゝなつては就任しない方が相恰だと考へたであらう。

四

後藤男が説くところの産業機關とは一體如何なる内容をもつたものであらうか。いふところは後藤式で目先が變つて居るけれども吾人から見れば斯る機關の新設は不必

要かと伺する。若し調査すべきものがあらば政府自ら之に當ればよいではないか。もつと總理に言へば、總務省が必要なる經費を増加して調査に當ればよいではないか。政府に於ても、數千萬圓若しくは百萬圓の巨費を投じて迄後藤の機嫌を取る必要はあるまいし又機嫌を取る必要があつても無い物は振られぬ筈だ。然らば閣議の時に此つて以來選延今日に至つたのは全くこれが爲めである。後藤男がこれしきのことに考へつかぬ筈はない。然るにも前らず白々しくも之を口實として東京市会を露するのは他に眞意があると見ねばならぬそれは次の内閣乗取りの夢だ。原總理は必し男出男等の前内閣系の官僚階級にはあらゆる手段を講じて居る。男出を憲政黨に据ゑ、後藤男を外務調査委員に列せしめて自家の地位を出来るだけ永く維持しようとするのは世に世に當るの事實である。とは言へ内閣の壽命も先きが見えてゐる。原總理と雖もモリ森目だといふと十分承知しつてゐる。寧ろは自分の之を誰にやらせるかといふことは、兵今内閣の頭を狙つてゐる問題である。大抵一つ明確なのは何としても反總務の加藤子に城明け渡しをせよと云ふことだ。斯く考へて見れば、世間で何と言はうが、原の退歩を來さうが鬼角百原との間に隔隙なる政治の

授受を行ひ他日重て朝に立たう
 といふ腹に決まつて居る。後藤男
 は於て此の間の消息を以て傳心
 に讀んで居る。これあるがために
 彼は容易に市長の椅子に着かぬの
 だ。原總理は全後藤男の夢のやう
 な考へが實現するものとは思へぬ
 けれども又た誤なことがあつては
 ならぬけれども偶々市長問題によ
 つて後藤男の野望が一瞥露骨にな
 つたやうに考へられるのは滑稽で
 ある。

市長の椅子に
着くが早い
か

道路局長の辭任
舊組織一角崩る

十八日午後藤新市長が愈よ市長の椅子に就き早いか後藤男の聲明より大斧鐵を加ふべしとの取沙汰喧しき折柄同男の就任を敷はざる道路局長平岡定太郎氏は同日突如として新市長の手許迄辭表を提出した同氏をよく知る者の談に依るに今回同氏の辭表提出は例の砂利問題とは全然無關係で全く豪傑肌が新市長の丈に相容れまいことを察知し自發的に決心した結果に外ならぬ、同局長今回の舉は延て電氣局其他に及ぼすべく市役所の空氣は彌が上に動搖するであら

●東京電電話

新市長が簡短な挨拶

大に市の爲に働きませうと莞爾

後藤男が今日の初登廳

昨日、田代可を行つて、東京市長に就任した。田代可は、東京市長に就任した。田代可は、東京市長に就任した。

◇例の溫顔に

微笑を湛へ◇

◇改めて御目

見得を爲る◇

◇小砂利を嚙

んで大玄關◇

◇而も挨拶や

極たぎめて簡短かんたん◇

先づ斷立てるは、十時内記課長、
井館市長秘書の兩氏にして此兩氏
は靴中屋案内の役目を承はつて
今朝廣布腰出町なる男勝郎に赴け
るなりき、やがて男に鼓隨に現れ
ぬ、黒の山高帽にスロツクコート
上に黒色の外套を纏ひ洋杖（洋傘
？）を携へ、

◇職に在る事

僅に十七日◇

新市長が持込まれる

糞尿汲取の市營

警視廳で實情調査の結果

此外に方法なしと決した

を、清潔に片付け、府知事から後藤新市長に
 其の汲取を市「市營實行」を促す運びになつた。

迫るのである
 うてある、警視廳福永衛生部
 警察さんにも

就任早々に不潔事

生部が汲取業者の毒であるが、市民が苦しんで、市がそれ以上だから先づ市

東京府が聯合活上の緊要問題として東京市

此の意見を稟申し所を掃除して貰ひたい」と歸る

藤男の志、天下に在り

後藤男拒絶の眞意 問題脱線の一事由

○後藤男は断乎として東京市長の交際を拒絶した、即ち市會の一部に世上消息子が「後藤男は既に内情を與へて居る」と解釋した事が全然間違ひであり、而して市友會の柳澤時、坪谷君等が清水の陣を以て

後藤男を強要

せんとしたものであると云ふ事柄が益々明白に成つて來た、最う何人も争へぬ
○實は本報の記者は七日夜後藤男が市長に選舉せられし事を承知した時から予備いた、市友會の委員が清水一喝張りの策略を以て各派を割めたものは未だ知らぬ時であるから

或は内交渉の

結果後藤男が斷じて無いと云ふ意志表示をしたからでは無からうかと疑ひ且つ感うた
○記者の親近せる先輩は後藤男と相対する人々である、従つて後藤男に對する事は直接間接に知る處がなく無い、數日前後藤男の市長に當選した時に記者の先輩は「後藤男の志は天下に在る、其の志成らんとし、其接近に在る時何て市長などの岐路に入るも

浮氣者に見過

のか世間は餘りに後藤と云ふ人を「浮氣者」と切言した、記者も無然然と無くては時々は事と信じた其れが突如満場一致の市長選舉と來たから、記者も聊か惑ひ無きを得なかつた
○八日午前十時、記者は長島隆二君に會した、長島君は後藤男の眞意を推知し得る立場に在る人である、長島君曰く「後藤男は断じて出ません、自分の事ではないのに、定するの失態な事かも知れませんが、決して出つて有りません、後藤男は政治家です、田尻さんと違ひます、東京市政の腐敗も大切かも知れんが

國家の問題は

更に大切で、後藤男の期するものは大きなものです、今朝後藤男にも會ひましたが一向問題にして居ない様です」と明白な説明である
○座に長島君の同志某代議士在り曰く「二百萬市民の推挙も重大だが、後藤男の使命は實に十六億の民衆に係はつて居る、即ち帝國をして

五大國の盟主

たらしめ十六億の世界民衆を導くするのが後藤男畢生の事業で無くてはならぬ、志、天下に在りとせば此處まで行かねば成らぬ、區々二百萬市民に拘束されては成らぬ」と氣迫り難きものある
○既にして午後四時、後藤男拒絶の確報に接して記者は之れ有る哉と思つた、後藤男

拒絶の眞意が

長島君並に某代議士の言説を出て事は云ふ迄も無い、記者は長島君其の他の先達の政治的識見觀察の卓越せるに對して今更ながら敬服せざるを得なかつた
○後藤男閣下記者官長を以て自任して居る永田秀次郎君が八日朝「斯うなれば後藤男も出るを得まい」と語つたと云ふが如きは永田君として餘りに後藤男を知ら無き過る話である

後藤男の幕僚

たる永田君などが斯んな間違つた觀察をしたり、或は後藤男市長たらば入りて市の要部に就かん事を望んだりする者が有るから問題が異常な處へ飛んで行くのである、蓋し問題脱線の一事由である

新市長の後藤男

各區に一箇所宛晝夜兼行で 市政革新の演説會開會計畫

○後藤男があつた東京市長の候補者に推挙する事が東京市會で決定したが當の後藤男は選定から都市研究會の會長として都市に於ける都市計畫と行政の刷新のため前に其の志を述べて居た男は、選定したる東京市の腐敗の徹底を刷新するから其の抱負を實現せんとて、去る三日都市研究會の理事を招き、府方針の運動協議に關し、後藤男を請じてゐたが市長になるもな

天下が取りたいか

後藤さん市長は御免だと

俺には産業大調査會の仕事がある市民の希望はさる事ながら此際どうも御受けが出来ない

果して眞に然る乎

市會が議決一致で推薦し、御本人も快く承諾すると思ひきや昨日に参り後藤男は市會代表の御澤桐島谷近藤氏等の

交渉に

對してすげなく拒絶した「市會の諸君には充分敬意を表するが、私には爲すべき仕事があるから遺憾ながら市長は御断りする」と云ふのである市會の面々は面喰つて了ふ、當り實正なる桐島氏等は一身を賭して是か非でも懇請承諾を求むと云つて居る、此の始末がどうなるかはまた全然豫報し難いが、最初

後藤男

に市長たるの下心のあつたのは事實らしく加藤氏等もそこを見込んで推薦した處、後藤男を擁いて政治上の舞臺に一狂書かうとした策士連は肝腎の本筋を市長に祭られては玉なしにな

不承諾

を發表したので折こそかり云ふ始末になつたものらしいと某消息通は談つて居る、しかし又一方には此の拒絶は後藤さんの所謂化粧立て氏の腹はとくに定つてゐるのだがそこには種々な情實もあり子分の

操縦上

の苦心も疑義もあり、先づかう云つて置いて充分市會に泣きを入れさせそれから市にやつこと出馬する筋書になつてゐるのだと、或はやくに傳へる者もある合理を超越し權術數本位で運轉から駒が出たり嘘から誠が出たり誠心誠意の真心からとんでもない大與多が出るのが現代の政治家 性質だから、か

三菱家庭事務所の一室で

桐島加藤近藤密議

後藤男に再交渉か或は更に新候補者の物色か、或は又……

——俵孫一氏會見ハテナ——

折角三派が協定して推薦せし市長となりて親友の佐々木慎思郎君は後藤男が首を横に振切つたとならぬ諸記者の一人として空しく其の前に懸けなければならぬ、夫れは市民の大事よりも

市會議員

の大事である、是が爲めに推薦委員として一任されたる御澤、坪谷、桐島三氏は昨夜更なるまで電話を通して書策してあつたが、桐島氏は今朝早起して活動を開始し加藤正義、近藤康平の兩氏と會して午後後藤男に再考を求むる協議をなしたる處へ市長

候補者の

一人として成通に呼應の有りし俵孫一君の來訪を受けたるより之を避へて秘密家に閉ぢ籠り、午餐を共にして尚も疑念に耽つたが、是が爲め本女は絶対に

來訪者を

謝絶する事

大正九年十二月二十一日

後藤男の爲に

仲小路廉氏談

○後藤さんの市長就任に就ては一期には非常に遺憾にも感じ亦他面には極めて同情もしてゐるが爲に予は後藤さんの間に何等かの距離を來したかのやうに昨今頻りに取沙汰せられてゐるのは甚だ迷惑の極で私交上には以前に何等の變化もない

○初め此問題が起つた時實は自分にも關係した事であるから予は可成自分の意見をいふ事を差控へてゐた大抵此問題の起つて以來後藤さんと會つたのは十一日の都市研究會の集會で會つたのが初めてである實は此集會を開く事もあるの事であるから後藤さんの爲に如何かと思つたが然し後藤さんの開會の趣旨といふものは誠に立派なもので東京市今日の百弊を一掃せんとするに在りと言はれた大抵でも東京市の弊害は單に東京市のみの弊害ではない現に市民が自覺し覺醒せんさしつゝあるに若し之に對して他の方面から或は脅迫或は誘拐するやうな魔手が施ひかゝつて來るなら先づ之を退治するのが第一の要件ではないか更に此脅迫誘拐が單に東京市のみになく全國の各市町村に亘りて之を脅取せしめてゐるのが實際で東京市今日の事は單に其精華の凝り固まりが軀物となつて出たに過ぎないならば先づ其根本に通りて廓清せねばならぬではないかと述べ

たらなく其通りた同意された其結果予もあの運動に賛成して共に御力を致さうと誓つた譯である

○處が其後に至つて局面の發展が頗る不思議になつて來た蓋澤子の奔走原首相の斡旋之はまるで官吏の任命でもやる手續である自治體の形勢は自治體自體の自覺に依る自治體の自覺は要するに官府の力に依らず市民自ら自己の力に依頼する事つまり昔の町人が武士に對して自己の本領を發揮した町人氣質の發揮である然るに思はぬ處から財閥の代表者が飛び出し更に之を政府の首腦者を持つて行つて其盡力を盡むなさいと云ふ事は二三十年以前の時代なら知らず誠に不思議な事になつて來たものたさ心私かに思つてゐた

○處が越えて十五日になつて後藤さんが原首相と會見したと云ふ事が知れたのみならず其後後藤さんの處から電話があつて後藤さん自身電話に出て「實は今日原君に會つたとして東京市長の方は就任する事に極めた」といふお話であつた大抵で自分は「大抵は誠に遺憾の事に在ります」と答へたが然し更に「其意味は御一身の上から考へて遺憾に存する次第であります」と附加して置いた實際予は東京市今日の弊害は其根本國政に在り信するので先づ此點から廓清を圖らねばならぬと信じてゐる此點は後藤男も必ず同意してゐられると信じてゐたので都市研究會の

運動も其目的を此處に置かれるもの信じてゐたし且又若し後藤男が愈市長に就任せられて鐵腕節を斷つての手腕を顯はるゝ決心ならは市會が満場一致で決議して其就任を交迎した八日に快諾せらるべきである信じてゐたのである

然るに其事がなかつて自治體の體面を墜すやうな種々の仲介的運動があつた後に出席せられるといふ事は東京市政の廓清其物を目的すべき今回の就任の第一歩としては極めて不條理であると思つたからである

○以上の理由で予は後藤男の就任決定に對して遺憾の意を表したのであるが其後亦同一の趣意を以て麹町及び千代田の都市研究會の講演に參加すべき約束も取消した大抵は既に以上の如く意見が異なる結果或は其席上で却つて男に氣を及ぼすやうな言説があつてはお氣の毒だと思ふが付いたからである

○予は斯くの如く後藤男の市長としてのスタートについては誠に遺憾に思ふ特に最近男の就任條件であるといはれた産業調査機關の設置に就て政府側から滿るゝ諒明を聞くに至つて其感が一層深められる然し就任の形式に就ては斯くの如く遺憾だと思ふが男今回の出席に依つて東京市が極めて有力なる市長を得た事は東京市の爲に最も喜ぶ所である男のやうな大器にして初めてよく職務を充てし得べく亦よく漸進せる諸般の事業を成功

せしめ得る唯此際我々の切に希望する處は既に一日市長に就任された以上は男が何處迄も市政の爲に其貢獻を續けて行かれるのである

一時の腰折せられる事は我々男の友人として堪へない四年の任期は愚か二期も三期も暫く留まり萬一市會が選舉しなくなつたにしても何日市政上の空野黨として市政其務に貢獻する覺悟を持たねばならぬ之が男としては唯一の成功の途であり我々男の友人として是非其此方針に出でられん事を希望する所である

○若し夫今後に於ける予の立場に就ては更に一層微力を國政の上に致す事に努力すべきのみである公が近き至内伯が逝き今亦後藤男が市政に没頭されるのは私前に於ては極めて淋しいされども貴族院議員の端くれである以上予の側々べき分相應の天地はある政權の地位に立たねば國政に貢獻する事が出来ぬといふが如きは何百年か昔の語である今日では野に在りても充分其力を盡す事が出来る否在野の貢獻が却て在朝の貢獻に勝る事も出来る予は此信念を固執して奮進努力する覺悟である

田中氏の不意打に

後藤さんがタヂ／＼

醜類に選ばれて何故出たか

一波瀾巻いた昨夜の講演會

市研究會主催の市政刷新講演會の男が来たその頃には千五百も居た講演會は廿日午後六時半から本所禮堂は大半満つた後藤男が激戦に江東小學校で催された渡邊鐵蔵博士上らんとした時本所區會議員田中士の開會の辭に始まり何の支障も一良氏は男を呼止め選舉された時なく建部博士田川氏の順に進んで行つたが肝腎の

▲後藤新市長は淺草の千の質問を發したので田中を激れの東小學校や小島小學校深川等に講引込めのお湯場總立となり今にも演の掛持なので九時になつても来ぬり合が始まりさうであつたが外ない渡邊博士が研究會の組織杯をのほ散漫の始末で事なきを得同十話して居たが九時四十五分に後藤時十分を終了した

年俸二萬五千圓

後藤市長を日本一の俸給取にするこの話

大阪市長よりも五千圓多い

後藤新市長の年俸に就ては廿日の市參事會では別に問題と迄はならなかつたが大部分の意見なるものを聞くと名古屋、福岡が二萬圓、

◆神戸京都が二萬圓、大阪が二萬圓である然るに東京では前市長の田尻子の一萬五千圓であつた、當時でも首都たる東京が大阪より少いと云ふ

藤男承諾事情

一産業調査問題にならず一後藤男が、東京市長就任の交換條件として、産業調査會の設置を、原首相に約束せしめたりと唱ふるに對し、内閣側は、絶対にざる事無しと否認しつゝあるは朝野所報の如し、之に關し消息通の言ふ所を聞くに、原首相は當初後藤男の許に便を減し「貴下が東京市長就任を躊躇せらるゝは、貴下の計畫中なる産業調査局設置を心配せらるゝ爲めなりや」と問はしめたるに、藤男は此の意外の質問を受け倉皇首相を訪ひ、遂に無條件にて市長就任承諾を言明せるものにて此間、産業調査會の事など頭て問題にならざる次第也と云へり

三助役選舉の後

大淘汰實現か

官僚助役排斥の氣勢が

早くも市會に漲る

新東京市長後藤男の就任と共に會に於て三助役の選舉を執行し先づ辭職の運命は免れざるべし報道した平岡道路局長は豫期の如く

△先手を打つて辭表を提出したが右は内記課に保留し男爵は平岡氏に懇談する迄になつて居る残り井上電氣、窪田社會局長の如きは平岡氏が平の高級吏員たるに反し市參事の要職に在るので其去就も亦從つて

△輕率に決する能はざる事情はあるが早晩辭職せざるべからざる事は明白なる事實である而して男爵が部員史僚の大淘汰を執行するは廿二日開會の市

△市會の空氣は今や男爵の推薦せんとする永田池田前田三氏共内務省出の官僚のばりばりて絕對秘密主義の總本家なるがやがて市政を官僚化し去るべしと早くも反對の氣勢高潮しつゝあるが多分前記三名の就任を見るであらう是等の空氣を感得したる桐島市會議長は廿日市會議員一同を銀行俱樂部に招待し男爵の態度に對しては、強め

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

汰を執行するは廿二日開會の市

○後藤新市長の

机上に山をなす

六萬人の回答

腐敗せる市政に對する

る市民の痛烈な叫び

來月十五日から各區で發表

都市

研究會が、去る十六

整理

に忙殺されてゐる、

日夜から開始した東京第十五區選
區の大講義會は、廿日を以て終了
した。後藤男や内田嘉吉副市長を
初め、同會役員其他講義者の熱心
な努力によつて、何れの會場も聴
衆が満員だつたといふ。別に後藤
市長が全市の有識者の意見を叩い
た六萬の往復郵便は、現在の
腐敗せる東京市政に飽き
飽きしてゐた全市民が待つてまし
たとばかりに寄せた解答が、既に
机上に山を爲してゐる。今更の如く
市政の腐敗を痛感して長々と封書
で後藤新市長に奉るの書を送つ
て來た向きも數十人あり、同會で
は、廿一日朝からその

上や同會の關係雜誌「都市公論」二
月號でも發表する手筈だといふ。
後藤男自ら全市民の意見を聴い
て市長の椅子に就まつた以上、全
市民の要求する市政の解、階級
腐敗の二事は斷行する勇氣ありや
否やは見物である

○産業大調査は

愈よ政府の手で

引受けるらしく引續

いて農工調査も實施

後藤男

が全力を傾注し

て當局に建議した産業大調査會も
男が東京市長の椅子に着くと共に
愈よ政府が之れを引き受けた形と
なり、國勢院の大事業たる人口調
査も、全く成功裡に終了したので
當局に於ては更に此の産業調査、
大ては農工調査と引き續きはるゝ
意向らしく、目下夫々

協賛中
だといふ。尙府縣會
議や町村會議員の定員は、從來
勅定の戸口統計局の現住人口調査
を五年毎によつて定められたが、
國勢院設置と同時に廢止となつた
ので、今は同院調査即ち調査局
の十年毎のを、五年に改正して施
行すべく、其第一回が今四

發表の
である、之れを

一名を
増加し、其他和
歌山、宮城の各縣に於ては町村會
議員の増加が行はれる筈だといふ

四萬次は廣島、新潟の二名宛、愛
媛、秋田、熊本、徳島、富山、埼玉の
各一名宛の縣會議員が減ぜらるゝ
譯である。同時に町村會議員の大
變動もあり、選挙の道り直しをす
る所も少なく、之れに反して福
岡は縣會議員

都市研究會の質問に

回答何れも不眞面目

まだまだ市民は自覺せず

某上院議員憤慨す

六方に 對し市政革新に

新市長の後継新平男が都市研究會の會長の資格を以て市の公民

冷評し たり、或は突拍

子もない事を書いてたりしたものが多い結果に於ては先づ失敗に歸した形であると云ふ、之れに就て

先覺者 が市民の自覺を

叫ぶのは誠に緊急の事である、併し市民に内面的に目覺めよと叫ぶとも外面的に自治の進歩を妨害し

學校を 建てよやるから

左向けと云ふ外部的の力があるから困々、市民が不眞面目なる答を返すも、この外部的の力を頼る事が今尚多く眼前の利害のみに動

公民の 自覺を促し、根

を改めねば到底市の革新は計れぬと嘆じてゐた

新市長の抱負

丁度破産した家の跡始末に來た様だ

後継新市長の巨腕果して先づ何れの金を市役所に取りに來ても其の方面に向ひ如何の治績を現し來金が拂へない云ふ様な事實さへあるかてふ二百萬市民の環視と輿望存つて何れも全く無責任なことをこの中を黙々として登壇する新平男を市長室に訪ひ抱負を叩けば「自分が市長に爲る前から聞いて居就任後未だ日も淺く何から手を附たのだが吏員に聞いて見たら事實けるか云つた様な事は考へて居だ云つて居たよ」と全く驚いた

通じて居ないから勝手も解らず第一助役なことも未だ出來ないで自分の内閣が出來上つて居ないのだからね……市政刷新の方針かね？それとも内閣が出來た上で具體的に定まる譯さ……荒爾として言葉を切り一段と聲を低めて「何しろ丁度破産した家の跡へ來た云つた様な風で難しいものさ、現に明治神宮御造營の當時食つた辨當や料理

新市長に希望

市民たる立場より——掲載者順

大養 毅

希望しても出来ぬ事は矢張
出来ぬ、希望せざるも出来ぬ
事は出来ぬ、後藤男と定めて
何か考へて居るならん、姑く見
て居たし

龍野周一郎

市政根本的大革新。東京
築港の完成。

横山勝太郎

即時東京市會を解散すべし
市會は市民の信用の上に立つべ
きは勿論なるに今の東京市民の
最大多数は決して市會を信用し
て居らぬ、是れ不肖解論を提
唱する所以に御座候、區々たる
行政上の問題は抑も末である、
市政刷新の第一義は解散あるの
み、後藤市長之を斷行する能は
ずんば吾人は絶望するものに御
座候、勿々

山脇 玄

市長に對する希望は積んで
山の如にあるが、一時に要求し

たと同時に仕遂けられるもの
でない、市道路の現状は何うで
あるか、降れば泥田、霽れば河
原、帝都の不面目不潔はより
甚だしきは無い、市民たる吾人
第一の希望としては一も道路、
二も道路、三も道路の新道を
出さざるを得ない、先づ宮城を
中心として平坦な中央だけ完成
すれば宜い、全市完成の費用は
市民の堪ふる所でない、それ迄
白鶴市の運轉が停止せねば他と
調和せぬ許りでなく、泥田にビ
ツを垂れて走るなど吾人の眼に
も奇異に感ずる如に外人が見た
なら苦笑せずには居られまい

尾中 勝也

市役所要所々々の吏員を改
造する事、續いて各區役所も區
長係官等の改造を必要とす、特
別市制の實施を肝要とす、諸問
機關と執行機關の混同を避け殊
に参事會の干渉を除く事

佐々木安五郎

何より先づ後藤新市長に對

する希望の先決問題
(一)市民は大多數の醜類より
成立せりと目されつゝある現
市會を信任するや否や(二)市
民の現市會より推舉された
市長自身に對する信任如何
(三)市會解散の是非
右三ヶ條一般投票の意味に於て
市長は全市の世帯主に向つて往
復、ガキに問ふこととて

後藤男の問ひ合せに對する

自治振興の回答

來月十五日迄に發表

都府縣議會にては去る十五日後藤
男の名宛にて東京市の公民館所有
者六万五千に向つて自治振興、新
新に關し(一)市民は從來自治の
として其の本分を盡し自治的協力
(假へば議員の選挙、町内會を
遂ぐる上に於いて遺憾を感ぜられ
る點ありや(二)若し遺憾の點あり
とせば之を改むるには如何にせば
宜敷や(三)現行市制の運用上遺憾
と認めらるゝ點ありや現行制度を
改むる必要ありとせば其の要目如
何の三ヶ條を記して往復書にして
郵達し回答期を廿五日限りとして
あるが其の回答の要旨は區々であ
る現在では其の返答が約二千五百
葉集まつて居り中には手紙で文に
て發表する計である

後藤男市長受諾

海澤爺を心配させ原首相まで
煩してやつと立つた色男後藤

藤男起たん

首相の觀説

市長を受諾す

十五日午後原首相は後藤男を招き首相と會見の結果後藤男は昨
日午後市長たることを諾せり
べき等なるが其結果後藤男は多(東京電報)

後藤男、東京市長就任問題に餘蘊委員等が原首相に泣き付い
て焦點は原さんに集まつて來た、併し原さんは十四日には何
等の返答もなく十五日中には否の返答を爲すと言ふが此
處に注目すべきは昨朝藤山、重太郎、四郎、國氏が通所五番町
の新橋山莊に山縣公を訪れて今回の市政紛糾に依り後藤男が
市長に就任しなければ市政は暗黒になることを述べ公の助力
を求めた處が同公は深く憂慮して直に後藤男の許に是非藤
男の就任に盡力する様にと使者を派したと傳へられ市長問題
は首相、元老等の愈々動くところとなつて宛然、開組織の時の
如き紛糾を來して居る今日の原首相は濫手には對する返答に依
つて後藤男の去就は如何なる事か分らなくなつて來た(東京電
報)

國調の數字に依れば 府縣會議員は再選舉

國勢調査は五年目に一度宛

後藤男が産經調查會を設けて産業
調査を行ふ等であつたが東京市長
を五年毎に改正施行する事にな
つたに爲此方は政府が受け
る事となり國勢院で事務を執る
て可續き産業調査をもする等にな
つた、一方今世の
國勢調査の結果が判る
と從來種々の調査に誤謬があつた
事も判つて來た先づ人口の増減の
結果府縣會議員、市會議員の定員
數に影響を及ぼす様になつた、元
來府、市、町、村會議員の定員數は動
の内に統計局が現住人口を五年毎
に調査した結果定められたが此度
國勢院が設けられたので統計局
は廢止されると同時に國勢調査
局の
調査に依る
より外に
も異動があると云ふ結果になる

縣會議員を減するに至
ると同時に和歌山、宮城の二縣に
熊本、徳島、富山、埼玉の各縣の
新選の二縣が二名宛、愛媛、秋田、
減少したので府會議員四名、廣島
て同府は今回の調査で人口が卅万
すれば最も影響を受けるのは大阪
するや否は疑問である採用すると
果して各地方で國調の數字を採用
行はねばならぬ所が少くないが、

蠻爵市長に舐め

られた参事會

三助役の俸給四萬五千圓を要求し
否なら一弗役人だとの託宣
値切り値切つて三萬七千圓

和製ルーズ後藤藩閥下を大東京の市長に迎へた苦二百萬市民はお蔭で年俸として市長自らの

御手盛にな　る二萬五千圓と云ふ日本一の月給をも黙つて渡さなければならなかつたが此の

手前ある市長の下に來つた永田池田前田の三助役も道が親分に劣らず猛者揃ひであるが此三助役の年俸が復問題となつて之が爲に臨時市参事會を開く事二回漸く廿七日の参事會で決定したが夫れは驚く勿れ三人分三萬七千圓として

其割振りは　市長御自身

が決定すると云ふのであるこんな事は既に前例がない許りか斯く決定する迄の経緯を聞くと市民は二度吃驚せざるを得ぬであらう

最知の市参事會としては高級助役の永田氏に一萬圓乃至一萬二千圓次郎池田氏に八千圓乃至一萬圓三郎前田氏に六千圓乃至八千圓位にする意圖であつたが市長閣下は三人分四萬五千圓一人に一万五千圓宛出してくれ一との話であつた

何うせ市の

たのて其席上二三氏が「前田氏はまだ若くもあるし」等と婉曲に言葉を唱へたが市長は「君方はナレオンは幾つ歳の時から事業を始めたか知つてますか」と反問しなから「俺の作れて來るのは何れもイヤモンド許りだ

ら宛らなくては駄目だ、三人に甲乙はないから三人等しく一万五千圓宛贈金なしてある夫れがイヤならワン・ダラー・イヤ・マンだ」

(二)役役人の意との強い御宣告であつた、夫を漸く値切り値切つて三萬七千圓にして貰ひ其三萬七千圓は市長御自身が可い様に分配する事になつて鬼がついた其の割振りは永田氏が一萬五千圓池田氏が一萬二千圓前田氏が一萬圓となるのであらうが助役として一万五千圓は最高級であるからつまり東京市には日本一の高級市長と高級助

問題になつた 藤男の一票

裁判取下げ

麻布區市會議員選出の際草野武雄氏と過般收監された市参事會員中村鐵二氏とが激烈な競争を爲し一票の差にて中村氏の

當選を見　たが此の一票こそ實に後藤男の投票でしかも是れが投票の際外間より窺知し得たと云ふので問題となり草野武雄氏の選挙人府會議員草野九十九氏より選挙無効の訴訟を提起し東京地方裁判所で永らく競争中だつたが

瓦斯問題

氏は應々失格となつたので最早法廷にて争ふの必要無きに至り辯護士赤井幸太氏より二十七日訴訟取下を裁判所に願出た

後藤新市長は

年俸二萬五千圓

決定するだらう

「東京電話」後藤新市長の年俸は、せねはならぬとの説があり、或る日下市参事會評議の焦點となつて居るが

田尻前市長

長給としての最下級一萬五千圓であつたが、後藤男には夫れ以上給の年俸を見るに、大阪市長は二萬圓、神戸、京都市長は一萬二千圓、名古屋、横濱市長は一萬圓である

五大都市の

ソコで東京市長は首府としての體面を、夫れ以上の二萬五千圓さ云ふ處に落付いたらう

助役俸給議決

臨時市参事會

東京市の三助役俸給額を議決す可
き臨時市参事會は二十七日午後一
時より市参事會室に開會、秘書會
として直に協議に入る初め二十五
日の臨時参事會に後藤市長より三
助役の俸給は平事とす可き趣旨

下に總額四萬五千圓を要求したる
に對し市参事會は一萬圓、八千圓、
六千圓合計二萬四千圓として交渉
したるも勿論繼續に卒らず其儘
散會したるが本日は一萬二千圓、
一萬圓、八千圓合計三萬圓を以て
後の協議を進めたるも後藤市長
は却つてオランダラ、エア、マ
ン即ち無條件にて餉くに如かず議
事會は金原、小坂、津村、三
氏を交渉委員に舉げ別室に市長と
交渉せしめた結果遂に總額三萬
七千圓を支給するに決し其の割當
には市長に一任することとし同四
時散會せり尙ほ三助役の俸給は市
長當初の聲明に従ひ平等とすべし
との説あるも左の如く決するもの
の如し

- 一萬五千圓 永田秀次郎
- 一萬二千圓 池田 宏
- 一萬圓 前田 多門

因に當日問題となる善問案廢止
の件は決定の次回迄延期せり

後藤新平男

榮花野人(密)

○何事も意見を立て、之れを主張す
ることは容易であるが、併し其の實
行と云ふ一般に成ると、十々好都合
に行かぬものである、津村秀松と云
ふ法學博士がある、神戸高等商業學

あるが、其の時田尻子の如き老人
をして東京市政を支配せしむること
は問題であると思つた、田尻子は立
派な學者ではあるが餘り正直に過ぎ

後藤新平男

榮花野人(密)

○東京市長として後藤男は成功する
か否かと云ふに其れは問題であるが
併し東京市長として後藤男は適任す
るものと思ふ、東京市長たるは其の
責任重大なるを以て、東京市長たるは

の如し
一萬五千圓 永田秀次郎
一萬二千圓 池田 宏
一萬圓 前田 多門
因に當日問題となる審問案廢止
の件は決定の次回迄延期せり

後藤新平男

菜花野人(寄)

○何事も意見を立て、之れを主張する事は容易であるが、併し其の實行と云ふ一般に成ると、其の都合に行かぬものである。津村秀雄と云ふ法學博士がある、神戸高等商業學校の教授として、大阪、神戸に於て非常に有名であり、立派な學者として尊敬せられた人である、其の人が久原商事社へ這入つて活動した處が財界の恐慌に會し、萬事失敗と云ふ事になつて阪神商人の笑話となり議論と實行は一致するものではないと云つて居る、或敗を以て人を論ず可きものではないが、併し議論と實行と云ふ其の間に多少の距離がある云ふことを認む可きであつて、其れが世間に其地家の重鎮せられて居る所以である、尾崎有雄氏は意欲の闊將であつて辯舌の雄である、其れが十年間東京市長として日を送つたが、何か仕事をしたかと云ふに今日から見れば別に何事もしなかつたのである、田尻稻次郎氏は大藏次官として、會計検査院長として、其の面目を發揮し、經濟學者として有名な人物であつたが、併し東京市長としては餘り仕事をした人とは見られない、寧ろ失敗であつて其の最後は氣の毒である、我輩は本年の五月、田尻子を上野公園の精養軒に見たので

あるが、其の當時田尻子の如き老人をして東京市政を支配せしむることは問題であると思つた、田尻子は立派な學者ではあるが餘り正直に過ぎる、遂に成功を見なかつたのである、其れで後藤新平男が其の後任者として、今日東京市で推挙せられて居るのである
○後藤新平男は、好んで其の所見を世間に發表する政治家である、其れで數米を一巡して歸朝した當時、後藤男の得たる收穫は案外親切にして能く内外を透察し、體慮含蓄、意に深遠なるものと見られ、それで一般の世人は歐洲の新天地に世界改造の新しい空氣を呼吸して歸り來たれる後藤男よりして、多く聴き亦た多く知らんとして、後藤男に期待したのであるが、其の當時仲小路廉氏は後藤男を迎へて恐らく後藤男は穩健説を執り、其の態度人の意表に出てると言つた、其の通り後藤男は其の折り容易に本音を吐かず、單に諸論と諷刺と反論とを以て僅かに所感の一端を告白したのみであつた、其れで井上角五郎氏の如きは、後藤男の思慮、實に大に圓熟せりと云つたのである、併し一般の世人は、後藤男の此の態度を意味して、是れ原

氏と後藤男の間に何等か齟齬する處あり、若し原氏にして退却する場合ありとせば、恐らく後藤男は原氏を以て其の後繼者として登壇する機會があると見たのである、其れでも其の様に信じて居る者が世に可なり多い様である、其れが東京市長として推挙せられたのである、今日後藤男が問題の人として下の耳目を集めて居るのは決して偶然のことではない

後藤新平男

菜花野人(寄)

○東京市長として後藤男は成功するか否かと云ふに其れは問題であるが併し東京市長として後藤男は適任である云ふ事は言へる、後藤男は民政長官として臺灣に成功し其の成功を以て今日の地位に達した政治家であるが當時の民政長官の仕事として其の一半は臺北市の經營であつた、田東城氏が臺灣を視察したから今日の臺北市に就ては色々見る處あらうと思ふのであるが往時の臺灣は一個の田野荒村であつた、清朝時代に劉銘傳が臺北城を築いて之れに據つたのであるが市街として別に見るべき經營をしなかつたのである、日本領有に歸した後も其の四五十年間は兵馬警備の時代であつて臺北市の經營に着手する機會を得なかつたのである、其れで後藤男の民政長官時代に臺北市の經營に着手し而して全く其の面目を改むるに至つたのである、其の當時土木技師として長尾半平氏なり川上浩一氏等が大に努力したものであるが何れにしても其の經營の大部分は後藤男の頭から出たものである、其れで今日東京市の間際となつて居るものは家屋なり道路なり又た繁華なり其の大半の仕事は多く土木事業であつて後藤男は今日

○後藤男は多少突飛性を有して居る人であるから或は無難作に東京市を引受けて見るかも知れないが其様になれば後藤男は一時内閣組織離念したと見る可きである。總理大臣たるよりも東京市長たる方が仕か面白いかも知れない、英吉利あたりでは首相たるよりもロンドン市なりロンドンタイムスの主筆の方が信用もあり尊敬せられて居ると言語である、英國は其の通りかも知れないが日本では矢張り總理大臣がトの第一人であつて今日我が邦の表者としては何んと云つても原首其の人である、後藤男も政治家とて其の傳記を大に飾らむとせば一立つて日本の總理大臣たる可きである、其れてなければ大正の政治史其の足跡も大にす印することは出来いと感ずるもので有る（ハ十二月十

東京商業會議所主權に係る東京親
市長後藤男勲、會は二十三日正午
より同所樓上に於て開會正賓とし
て後藤男首め永田、池田、前田三
助役陪賓として渡澤子、大倉男、
井上、木村日銀正副總裁其他約百
五十名出席デザートコースに入り
縣山會頭は今回全市民自覺の下に
後藤男を挙げたるは我々東京市の爲
め衷心祝ひ可き事にして男の就任
と共に必ずや市は其の面目を一掃
す可し而して吾人は男の手腕に依
つて共に大に建設の援助を爲さべ
る可からざる責任を感ず余は私案
として愛市公債の發行等を思考し
居れりと述べ次で後藤男より余は
當初より充分就任の意志を有し喜
たるも周知の事情之を許さざりき
然れ共愈其の機運に達したれば
自由意志を以て就任を決定せり茲
に余の就任に對し種々風評あるも
皆當らず今後の抱負に付きては未
だ語るの時機ならずと信ずるを以
て後日述ぶる所ある可しと述べ次
で永田、池田、前田三助役より交
々挨拶あり最後に渡澤子就任を祝
し盛會裡に午後三時散會せり

評論

藤男の政的前途(二)

男は葬られしに非ずして却つて活かされし也

陰謀に與せず

男が歐洲より歸朝した時、男の周圍は原内閣打破運動の爲に男をかつぎ上げんとしたのである。然る有力なる男の一陰謀は男の選舉を防止すべく尤も智識ある忠告を試みた而して男は一面男の周圍や有力なる二三の有志に對し斷然これを拒絶する態度は取らなかつたかも知れぬが而も同時に男の智識の思慮ある忠告に屈して自重動かなかつたのである。而して首相に對し辭職調查機關を起した、首相は勿論主幹として賛成したに相違ない、而も男はこれより絕對の安心を得るだけの餘地を得た

後藤の恃む處

若し男が首相原をして男の力に屈せしむべき或ものがありとすればそれは何であらうか、衆議院の一角に於ける男の股肱で

あらうか、下院に二百八十餘名を有する大政黨を導いて彼等ゆるぎもさせぬ原に對してはそれは餘りに微力である然らば依然として現政黨の大勢力たる山公の信用であらう乎、幸内去つての後の原對山縣は殆ど他のものゝ介在を要すまい、假りに要する

とするも田中がある、是に於て乎、原が後藤に求むるものはなしくして後藤の原に求むるものは多くある、同時に男は或權力乃至地位を擔し配するに自らの股肱を以てすれば相當の活動を得し得る政治家である、

首相何を恐れん

後藤男は加藤、大澤、尾崎等が有する様な單騎四方に馳騁して野に叫ぶが如き政治家でない、さりとて原の様な坐して百萬の政客を畏服せしむる底の膽略がない、こゝに男は是非とも或地位を得なければならぬと共に原を後援とせねばならぬ、藤澤子は流石に老功であつた、男の胸底を看破して原に説かせればと

感付いた、男が首相對後藤の市長就任問題の經營である、原が後藤に對し何處まで進退したかは吾人は聞かぬ、しかも聞かん

でも大抵は分つて居る、消息通とか云ふ半可通は原が後藤を市長にしたのはこれを政界から擯つたのだと云つて居る、政黨調査機關は後藤葬式の香奠だなど言つて居る、現在の原が何んぞ然るに後藤を恐れるものか、又後藤の現在に後藤式の感情によれば一日一日と影が薄くなる様に思はれる、薄くはならぬが本人には左様感ぜられる、市長就任の懸念は寧ろ後藤の欲する處で原は成りたすまいと位にしか考へて居らなかつたらう

寧ろ活かした者

しかも斯くして就任した東京市長は後藤の將來にとり決して不利なものはなかつた、それは三つの理由からである、その一は前任者が餘りに無力であつたが爲めに後任者の活動が意外に光彩を放つべき事、二には市民の多數が遠近未曾有の失態に對しやゝ覺醒し來つた事而して市政の革新は力ある市長に後援して市會を屈服し去らしむるに於て實現すべきを認めた事、三

には後藤男の積極的方針、學理的的研究、理想的建設能力が市政刷新の當局として適格である事である、吾人は、藤男が必ず市會に臨むに威力あらしむべく大に都市研究會を利用し市民の輿論を奮て立つに相違ないと信ずる、又男は必ずその得意の科學的研究に基く都市政策を理想的に發行するに相違ない、而してこれを傳すには適當な問題はその様に市長の前に置かれてある、故に市長としての男は必ず相當の成功を収め得る、而してこれが男の健康の爲にも政治的將來の爲にも非常に有利に展開する事と信ずる(完)

後藤市長の揮ふ鉈

血祭は社會局か

市史員の大改造あらん

後藤市長就任後の第一次事業が、た簡易食堂一箇所を公設市場五箇所に最近設置した成績不良の吏員の大改造に在る事は何人も肯定するところの事實であるが、眞つ先に血祭りに上げらる可しき目せらるゝは道路局に非ず電氣に非ず全く巨大なる

市費を

費しつゝ何の事業も成就し得ざる社會局である社會局が社會事業を営む爲に遊治郎から月々十萬の遊興税を徴する新案を工夫してまんま成功し十月以來現に是を勵行し大正十年度の如きは豫定の百二十萬圓を超過して百五十萬圓にも上らうとする勢ひを示しつゝあるに更に市經濟から三四十萬圓を奪取せん

計畫を

立て昨今明年度豫算編成中に際し専ら是が陰謀を廻らして居るが事業如何を願ふれば社會局の名稱を附せざる以前庶務課の片手間に成し遂げ

帝大の

地所譲り渡しすら繼ぎらざる始末にて流石の後藤新市長も報告を聞いて愛知を盡かし内々社會局の組織調査を命じ池田助役就任と共に是が改善に着手する筈であるが恐らくは現在百餘名の冗員に對し其三分の二を減じ而も尙ほ事業促進を期し得べしと見越して居るが新市長の方針としては斯道に造詣ある池田助役をして専ら是が根本改善に努めせしむ可く永田助役を協議を遂げつゝあり

新市長に希望

市民たる立場より一掲載到者願

勝利主計を試験し、第三條に新市會議の當選を得る市政を根本的に改善し範を全國に示し世界の都市に附らざるの面目を示さば脱線の功決して空しからざる也、切に望む

岩崎 勳

武藤 金吉

(一)東京市の健全なる中心勢力の確立(二)豫算及決算の厳正(三)積極方針もて勇往邁進

逸名氏

現市會を解散し市長は其の信任を市民の投票に問ふ事、主事を市公民の投票に問ふ事、主事を市長を更迭する事、是れ緊要事也、之に次いで電車事業の改善也、路面の改造也、下水事業の急進也、水道事業の擴張也、等の如きは後述しにして可

宣稱三之助

後藤市長就任は意外の感あり、是れ即ち男の所謂脱線的第一步なるもの乎、更に一步を進めて大々的に脱線し第一世上非難の焦點たる市會全部の解散を斷行し、第二市民の如何なる程度まで市行政上に自覺せしや

市城 巖

松本 吾平

後藤市長就任は意外の感あり、是れ即ち男の所謂脱線的第一步なるもの乎、更に一步を進めて大々的に脱線し第一世上非難の焦點たる市會全部の解散を斷行し、第二市民の如何なる程度まで市行政上に自覺せしや

宣稱三之助

後藤市長就任は意外の感あり、是れ即ち男の所謂脱線的第一步なるもの乎、更に一步を進めて大々的に脱線し第一世上非難の焦點たる市會全部の解散を斷行し、第二市民の如何なる程度まで市行政上に自覺せしや

宣稱三之助

後藤市長就任は意外の感あり、是れ即ち男の所謂脱線的第一步なるもの乎、更に一步を進めて大々的に脱線し第一世上非難の焦點たる市會全部の解散を斷行し、第二市民の如何なる程度まで市行政上に自覺せしや

宣稱三之助

東京市長問題

福島縣 佐藤生（投）

公開論壇

東京市長問題

福島縣 佐藤生(授)

▲後藤男の東京市長問題は、銚子委員に散々手小摺られた上句、瓦落離と打つて變つて無條件就任といふ甚だ飽氣ない暮を見せ候い之に比べると明治四十二年の芝居は餘程見答へがありたり、當時男爵は選信大臣で、二頭立の馬車で元代橋に差寛り、左側通行の制を破つて通行人中へ乗り入れ候得かねてゐると。貴紙の報道が事には危険と認め、馬の轡をムツと掴て不法を詰ると、駭者は鞭を上告訴を提起致し候。然るにどうして巡査の頭部を敲ち、官帽を飛たものか、何時まで経つても開くば無いから、僕はいきり立つて検事局へ出て、其不都合を述べんと検事の言ふには、君の出した訴狀は告訴でなくって告發だから、君の主張は通らない、と譯の分らぬ答辭を開かれ候、餘りの事に僕も呆れて其儘止めて仕舞ひ候。

▲其頃元代橋東詰に東洋木材株式會社といふのが有つて、僕は其社長を勧めて居たから、事件を法律問題以上に政治問題とする事は躊躇した譯に候。

▲男爵は時々凄いの芝居を見せる御方に候故、東京の人は砂利喰ひなとの怪物退治の爲めに男爵の凄腕を怪物に及んだのであるべく候が、男爵の藝を見慣れた者には、衰過ぎて前途が思ひやられ候。

大正九年十月三十日

後藤新市長の初市會
【日二十二】長市藤後は次長藤谷幹は左



來年の市豫算は 二億圓か

反對は覺悟の前で

藤男一流の大計畫提出されん
新市長のお手並を拜見する

絶好機會と「秋山市會議員語る

東京市は後藤新市長を迎へ永田・油田・前田の三助役も揃つたがきて十年度の豫算は如何に編成されるか興味ある大問題である、市民は後藤市長に三助役に誰を任ずるの條給を支出する代價として市民の幸福増進を對する熱望してあるが秋山市會議員によつてある「後藤市長は萬分の手懸味で、あるし大きい應でウシと徹底的に事業をやつつもりで二億圓の豫算を計上するらしいが此味は、問へば大部分新税、増税に仰ぎ不足の分を市債によつて例の

幸福増進

市長は辭

問題となつてゐる、新市長の御手並を拜見する絶好機會である今から期待してゐる」

豫算一億圓

後藤男の太腹から

◇豫算を編成し二月中市

會の協賛を求むる筈であるが確
かなる筋より仄聞するに新市長
は流石に派手好きの太つ腹だけ
あつて來年度の豫算は東京市こ
しては勿論全國の諸市に於て嘗
て前例を見ざる

○彪大を
極むる豫算を編

成し先づ二百万市民の度胸を度
く管だが其總額は驚く勿れ特別
會計を除き二億圓に達す可し
の事である、二億圓云へば我
帝國の總豫算に比し其七分の一
に相當する巨額にして氣の小
い市民は氣絶もし兼まじき大膽
である、東京市の最近

◇五年間 に亘る 總豫算 は

年度四千九百萬圓、七年度六千
 五萬圓、八年度八千九百五十萬圓、
 九年度九千四百六十萬圓にして
 十年度が一億圓を突破す可きは
 想像に難からざるも新市長の腹
 案たる二億圓は流石に新市長の
 面目を躍如たらしむるものであ
 る、而して其

◇財源は 現行の家屋税、業税、所得税附課税は尙ほ幾分の増課餘裕ある爲め極度迄増税す可く新税としては牛乳後藤男の提唱せる所謂純土税たる富家税に之を求め間地税、土地増加税、雇傭税等を課する事必定である而して新事業の第一は路面改良事業であるが右は従来の案を覆し地上物及地下物の

◇大整理 をも包含する空
前の計畫を固つる豫定で水道下
水糞床塵芥處分も計上さるゝ

であるが新税増税問題は東京府
の夫に徴するも又々反對運動
の群起を見るであらう。

又　國　一　巻

口　「朝鮮の酒は西洋酒に
就て見た日本酒にはツシナ
い。即ち、ウチは、ウチの
と立派な博士とする」

口　「東京市長、電氣局員を
集めて出来た大きな油蒸が居るから小
さな油蒸がウヨ／＼するのを御説
する何を意味する事やら」

口　「富山縣の農村では米賣止の
前年の文藝延期を決議したが高橋君
の同意を得所は之に對抗して節制
定の履行と物産法を決議した農商相
決案に因つた時分だッヤ」

